第686集

中御所遺跡

（一）南新井前橋線バイパス（２期工区）社会資本総合整備（活力・重点）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二一

群馬県渋川土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第686集

中御所遺跡

（一）南新井前橋線バイパス（２期工区）社会資本総合整備
（活力・重点）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県渋川土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

中 御 所 遺 跡

（一）南新井前橋線バイパス（２期工区）社会資本総合整備
（活力・重点）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群 馬 県 渋 川 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

南新井前橋線バイパス整備事業は、県道南新井前橋線の安全かつ円滑な自動車交通の確保と、駒寄スマートインターチェンジへの交通アクセスの向上を主な目的として、平成20年度より事業が進められてまいりました。本書は、平成28年度に行われた南新井前橋線バイパス整備事業の２期工区に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の成果を報告するものであります。

本書で報告いたします中御所遺跡は古代から中世に至る集落遺跡として周知されております。今回の発掘調査でも、平安時代の竪穴建物８軒、中世の掘立柱建物４軒のほかにも竪穴状遺構10基、井戸４基など多くの遺構が確認されており、古代から中世に至る集落の一端が新たになりました。

これらの調査成果は、吉岡町を中心とした地域、ひいては群馬県における古代から近世に至る歴史を考えるうえでも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県北群馬渋川振興局渋川土木事務所、群馬県教育委員会および吉岡町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和３年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1．本書は、平成28年度に平成28年度(一)南新井前橋線バイパス(２期工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査を行い、令和２年度に令和２年度補助公共道路改築事業(地方道･連携)（一)南新井前橋線（２期工区)に伴う中御所遺跡の埋蔵文化財整理事業として整理作業を行った、中御所遺跡の発掘調査報告書である。

2．中御所遺跡は北群馬郡吉岡町陣場109B，171-2B，171-1B番地に所在する。

3．事業主体　　群馬県渋川土木事務所

4．調査主体　　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．発掘調査の期間と体制

調査履行期間	平成28年12月１日～平成29年３月31日
調査期間	平成29年１月１日～平成29年３月31日
調査担当	石坂　聡、飛田野正佳
遺跡掘削工事請負	株式会社　測研
地上測量委託	技研コンサル株式会社
空中写真撮影委託	技研コンサル株式会社

6．調査面積　　1,978㎡

7．整理作業履行期間　　令和２年10月１日～令和３年３月31日

整理期間　　令和２年10月１日～令和３年３月31日

8．本書の作成分担

編集	佐藤元彦			
デジタル編集	齊田智彦			
遺物観察	石製品：松村和男	金属製品：板垣泰之	古代遺物：神谷佳明	中近世遺物：矢口裕之
遺物写真撮影	石製品：松村和男	金属製品：板垣泰之	縄文土器：関口博幸	中近世遺物：矢口裕之
	その他：佐藤元彦			

9．発掘調査及び報告書作成には、群馬県渋川土木事務所、群馬県教育委員会、吉岡町教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。

10．出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　　例

1．本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。ただし、編集に際し変更の生じたものを末尾に掲示した。

なお、当事業団では平成30年度より、文化庁文化財部記念物課編(2013)『発掘調査の手引き』に準拠して、従来の「竪穴住居」を「竪穴建物」と表記している。本書においては、これ以前に刊行された報告書記載の遺構名は、混乱を避けるため報告時の表記を踏襲している。

2．本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系、平面直角座標系第IX系による。

世界測地系による当所の所在は、北緯36度25分47.14秒、東経139度0分18.42秒であり、座標北と真北との偏差は＋０度29分30.65秒、当所における磁北線はN-7.27°-Wである。

また、遺構図中の十字記号は世界測地系平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。Ｘ値とＹ値の整数部末尾３桁を付記した。

3．遺構の主軸方位は座標北を基準とした。カマドのある竪穴建物にあってはカマドのある壁と直交する軸を主軸とし、その傾きを度で示した。またこれ以外の遺構で形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4．遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○.○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。

5．全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を(　)付きで表記した。

6．遺構面積の算出に際しては、縮尺1：40の平面図を計測に用いた。

7．本書の遺構図版縮尺は以下を基本とする。

竪穴建物　1：60。カマド　1：30。竪穴状遺構、井戸、土坑、ピット　1：40。

掘立柱建物、ピット列　1：80。

8．本書の遺物図版縮尺は以下を原則とする。

土器　1：3。石製品　1：2。金属製品　1：2。

9．本書で使用したトーンは以下のとおりである。

焼土　　粘土　　炭　　硬化面

10．本書における遺構略称は以下のとおりである。

竪穴建物　建。竪穴状遺構　竪。掘立柱建物　掘。土坑　土。井戸　井。ピット　P。

11．本書における土層注記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

12．本書で使用した地形図、地勢図は以下のとおりである。

国土地理院1:25,000地形図「伊香保」　平成24年９月１日発行

国土地理院1:25,000地形図「渋川」　平成14年10月１日発行

国土地理院1:25,000地形図「金井」　平成21年５月１日発行

国土地理院1:25,000地形図「鯉沢」　平成21年６月１日発行

国土地理院1:200,000地勢図「長野」　平成23年６月１日発行

国土地理院1:200,000地勢図「宇都宮」平成24年５月１日発行

13. 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第14集、清里・陣場遺跡』

吉岡町教育委員会　2001『吉岡町文化財調査報告書第13集、中御所遺跡』

吉岡町教育委員会　2005『吉岡町文化財調査報告書第21集、中御所II遺跡』

調査時		掲載時	調査時		掲載時	調査時		掲載時
18号ピット	→	１号ピット列P5	90号ピット	→	２号掘立柱建物P7	145号ピット	→	３・11号ピット列P1
19号ピット	→	１号ピット列P4	93号ピット	→	２号掘立柱建物P6	147号ピット	→	３・11号ピット列P4
22号ピット	→	１号ピット列P3	98号ピット	→	５号掘立柱建物P3	148号ピット	→	３号掘立柱建物P3
24号ピット	→	７号ピット列P2	99号ピット	→	２号ピット列P1	149号ピット	→	３・11号ピット列P5
25号ピット	→	１号ピット列P2	100号ピット	→	２号ピット列P2	150号ピット	→	５号掘立柱建物P8
27号ピット	→	１号ピット列P1	102号ピット	→	５号掘立柱建物P5	151号ピット	→	３号掘立柱建物P4
37号ピット	→	７号ピット列P1	104号ピット	→	１号掘立柱建物P2	153号ピット	→	１号掘立柱建物P4
38号ピット	→	２号掘立柱建物P3	109号ピット	→	５号掘立柱建物P10	156号ピット	→	５号掘立柱建物P7
51号ピット	→	７号ピット列P3	110号ピット	→	１号掘立柱建物P3	160号ピット	→	５号掘立柱建物P6
57号ピット	→	２号掘立柱建物P2	113号ピット	→	１号掘立柱建物P6	161号ピット	→	３号掘立柱建物P5
65号ピット	→	２号掘立柱建物P4	118号ピット	→	１号掘立柱建物P5	163号ピット	→	３号掘立柱建物P6
69号ピット	→	８号ピット列P1	124号ピット	→	５号掘立柱建物P1	165号ピット	→	３号掘立柱建物P7
80号ピット	→	８号ピット列P4	126号ピット	→	１号掘立柱建物P1	168号ピット	→	３号掘立柱建物P8
81号ピット	→	８号ピット列P3	129号ピット	→	５号掘立柱建物P2	171号ピット	→	５号掘立柱建物P4
82号ピット	→	２号ピット列P6	133号ピット	→	５号掘立柱建物P9	177号ピット	→	２号掘立柱建物P10
83号ピット	→	８号ピット列P2	135号ピット	→	１号掘立柱建物P7	178号ピット	→	２号掘立柱建物P9
84号ピット	→	２号ピット列P5	139号ピット	→	３・11号ピット列P3	179号ピット	→	２号掘立柱建物P8
85号ピット	→	２号ピット列P4	140号ピット	→	３号掘立柱建物P2	191号ピット	→	２号掘立柱建物P1
86号ピット	→	２号ピット列P3	143号ピット	→	３・11号ピット列P2			
88号ピット	→	２号掘立柱建物P5	144号ピット	→	３号掘立柱建物P1			

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査経過と調査の方法
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・ 2

第２章　周辺の環境
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第３節　調査の概要と基本土層・・・・・・・・・ 10
　　1　調査の概要・・・・・・・・・・・・・ 10
　　2　基本土層・・・・・・・・・・・・・・ 10

第３章　確認された遺構と遺物
　第１節　１面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・ 14
　　第１項　１面の概要・・・・・・・・・・・・・ 14
　　第２項　１面の遺構・・・・・・・・・・・・・ 14
　　1　竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・ 14
　　2　掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・ 23
　　3　竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・ 27
　　4　ピット列・・・・・・・・・・・・・・ 37
　　5　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
　　6　井戸・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
　　7　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
　　8　ピット・・・・・・・・・・・・・・・ 65
　第２節　２面及び３面の遺構と遺物・・・・・・ 73
　　第１項　２面及び３面の概要・・・・・・・・ 73
　　第２項　２面の遺構・・・・・・・・・・・・・ 73
　　1　土坑・・・・・・・・・・・・・・ 73
　　2　ピット・・・・・・・・・・・・・ 73
　第３節　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第4章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92

抄録
写真図版
奥付

挿図目次

第１－１図　遺跡位置図・・・

写真目次

PL．1
1　中御所遺跡平成28年度調査区(上空より)
2　調査区１面東半(上空より)
PL．2
1　１号竪穴建物(西から)
2　１号竪穴建物掘り方(西から)
3　１号竪穴建物カマド(西から)
4　１号竪穴建物貯蔵穴(西から)
5　１号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)
6　１号竪穴建物P1（西から)
7　２号竪穴建物(西から)
8　２号竪穴建物カマド(南から)
PL．3
1　３号竪穴建物(北から)
2　３号竪穴建物遺物出土状況(北から)
3　３号竪穴建物カマド土層断面(北から)
4　３号竪穴建物カマド掘り方(北から)
5　５号竪穴建物(西から)
6　５号竪穴建物カマド(西から)
7　６号竪穴建物(東から)
8　６号竪穴建物遺物出土状況(東から)
PL．4
1　７号竪穴建物(東から)
2　７号竪穴建物遺物出土状況(東から)
3　８号竪穴建物(西から)
4　８号竪穴建物遺物出土状況(西から)
5　８号竪穴建物掘り方(西から)
6　８号竪穴建物カマド(西から)
7　８号竪穴建物カマド石組み下部(西から)
8　８号竪穴建物カマド構築状況(南西から)
PL．5
1　８号竪穴建物カマド構築状況(北西から)
2　８号竪穴建物カマドの塼(南西から)
3　１号竪穴状遺構(南から)
4　２号竪穴状遺構(北から)
5　３号竪穴状遺構(東から)
6　３号竪穴状遺構遺物出土状況(東から)
7　３号竪穴状遺構掘り方(東から)
8　３号竪穴状遺構焼土(西から)
PL．6
1　３号竪穴状遺構P3土層断面(南から)
2　３号竪穴状遺構床下土坑土層断面(南から)
3　４号竪穴状遺構(北から)
4　４号竪穴状遺構土層断面(南から)
5　５号竪穴状遺構(南から)
6　５号竪穴状遺構掘り方(北から)
7　６号竪穴状遺構(東から)
8　６号竪穴状遺構土層断面(南から)
PL．7
1　７号竪穴状遺構(東から)
2　７号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)
3　８号竪穴状遺構(北から)
4　８号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)
5　９号竪穴状遺構(西から)
6　10号竪穴状遺構(北から)
7　10号竪穴状遺構出入口部(北から)
8　10号竪穴状遺構P1（北から)
PL．8
1　10号竪穴状遺構P2（北から)
2　10号竪穴状遺構P3（北から)
3　10号竪穴状遺構P4（北から)
4　10号竪穴状遺構P5（北から)
5　10号竪穴状遺構P6（北から)
6　10号竪穴状遺構P7（北から)
7　10号竪穴状遺構P8（北から)
PL．9
1　調査区１面中央(上空より)
2　調査区１面西端(上空より)
PL.10
1　１号溝(南から)
2　１号溝土層断面(南から)
3　２号溝(北から)
4　２号溝土層断面(南から)
5　４号溝(北西から)
6　３号溝(南から)
PL.11
1　４号溝北側土層断面(東から)
2　４号溝南側土層断面(北から)
3　４号溝南側(北から)
4　４号溝北端(北から)
5　５号溝(南から)
6　６号溝(北から)
7　７号溝(東から)
8　７号溝土層断面(南から)
PL.12
1　７～９号溝南側(東から)
2　７～９号溝南側(西から)
3　７～９号溝土層断面(南から)
4　７～９号溝北側(北から)
5　８号溝土層断面(南から)
6　８・９号溝土層断面(南から)
7　９号溝土層断面(北から)
8　10～13号溝(北から)
PL.13
1　10号溝土層断面(南から)
2　11～13号溝(北から)
3　11号溝土層断面(南から)
4　12号溝土層断面(南から)
5　13号溝土層断面(南から)
6　10～16号溝(北から)
7　14号溝(北から)
8　14号溝南端土層断面(北から)
PL.14
1　14・21号溝土層断面(北から)
2　14号溝土層断面(南から)
3　15・16号溝(北から)
4　15・16号溝土層断面(北から)
5　17・18号溝(西から)
6　17・18号溝(南から)
7　17号溝南側土層断面(東から)
8　17号溝北端土層断面(南から)
PL.15
1　17・18号溝土層断面(南から)
2　19・22号溝(北から)
3　19号溝土層断面(南から)
4　22号溝土層断面(北から)
5　20号溝(北から)
6　20号溝土層断面(北から)
7　17・21号溝(北東から)
8　21号溝(西から)
PL.16
1　21号溝土層断面(南から)
2　１号井戸(南から)
3　１号井戸(西から)
4　１号井戸下部(西から)
5　１号井戸土層断面(南から)

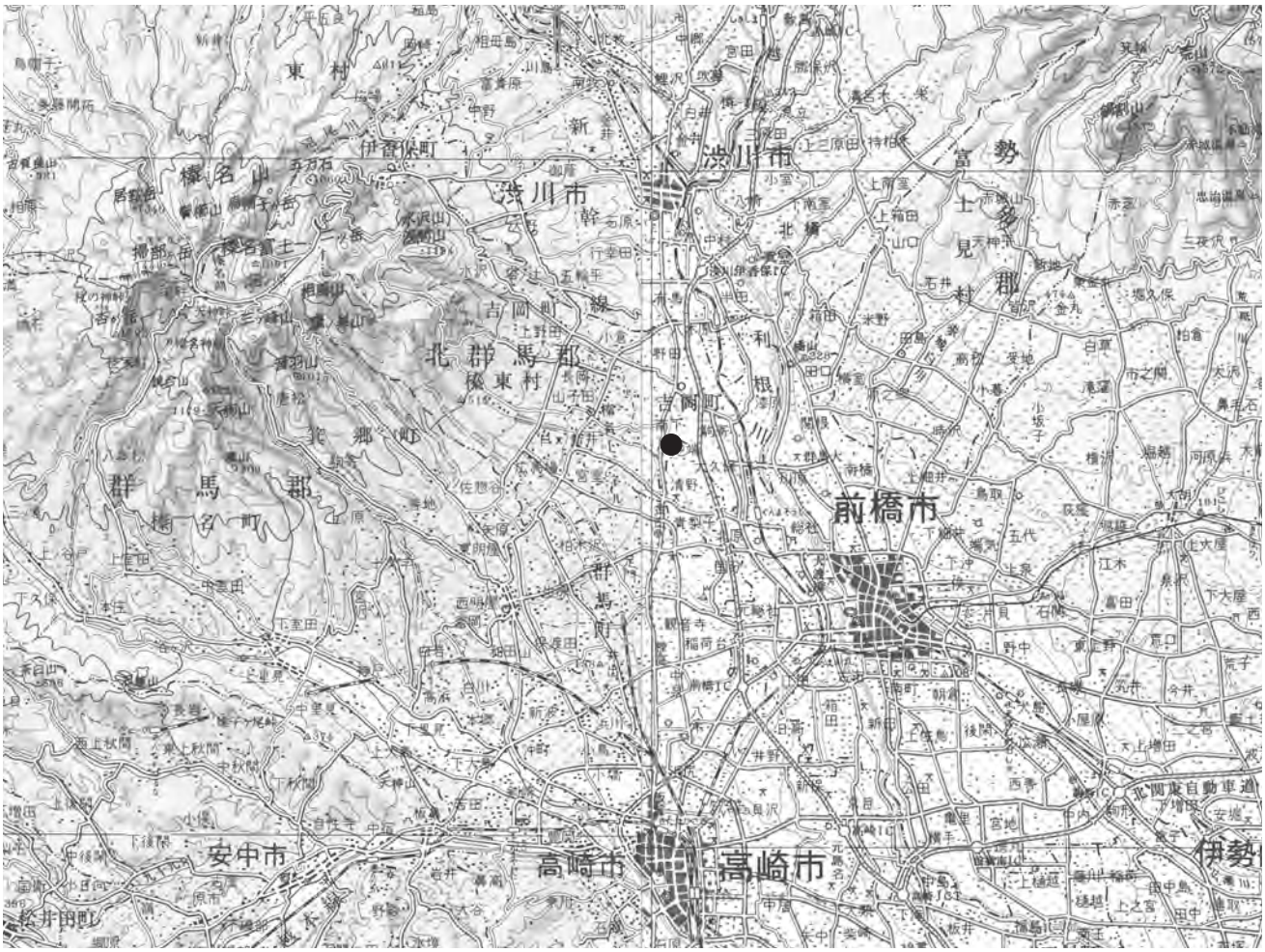
6　２号井戸(南から)
7　２号井戸(東から)
8　２号井戸土層断面(北から)
PL.17
1　３号井戸(西から)
2　３号井戸土層断面(東から)
3　４号井戸(北から)
4　４号井戸土層断面(南から)
5　１号土坑(南から)
6　２号土坑(北から)
7　２号土坑土層断面(南から)
8　３号土坑(南から)
PL.18
1　３号土坑土層断面(南から)
2　４号土坑(南から)
3　４号土坑土層断面(南から)
4　５号土坑(南から)
5　５号土坑土層断面(南から)
6　６号土坑(西から)
7　６号土坑土層断面(南から)
8　７号土坑土層断面(南から)
PL.19
1　８号土坑(南から)
2　８号土坑土層断面(北から)
3　９号土坑(東から)
4　９号土坑土層断面(西から)
5　10号土坑(南から)
6　10号土坑土層断面(南から)
7　11号土坑(南から)
8　11号土坑土層断面(南から)
PL.20
1　12～18号土坑(東から)
2　12・13・18号土坑(北から)
3　12・13・18号土坑土層断面(南から)
4　15～17号土坑(西から)
5　16・17号土坑土層断面(西から)
6　14号土坑(南から)
7　19号土坑(南から)
8　19号土坑土層断面(南から)
PL.21
1　21号土坑(南から)
2　21号土坑土層断面(南から)
3　22号土坑(南から)
4　22号土坑土層断面(南から)
5　25号土坑(北から)
6　25号土坑土層断面(北から)
7　28号土坑(北から)
8　28号土坑土層断面(南から)
PL.22
1　29号土坑(南から)
2　29号土坑土層断面(南から)
3　30号土坑(南から)
4　31号土坑(東から)
5　31号土坑土層断面(東から)
6　32号土坑(東から)
7　32号土坑土層断面(東から)
8　34号土坑土層断面(南から)
PL.23
1　36号土坑(東から)
2　37号土坑(南から)
3　38号土坑(南から)
4　39号土坑(東から)
5　40号土坑(南から)
6　40号土坑遺物出土状況(南から)
7　41号土坑(南から)
PL.24
1　１号ピット(北から)
2　40号ピット(南から)
3　52号ピット(南から)
4　56号ピット(南から)
5　58号ピット(南から)
6　61号ピット(南から)
7　67号ピット(南から)
8　71号ピット(南から)
9　75号ピット(南から)
10　87号ピット(南から)
11　105号ピット(南から)
12　127号ピット(南から)
13　203号ピット(南から)
14　204号ピット(南から)
15　205号ピット(南から)
16　206号ピット(南から)
17　207号ピット(南から)
18　208号ピット(南から)
PL.25
出土遺物１
PL.26
出土遺物２
PL.27
出土遺物３
PL.28
出土遺物４

第１章　調査経過と調査の方法

第１節　調査に至る経緯

本書は、平成28年度(一)南新井前橋線バイパス(２期工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。県道南新井前橋線(以下本路線)は群馬県北群馬郡榛東村を起点とし、同郡吉岡町を経由して前橋市に至る延長約12.7kmの幹線道路である。本路線は関越自動車道、一般国道17号上武道路、県道高崎渋川線バイパス等の主要幹線道路を東西に結ぶ幹線道路として産業、経済、観光、社会、文化及び生活における重要な機能を担っている。路線内には群馬県道路構造条例に定められた車線幅員を満たしていない区間があるなど、生活道路としての危険性が指摘されるほか、渋滞により幹線道路としての機能が発揮されないなどの現状が指摘されていた。こうした状況を改善し、安全かつ円滑な自動車交通の確保と駒寄スマートインターチェンジへの交通アクセスの向上を主な目的として、南新井前橋線バイパスが整備されることとなった。この北群馬郡榛東村大字新井字雛子地内から同郡吉岡町大字大久保字片貝地内までの延長2,804m区間のバイパス整備事業の２期工区(延長1.1km)が本発掘調査の起因事業である。なお本書の報告範囲は上記２期工区のうち吉岡町地内を対象とする。

事業地周辺は、既知の埋蔵文化財包蔵地(市町村遺跡番号：0138)となっていることから、平成27年度に群馬県教育委員会文化財保護課(以下保護課)による試掘確認調査が行われることとなった。平成28年１月25日から26



(国土地理院 20 万分の 1 地勢図「長野」「宇都宮」を編集、加工)

0　1：200,000　10km

第１－１図　遺跡位置図

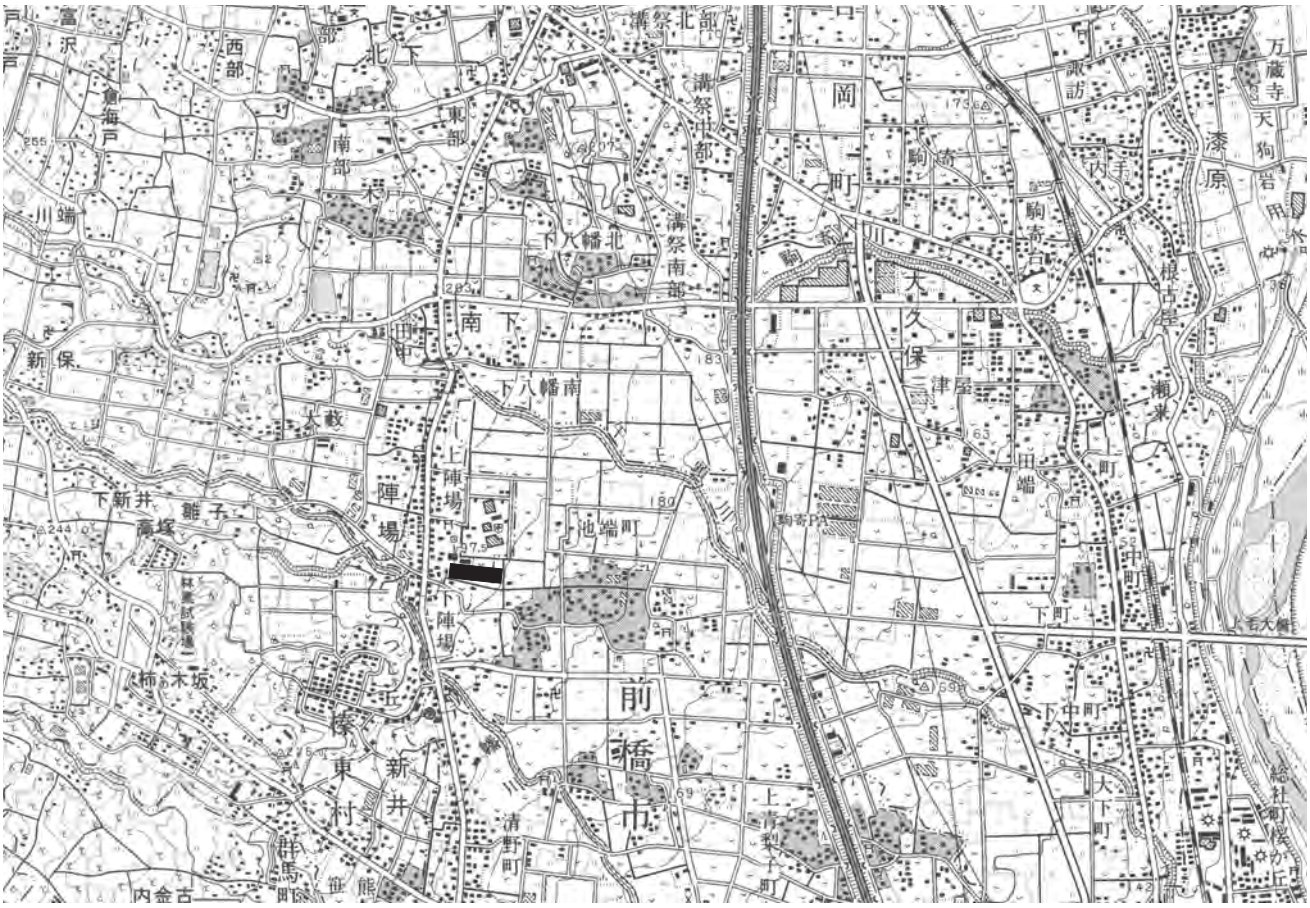
日にかけて保護課によって実施された調査により、竪穴建物、土坑、溝などの古代及び中世と想定される遺構が検出され、本調査が必要と判断された。この試掘確認調査の結果を踏まえて、群馬県渋川土木事務所と保護課による調整が行われ、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)により、平成28年度事業として、平成29年１月１日～平成29年３月31日を調査期間として発掘調査を行うこととなった。なお、調査の過程で調査地点の追加が行われた。

第２節　調査の方法と経過

発掘調査は平成29年１月１日～平成29年３月31日に実施された。前年度の試掘確認調査の結果から、本遺跡は表土を40～60cmほど掘削すると、古墳時代(4世紀)の浅間山噴火に伴う軽石(As-C)を含んだ黒色土が堆積していることが確認されているため、遺構確認面を設定し、調査を実施した。各調査地点での遺構確認面設定は、第１面は中世と平安時代の遺構を、第２面は縄文時代中期から後期の遺構を対象とした。

発掘調査にあたっては、表土掘削には掘削機械を用い、その後にジョレンを用いた発掘作業員による遺構確認作業、調査担当者による遺構確定を基本とした。表土掘削の済んだ場所から遺構確認、遺構確定に着手し、表土掘削作業と遺構確定作業とを並行させながら調査を進め、調査期間の短縮と調査精度の向上に努めた。遺構確定後、遺構調査として発掘作業員による各遺構の掘削、さらに調査担当者による埋没土の観察を行い、遺構実測、遺構写真撮影などを行った。同様に第２面目の検出に際しては、掘削機械を用いて掘削したのち、ジョレンを用いた人手による遺構確認を行った。第２面目の調査終了後、グリッドを設定し、発掘作業員により南北２条のトレンチ掘削作業を行い、遺物、遺構の有無を確認した。

第１面調査では、遺跡の全景撮影のため、ラジコンヘリコプターによる空中撮影業務を民間測量会社に委託した。検出した遺構の平面および土層断面等の測量および



（国土地理院２万５千分の１「伊香保」「渋川」を編集、加工。）

0　1：25,000　1km

第１-２図　調査区位置図

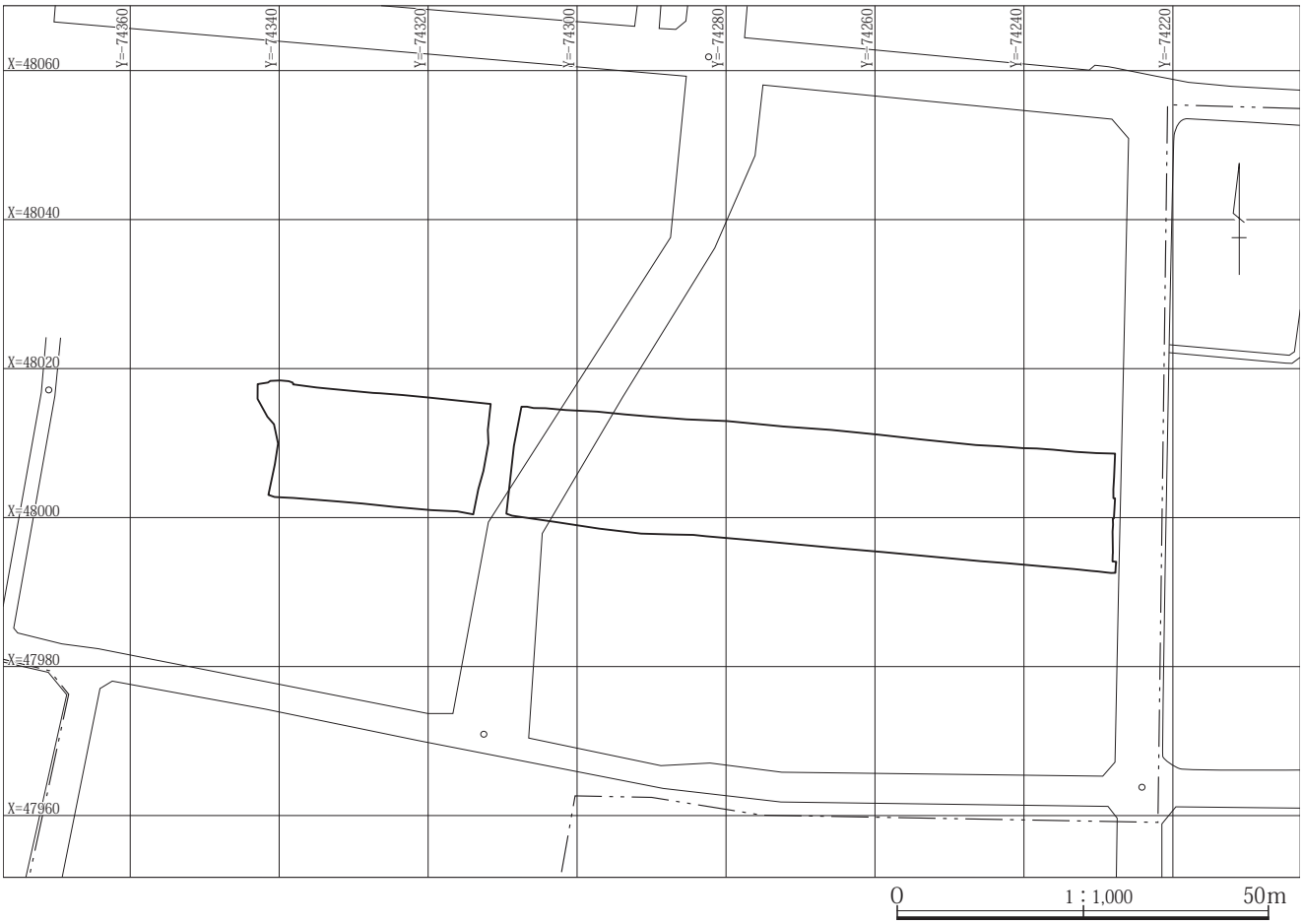
図化は測量業者への業務委託で実施した。測量縮尺は1/20と1/40を基準とし、全体図等においては1/300を用いた。記録写真撮影には1790万画素の一眼レフ・デジタルカメラと６×７判の一眼レフ・フィルムカメラを用いることとし、調査担当者が撮影に当たった。

以下に調査日誌の抄録を記載し調査経過とする。

平成29年１月は、調査区の作業環境を整えつつ、表土掘削に着手し、並行して遺構確認を開始した。調査は調査区東端側から着手したが、１月16日には１号竪穴建物、１～４号土坑、１号溝の実測と写真撮影を行った。以後、遺構確認、掘削、遺構精査、実測、写真撮影の工程を繰り返し調査を進めた。

平成29年２月は、竪穴建物の精査を進める傍ら、調査区中央東寄りのピット群や井戸の調査に着手した。２月８日に調査区西半の溝群の掘削を開始し、２月10日に第１面の空中写真撮影を行った。２月13日より第２面の掘削を開始した。第２面の遺構確認を行いつつ、２月16日には第３面の掘削に着手した。２月24日に調査区西端に位置する８号竪穴建物のカマドを精査し、遺構全景および詳細写真の撮影を行った。

平成29年３月は、前月に引き続き第２面のグリッド調査を行い、礫層下まで調査を進めた。３月17日に第３面の全景写真撮影を行い、調査終了とした。３月21日より埋め戻し作業を開始し、撤収準備を始めた。３月27日に現場事務所を撤去し調査を完了した。



第１-３図　調査区設定図

第２章　周辺の環境

第１節　地理的環境

中御所遺跡(以下本遺跡)は、群馬県北群馬郡吉岡町陣場に所在する。吉岡町は東に赤城山､西に榛名山を望み、群馬県のほぼ中央、榛名山南東麓の利根川右岸に位置する。本遺跡の所在する陣場地区は、利根川右岸から榛名山頂にむけて南東から北西に細長く延びる吉岡町の西南端、町域の南辺中央やや東寄りに位置する。吉岡町と、隣接する前橋市、北群馬郡榛東村とが境を接する場所である。本遺跡の西には群馬県道25号高崎渋川線が、東には関越自動車道が南北に走り、本遺跡から東に１㎞ほどの地点には関越自動車道駒寄インターチェンジが開設されている。また関越自動車道の更に東ではあるが上越線が位置するなど、交通の要衝となっている。

遺跡の所在する陣場地区は榛名山麓斜面から前橋台地面への移行部に位置し、標高は約190mほどである。陣場地区周辺の地形は相馬山付近を給源とする陣場岩屑なだれ堆積物とその後に河川堆積物が作りだした扇状地(相馬ケ原扇状地)となっており、比高数m～10mの流れ山地形なども存在する。また陣場地区を含め吉岡町周辺の標高200～300m付近は、かつて榛名山の伏流水が湧出していたとの伝承も残る地域とされる。なお本遺跡周辺はその南北を榛名山中を源流とし利根川に注ぐ牛王頭川と八幡川に挟まれた台地上に立地するが、牛王頭川は陣場地区の上流で南東の流れを一時北東にかえ、陣場地区の北側を回り込むようにして流れを南東に戻している。

第２－１図　周辺の遺跡

第２節　歴史的環境

本遺跡の所在する吉岡町周辺の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しいので、本節では遺跡周辺の主な遺跡分布図(第２－１図)と一覧表(第２－１表)を掲載し、当地域の概要を記載する。

旧石器時代

本遺跡の立地する相馬ケ原扇状地上の遺跡からは、旧石器についての報告はなされていない。

縄文時代

長谷津遺跡(95)から草創期の石器や早期の土器片が検出されているように、当該時期の遺物は検出されているが、他遺跡を含めこの時期の遺構は報告されていない。遺構が検出されるのは前期からであり、十日市遺跡(67)や環状石斧の出土した七日市遺跡(33)から前期の集落が報告されている。中期になると清里・長久保遺跡(43)、長久保大畑遺跡(44)、沼南遺跡(39)、十二前遺跡(93)などから集落が検出されており、中でも十二前遺跡は加曽利Ｅ３式期の大集落とされる。後期から晩期にかけては、配石墓群が検出された下新井遺跡(92)が存在し、石棒や土製耳飾、木菟土偶などが出土している。また図外の遺跡ではあるが、多量の岩版や土製耳飾が出土した榛東村茅野遺跡など、当時の心的世界への手掛かりとなる史料が得られている。十二前遺跡や長谷津遺跡からも後晩期の良好な史料が出土するなど、榛名山東南麓は中期から晩期にかけて隆盛を迎えたとされる。

弥生時代

当期の遺跡はそれほど多くはないが、清里・庚申塚遺跡(108)からは環濠集落が報告されている。長久保大畑遺跡から溝が検出されているほか、乙溝祭遺跡(16)、前橋市0112遺跡(107)などでは土器片が確認されている。水利に適した利根川流域の低地部に生活の拠点が移動したとされる。

古墳時代

当期になると遺跡の数が急増する。その多くは小型の円墳であるが、吉岡町では上野田、小倉、南下、大久保の各地に古墳が集中する。周辺地域を含め、６世紀後半の構築とされる高塚古墳(100)、大藪城古墳(74)、６世紀末とされる柿木坂古墳(96)、７世紀後半の構築とされる八角墳の三津屋古墳(32)や７世紀初頭から末にかけて構築された長久保古墳群(99)など、６世紀後半から７世紀末にかけて多くの古墳が築造されている。中御所遺跡(１)からはHr-FAに覆われた道が検出されており長久保古墳群との関連も指摘されている。また、この時期の集落と考えられている遺跡としては、上ノ原遺跡(８)、清里・長久保遺跡、宮前遺跡(24)、金竹西遺跡(35)、女塚遺跡(37)、熊野遺跡(55)、片貝遺跡(56)、本宿遺跡(57)、長谷津遺跡、前橋市0107遺跡(111)があげられる。このほか長谷津遺跡では畑、善徳遺跡(41)では水田につながると予想される水路が検出されている。

奈良平安時代

藤原宮跡出土の「上毛野国車評桃井里大贄鮎」木簡に明らかなように、国郡里制や郷里制が施行される時代背景の中、大規模な集落が形成されたと考えられている。宮遺跡(28)、七日市遺跡、清里・陣場遺跡(２)、金竹西遺跡、熊野遺跡、御堀遺跡(90)、倉海戸遺跡(91)などがそうした遺跡である。中でも御堀遺跡は桃井城(90)とも重複する遺跡であり、後代に桃井氏の拠点へと育ってゆく場所と考えられている。また桃井城の南東に位置する清里･陣場遺跡からは多量の灰釉陶器や緑釉陶器、海老錠、丸鞆のほか製鉄関連遺物も出土しており、有力者層の存在が予想されている。

中近世

鎌倉時代になると榛東村山子田付近を中核として桃井荘が整備され、桃井氏の拠点として発展したと考えられている。この拠点防衛を担った遺構が御堀遺跡の桃井城と大藪遺跡の桃井城とされる。御堀遺跡の桃井城は桃井西城、大藪遺跡の桃井城は桃井東城とも呼ばれ別城一郭の備えとされる。15世紀に端を発し、16世紀後半の関東全域が戦場と化す時流によるものか、交通の要衝でもある陣場地区の周辺には漆原城(７)、瀬来城(９)、大林山城(59)、上八幡の砦(60)、桃井東城、桃井西城の６城が存在している。また本遺跡周辺には長塩屋敷(６)、桃井館(61)、金井屋敷(88)の３館の存在も伝えられている。なかでも桃井館は御堀遺跡と共に、桃井氏の居館であったと想定されている。

16世紀後半には武田氏の領域であった当地は、織田領、北条領と変遷し、天正18(1590)年の豊臣秀吉による小田原征伐以降は徳川氏の領域となり江戸時代を迎える

こととなる。現在も残る大字は、概ね16世紀後半以降に成立した大久保村や漆原村などの村名に由来するとされるが、陣場のように昭和になって大字となった土地も存在する。

参考資料
吉岡村誌編纂室1980「村の風土、原始社会、封建社会」『吉岡村誌』吉岡町教育委員会pp.3-304
飯森康広1998「第３章　地理的環境と歴史的環境」『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.9-19
瀧野巧2005「Ⅱ　遺跡の位置と周辺の遺跡」『中御所Ⅱ遺跡』吉岡町教育委員会pp.1-3
須田正久2012「第２章　地理的環境と歴史的環境」『長谷津遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.6-11
須田正久2013「第２章　地理的環境と歴史的環境」『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡・舞台遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.6-12

第２-１表　周辺遺跡一覧

	遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
1	中御所遺跡	北群馬郡吉岡町陣場中御所			○		○	○		集落	平安集落、古墳道。	5,40,41
2	清里・陣場遺跡	北群馬郡吉岡町陣場、前橋市池端町	○				○			集落	平安集落、中世井戸。製鉄関連遺物、海老錠、銙帯。	5
3	西原遺跡	北群馬郡吉岡町陣場西原					○			散布地		
4	南御所遺跡	北群馬郡吉岡町陣場南御所					○			散布地		
5	滝沢古墳	北群馬郡吉岡町下野田宮下			○					古墳		29
6	長塩屋敷	北群馬郡吉岡町漆原十二廻						○		城館		2.51
7	漆原城	北群馬郡吉岡町漆原元屋敷						○		城館		2,51
8	上ノ原遺跡	北群馬郡吉岡町漆原上ノ原	○		○	○	○			散布地,集落	古墳～平安集落。	28
9	瀬来遺跡・瀬来城	北群馬郡吉岡町漆原瀬来	○		○			○		集落,城館		2,51
10	赤岩遺跡	北群馬郡吉岡町漆原赤岩				○	○			散布地		
11	川原田古墳	北群馬郡吉岡町漆原川原田			○					古墳		
12	茶ノ木遺跡	北群馬郡吉岡町漆原茶ノ木	○				○			散布地		
13	並木遺跡	北群馬郡吉岡町漆原平原			○		○			散布地		
14	十石塚遺跡	北群馬郡吉岡町大久保（十石塚）	○				○			散布地		
15	十石塚古墳	北群馬郡吉岡町大久保（十石塚）			○					古墳	円墳。	
16	乙溝祭遺跡	北群馬郡吉岡町大久保乙溝祭		○						散布地		
17	穴薬師古墳	北群馬郡吉岡町大久保乙溝祭			○					古墳		
18	下中町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保下中町	○				○			散布地		
19	沼古墳	北群馬郡吉岡町大久保下中町			○					古墳		
20	下町古墳	北群馬郡吉岡町大久保下町			○					古墳		
21	久保田遺跡	北群馬郡吉岡町大久保久保田			○	○				散布地,集落,古墳	平成3年吉岡町教委調査(久保田古墳、久保田遺跡)。	
22	宮後古墳	北群馬郡吉岡町大久保宮後			○					古墳		
23	宮西遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮西			○	○	○			散布地,集落	奈良平安集落。	49
24	宮前遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○		○	○	○			散布地,集落	古墳～平安集落。	50
25	高縄遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○		○	○	○			散布地		
26	新保分遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前				○	○			散布地		

	遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
27	宮田遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮田	○			○	○			散布地		
28	宮遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮東	○		○	○	○			散布地,集落		3,29
29	源平山古墳	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○					古墳	山寄せ円墳。	
30	十二遺跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地,集落	熊野・辺玉遺跡、熊野Ⅰ遺跡。	36
31	甲溝祭遺跡	北群馬郡吉岡町大久保甲溝祭			○		○			散布地		
32	三津屋古墳	北群馬郡吉岡町大久保字三津屋			○					古墳	7世紀後半山寄せ式八角形墳。	46,47
33	七日市遺跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市	○			○	○	○	○	散布地,集落	縄文前期後半集落、環状石斧、古墳～平安集落。	29,42
34	七日市東遺跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市					○			散布地		
35	金竹西遺跡	北群馬郡吉岡町大久保十二	○		○	○	○			散布地,集落	古墳・平安集落、刻書紡錘車、緑釉。	33
36	十二古墳	北群馬郡吉岡町大久保十二			○					古墳		
37	女塚遺跡	北群馬郡吉岡町大久保女塚				○	○			散布地,集落	奈良～平安集落。	29
38	沼遺跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○			散布地		
39	沼南遺跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○		○	散布地,集落	縄文中期中葉集落、前期中期土坑、平安集落。	10
40	川原田不動北遺跡	北群馬郡吉岡町大久保上町	○			○	○			散布地		
41	善徳遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳	○		○		○			散布地,集落,水田	縄文土坑、Hr-FA下水路、平安集落、As-B下水田。	38
42	長久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳	○				○			散布地		6,45
43	清里・長久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳、前橋市池端町	○		○		○			散布地,集落,古墳	縄文中期集落、古墳、古墳畑。平安集落。	6,45
44	長久保大畑遺跡	北群馬郡吉岡町大久保								集落	縄文集石、配石、列石、古墳、平安集落、中世集落。	8,39
45	大下遺跡	北群馬郡吉岡町大久保大下	○			○	○			散布地,集落	縄文土坑、古墳溝、奈良集落、平安道。	30
46	中町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○		○	散布地,集落		34
47	大泉寺東遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○			散布地		
48	上町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町	○		○	○	○			散布地		
49	中島遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中島	○							散布地		
50	頭梨子遺跡	北群馬郡吉岡町大久保長坂	○		○	○	○			散布地		
51	田端遺跡	北群馬郡吉岡町大久保田端	○			○	○			散布地		
52	久保平遺跡	北群馬郡吉岡町大久保東原	○		○	○	○			散布地		
53	東原01～4号古墳	北群馬郡吉岡町大久保東原			○					古墳		
54	不動久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保					○			散布地		
55	熊野遺跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保	○		○	○	○			散布地,集落	五領ケ台、十三菩提、古墳・奈良・平安集落。	35,36
56	片貝遺跡	北群馬郡吉岡町大久保片貝	○		○	○	○			散布地,集落	奈良・平安集落。	32
57	本宿遺跡	北群馬郡吉岡町大久保辺玉	○		○	○	○			散布地,集落,古墳	古墳集落。オトカ山古墳。	44

	遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
58	熊野Ⅳ遺跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地,集落,古墳	H25年吉岡町教委試掘調査。	
59	大林山城	北群馬郡吉岡町南下大林						○		城館		2,51
60	上八幡の砦	北群馬郡吉岡町南下大藪、上八幡						○		城館		2
61	桃井館	北群馬郡吉岡町南下下八幡						○		城館		2,51
62	下八幡Ⅰ遺跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○	○		散布地		
63	下八幡Ⅱ遺跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○			散布地	桃井塚。	
64	丸山01～2号古墳	北群馬郡吉岡町南下丸山			○					古墳		
65	南下古墳群	北群馬郡吉岡町南下宮代			○					古墳	円墳。明治村50,54、南下A～E、丸山1,2、上八幡1～4、大林1～3号墳、大藪八幡古墳、宮代古墳。	48
66	下八幡南遺跡	北群馬郡吉岡町南下三疋				○	○			散布地,集落	奈良平安集落。	37
67	十日市遺跡	北群馬郡吉岡町南下十日市	○				○			集落	縄文前期集落、奈良平安集落、中世掘立、墓。十日市地区平安多し、大藪地区縄文多し。	7
68	上八幡遺跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡					○			散布地		
69	上八幡01～4号古墳	北群馬郡吉岡町南下上八幡			○					古墳		
70	小蓋遺跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡				○	○			散布地		
71	川子遺跡	北群馬郡吉岡町南下川子			○	○	○			散布地		
72	大林02号古墳	北群馬郡吉岡町南下大林			○					古墳		
73	大林03号古墳	北群馬郡吉岡町南下大林			○					古墳		
74	大藪遺跡	北群馬郡吉岡町南下大藪	○		○			○		散布地,古墳,城館	中世城郭。大藪城・桃井城・桃井東城、大藪遺跡、大藪城山古墳・大藪城古墳(前方後円墳)。	2,31,51
75	大藪八幡古墳	北群馬郡吉岡町南下大藪			○					古墳		
76	長山遺跡	北群馬郡吉岡町南下長山					○			散布地,集落	平安集落。平成7年吉岡町教委調査。	
77	南下木戸遺跡	北群馬郡吉岡町南下木戸				○	○			散布地		
78	北発地岡遺跡	北群馬郡吉岡町北下久保	○							散布地		
79	住遺跡	北群馬郡吉岡町北下住					○	○		集落	平安集落、中世掘立、土坑、墓。	7
80	千代開南遺跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地,集落	平安集落、中世土坑。	7
81	千代開北遺跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地,集落	平安集落、中世土坑。	7
82	北下東原遺跡	北群馬郡吉岡町北下東原				○	○			散布地		
83	畑中・住遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中					○			散布地,集落	平安集落。	43
84	畑中東遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中	○				○			散布地		
85	北下藤塚遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中	○				○			散布地		
86	諏訪台遺跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地,社寺	諏訪廃寺。	
87	東原田遺跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地		
88	金井屋敷	北群馬郡榛東村広馬場						○		城館		2
89	庚申塚古墳	北群馬郡榛東村山子田			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧桃井村101号墳。	

	遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
90	御堀遺跡	北群馬郡榛東村山子田				○	○	○		集落,城館	御堀城・桃井城・桃井西城。中世城郭。	2,12
91	倉海戸遺跡	北群馬郡榛東村山子田倉海戸					○			集落	平安集落。	13
92	下新井遺跡	北群馬郡榛東村新井	○				○			集落	縄文後期・晩期集落、墓域。耳飾、石核、木蒐土偶、配石墓・石棺墓、敷石遺構。	11,15
93	十二前遺跡	北群馬郡榛東村新井	○							集落	新井十二前遺跡。縄文中期集落。	14
94	立畦古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧桃井村14号墳。	
95	長谷津遺跡	北群馬郡榛東村新井	○		○	○		○	○	集落	縄文中期～後期集落、古墳集落、畑、奈良集落、中近世集落。	9
96	柿木坂古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	山寄せ式円墳。上毛古墳総覧桃井村38号墳。	9
97	いなり山古墳	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳。判塚古墳群、上毛古墳総覧桃井村3号墳。	
98	北原古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧23～25,66,70,71,140号墳。	
99	長久保古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳2基、円墳20基。	18
100	高塚古墳	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳、県指定。昭和34・35年群馬大学調査。	16
101	雛子古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。榛東村39号墳	17
102	今井古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧桃井村126号墳。	
103	萱場遺跡	北群馬郡榛東村新井萱場	○			○	○			散布地	縄文中期。	
104	判塚遺跡	北群馬郡榛東村新井判塚					○			散布地		
105	前橋市0138遺跡	前橋市総社町植野桜ヶ丘団地	○	○		○	○	○		集落	総社桜ヶ丘遺跡,総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡。西久保遺跡?	19、22、23、24
106	前橋市0886遺跡	前橋市上青梨子町			○					古墳	庚申塚1,2号墳	6
107	前橋市0112遺跡	前橋市上青梨子町	○	○	○	○	○	○	○	散布地,集落,その他	H19,20,22前橋市教委試掘。中島遺跡、二彩陶器、巡方・鉈尾、硯、緑釉、刻字瓦、刻書土器 。	4、20、21、25、26、27
108	清里・庚申塚遺跡	前橋市池端町、上青梨子町		○	○		○			集落,古墳	弥生中期後半環濠集落、古墳、平安時代集落。清里遺跡群庚申塚遺跡、庚申塚古墳。	4
109	前橋市0108遺跡	前橋市池端町				○	○	○		散布地		
110	前橋市0830遺跡	前橋市池端町			○					古墳	清里5,8,10号墳。	1,6
111	前橋市0107遺跡	前橋市池端町	○			○	○	○		集落	古墳後期集落、平安集落、中近世井戸、土坑、溝。	
112	前橋市0885遺跡	前橋市池端町屋敷小路			○					古墳	清里3号墳。	1
113	奈良平安№1遺跡	高崎市金古町内金古				○	○			散布地		
114	古墳№30遺跡	高崎市金古町内金古			○					散布地		
115	内金古古墳	高崎市金古町内金古			○					古墳	横穴式石室、円墳。	
116	縄文№1遺跡	高崎市金古町内金古	○							散布地		
117	内林遺跡	高崎市金古町内林	○							散布地		

文献リスト
1　群馬県　1938『上毛古墳綜覧』
2　群馬県教育委員会　1988『群馬県の中世城館跡』
3　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989『有馬遺跡Ⅰ、大久保B遺跡』
4　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982『清里・庚申塚遺跡』
5　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982『清里・陣場遺跡』
6　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986『清里・長久保遺跡』
7　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2013『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡・舞台遺跡』
8　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2000『長久保大畑遺跡・新田入口遺跡』
9　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2012『長谷津遺跡』
10　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1999『沼南遺跡』
11　榛東村教育委員会　1985『新井第Ⅱ地区遺跡群発掘調査概報』
12　榛東村教育委員会　1985『御堀遺跡発掘調査報告書』
13　榛東村教育委員会　1984『倉海戸遺跡発掘調査概報』
14　榛東村教育委員会　1999『十二前遺跡概報』
15　榛東村教育委員会　2008『下新井遺跡』
16　榛東村教育委員会　1988『榛東村誌』
17　榛東村教育委員会　1985『榛東村39号墳(雛子遺跡)発掘調査報告書』
18　長久保古墳群調査団　1986『長久保古墳群発掘調査略報　自、昭和51年12月４日　至、昭和53年５月30日』
19　前橋市教育委員会　1986『総社桜ヶ丘遺跡』
20　前橋市教育委員会　1980『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』
21　前橋市教育委員会　1981『中島遺跡発掘調査概報』
22　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993『西久保遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
23　前橋市教育委員会　1994『平成４年度市内遺跡発掘調査報告書』
24　前橋市教育委員会　1999『平成９年度市内遺跡発掘調査報告書』
25　前橋市教育委員会　2009『平成19年度市内遺跡発掘調査報告書』
26　前橋市教育委員会　2010『平成20年度市内遺跡発掘調査報告書』
27　前橋市教育委員会　2012『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』
28　吉岡町教育委員会　2011『上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡』
29　吉岡町教育委員会　1986『大久保A遺跡I区・II区、七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡』
30　吉岡町教育委員会　1993『大下遺跡発掘調査報告書』
31　吉岡町教育委員会　2012『大藪遺跡』
32　吉岡町教育委員会　2001『片貝Ⅱ遺跡』
33　吉岡町教育委員会　1994『金竹西遺跡』
34　吉岡町教育委員会　1996『金竹西A遺跡、中町遺跡』
35　吉岡町教育委員会　2010『熊野Ⅲ遺跡』
36　吉岡町教育委員会　1995『熊野・辺玉遺跡』
37　吉岡町遺跡調査会　2002『下八幡南遺跡』
38　吉岡町教育委員会　2004『善徳遺跡』
39　吉岡町教育委員会　2006『長久保大畑Ⅲ遺跡』
40　吉岡町教育委員会　2001『中御所遺跡』
41　吉岡町教育委員会　2005『中御所II遺跡』
42　吉岡町教育委員会　2017『七日市遺跡』
43　吉岡町教育委員会　2000『畑中遺跡』
44　吉岡町教育委員会　1991『本宿遺跡発掘調査報告書』
45　吉岡町教育委員会　2003『本宿遺跡』
46　吉岡町教育委員会　1993『三津屋古墳』
47　吉岡町教育委員会　1996『三津屋古墳、八角形墳の調査』
48　吉岡町教育委員会　2010『南下古墳群』
49　吉岡町教育委員会　2012『宮西遺跡』
50　吉岡町教育委員会　2007『宮前Ⅱ遺跡』
51　吉岡村教育委員会　1980『吉岡村誌』

第３節　調査の概要と基本土層

１　調査の概要

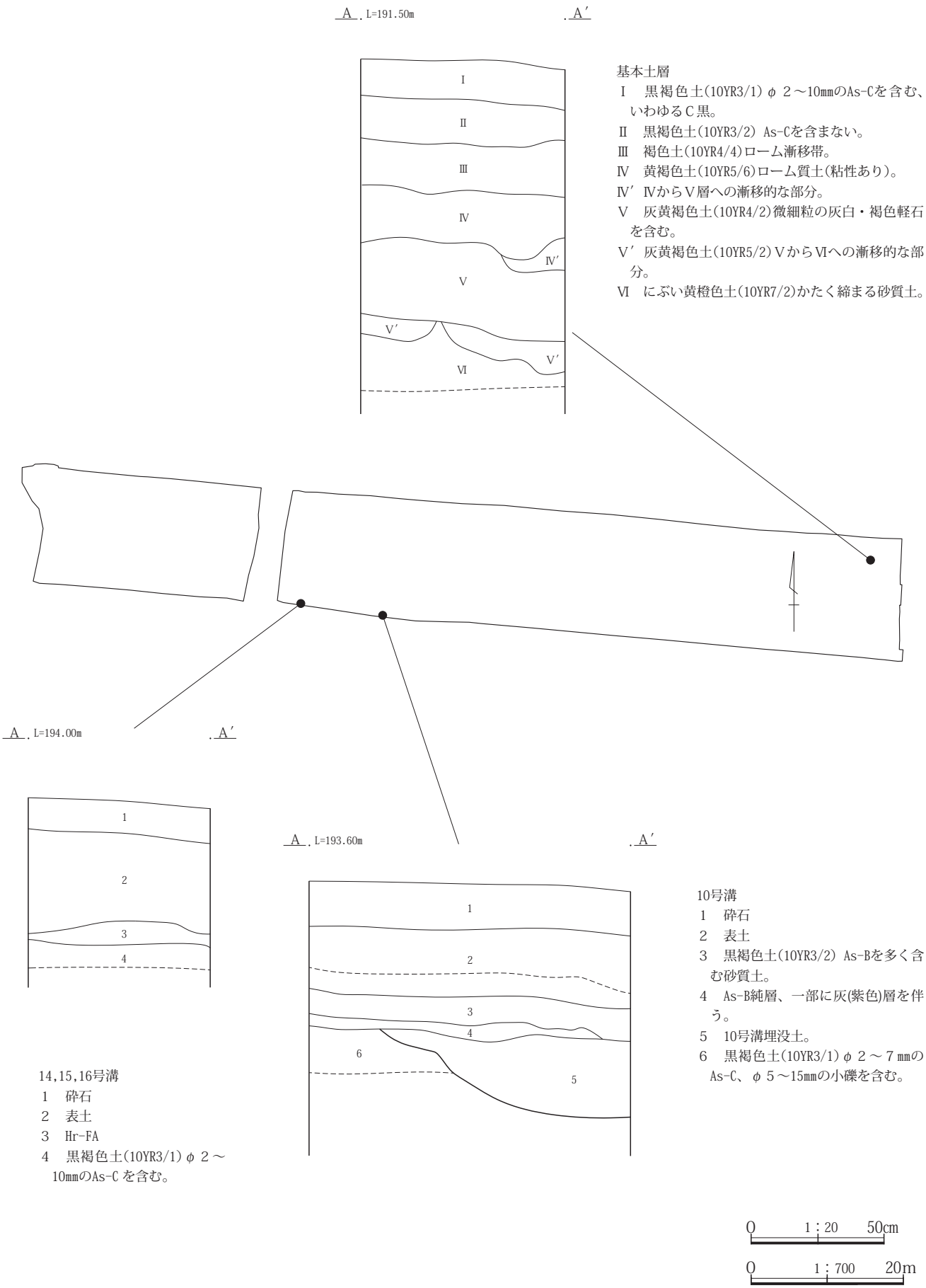
中御所遺跡は、西に位置する榛名山の東麓斜面と前橋台地との移行部に存在し、西高東低の緩やかな傾斜地に立地する。これまでに３回の発掘調査が行われている。昭和54年に事業団により遺跡東南部(清里・陣場遺跡)、ついで吉岡町教育委員会により平成６年に遺跡北辺東寄り地点(中御所遺跡)、平成16年に遺跡東辺南寄り地点(中御所Ⅱ遺跡)の発掘調査が行われ、古墳時代の道や平安時代から中世の集落が確認されている。今回の調査は、平成16年の発掘調査地の南が調査対象地点である。

発掘調査は３面の遺構面を想定して実施された。中世と平安時代の遺構が期待された、As-Cを含む黒色土(以下Ｃ黒)を地山とする１面からは、竪穴建物８棟、掘立柱建物４棟、竪穴状遺構10基、ピット列６条、溝22条、井戸４基、土坑38基、ピット144基が検出されている。２面としたＣ黒層の下面からは、土坑１基とピット６基が検出されている。なお２面の下位は、旧河道と考えられた砂礫層の下までトレンチによる遺構確認を行ったが遺構、遺物共に検出されていない。

２　基本土層

中御所遺跡ではこれまで３回の発掘調査が行われ、模式的には砂質土層、ローム層、黒褐色土層、Ｃ黒層、Hr-FA、褐色土層の順に堆積することが確認されており、今回の調査区においても概ね同様である。なおこの層序はあくまでも概要であり、また地点により堆積状況は相違している。

調査区周辺は過去に土地改良事業が実施された地域のため、表土の直下からＣ黒が検出される地点が多数を占めており、基本土層とした調査区東北端寄りの地点もそのひとつである。しかしながらこの地点より榛名山寄りの、調査区南辺中央西寄りの地点からはＣ黒の直上からAs-Bの純層が確認されており、更にそこから西へ９mほど離れた地点ではAs-Bは検出されなかったが、Ｃ黒の直上からHr-FAが検出されている。元よりHr-FAやAs-Bが調査区全面を覆い堆積していたとは想定されないが、調査区の多くの地点のＣ黒層が後代の攪乱の影響下にあると推察される。

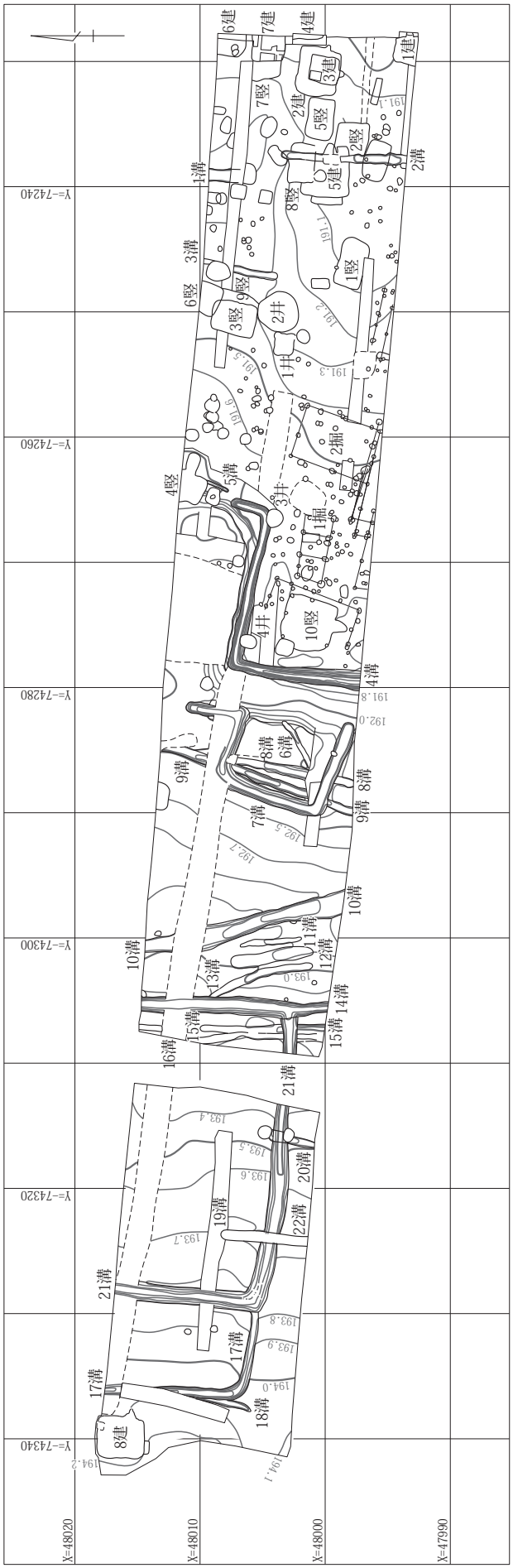


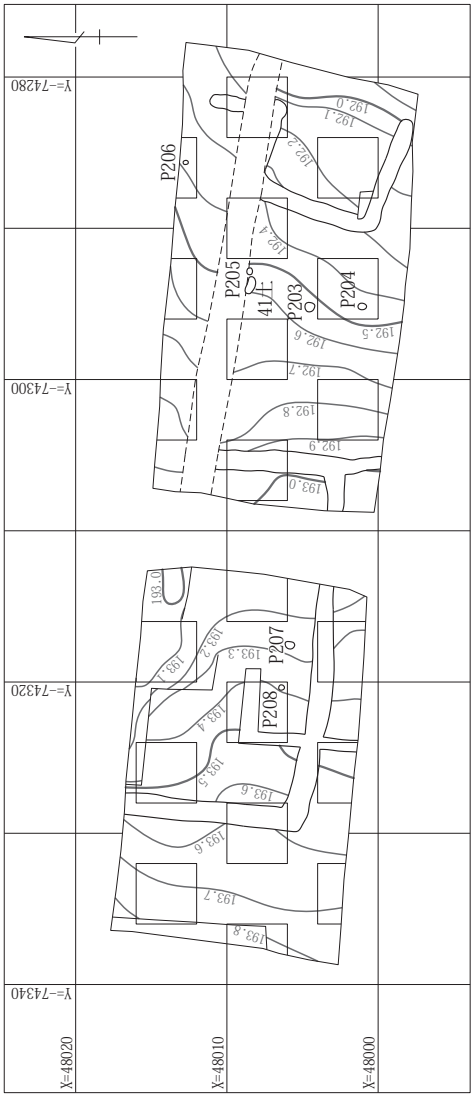
基本土層
Ⅰ　黒褐色土(10YR3/1) φ ２～10mmのAs-Cを含む、いわゆるＣ黒。
Ⅱ　黒褐色土(10YR3/2) As-Cを含まない。
Ⅲ　褐色土(10YR4/4)ローム漸移帯。
Ⅳ　黄褐色土(10YR5/6)ローム質土(粘性あり)。
Ⅳ′ ⅣからⅤ層への漸移的な部分。
Ⅴ　灰黄褐色土(10YR4/2)微細粒の灰白・褐色軽石を含む。
Ⅴ′ 灰黄褐色土(10YR5/2)ⅤからⅥへの漸移的な部分。
Ⅵ　にぶい黄橙色土(10YR7/2)かたく締まる砂質土。

14,15,16号溝
1　砕石
2　表土
3　Hr-FA
4　黒褐色土(10YR3/1) φ ２～10mmのAs-C を含む。

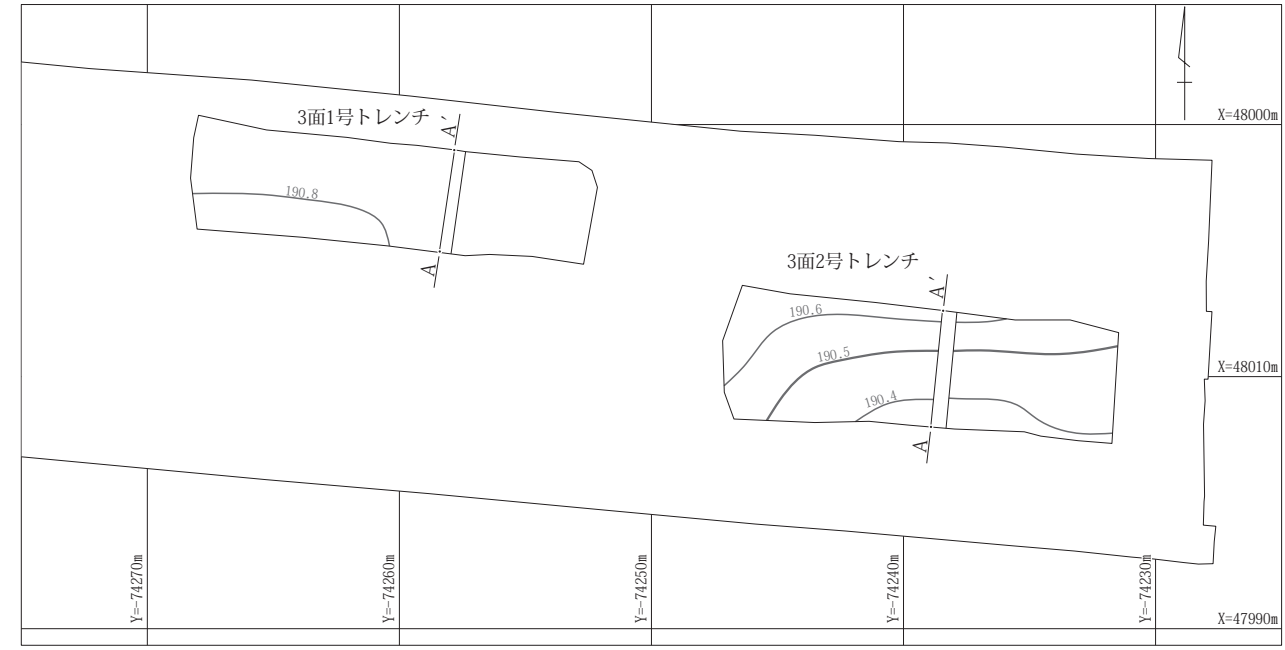
10号溝
1　砕石
2　表土
3　黒褐色土(10YR3/2) As-Bを多く含む砂質土。
4　As-B純層、一部に灰(紫色)層を伴う。
5　10号溝埋没土。
6　黒褐色土(10YR3/1) φ ２～７mmのAs-C、φ５～15mmの小礫を含む。

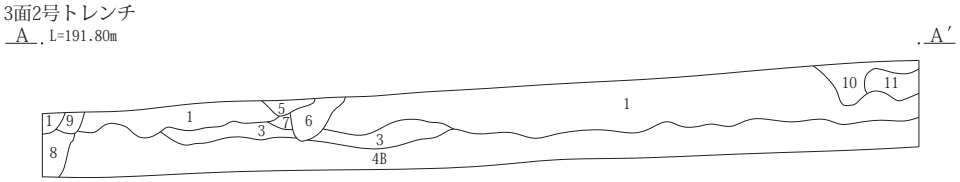
第２-２図　基本土層

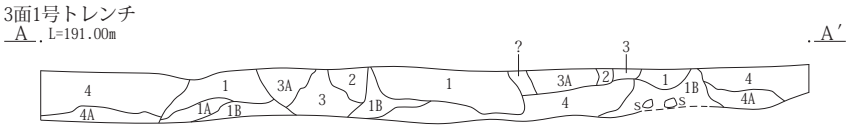




第２-３図　１面、２面全体図







３面トレンチ

1　黒色土(10YR2/1)φ0.5～１㎜の白色粒子を含む。微量の灰白色粒子(φ３～４㎜)、や褐色粒子が認められる。かたくしまる。褐灰色ブロックが斑文状に混入。

1A　１に近似、１より白色粒子の混入少なく、やや灰色味がかる色調。

1B　１Ａに近似、1Aより白色粒子の混入多い。

2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)φ１～２㎜の灰白・褐色粒子を含む。灰黄褐色土ブロックが斑点状に構成される。(１層より軟質)

3　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１㎜の灰白色・褐色粒子を少量含む。にぶい黄褐色土ブロックが斑文状に混入、かたくしまる。

3A　３に近似にぶい黄褐色土ブロックのに混入すくなく、灰白・褐色粒子の混入多い。

4　灰黄褐色土(10YR4/2)φ0.5～１㎜の灰白・褐色軽石を含む。微量の黄褐色粒子(φ５㎜)混入、かたくしまる。

4A　４に近似灰白・褐色粒子の混入がやや少ない。

4B　４に近似、灰黄褐色土(10YR4/2)φ５～10㎜の小礫が混入。灰白・褐色軽石を含む。微量の黄褐色粒子(φ５㎜)混入、かたくしまる。

5　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１㎜の灰白色・褐色粒子を少量含む。灰黄褐色土ブロックが斑文状に混入、かたくしまる。

6　５に近似、ブロックの混入多い。

7　１と３の中間層。

8　灰黄褐色土(10YR6/2)微量の白色粒子(φ１㎜)を含む。固くしまる。粘性あり。

9　１と８の中間層。

10　１に近似するが黒味が強い。

11　１と10の中間層。

0　1：40　1m

0　1：300　10m

第２-４図　３面全体図

第３章　確認された遺構と遺物

第１節　１面の遺構と遺物

第１項　１面の概要

平安時代から中世にかけての遺構が確認された１面からは、竪穴建物８棟、掘立柱建物４棟、竪穴状遺構10基、ピット列６条、溝22条、井戸４基、土坑38基、ピット144基が検出されている。東西に細長い調査区は、その東西で遺構の出土傾向が相違している。山側である調査区西半には主に溝が分布し、その他の遺構は調査区東半に集中している。また調査区東半においても遺構分布には偏りが存在し、竪穴建物は調査区東端に集中し、掘立柱建物とピット列は調査区中央寄りの南辺沿いに集中している。

竪穴建物は調査区東端から集中して検出されたが、この建物群から離れた調査区西端から１棟（８号竪穴建物）が出土している。本調査区以西からは遺構が存在していない事が事前の試掘確認調査により確認されており、この１棟は至近の建物群からは意図して距離を置いた立地が選択されていると推察される。

溝は調査区の中央から西端にかけて分布するが、鉤の手状に屈曲する溝が、調査区中央部に２条、調査区西半に２条存在し、他の溝は概ね等高線に平行する南北に延びるものであり、上述の２組の鉤の手状の溝の間に多くが存在する。なお、前述した掘立柱建物とピット列は、この２組の溝のうちの東側に位置する溝を西限とするように分布している。

第２項　１面の遺構

１　竪穴建物

本調査区からは８棟の竪穴建物が検出されている。調査区北西端から検出された１棟を除き、残り７棟はいずれも調査区東端に集中している。８棟のうち３棟は部分的な検出のため判然としないが、４棟は東壁にカマドを持ち、１棟のみが南壁にカマドを有する、平安時代の遺構と思われる建物である。

（１）１号竪穴建物（第３-１,45図、PL.２,25）

位置　X=47992～47995、Y=-74227～-74231、調査区東南端に位置する。

形状等　南辺が調査区外に至り全体は確認されていないが、概ね平面形は台形状をなすと推測される。カマドは東辺中央付近に位置すると推測される。カマド脇に貯蔵穴が位置し、確認された３辺は壁溝を伴う。遺構北西隅からピット１基が検出されている。

規模　(2.54)×(1.83)×(0.29)m

主軸方位（度）　N-100-E

埋没土　壁溝やピットから、崩落土と思われる軽石を含まない黒褐色土が確認されているが、床面自体はAs-Cを微量含む黒褐色土に覆われている。

カマド　東壁中央付近に位置し、(0.49)×0.59m、主軸方位（度）N-94-Eを測る。壁線付近を残し、多くは攪乱され詳細が失われ、微量の焼土粒を含む埋没土が確認されるのみであり、燃焼部やカマド袖の状況は不明である。

掘り方　貼床が確認されている。また遺構南半に掘り込み２か所が存在する。

重複　なし。

遺物　床面から磨石（２）、埋没土から須恵器椀（１）が検出されたほか、図化には至らなかったが、土師器（10片、21g）、須恵器（４片、21g）、灰釉陶器（３片、６g）、羽釜（１片、13g）が出土している。

所見　本遺構の年代は出土遺物から平安時代（10世紀前半）に比定される。遺構南半から(0.49)×0.38×0.15mの上面平坦な石材が検出されているが、石材と床面の間から埋没土が検出されているように見受けられるため、遺構に伴うとの断定は見合わせた。

（２）２・３号竪穴建物

２号竪穴建物の痕跡を利用したと推察される３号竪穴建物は、２号竪穴建物のなかにすっぽりと収まる位置関係にあり、床面は共通する部分があるなどし、両者の分離は難しく、一連の遺構として記載する。

ａ　２号竪穴建物（第３-２,３,46図、PL.２）

位置　X=47998～48003、Y=-74228～-74233、調査区東

端に位置する。

形状等　西半は丸みを帯びるが平面形は概ね方形を呈する。壁溝や貯蔵穴は確認されていない。西辺沿いの床面に硬化した一画が確認されている。

規模　4.25×3.30×(0.17)m、12.28㎡

主軸方位(度)　N-100-E

埋没土　As-Cを微量含む黒褐色土に覆われる。

カマド　東辺南寄りに位置し、(0.80)×0.61m、N-102-Eを測る。残存は良好といえず、炭化物の灰層は確認されているが、燃焼部は確認されていない。なおカマド袖は確認されていないが、カマド両脇から焼土が検出されている。

掘り方　下位からは小礫を含む暗褐色土、上位からはAs-Cを少量含む黒褐色土が検出されている。遺構中央部北西寄りの地点から床下ピットが検出されている。

重複　３号竪穴建物の下位に位置する。

遺物　床面から羽釜(４)、須恵器甑(３)、埋没土から須恵器杯(５)、龍泉窯系青磁碗(102)、鉄鍋(103)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(138片、529g)、須恵器(51片、615g)、灰釉陶器(１片、３g)、羽釜(１片、39g)が出土している。

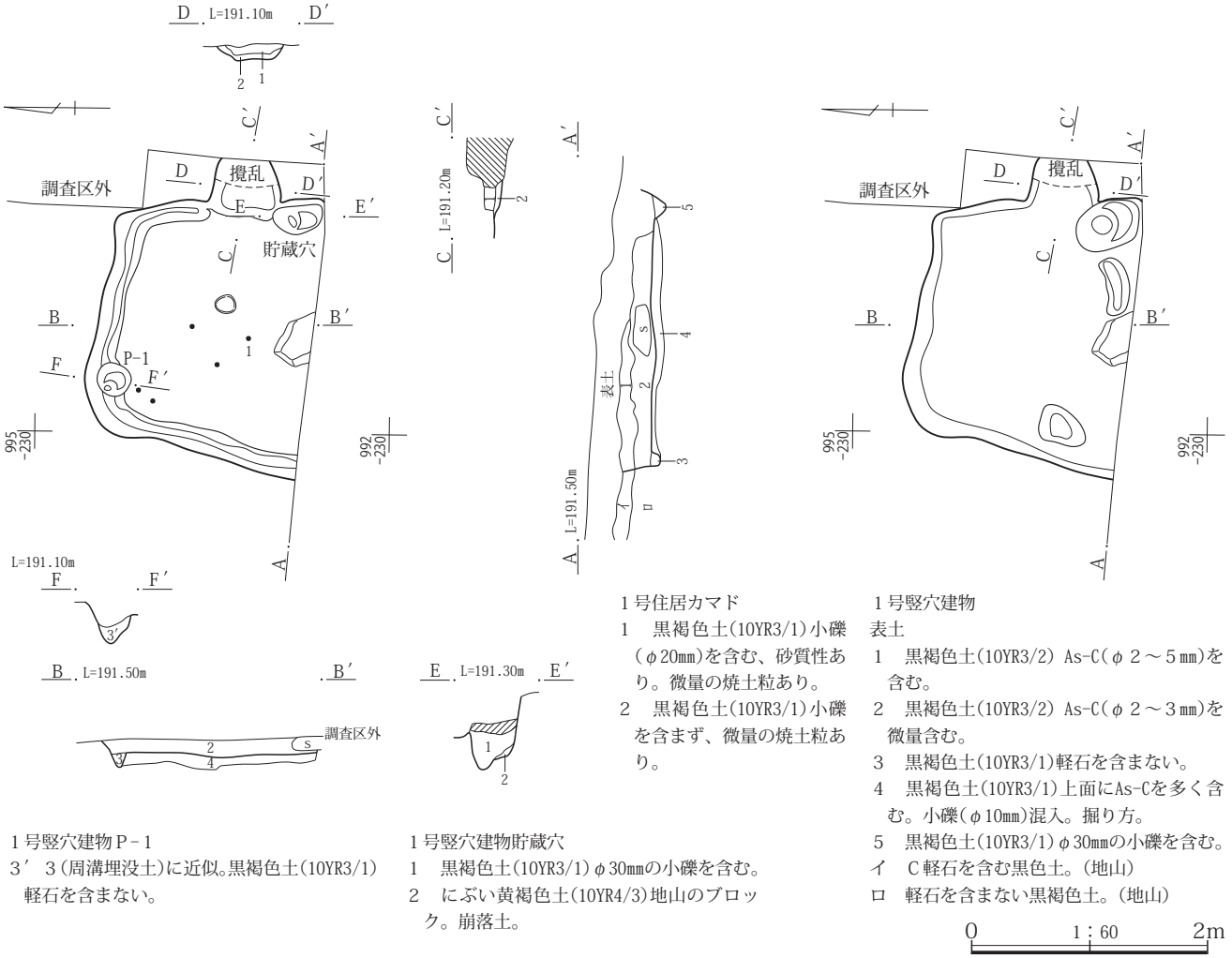
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。３号竪穴建物に先行する。なお、出土した龍泉窯系青磁碗と鉄鍋は遺構確認面からの検出と考えられ、隣接する５号竪穴状遺構の遺物が後代の攪乱により混入したと推察される。

ｂ　３号竪穴建物(第３-２,３,46図、PL.３,25)

位置　X=47998～48002、Y=-74229～-74232、調査区東端に位置する。

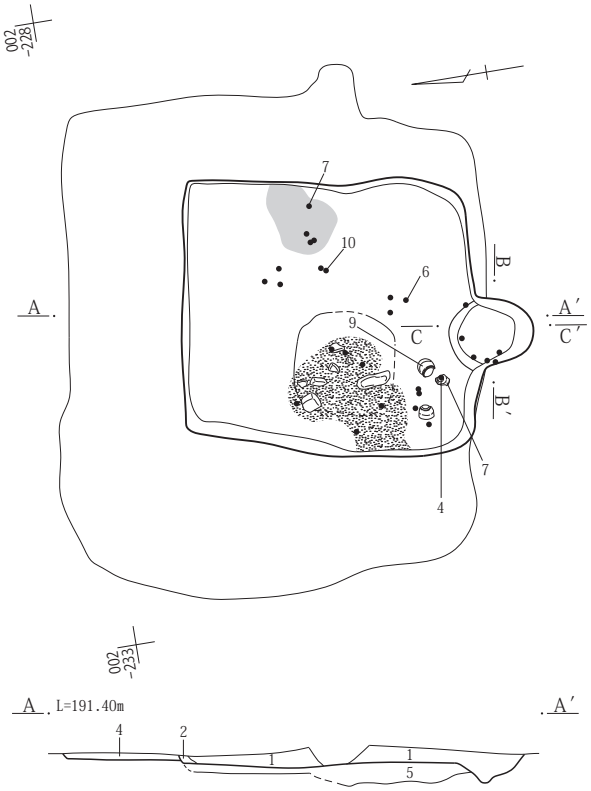
形状等　南辺中央寄りにカマドを有し、平面形は概ね方形を呈する。壁溝や貯蔵穴は確認されていない。東辺中央付近の床から焼土が確認され、西辺南寄りの床面からは粘土が確認されている。

規模　2.79×2.24×(0.18)m、5.04㎡



第３-１図　１号竪穴建物

３号竪穴建物



3号竪穴建物

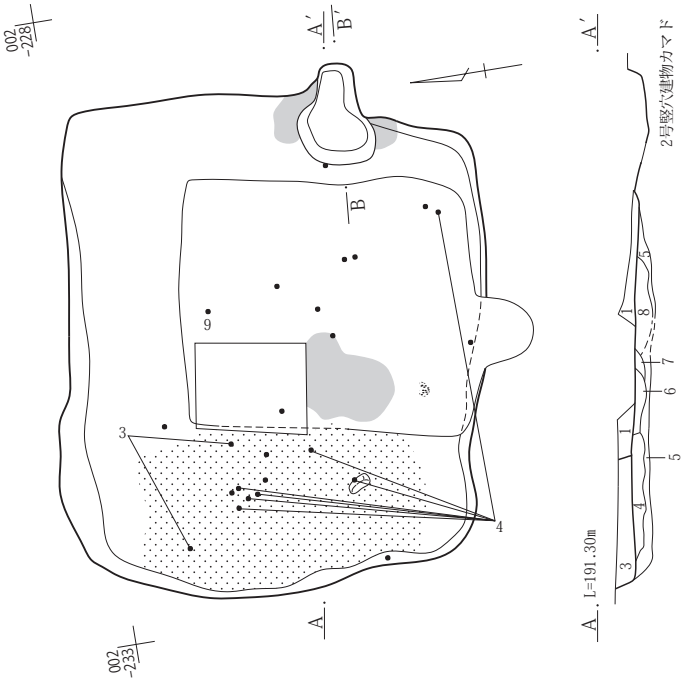
1　暗褐色土(10YR3/3)φ２～10㎜のAs-Cを含む。３号竪穴建物埋没土。一部床面上に炭化物のうすい層が認められる。

2　暗褐色土(10YR3/3)軽石を含まない地山の土。３号竪穴建物崩落土。

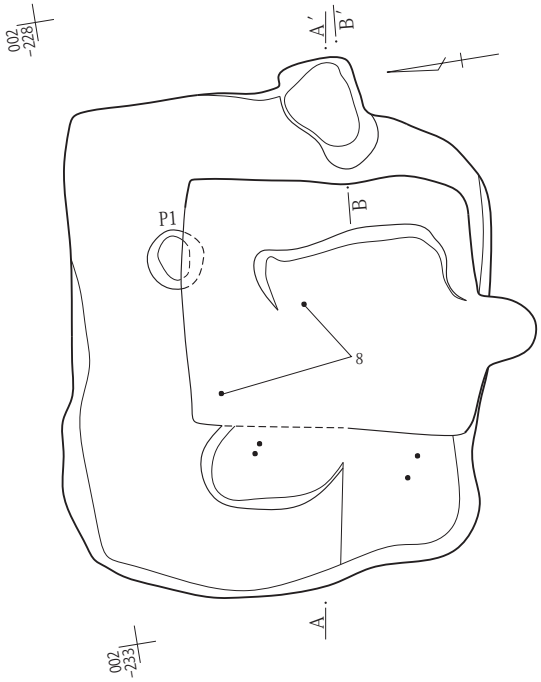
4　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを少量含む。２号竪穴建物埋没土。

5　暗褐色土(10YR3/3)地山の土。φ30㎜の小礫含む。２号竪穴建物掘り方。

２号竪穴建物



２・３号竪穴建物掘り方



２号竪穴建物

1　暗褐色土(10YR3/3)φ２～10㎜のAs-Cを含む。３号竪穴建物埋没土。一部床面上に炭化物のうすい層が認められる。

3　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを微量含む。２号竪穴建物埋没。

4　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを少量含む。２号竪穴建物掘り方。

5　暗褐色土(10YR3/3)地山の土。φ30㎜の小礫含む。２号竪穴建物掘り方。

6　黒褐色土(10YR3/1)黒色灰を主体とし灰黄褐色粘土ブロックが混入。

7　焼土ブロック

8　４に近似。炭化物の混入多し。３号竪穴建物掘り方？。

0　1：60　2m

第３-２図　２・３号竪穴建物１

主軸方位(度)　N-168-W

埋没土　As-Cを含む暗褐色土に覆われる。遺構中央付近から土坑と思われる掘り込みが確認されている。

カマド　南辺やや西寄りに位置し、0.66×0.57m、主軸方位(度)N-167-Wを測る。灰層は確認されていないが、カマド中央付近から焼土ブロックが検出されている。

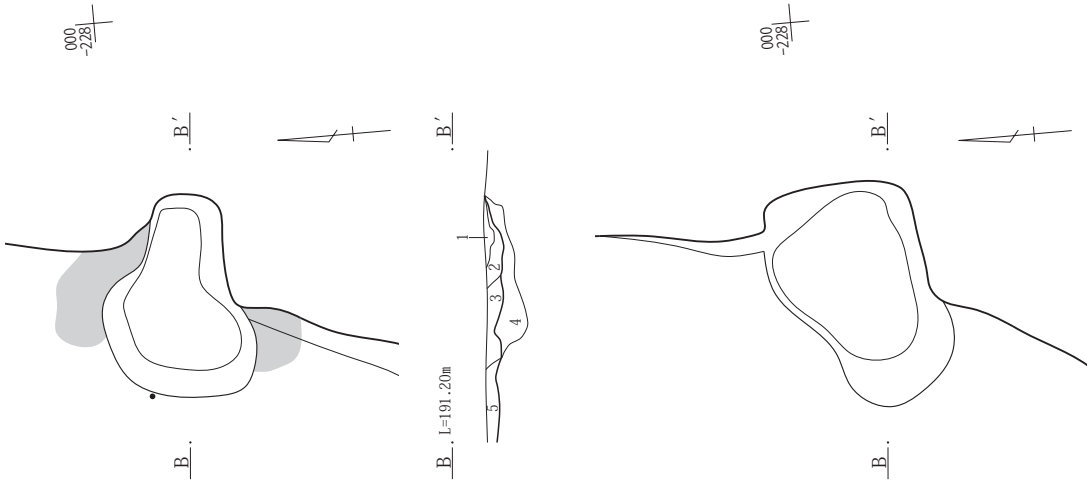
掘り方　遺構中央部西寄りの床下から焼土ブロックと粘土ブロックが検出されている。

重複　２号竪穴建物の上位に位置する。

遺物　床面から須恵器椀(６，７)、床下から須恵器杯(８)、土師器甕(９)、埋没土から灰釉陶器椀(10)が検出されたほか、図化には至らなかったが土師器(55片、464g)、須恵器(19片、236g)、灰釉陶器(３片、22g)、羽釜(３片、86g)が出土している。

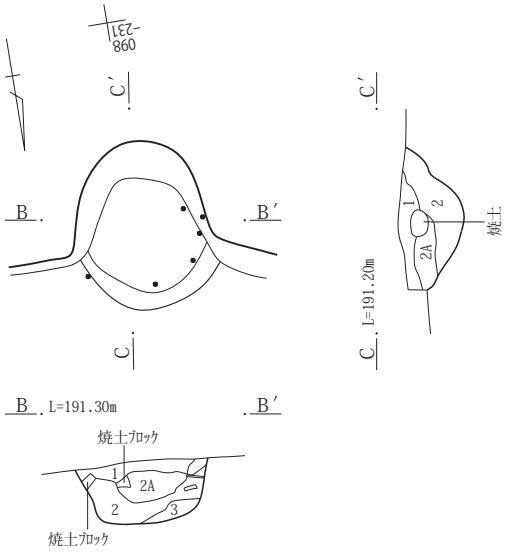
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。先行する２号竪穴建物の痕跡を利用し、その北側と東西を埋め立て、先行する遺構の床面を活かしながら一回り小振りな遺構を構築したものと推察される。そのため、床下から確認された粘土ブロックと焼土ブロック及び床下から出土した遺物についてはその帰属を判別しがたい。また遺構東辺沿いから確認された焼土についても、先行する２号竪穴建物に伴う可能性が認められると記述するにとどめる。

２号竪穴建物カマド



2号竪穴建物カマド
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)赤褐色焼土粒子が多く混入。
2　黒色土(10YR2/1)炭化物の灰層。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)炭化物粒・焼土粒子が多く含まれる。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)少量の焼土粒子が含まれる。
5　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C(φ２～５mm)、炭化物を含む。

３号竪穴建物カマド



３号竪穴建物カマド
1　暗褐色土(10YR3/3)φ２mmAs-C、焼土粒子含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)１に近似、焼土粒子が多い。
2A　２に炭化物粒子が含まれる。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)地山の土。

0　1:30　1m

第３-３図　２・３号竪穴建物２

（３）４号竪穴建物（第３－４図）

位置　X=48000～48003、Y=-74227～-74229、調査区東部に位置する。

形状等　遺構西辺の南半が確認されたにとどまり、詳細は不明である。壁溝や掘り方は確認されていない。

規模　(0.42)×(2.45)×(0.16)m

主軸方位（度）　N－２－W

埋没土　確認されていない。

カマド　不明。

掘り方　なし。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器（５片、10g）、須恵器(11片、51g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。

（４）５号竪穴建物（第３－４,46図、PL.３,25）

位置　X=47998～48002、Y=-74236～-74241、調査区東部に位置する。

形状等　東辺の両端が未確認ではあるが、平面形は概ね方形を呈すると推測される。カマドは東辺のやや南寄りに位置し、壁溝や貯蔵穴は確認されていない。遺構中央やや北寄りから床下土坑１基が確認されている。

規模　4.34×3.83m

主軸方位（度）　N-91-E

埋没土　調査時点でカマドからの流れ込みと判断された、焼土粒、炭化物粒、As-Cを含む黒褐色土が確認されている。

カマド　遺構東辺の南寄りに位置し、(0.91)×1.23m、主軸方位(度)N-88-Eを測る。灰層と焼土ブロックの混土層が確認されたが、燃焼部は確認されていない。カマド袖の南側基部は確認されているが、北側は未確認である。なお北側の袖が存在したと予測される地点の下位から、焼土面が確認されており、再構築の痕跡ないしは改修前の遺構と推測される。

掘り方　φ30㎜前後の円礫の混入した暗褐色の地山の土で埋められており、床下土坑１基の他に、５か所の掘り込みが確認されている。

重複　調査時点で土坑または竪穴状遺構とされる遺構が下位に位置する。上位には２号竪穴状遺構、８号竪穴状遺構、２号溝が位置する。

遺物　カマドから須恵器椀(11)、灰釉陶器椀(12)、灰釉陶器壺(13)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器(10片、303g)、灰釉陶器（１片、17g)、羽釜（１片、32g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀第３四半期)に比定される。遺構番号の付与されなかった遺構より新しく、２号竪穴状遺構、８号竪穴状遺構、２号溝に先行する。

（５）６号竪穴建物（第３－５,46図、PL.３,25）

位置　X=48006～48009、Y=-74227～-74230、調査区東北端に位置する。

形状等　南辺と西辺が確認されたにとどまり、詳細は不明である。壁溝、カマド、貯蔵穴は確認されていない。遺構南辺沿いの床面から、微細な炭化物が多く残る一画が検出されている。

規模　(1.84)×(2.28)×(0.17)m

主軸方位（度）　N-93-E

埋没土　As-Cを含む暗褐色土に覆われる。

カマド　不明。

掘り方　なし。

重複　なし。

遺物　床面から灰釉陶器椀(14)、須恵器椀(15)、埋没土から須恵器椀(16)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器（７片、69g)、灰釉陶器（２片、14g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

（６）７号竪穴建物（第３－５,47図、PL.4）

位置　X=48003～48006、Y=-74227～-74230、調査区東端に位置する。

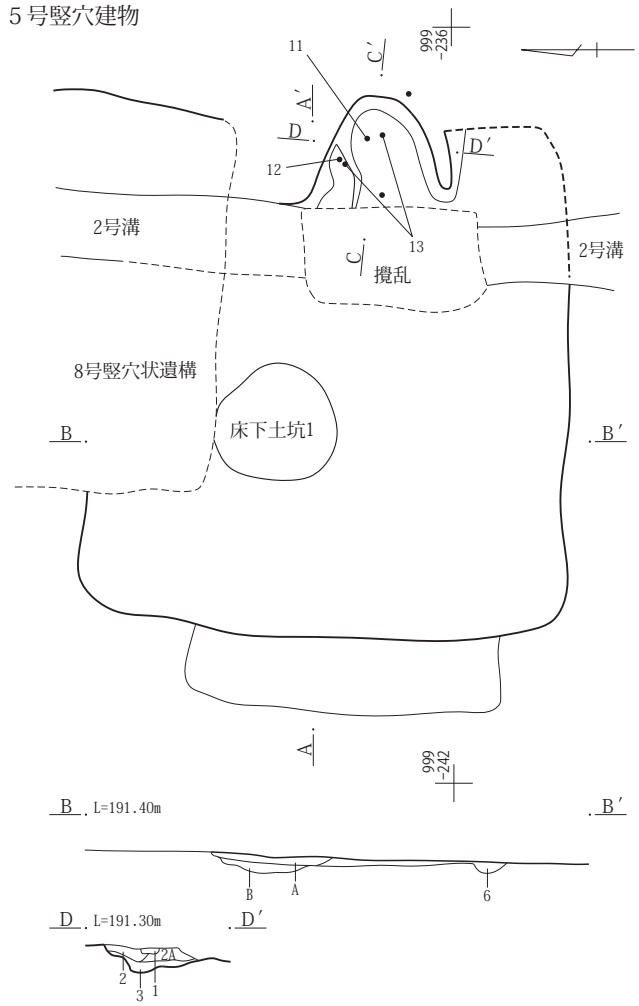
形状等　東辺が調査区外に至り未確認であるが、平面形は概ね方形を呈すると推察される。カマド、壁溝、貯蔵穴は確認されていない。遺構西辺寄りの南北に位置する３地点から焼土が確認されている。

規模　(2.09)×2.69×(0.16) m

主軸方位（度）　N-91-W

埋没土　As-C、炭化物、焼土粒子を含む黒褐色土に覆わ

５号竪穴建物

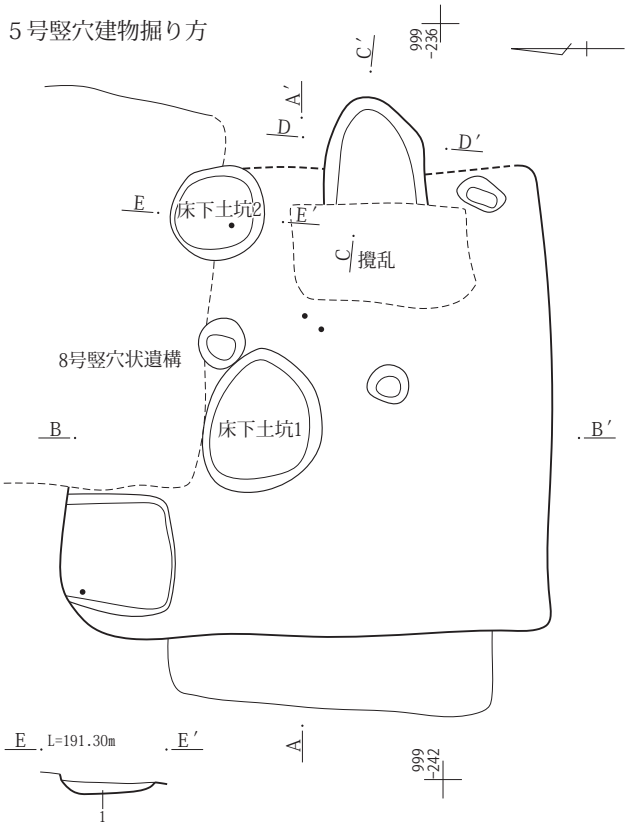


５号竪穴建物カマド
1　灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒子を含む灰褐色灰層。
2　にぶい黄橙色土(10YR7/2)灰を多く含み、小礫(φ５mm)焼土粒子まじりの層。
2A　灰及び焼土ブロックの混土層。
3　褐灰色土(10YR4/1)焼土粒、灰を少量含む。

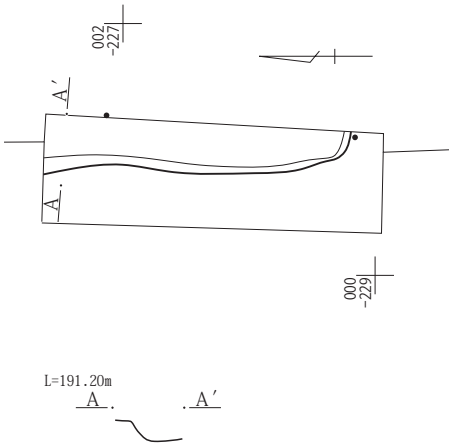
５号竪穴建物
1　黒褐色土(10YR3/2)焼土粒、炭化物粒、As-C（φ２mm）を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)１に近似するが、焼土粒の混入少ない。
3　１に近似するが焼土粒・炭化物粒少なく、焼土ブロックの混入が認められる。
4　３に鉄分の凝集が認められる層。
5　黒褐色土(10YR3/1)φ10～30mmの小礫を含む。
5′　５に灰黄褐色土ブロックが混入。
6　暗褐色土(10YR3/3)地山の土(φ30mm前後の円礫混入)。
A　灰黄褐色粘土。
B　暗褐色土(10YR3/3)φ５mm前後の小礫を含む。

床下土坑２
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～７mmのAs-Cを含む。

５号竪穴建物掘り方



４号竪穴建物



0　1：60　2m

第３-４図　４号竪穴建物、５号竪穴建物

れる。

カマド　確認されていない。

掘り方　なし。

重複　なし。

遺物　床面から土師器甕(17)、羽釜(18)、床下から須恵器甕(19)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(31片、181g)、須恵器(16片、92g)、灰釉陶器(２片、６g)、羽釜(２片、55g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

(７)８号竪穴建物(第３-６,７,47～49図、PL.４,５,25,26)

位置　X=48014～48019、Y=-74337～-74342、調査区北西端に位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈し、カマドは東辺の南端近くに位置する。壁溝は全周せず、貯蔵穴はカマド脇の南東隅に位置する。

規模　4.12×3.79×0.60m、12.66㎡

主軸方位(度)　N-92-E

埋没土　軽石をほぼ含まない黒褐色土に覆われるが、北辺沿いは微量のAs-Cと小礫を含む黒褐色土に覆われる。

カマド　東辺東南隅近くに位置し、1.24×0.88m、主軸方位(度)N-104-Eを測る。焼土面は確認されていないが、灰層とカマドを構成したと思われる石材と羽釜片が多数残存する。またカマド北壁と建物東壁とが交差する地点から、半ばほどまで垂直に埋め込まれたブロック状の土製品が検出されている。

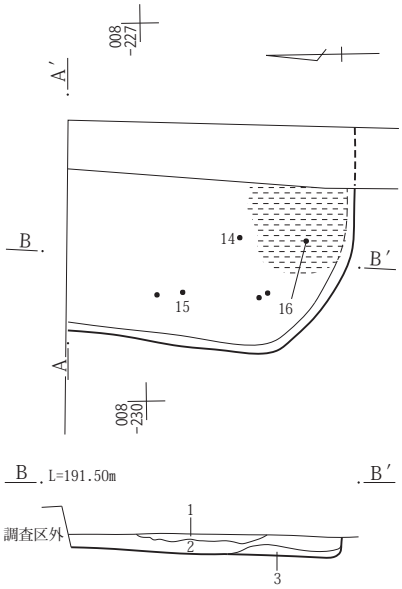
掘り方　φ30～80㎜の円礫を含む黒褐色の地山の土により床面が築かれている。また遺構中央部に灰黄褐色の粘土に覆われた床下土坑１基が存在する。

重複　なし。

遺物　床面から須恵器椀(20,21)、椀形鍛治滓(22,23)など、カマドから須恵器椀(24,25)、羽釜(26～35)、ブロック状の土製品(36)、埋没土から灰釉陶器皿(38)、灰釉陶器椀(39,40)、羽釜(37,41)、羽口(42)、鉄滓(43)が出土しているほか、図化に至らなかったが、土師器(２片、32g)、須恵器(22片、171g)、灰釉陶器(３片、45g)、羽釜(119片、2818g)が出土している。

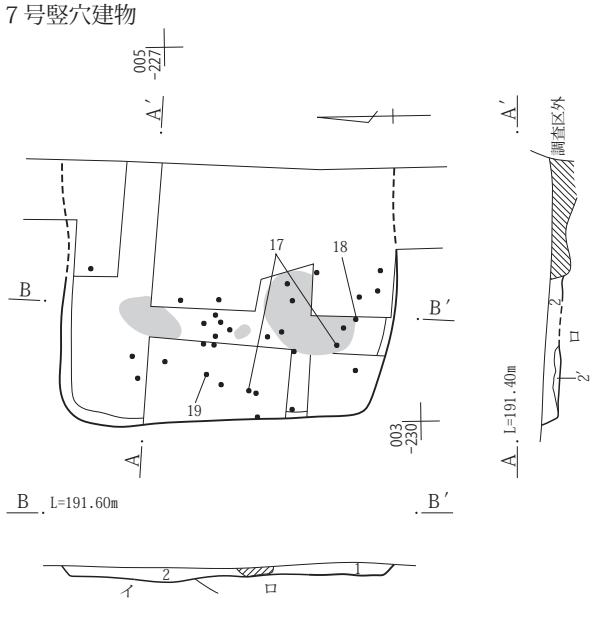
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀第１四半期)に比定される。

６号竪穴建物



６号竪穴建物
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～４㎜のAs-C含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)１よりAs-Cが少ない。
3　２に炭化物が多く混入したもの。

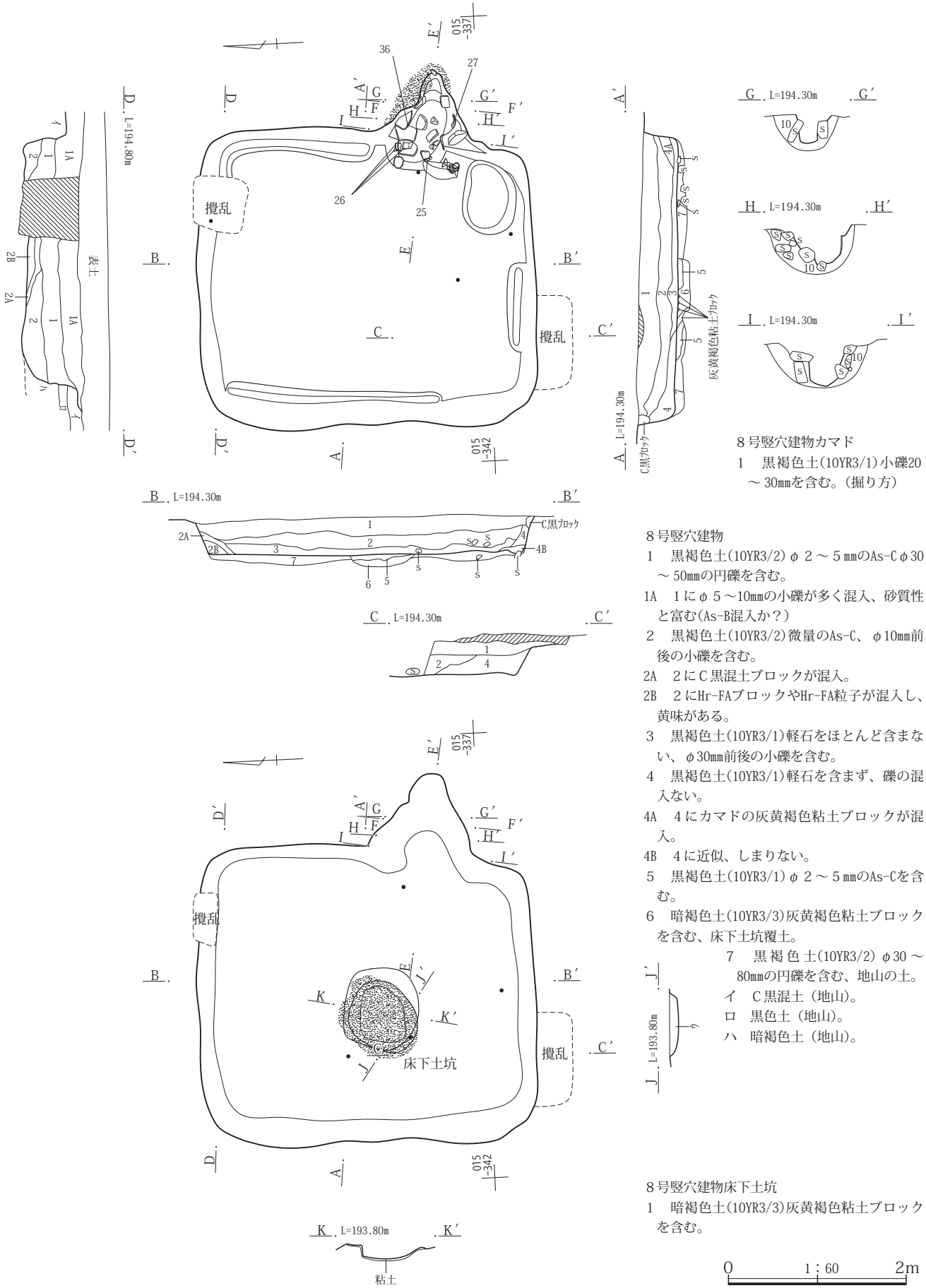
７号竪穴建物



７号竪穴建物
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～10㎜のAs-C、炭化物、焼土粒子を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)１に近似。
2′　２に近似、わずかに１より黒味が強い。
イ　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
ロ　黒褐色土(10YR3/2)軽石なし。

0　1：60　2m

第３-５図　６号竪穴建物、７号竪穴建物



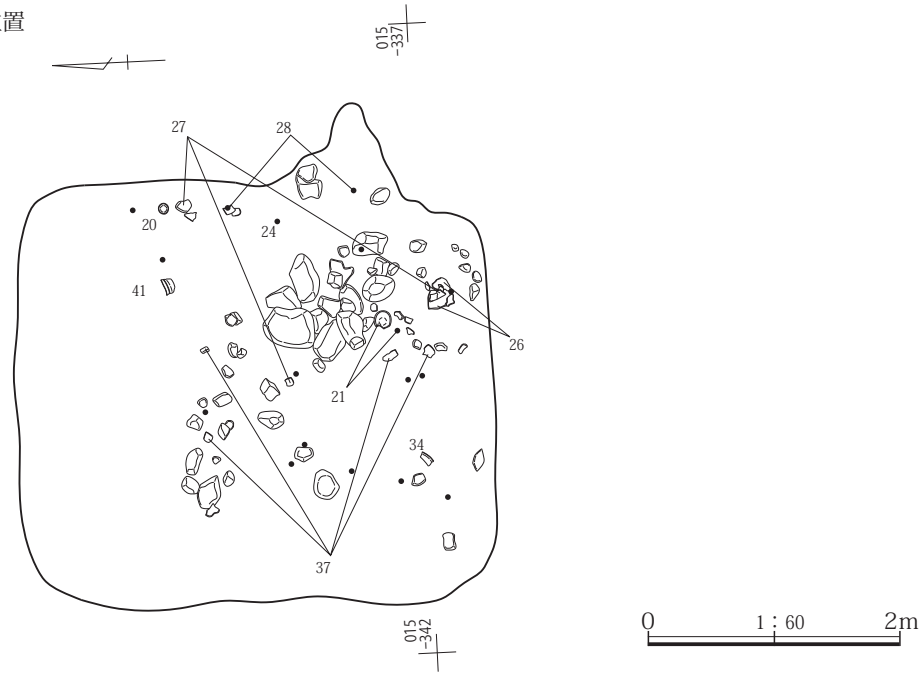
８号竪穴建物カマド
1　黒褐色土(10YR3/1)小礫20～30mmを含む。(掘り方)

８号竪穴建物
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５mmのAs-Cφ30～50mmの円礫を含む。
1A　１にφ５～10mmの小礫が多く混入、砂質性と富む(As-B混入か？)
2　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ10mm前後の小礫を含む。
2A　２にＣ黒混土ブロックが混入。
2B　２にHr-FAブロックやHr-FA粒子が混入し、黄味がある。
3　黒褐色土(10YR3/1)軽石をほとんど含まない、φ30mm前後の小礫を含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)軽石を含まず、礫の混入ない。
4A　４にカマドの灰黄褐色粘土ブロックが混入。
4B　４に近似、しまりない。
5　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５mmのAs-Cを含む。
6　暗褐色土(10YR3/3)灰黄褐色粘土ブロックを含む、床下土坑覆土。
7　黒褐色土(10YR3/2)φ30～80mmの円礫を含む、地山の土。
イ　Ｃ黒混土（地山)。
ロ　黒色土（地山)。
ハ　暗褐色土（地山)。

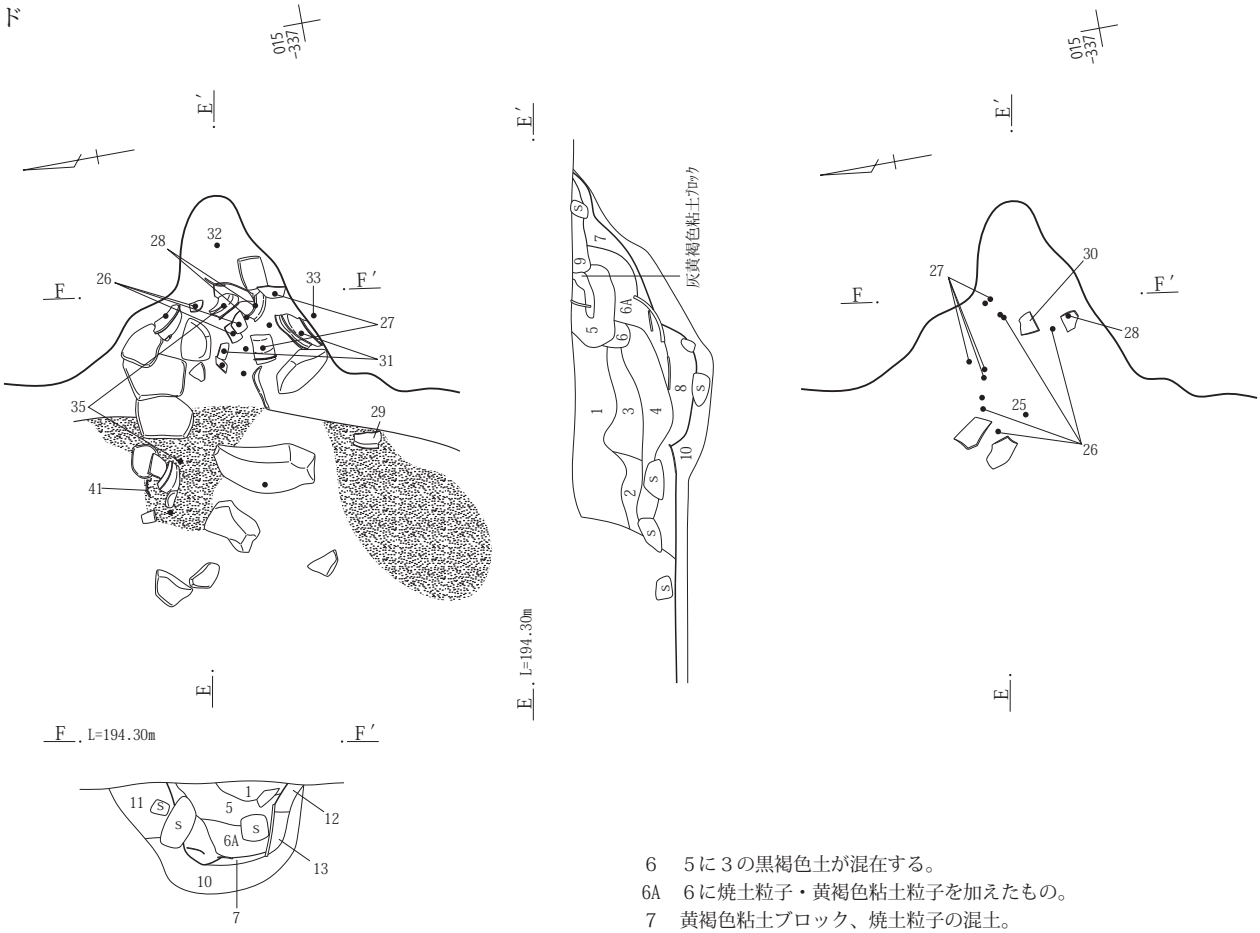
８号竪穴建物床下土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)灰黄褐色粘土ブロックを含む。

第３-６図　８号竪穴建物１

遺物出土位置



カマド



８号竪穴建物カマド

1　黒褐色土(10YR3/3)φ２～５㎜のAs-C、φ10㎜の小礫を含む。下部に灰黄褐色粘土ブロックあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)軽石なく粘土粒子の混入多い。
3　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ10㎜の小礫混入。
4　黒褐色土(10YR3/2)軽石、小礫なし。下部面に焼土粒子を含む。
5　にぶい黄橙色土(10YR6/4)にぶい黄橙色の粘土ブロック主体。
6　５に３の黒褐色土が混在する。
6A　６に焼土粒子・黄褐色粘土粒子を加えたもの。
7　黄褐色粘土ブロック、焼土粒子の混土。
8　黒褐色土(10YR3/1)黒色灰、灰色粒子を多く含む灰層。
9　暗褐色土(10YR3/3)φ５㎜のAs-C、焼土粒・炭化物粒子を含む。
10　黒褐色土(10YR3/1)小礫20～30㎜を含む。(掘り方)
11　暗褐色土(10YR3/2)φ５㎜のAs-Cを含む。(掘り方)
12　黄橙粘土ブロック。
13　黒色土(10YR2/2)黒色灰を主体とする、しまりない。

0　1：30　1m

第３-７図　８号竪穴建物２

２　掘立柱建物

本調査区からは南北棟２棟、東西棟２棟の都合４棟の掘立柱建物が確認されている。いずれも調査区中央東寄りの南辺沿いの一画から検出されている。このうち帰属時期を確認できた２棟はいずれも中世以降の遺構である。なお後述のピット列として掲載する遺構の中に、調査時点において掘立柱建物を構成する可能性が指摘されている遺構も含まれており、後掲（３章１節２項４）する。

（１）１号掘立柱建物（第３－８図,PL.１）

位置　X=47999～48003、Y=-74266～-74273、調査区中央東寄りに位置する。

形状等　ピット６基が検出されている。

規模　桁行5.36m、梁行2.16m。

桁行方位（度）　N-80-W

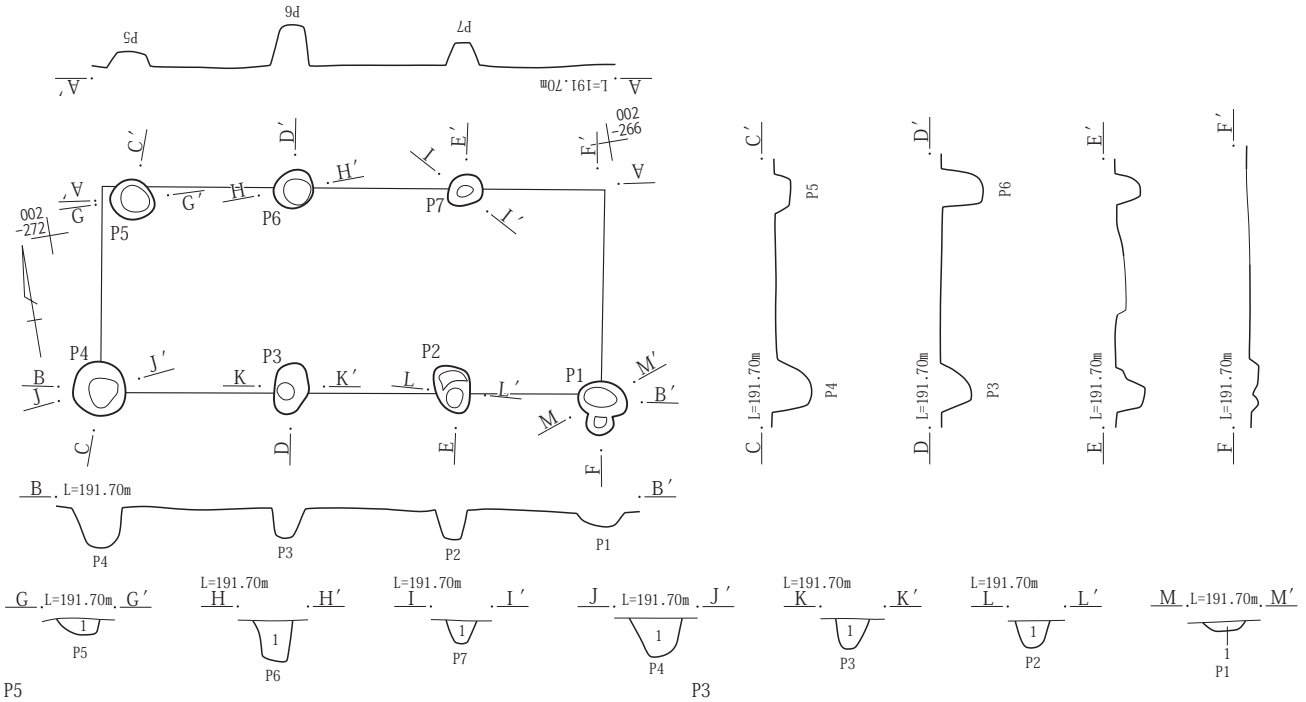
本体構造　桁行柱間平均1.75m、梁行柱間平均2.13m、東西棟１間×３間の掘立柱建物が確認された。

第３－１表　１号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
梁行柱間	P5 — 1.73 —	P6 —	1.79 —	P7 —	—	—	
	2.08	2.11		2.20			
	P4 — 1.94 —	P3 —	1.76 —	P2 —	1.54 —	P1	5.27
梁間	2.08	2.11		2.20			

第３－２表　１号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	X=47999 Y=-74266	X=74999 Y=-74267 ～-74268	X=47999 ～48000 Y=-74269	X=48000 Y=-74271 ～-74272	X=48002 Y=-74270 ～-74271	X=48001 ～48002 Y=-74269	X=48001 Y=-74267
規模（m）　長	0.58	0.56	0.55	0.60	0.49	0.45	0.40
短	0.51	0.40	0.35	0.57	0.42	0.38	0.33
深	0.11	0.28	0.29	0.46	0.16	0.43	0.26
平面形状	双円形	長円形	長円形	略円形	偏円形	偏円形	偏円形
主軸方位　（度）	N-12-E	N-22-W	N-28-E	N-28-W	N-69-W	N-53-E	N-64-E
旧名称	126号ピット	104号ピット	110号ピット	153号ピット	118号ピット	113号ピット	135号ピット



P5
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。礫が混入している。
P6
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含み１cm程の礫が少量混入。
P7
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。下部で礫層の礫が混入。
P3
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと炭化物を含む。
P2
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土がブロック状に混入、３cm程の礫も入る。
P1,4
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

第３－８図　１号掘立柱建物

埋没土　ピットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

備考　調査時の名称は、P1：126号ピット、P2：104号ピット、P3：110号ピット、P4：153号ピット、P5：118号ピット、P6：113号ピット、P7：135号ピット。

（２）２号掘立柱建物（第３－９,49図、PL.１,26）

位置　X=47996～48003、Y=-74257～-74264、調査区中央東寄りに位置する。

形状等　ピット10基が検出されている。

規模　桁行5.65m、梁行4.23m。

桁行方位（度）　N-14-E

本体構造　桁行柱間平均1.89m、梁行柱間平均2.03m、南北棟２間×３間の掘立柱建物が確認された。

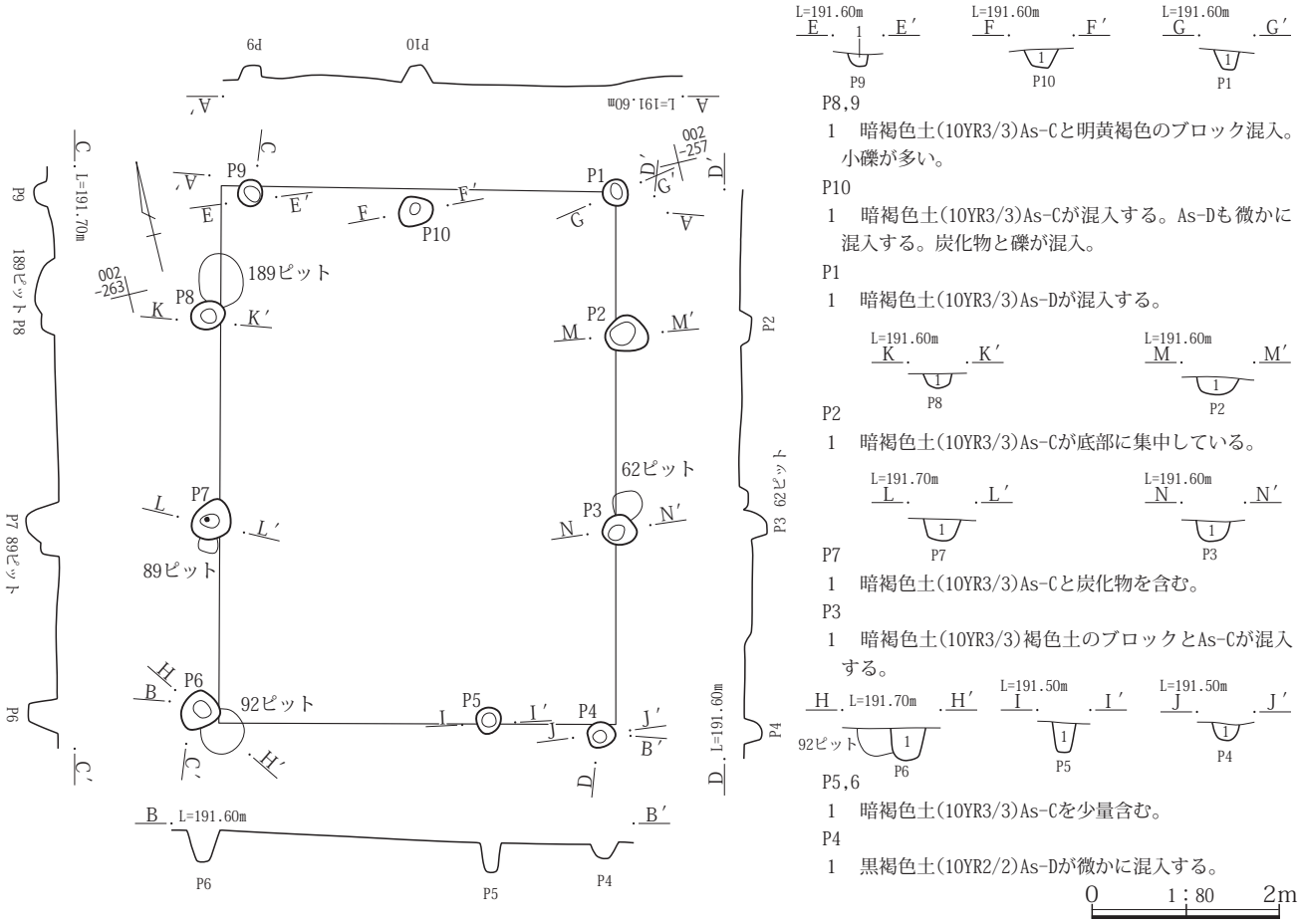
埋没土　ピットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

第３－３表　２号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間				桁行柱間				桁行柱間					桁行
	P6	—	2.00	—	P7	—	2.18	—	P8	—	1.40	—	P9	5.51
梁行柱間	3.05				4.31				4.42				1.74	
	P5												P10	5.50
梁行柱間	1.20												2.14	
	P4	—	2.16	—	P3	—	2.11	—	P2	—	1.51	—	P1	5.77
梁間	4.24				4.31				4.42				3.86	

第３－４表　２号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	X=48001 Y=-74257	X=48000 Y=-74257 ～-74258	X=47998 Y=-74258	X=47996 Y=-74259	X=47996 Y=-74260	X=47997 Y=-74263	X=47999 Y=-74262	X=48001 Y=-74262	X=48002 Y=-74261	X=48002 Y=-74259
規模（m）長	0.29	0.46	0.35	0.30	0.28	0.42	0.46	0.37	0.28	0.38
短	0.28	0.38	0.32	0.28	0.27	0.36	0.39	0.30	0.27	0.32
深	0.21	0.15	0.21	0.19	0.32	0.33	0.22	0.17	0.15	0.19
平面形状	偏円形	隅丸三角形	偏円形	偏円形	略円形	偏円形	偏円形	長円形	略円形	不整形
主軸方位（度）	N-22-W	N-78-W	N-65-W	N-78-W	N-21-E	N-57-E	N-34-E	N-88-E	N-２-W	N-79-E
旧名称	191P	57P	38P	65P	88P	93P	90P	179P	178P	177P



第３－９図　２号掘立柱建物

重複　62号ピット、89号ピット、92号ピット、189号ピット。

遺物　P7の底面近くから鉄釘(44)が出土している。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。重複する４基のピットは本遺構の改修に関わる可能性がある。

備考　調査時の名称は、P1：191号ピット、P2：57号ピット、P3：38号ピット、P4：65号ピット、P5：88号ピット、P6：93号ピット、P7：90号ピット、P8：179号ピット、P9：号178ピット、P10：177号ピット。

第３－５表　３号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行
	P8 — 2.00 —	— —	—	—	
梁行柱間	1.46				
	P7			P1	
梁行柱間	1.64			1.75	
	P6 — 1.72 —	P5 — 2.24 —	P4 — 1.69	P3 1.31 — P2	6.82
梁間	3.09				

（３）３号掘立柱建物

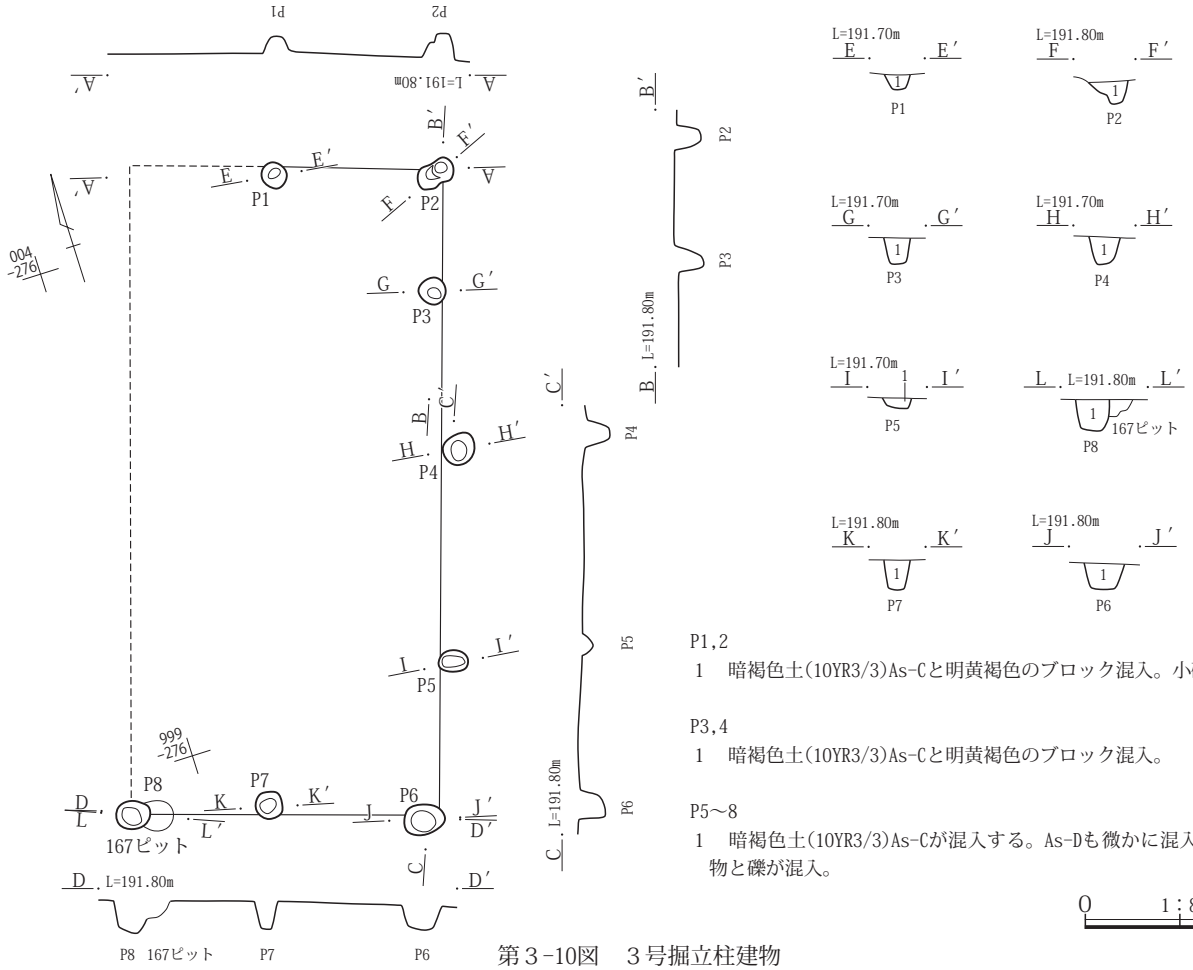
（第３-10図、PL．１）

位　置　X=47997～48005、Y=-74271～-74277、調査区中央東寄りに位置する。

形状等　コの字状に並ぶ８基のピットが確認されている。

第３－６表　３号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	X=48004 Y=-74273	X=48003 Y=-74271	X=48002 Y=-74271 ～-74272	X=48000 Y=-74272	X=47998 Y=-74272 ～-74273	X=47997 Y=-74273 ～-74274	X=47997 ～47998 Y=-74275	X=47998 Y=-74276
規模（m）長	0.29	0.41	0.30	0.37	0.32	0.44	0.30	0.37
短	0.26	0.26	0.29	0.31	0.23	0.32	0.30	0.29
深	0.17	0.28	0.28	0.28	0.10	0.29	0.29	0.36
平面形状	偏円形	双円形	略円形	偏円形	長円形	偏円形	略円形	長円形
主軸方位（度）	N-1-W	N-72-E	N-66-W	N-51-E	N-76-W	N-77-W	N-25-W	N-84-E
旧名称	144号ピット	140号ピット	148号ピット	151号ピット	161号ピット	163号ピット	165号ピット	168号ピット



P1,2
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。小礫が多い。

P3,4
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

P5～8
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

第３-10図　３号掘立柱建物

規模　桁行6.86m、梁行3.30m、南北棟２間×４間の掘立柱建物。

桁行方位(度)　N-18-E

本体構造　桁行柱間平均1.74m、梁行柱間平均1.62m

埋没土　ピットの埋没土は、As-Cの混入する暗褐色土。

重複　167号ピット。

遺物　図化には至らなかったが､P6から中世在地系皿(１点、６g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。167号ピットはP8に関連して設けられたと推測される。本遺構が立地する旧地形は西高東低の傾斜地であり、また下位には平安時代の遺構が存在することもあって、P1とP8を結ぶ区間に存在したピットが検出されなかったと仮定したが、西に開いたコの字状のピット列の可能性も残る。

備考　調査時の名称は、３号ピット列と４号ピット列。P1：144号ピット、P2：140号ピット、P3：148号ピット、P4：151号ピット、P5：161号ピット、P6：163号ピット、P7：165号ピット、P8：168号ピット。

（４）５号掘立柱建物(第３-11図、PL.１)

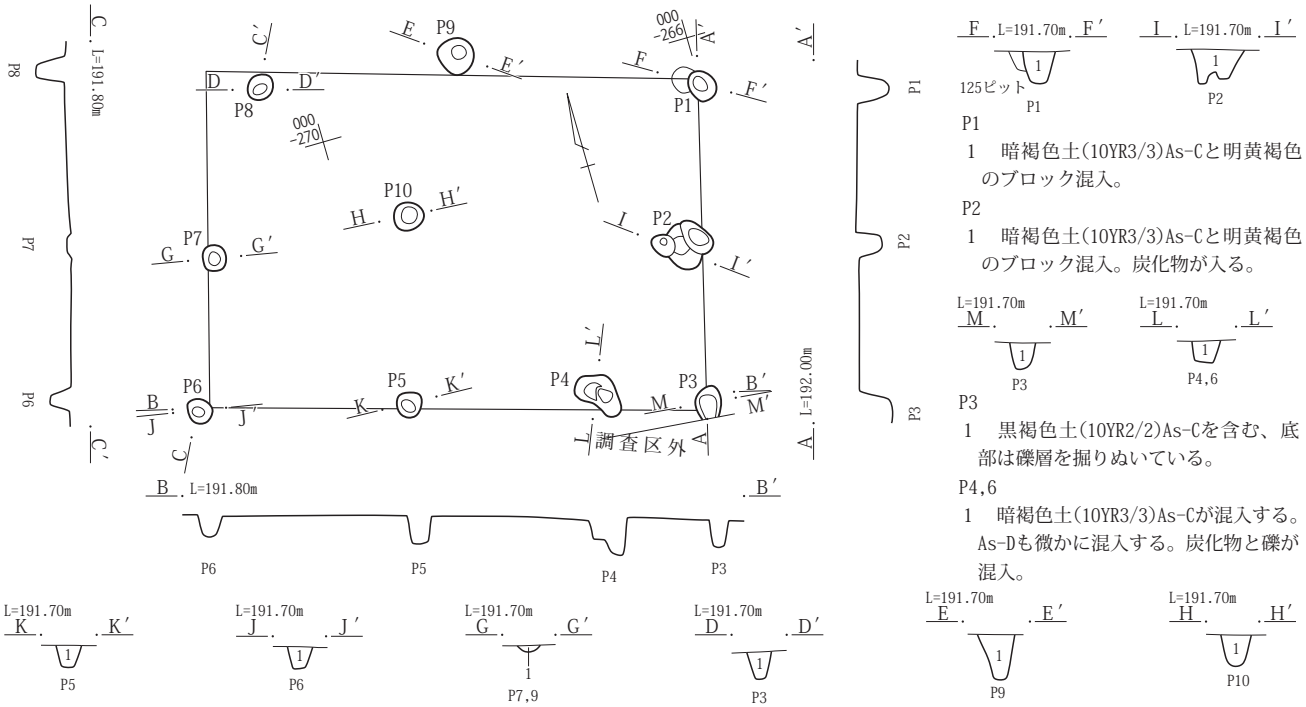
位置　X=47996～48002、Y=-74265～-74273、調査区中

第３-７表　5号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P8 —	2.12 —	P9 —			— P1	4.67
梁行柱間	1.85		1.78			1.61	
	P7	2.11	P10			P2	5.12
梁行柱間	1.63		2.01			1.76	
	P6 —	2.21 —	P5 —	2.07 —	P4 — 1.10 —	P3	5.40
梁間	3.47		3.75			3.38	

第３-８表　５号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	X=47999 Y=-74265 ～-74266	X=47997 ～47998 Y=-74266	X=47996 Y=-74266	X=47996 Y=-74267 ～-74268	X=47996 Y=-74269 ～-74270	X=47997 Y=-74271 -74272	X=47999 Y=-74271	X=48000 Y=-74270	X=48000 Y=-74268	X=47998 Y=-74269
規模（m）長	0.33	0.67	(0.35)	0.56	0.29	0.28	0.27	0.30	0.40	0.33
短	0.27	0.52	0.27	0.32	0.28	0.25	0.24	0.26	0.39	0.30
深	0.34	0.35	0.27	0.40	0.23	0.23	0.06	0.3	0.46	0.08
平面形状	長円形	不整形	長円形	不整形	偏円形	偏円形	隅丸方形	長円形	偏円形	偏円形
主軸方位（度）	N-30-W	N-75-W	N-14-E	N-41-W	N-58-E	N-44-W	N-12-E	N-56-E	N-22-W	N-80-E
旧名称	124P	129P	98P	171P	102P	160P	156P	150P	133P	109P



P1
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

P2
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。炭化物が入る。

P3
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む、底部は礫層を掘りぬいている。

P4,6
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

P5
1　暗褐色土(10YR3/3)As-C軽石を少量含む。

P7,9
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。

P8
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。小礫が多い。

P10
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

第３-11図　５号掘立柱建物

央東寄りに位置する。

形状等　ピット10基が検出されている。

規模　桁行5.24m、梁行3.52m。

桁行方位(度)　N-72-W

本体構造　桁行柱間平均1.92m、梁行柱間平均1.77m、東西棟２間×３間の掘立柱建物が確認された。

埋没土　ピットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

重複　125号ピット。

遺物　図化には至らなかったが、P4から中世在地系内耳鍋(１点12g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。桁行方向の柱間を比較すると、２m台２間と１m台１間に区分される。本遺構は２間×２間の本体部(身舎)の東辺を１間拡張(下屋)して２間×３間としたものと推察される。

備考　調査時の名称は、５号ピット列Bと10号ピット列。P1：124号ピット、P2：129号ピット、P3：98号ピット、P4：171号ピット、P5：102号ピット、P6：160号ピット、P7：156号ピット、P8：150号ピット、P9：133号ピット、P10：109号ピット。

３　竪穴状遺構

本調査区からは10基の竪穴状遺構が検出されているが、いずれも調査区東半からの検出であり、西半からは出土していない。なお、平面方形の遺構本体の一辺に突出部を有する遺構が２基検出されている。遺構の多くは平安時代の遺構と思われるが、中世に帰属する遺構が２基含まれている。

(１)１号竪穴状遺構(第３-12図、PL.５)

位置　X=47996～48000、Y=-74244～-74249、調査区東部に位置する。

形状等　平面形は隅丸長方形を呈する。

規模　3.89×2.25×(0.18)m、8.24㎡

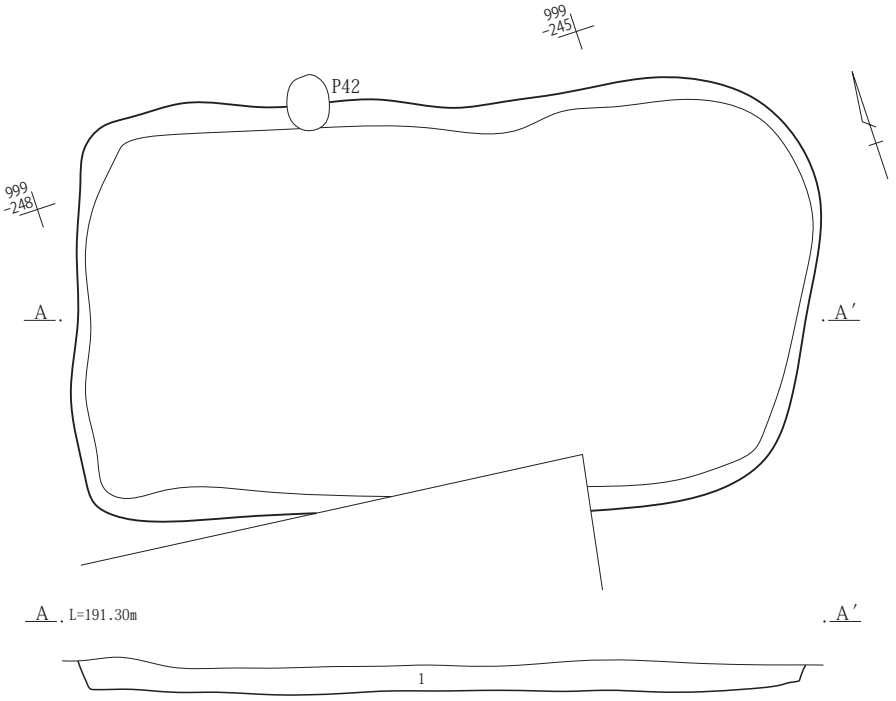
主軸方位(度)　N-70-W

埋没土　As-C、小礫、褐色土ブロックを含む黒褐色土。

掘り方　なし。

重複　上位に42号ピットが位置する。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(２片、３g)、須恵器(１片、10g)、灰釉陶器(１片、４g)が出土している。



１号竪穴状遺構
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～４㎜のAs-Cを少量含み、小礫(φ10㎜)、φ20㎜の褐色土ブロックを含む。砂質性あり。
φ20㎜の褐色土ブロック含む。

0　1：40　1m

第３-12図　１号竪穴状遺構

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。42号ピットに先行する。

（２）２号竪穴状遺構(第３-13,49図、PL.５,26)

位置　X=47996～48000、Y=-74234～-74238、調査区東部に位置する。

形状等　西辺が２号溝と重複するため、３辺が確認されたにとどまるが、平面形は平行四辺形を呈すると推測される。

規模　(2.77)×2.60×(0.19)m、(6.54)㎡

主軸方位(度)　N-80-W

埋没土　As-Cを含む砂質土。

掘り方　φ10～20㎜の円礫を含む、灰黄褐色の地山の土により床面が築かれている。

重複　上位に２号溝、下位に５号竪穴建物が位置する。

遺物　埋没土から灰釉陶器皿(45)、羽釜(46)、治平元寶(47)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(34片、106g)、須恵器(16片、233g)、灰釉陶器(１片、11g)、羽釜(１片、64g)、黒色土器(１片、７g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。出土した羽釜は５号竪穴建物から検出された遺物と接合関係にあり、灰釉皿と羽釜については５号竪穴建物の遺物である可能性がある。２号溝に先行し、５号竪穴建物より新しい。

（３）３号竪穴状遺構(第３-14,50図、PL.５,６,26)

位置　X=48005～48010、Y=-74249～-74253、調査区東部北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸長方形を呈し、壁に沿い溝が全周する。南東隅を除く角地３か所にピットが存在する。

規模　3.65×2.63×(0.22)m、8.80㎡

主軸方位(度)　N-15-E

埋没土　As-C、小礫の混入した、砂質性のある黒褐色土。崩落土と思われる最下層の埋没土の上面など３地点から焼土が検出されている。また南辺寄りの最下層の埋没土の上面から灰黄褐色粘土の堆積が検出されている。

掘り方　かたい黄褐色土がブロック状に混入した、にぶい黄褐色土により床面が築かれている。遺構南半から床下土坑１基と掘り込み２か所が確認されている。

重複　下位に６号竪穴状遺構と９号竪穴状遺構が位置する。

遺物　床面から須恵器椀(48)、埋没土から須恵器椀(49)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(55片、504g)、須恵器(19片、236g)、灰釉陶器(３片、22g)、羽釜(３片、86g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。６号竪穴状遺構、９号竪穴状遺構よりも新しい。

（４）４号竪穴状遺構(第３-15,50図、PL.６)

位置　X=48009～48012、Y=-74261～74266、調査区中央東寄りの北辺に位置する。

形状等　北半が調査区外に及ぶため全体は不明であるが、平面形は凸字状を呈すると推測される。遺構の立地する地点の旧地形は西側が高く東側が低い傾斜地となっているため、西側の方が深く掘り込まれている。

規模　(4.15)×(2.34)×1.35m

主軸方位(度)　N-108-E

埋没土　As-Cを含まない暗褐色土。

掘り方　なし。

重複　５号溝。

遺物　埋没土から須恵器椀(50)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(５片、10g)、須恵器(11片、51g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。５号溝より新しい。

備考　本遺構より一回り小振りであるが、吉岡町教育委員会により平成16年に実施された隣接地での発掘調査で、類似の遺構(８号土坑)が検出され、中世の地下式土坑として報告されている。

（５）５号竪穴状遺構(第３-16,50図、PL.６,26)

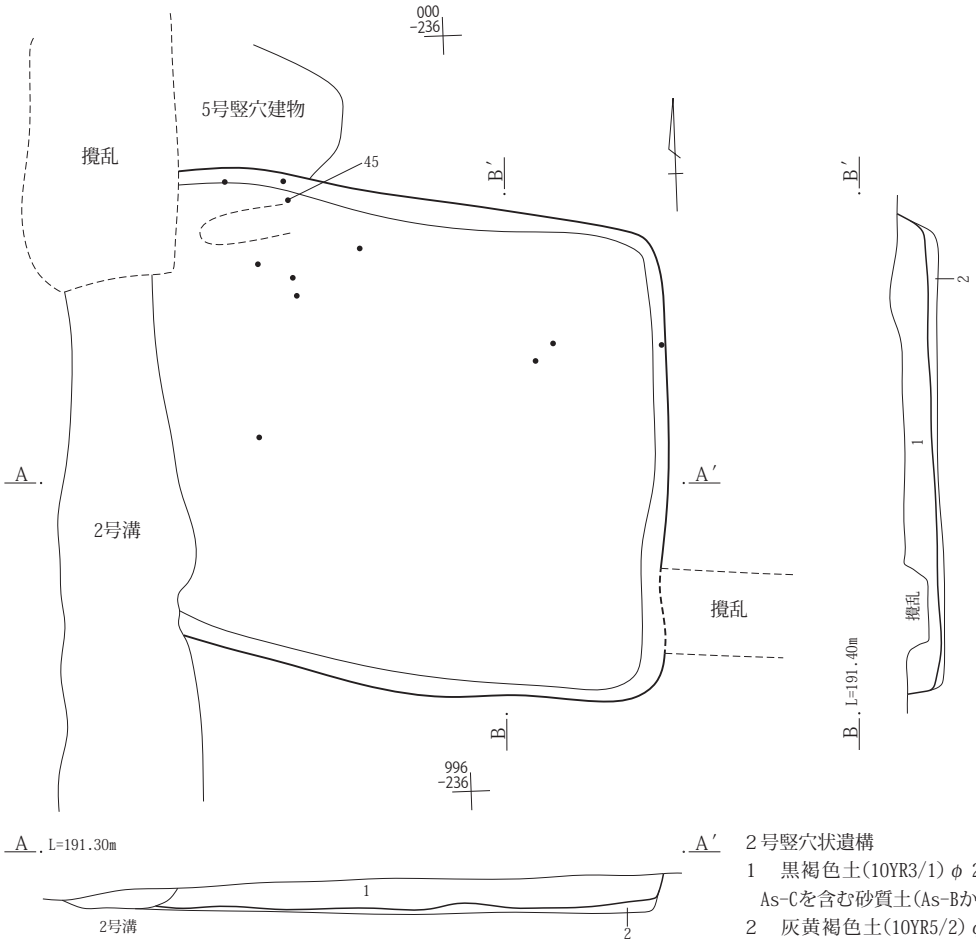
位置　X=47999～48002、Y=-74232～-74237、調査区東部に位置する。

形状等　平面形は概ね隅丸長方形を呈する。北辺中央東寄りの地点から焼土が検出されている。

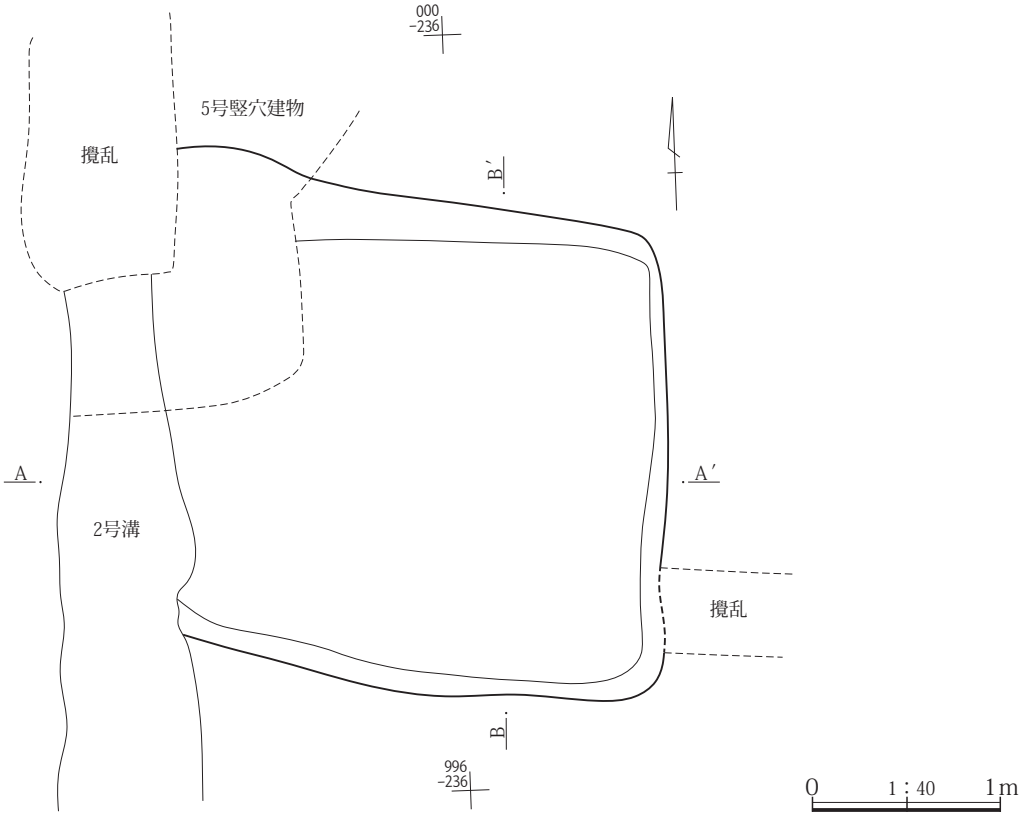
規模　3.32×2.25m×(0.28)、6.76㎡

主軸方位(度)　N-82-W

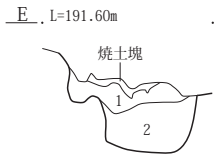
埋没土　軽石をほとんど含まず、小礫を含む暗褐色土に



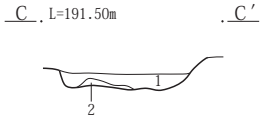
２号竪穴状遺構
1　黒褐色土(10YR3/1) φ ２mmの As-Cを含む砂質土(As-Bか？)
2　灰黄褐色土(10YR5/2) φ10～20mmの円礫を含む、地山の土。



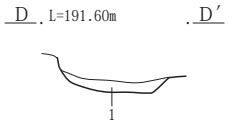
第３-13図　２号竪穴状遺構



３号竪穴状遺構P3
1　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Cを含む。
2　灰黄褐色土(10YR3/2)地山の灰黄褐色土の土。



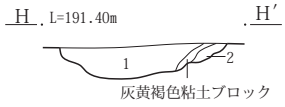
３号竪穴状遺構P1
1　黒褐色土(10YR3/1) As-C、炭化物を少量含む。
2　灰黄褐色土、地山ブロック。



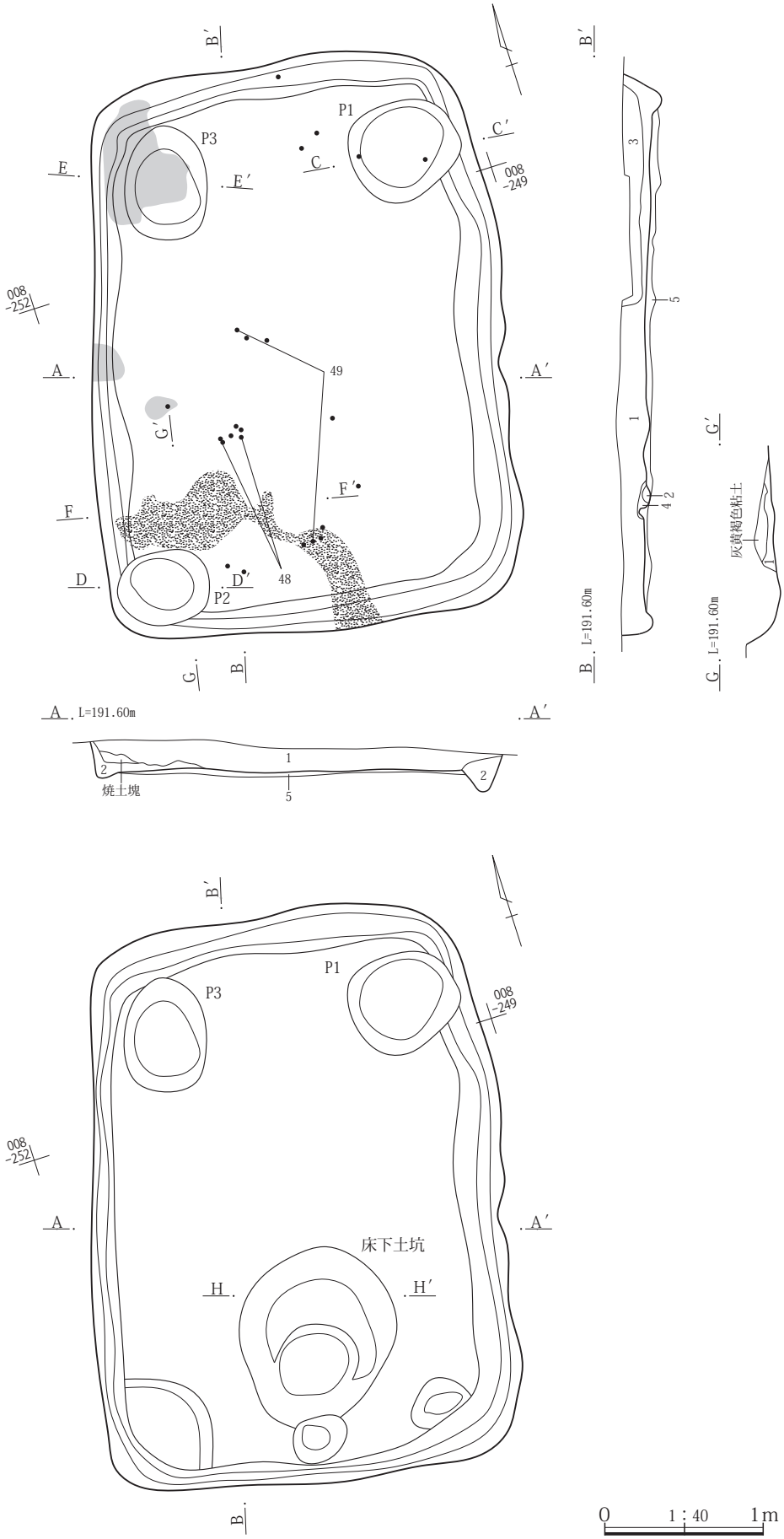
３号竪穴状遺構P2
1　黒褐色土(10YR3/1)小礫φ20mm少量含む。

３号竪穴状遺構粘土範囲
1　黒褐色土(10YR3/1)φ４mmのAs-Cを含む。

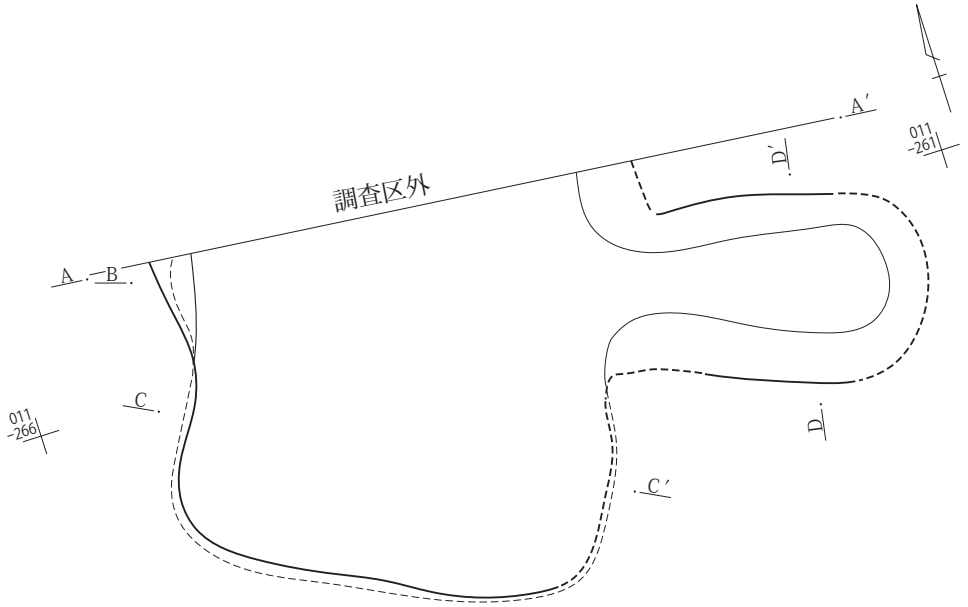
３号竪穴状遺構
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５mmのAs-C、小礫(φ20mm)少量混入。砂質性あり。
2　灰黄褐色土(10YR3/2)地山の灰黄褐色土の土。
3　黒褐色土(10YR3/1) As-Cの混入少ない砂質土。攪乱か？
4　灰黄褐色土(10YR6/2)粘質土、床面付近まで及ぶ。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック状にかたい黄褐色土が混入。

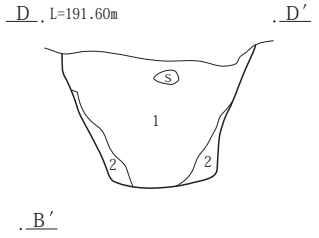


３号竪穴状遺構床下土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)ブロック状にかたい黄褐色土が混入。灰黄褐色砂質ブロック(φ10mm)を含む。
2　灰黄褐色土(地山)の土。

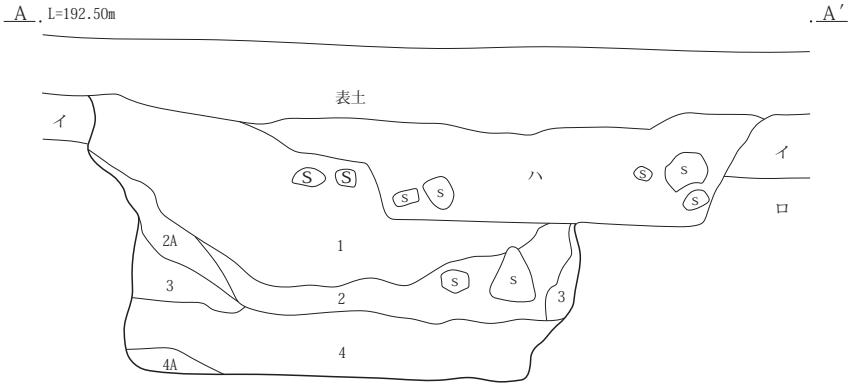


第３-14図　３号竪穴状遺構

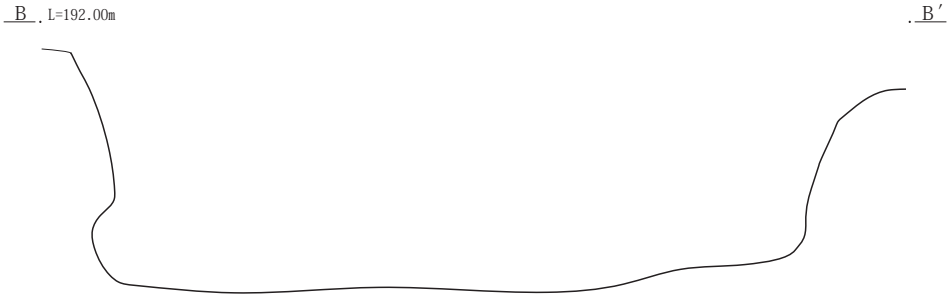


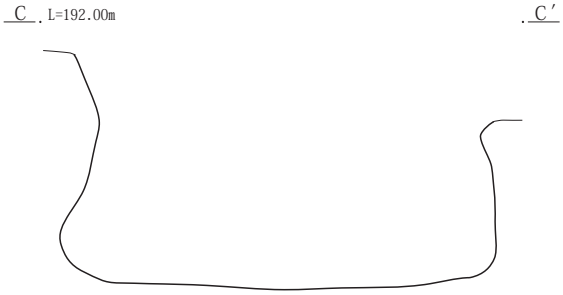


４号竪穴状遺構出入り口部
1　暗褐色土(10YR3/3)φ20～10㎜の円礫を含む。砂質性あり。
2　1にロームブロックが混入、礫はない。



４号竪穴状遺構
1　暗褐色土(10YR3/3)φ２～５㎜のAs-C、φ５～７㎜の小礫を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ５～７㎜の小礫を含む。
2A　２に黄褐色土粒が混入した層。
3　黄褐色ロームブロックを主体とし、暗褐色土が混入。
4　暗褐色土(10YR3/3) As-Cを含まず、少量の小礫(φ５㎜)前後が認められる。
4A　４に黄褐色土ブロック(φ20～30㎜)が混入。
イ　C黒混土（地山）
ロ　黒色土（地山）
ハ　土地改良直前の昭和の攪乱。





0　1：40　1m

第３-15図　４号竪穴状遺構

一面覆われている。

掘り方　円礫を含むにぶい黄褐色の地山の土と小円礫を含み砂質性のある褐灰色土により床面が築かれている。

重複　なし。

遺物　埋没土から龍泉窯系磁器碗(51～53)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(10片、65g)、須恵器(３片、15g)、灰釉陶器(３片、22g)、中世国産焼締陶器(２点、130g)、近世国産磁器(２点、５g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(６)６号竪穴状遺構(第３-17図、PL.６)

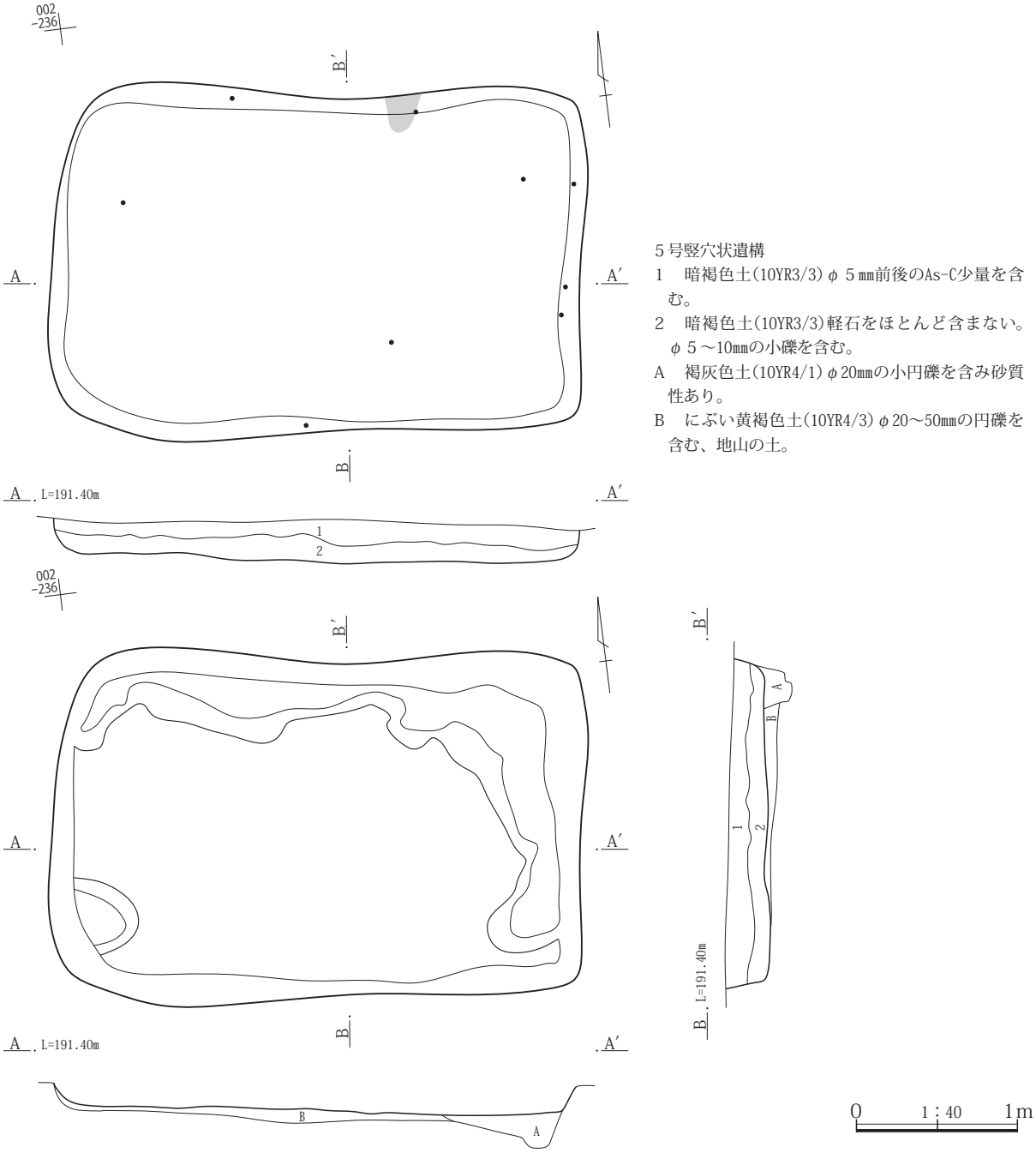
位置　X=48008～480011、Y=-74247～-74251、調査区東部の北辺に位置する。

形状等　北辺が調査区外に及び不明であるが、平面形は概ね隅丸方形を呈すると推察される。

規模　2.51×(2.00)×(0.55)m、(3.92)㎡

主軸方位(度)　N-65-W

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質性の暗褐色土に黄褐色土が混入した、にぶい黄褐色土の上に少量のAs-Cを含む暗褐色土が堆積している。



５号竪穴状遺構
1　暗褐色土(10YR3/3)φ５mm前後のAs-C少量を含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)軽石をほとんど含まない。φ５～10mmの小礫を含む。
A　褐灰色土(10YR4/1)φ20mmの小円礫を含み砂質性あり。
B　にぶい黄褐色土(10YR4/3)φ20～50mmの円礫を含む、地山の土。

第３-16図　５号竪穴状遺構

掘り方　なし。

重複　上位に３号竪穴建物、下位に９号竪穴建物が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、須恵器(10片、60g)、灰釉陶器(１片、13g)、羽釜(２片、27g)のほか中世国産焼締陶器(１点、175g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(７)７号竪穴状遺構(第３-18,50図、PL.７,26)

位置　X=48003～48006、Y=-74229～-74232、調査区東端に位置する。

形状等　南辺と西辺が確認されたのみであり、詳細は不明である。

規模　(2.41)×(1.60)×(0.24)m

主軸方位(度)　N-３-W

埋没土　As-Cを含み、少量の炭化物が混入する黒褐色土に覆われる。

掘り方　なし。

重複　７号竪穴建物の下位に位置する。

遺物　床面から土師器杯(54)、須恵器杯(55)、須恵器椀(56)、床下から須恵器杯(57)、須恵器椀(58)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(49片、322g)、須恵器(15片、137g)、灰釉陶器(３片、18g)、羽釜(13片、205g)、釘状の不明鉄製品(１点、２g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(９世紀後半)に比定される。７号竪穴建物に先行する。

(８)８号竪穴状遺構(第３-19,50図、PL.７)

位置　X=48000～48003、Y=-74236～-74240、調査区東部に位置する。

形状等　南辺が確認されていないが、平面形は概ね長方形を呈すると推測される。

規模　3.33×(1.90)×(0.19)m、(6.33)㎡

主軸方位(度)　N-84-W

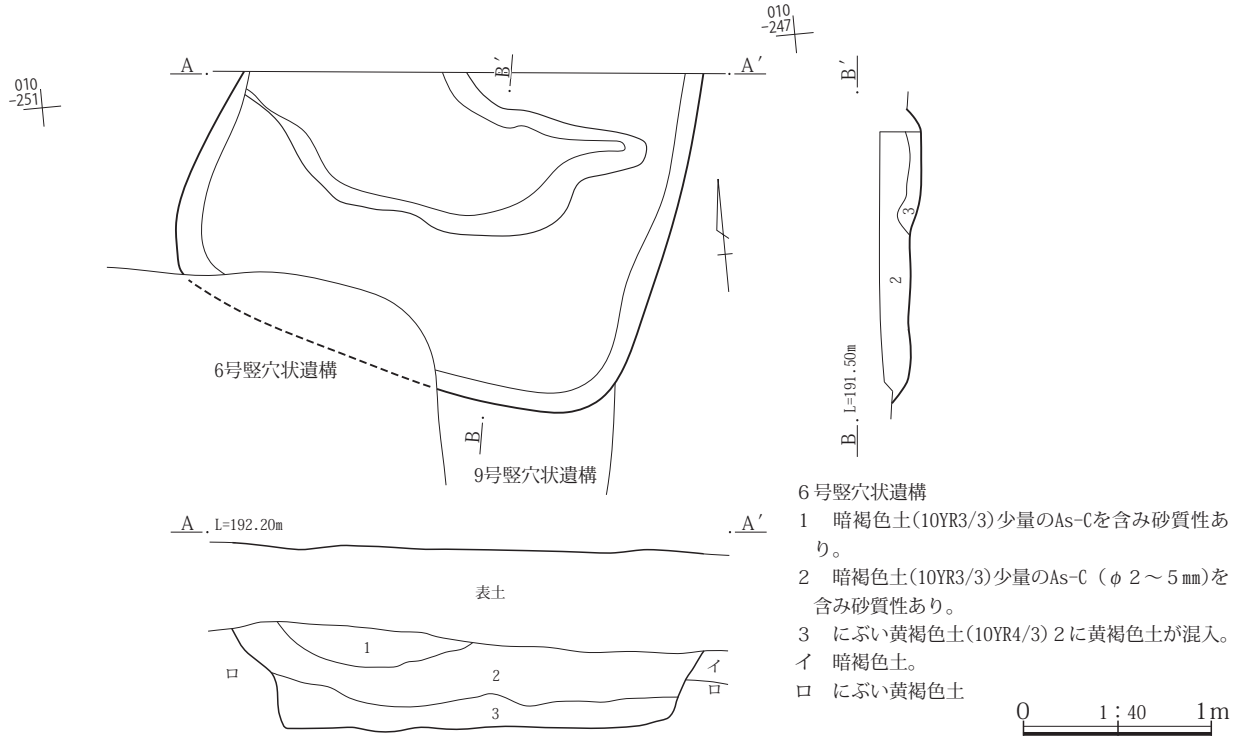
埋没土　As-Cを含む黒褐色土が確認されている。

掘り方　灰黄褐色土ブロックが上面に混入し床面を構成している。

重複　上位に２号溝、下位に５号竪穴建物が位置する。

遺物　床面から須恵器杯(59)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(７片、61g)、須恵器(６片、30g)、灰釉陶器(４片、16g)、羽釜(４片、71g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀後半)に比定される。５号竪穴建物より新しく、２号溝に先行する。



第３-17図　６号竪穴状遺構

（９）９号竪穴状遺構（第３-18,50図、PL.７,27）

位置　X=48005～48009、Y=-74248～-74250、調査区東部に位置する。

形状等　東辺とされる一画が確認されるのみであり、詳細は不明である。

規模　(3.14)×(1.13)×(0.09)m

主軸方位（度）　N-23-E

埋没土　少量のAs-Cを含み砂質性のある暗褐色土。

掘り方　なし。

重複　３号竪穴状遺構、６号竪穴状遺構、２号井戸の下位に位置する。

遺物　底面から灰釉陶器椀(60)、羽釜(61)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器（７片、71g)、灰釉陶器（２片、９g)、羽釜（５片、67g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。３号竪穴状遺構、６号竪穴状遺構、２号井戸に先行する。図化した羽釜は３号竪穴状遺構から検出された破片と接合関係にあり、３号竪穴状遺構に帰属する可能性がある。

(10)10号竪穴状遺構（第３-20,50図、PL.７，８,27）

位置　X=47998～48004、Y=-74272～-74278、調査区中央東寄りに位置する。

形状等　西辺が丸みを帯びるが、平面形は凸字状を呈する。突出部は斜路となっており出入り口と推測される。外周沿いにピット５基が確認されている。

規模　5.20×4.30×(0.50)m、(16.80) ㎡

主軸方位（度）　N-15-E

埋没土　砂質性のあるローム質の黄褐色土。

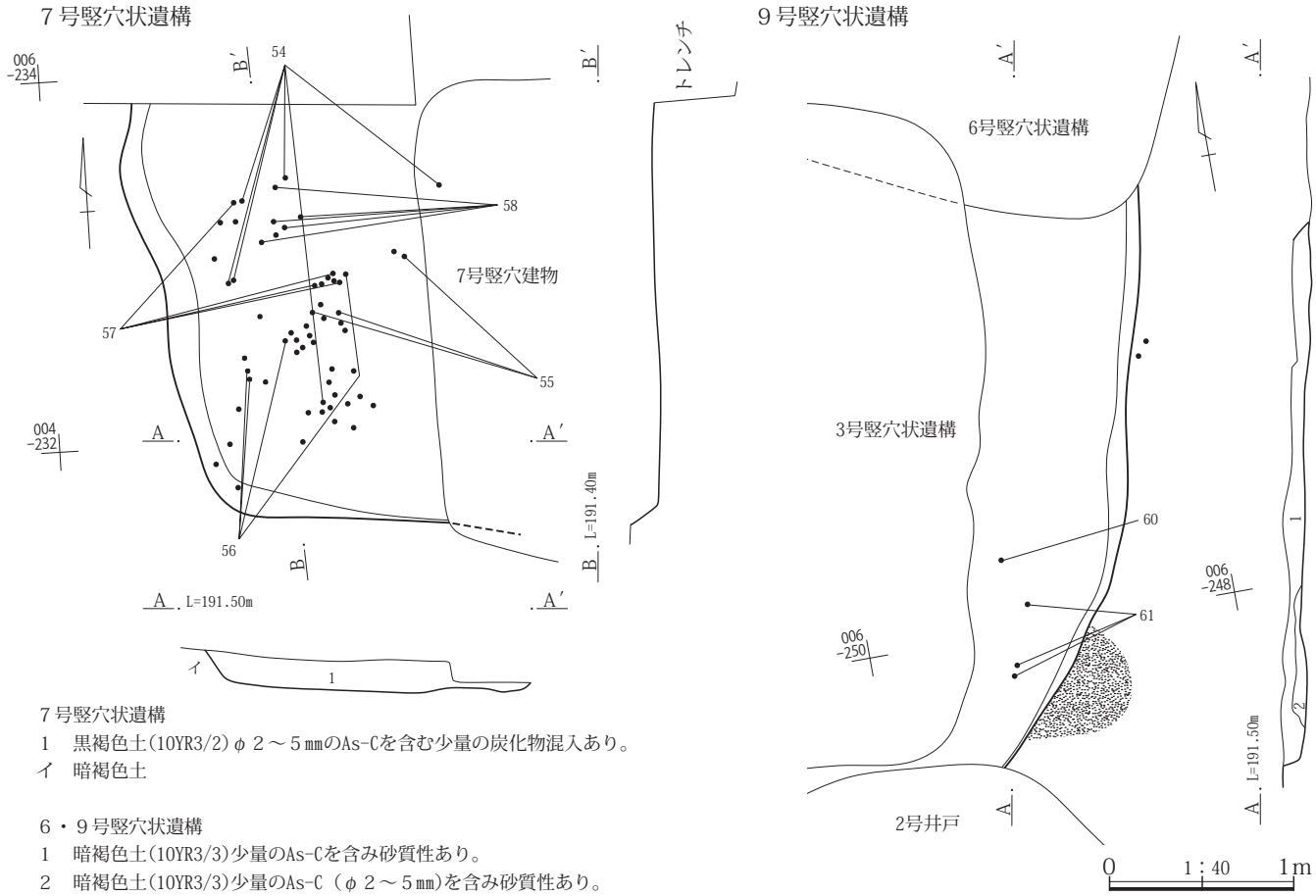
掘り方　なし。

重複　上位に21号土坑が位置する。

遺物　床面から須恵器椀(62)、埋没土から不明鉄製品(63)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器（１片、10g)、須恵器（２片、12g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。21号土坑に先行する。

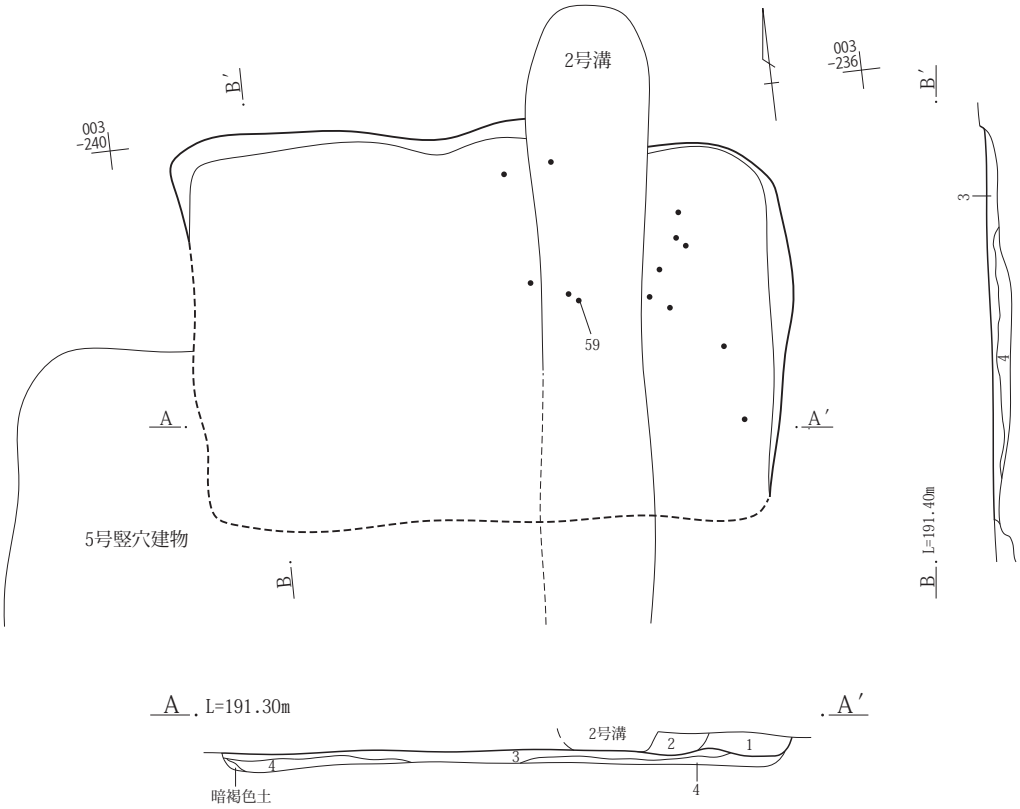
備考　４号竪穴状遺構に類似するが、一回り大きく、出入り口部分が短い。



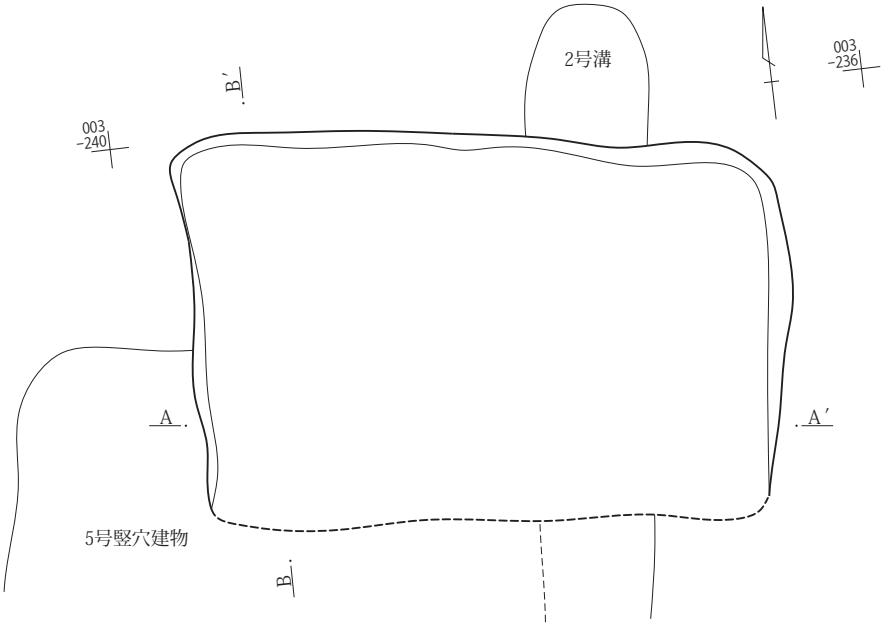
７号竪穴状遺構
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含む少量の炭化物混入あり。
イ　暗褐色土

６・９号竪穴状遺構
1　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-Cを含み砂質性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C（φ２～５㎜)を含み砂質性あり。

第３-18図　７号竪穴状遺構、９号竪穴状遺構

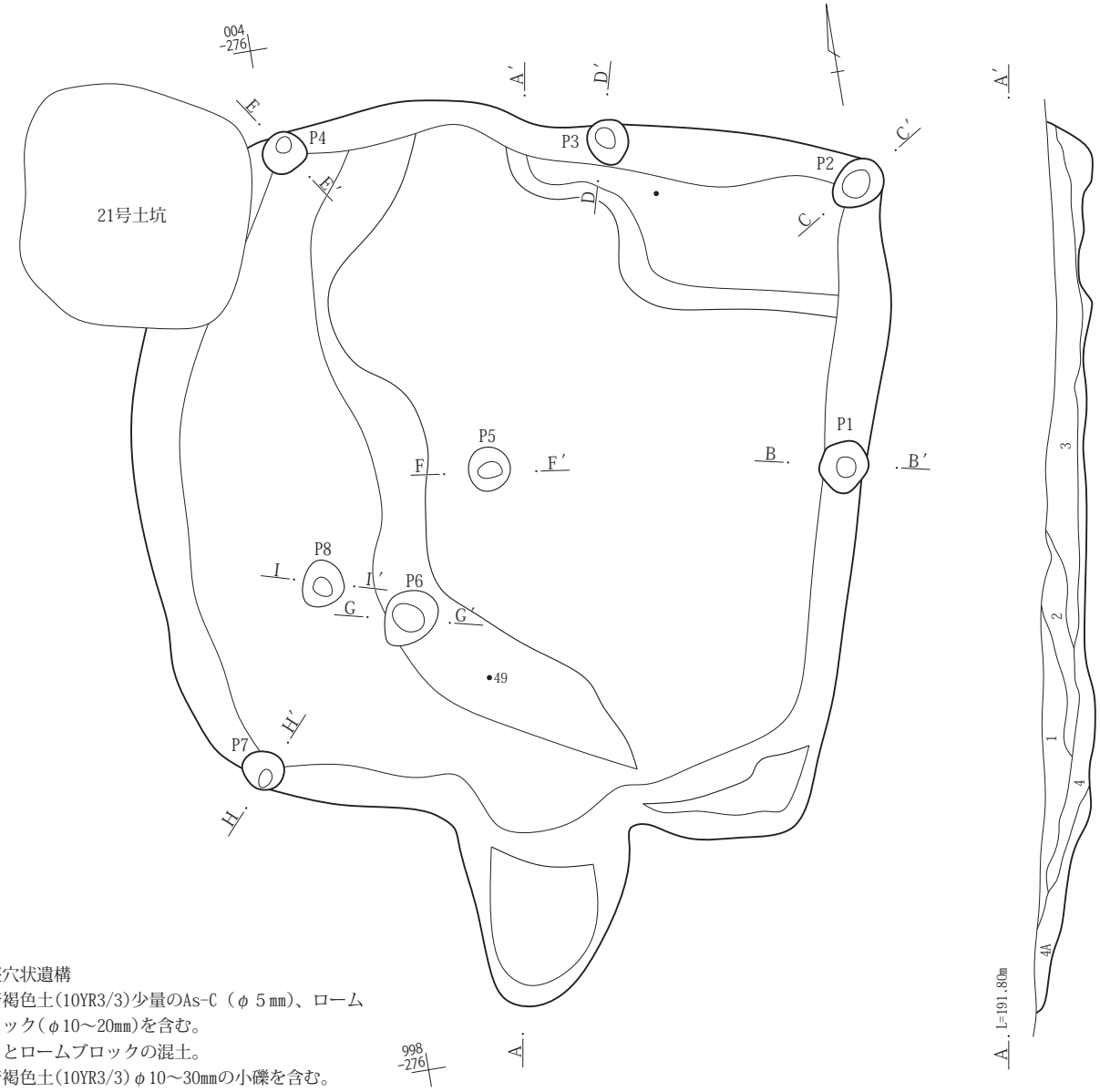


８号竪穴状遺構
1　黒褐色土(10YR3/1)As-C（φ２～５㎜)を含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C（φ２～５㎜)を含む、砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)灰黄褐色土ブロックが上面に混入し床面を構成。
4　暗褐色土(10YR3/3)地山の土。

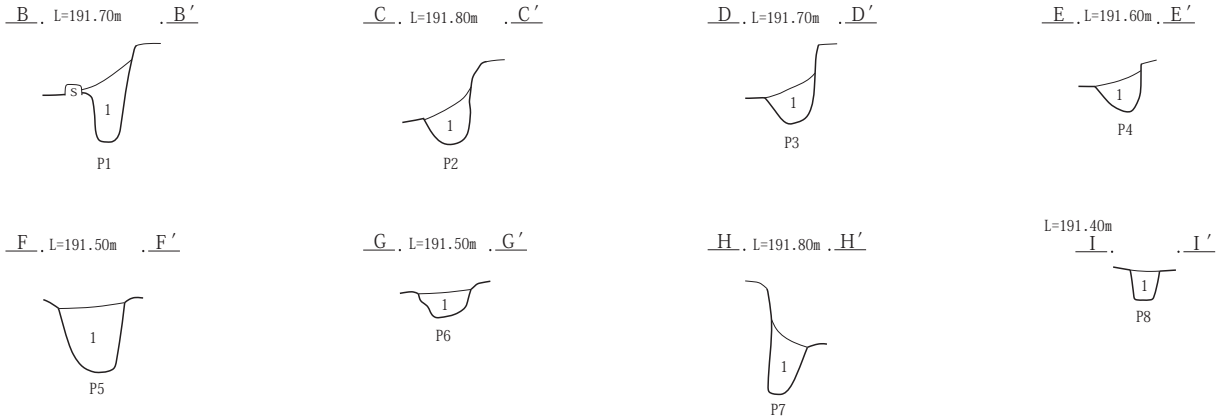


0　1：40　1m

第３-19図　８号竪穴状遺構



10号竪穴状遺構
1　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C（φ５㎜)、ロームブロック(φ10～20㎜)を含む。
2　１とロームブロックの混土。
3　暗褐色土(10YR3/3)φ10～30㎜の小礫を含む。
4　黄褐色砂質性のあるローム質土。
4Ａ　ロームブロックと暗褐色土が斑点状に混在。



10号竪穴状遺構P1～P8
1　黒褐色土(10YR3/1)しまりなく、砂質性強い。

0　1：40　1m

第３-20図　10号竪穴状遺構

４　ピット列

本調査区からは６条のピット列が確認されているが、いずれも調査区東半の南辺沿いに位置する。確認されたピット列は２条を除き、調査区外に連なる可能性が高く、調査時点において掘立柱建物などの１辺である可能性を指摘される遺構である。今回検出された遺構には、柵や塀などの柱穴でない可能性のある遺構も含まれており、柵としての提示を見合わせた。遺構の帰属する時期は特定されていない。

（１）１号ピット列（第３-22図）

位置　X=47994～47996、Y=-74248～-74255、調査区東半の南辺に位置する。

形状等　鉤の手状に連なる５基のピットが確認されている。

規模　東西4.43m、南北0.80m。P5を除くピット間隔の平均は2.15mを測る。

主軸方位（度）　東西N-77-W、南北N-14-E。

埋没土　ピットの埋没土は、As-Dの混入する黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。なお本遺構は、７号ピット列を囲う遺構となる可能性が認められる。

備考　調査時の名称は、P1：27号ピット、P2：25号ピット、P3：22号ピット、P4：19号ピット、P5：18号ピット。

（２）２号ピット列（第３-22図）

位置　X=47995～47998、Y=-74260～-74268、調査区東半の南辺に位置する。

形状等　鉤の手状に連なる６基のピットが確認されている。

規模　東西7.50m、南北1.19m。P1を除くピット間隔の平均は1.80mを測る。

主軸方位（度）　東西N-78-W、南北N-９-E。

埋没土　ピットの埋没土は、As-Cの混入する暗褐色土またはAs-Dの混入する黒褐色土。

重複　上位に８号ピット列。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。なお本遺構は、南北棟の掘立柱建物の北辺をなす可能性が認められる。

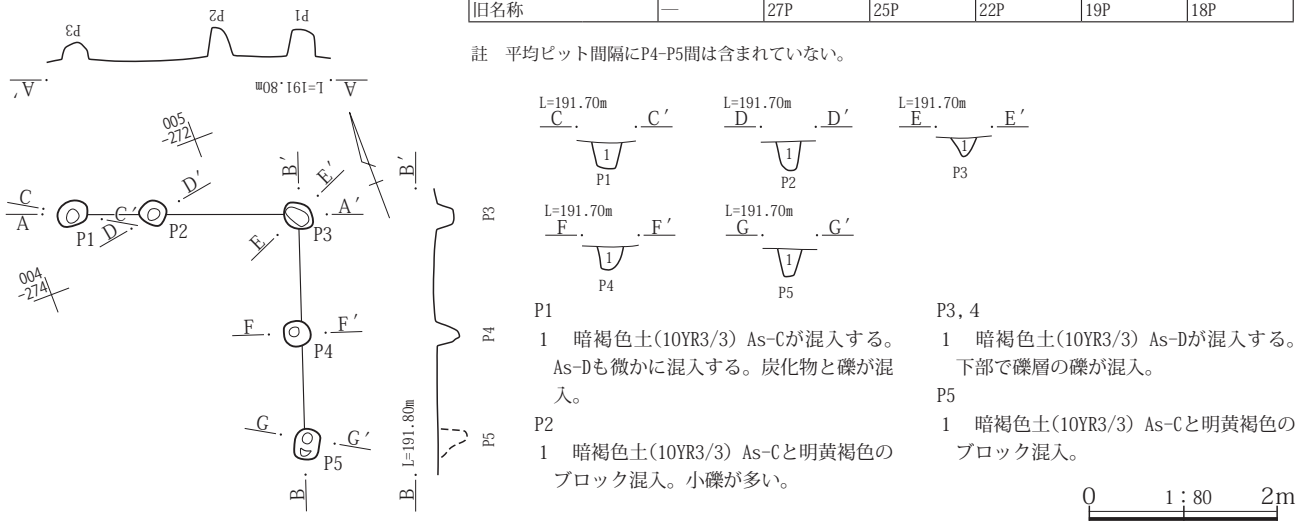
備考　調査時の名称は、P1：99号ピット、P2：100号ピット、P3：86号ピット、P4：85号ピット、P5:84号ピット、P6：82号ピット。

第３-９表　１号ピット列計測表

１号ピット列			P1	P2	P3	P4	P5
位置		X=47995～47996 Y=-74248～-74254	X=47996 Y=-74254	X=47995～47996 Y=-74234	X=47995 Y=-74249～-74250	X=47995～47996 Y=-74248	X=47994 Y=-74248
規模（m）	長	6.72	0.34	0.43	0.47	0.37	0.38
	短	-	0.29	0.33	0.30	0.27	0.23
	深	-	0.16	0.26	0.15	0.13	0.21
平面形状		直状	隅丸方形	不整形	双円形	長方形	双円形
主軸方位	（度）	N-78-W	N-81-W	N-20-W	N-61-E	N-14-E	N-69-W
次ピット間隔		平均2.15	2.32	2.20	1.92	0.70	-
旧名称		—	27P	25P	22P	19P	18P

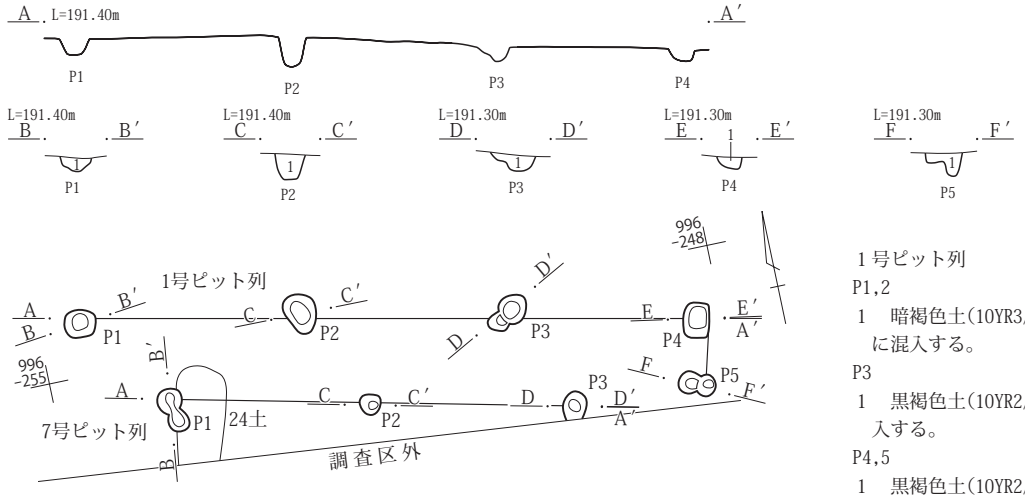
註　平均ピット間隔にP4-P5間は含まれていない。

３・11号ピット列



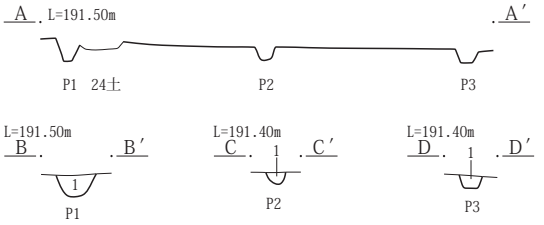
第３-21図　ピット列１

１号ピット列



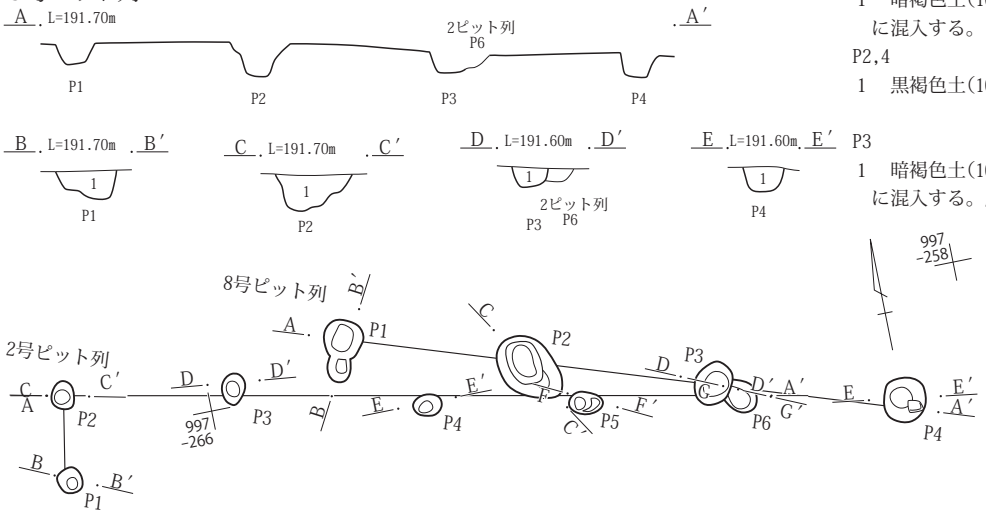
１号ピット列
P1,2
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。
P3
1　黒褐色土(10YR2/2) As-Dと褐色土のブロックが混入する。
P4,5
1　黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。

７号ピット列



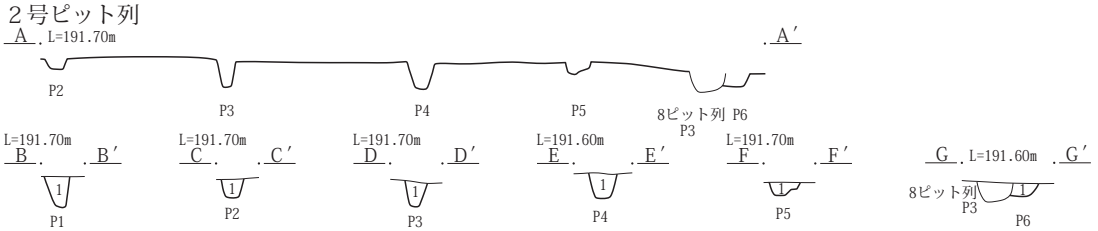
７号ピット列
P1,3
1　黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。
P2
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックが混入する。

８号ピット列



８号ピット列
P1
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。
P2,4
1　黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。
P3
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。底部で明黄色上のブロックが混入。

２号ピット列



２号ピット列
P2
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。
P3
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cを少量含む。
P4～6
1　黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。
P1
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cと炭化物を含む。

0　1：80　2m

第３-22図　ピット列２

（３）３・11号ピット列（第３-21図）

位置　X=48001～48005、Y=-74241～-74273、に位置する。

形状等　鉤の手状に連なる５基のピットが確認されている。

規模　東西2.37m、南北2.38m。P1を除くピット間隔の平均は1.30mを測る。

主軸方位（度）　東西N-69-W、南北N-18-E。

埋没土　ピットの埋没土は、As-CやAs-Dが混入する暗褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

備考　調査時の名称は、P1:145号ピット、P2:143号ピット、P3:139号ピット、P4:147号ピット、P5:149号ピット。

（４）７号ピット列（第３-22図）

位置　X=47994～47996、Y=-74249～-74254、調査区東半の南辺に位置する。

形状等　直線状に並ぶ３基のピットが確認されている。

規模　4.48m。ピット間隔の平均は2.11mを測る。

主軸方位（度）　N-78-W

埋没土　ピットの埋没土は、As-Dが混入する黒褐色土。

重複　上位に24号土坑。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。24号土坑に先行する。なお本遺構は、南北棟梁間２間の掘立柱建物の北辺をなす可能性が認められる。

備考　調査時の名称は、P1：37号ピット、P2：24号ピット、P3：51号ピット。

（５）　８号ピット列（第３-22図）

位置　X=47995～47998、Y=-74258～-74265、調査区東半の南辺沿いに位置する。

形状等　直線状に並ぶ４基のピットが確認されている。

規模　6.38m。ピット間隔の平均は1.98mを測る。

主軸方位（度）　N-71-W

埋没土　ピットの埋没土は、As-Dが混入する黒褐色土。

第３-10表　２号ピット列計測表

2号ピット列			P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置		X=47995～47997 Y=-74260～-74267	X=47996 Y=-74267	X=47997 Y=-74267	X=47996～47997 Y=-74265	X=47996 Y=-74263	X=47996 Y=-74261～-74262	X=47995～47996 Y=-74260
規模（m）	長	7.50	0.27	0.29	0.33	0.31	0.36	(0.38)
	短	1.19	0.25	0.24	0.24	0.23	0.23	0.31
	深	-	0.21	0.20	0.28	0.25	0.14	0.15
平面形状		鉤の手状	隅丸方形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形
主軸方位	（度）	N-78-W	N-26-W	N-20-E	N-13-E	N-82-W	N-86-W	N-35-W
次ピット間隔		平均1.80	0.92	1.82	2.06	1.63	1.67	-
旧名称		—	99P	100P	86P	85P	84P	82P

註　平均ピット間隔にP1-P2間は含まれていない。

第３-11表　３・11号ピット列計測表

3・11号ピット列			P1	P2	P3	P4	P5
位置		X=48001～48005 Y=-74241～-74273	X=48004 Y=-74273	X=48004 Y=-74272	X=48003 Y=-74271	X=48002 Y=-74271	X=48001 Y=-74271～-74272
規模(m)	長	2.38	0.34	0.28	0.34	0.30	0.33
	短	2.37	0.27	0.26	0.27	0.28	0.27
	深	-	0.29	0.31	0.18	0.23	0.28
平面形状		鉤の手状	偏円形	隅丸方形	長円形	偏円形	隅丸長方形
主軸方位	（度）	N-25-W	N-69-E	N-25-W	N-24-W	N-40-W	N-32-E
次ピット間隔		平均1.09	0.48	1.51	1.23	1.15	-
旧名称		—	145P	143P	139P	147P	149P

註　P2-P5間の平均ピット間隔は、1.30m。

重複　下位に２号ピット列。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。２号ピット列より新しい。

備考　調査時の名称は、P1：69号ピット、P2：83号ピット、P3：81号ピット、P4：80号ピット。

５　溝

本調査区からは22条の溝が検出されている。多くの溝は調査区中央から西に存在する。中央から西側に位置する溝のうち４条には直角の屈曲部があり、残りは全て南北に直線的に存在している。多くの溝の断面形状は、直線や緩い曲線を描く幅広の底部をもつ、四角形や逆台形などであるが、薬研状の断面をもつ溝が３条確認されている。なお、平安時代の溝２条、中世の溝３条が確認されているが、残り17条は時期を特定しえなかった。

（１）１号溝（第３-23図、PL.10）

位置　X=48007～48010、Y=-74238～-74240、調査区東端近くの北辺に位置する。

形状　北端調査区外に続く、浅い直線状の溝が検出されている。

規模　(2.47)×1.07×0.15～0.20m。溝底面の北端標高191.24m、南端標高191.23m、溝両端での標高差0.01mを測る。

走行方位（度）　N-２-E

埋没土　微量の灰色軽石を含む砂質の暗褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、須恵器（１片、６g）、中世在地系皿（１点、31g）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

（２）２号溝（第３-23図、PL.10）

位置　X=47993～48004、Y=-74237～-74239、調査区東端寄りに位置する。

形状　調査区東端の中程から南流し、調査区外に至る浅い溝が検出されている。

規模　(10.04)×0.54～0.98×0.02～0.12m。溝底面の北端標高191.22m、南端標高190.98m、溝両端での標高差0.24mを測る。

走行方位（度）　N-３-E

埋没土　As-Cを少量含む砂質の暗褐色土。

重複　上位に２号ピット、５号ピット、６号ピット、下位に５号竪穴建物、２号竪穴状遺構、８号竪穴状遺構、９号土坑、39号土坑が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、土師器（５片、11g）、須恵器（７片、72g）、灰釉陶器（３片、４g）、黒色土器（２片、５g）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

（３）３号溝（第３-23図、PL.10）

位置　X=48003～48010、Y=-74245～-74248、調査区東端近くの北辺に位置する。

形状　調査区外より南流し、調査区東部の中ほどに至る溝が検出されている。

規模　(6.02)×0.62×0.07～0.21m。溝底面の北端標高191.34m、南端標高191.21m、溝両端での標高差0.13mを測る。

走行方位（度）　N-10-E

埋没土　軽石の混入しない黒褐色土の上に、As-Cを含む黒褐色土が堆積している。

重複　上位に10号土坑が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、須恵器（１片、３g）、

第３-12表　７号ピット列計測表

7号ピット列			P1	P2	P3
位置		X=47994～47995	X=47995	X=47994	X=47994
		Y=-74249～-74253	Y=-74253	Y=-74251	Y=-74249
規模（m）	長	4.48	0.48	0.23	(0.30)
	短	-	0.27	0.22	0.24
	深	-	0.24	0.12	0.12
平面形状		直状	双円形	偏円形	不明
主軸方位　（度）		N-78-W	N-16-W	N-47-E	N-16-E
次ピット間隔		平均2.11	2.12	2.10	-
旧名称		—	37P	24P	51P

第３-13表　８号ピット列計測表

8号ピット列			P1	P2	P3	P4
位置		X=47995～47998	X=47997	X=47996 47997	X=47996	X=47995
		Y=-74258～-74264	Y=-74263	Y=-74262	Y=-74260	Y=-74259
規模(m)	長	6.38	0.66	0.81	0.48	0.48
	短	-	0.43	0.55	0.38	0.44
	深	-	0.29	0.36	0.20	0.24
平面形状		直状	双円形	偏円形	長円形	略円形
主軸方位　（度）		N-71-W	N-20-E	N-39-W	N-34-E	N-27-E
次ピット間隔		平均1.98	1.91	2.03	1.99	-
旧名称		—	69P	83P	81P	80P

中世在地系土器(１点、２g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

（４）４号溝(第３-50,51図、PL.10,11,27)

位置　X=47997～48008、Y=-742645～-74281、調査区中央部に位置する。

形状　ほぼ直角に折れ曲がるクランク状をなす。その各部の走向と長さは北から順に、N-17-E3.20m、N-77-W13.05m、N-８-E(10.65)mと続き調査区外に至る。断面は薬研状を呈する。

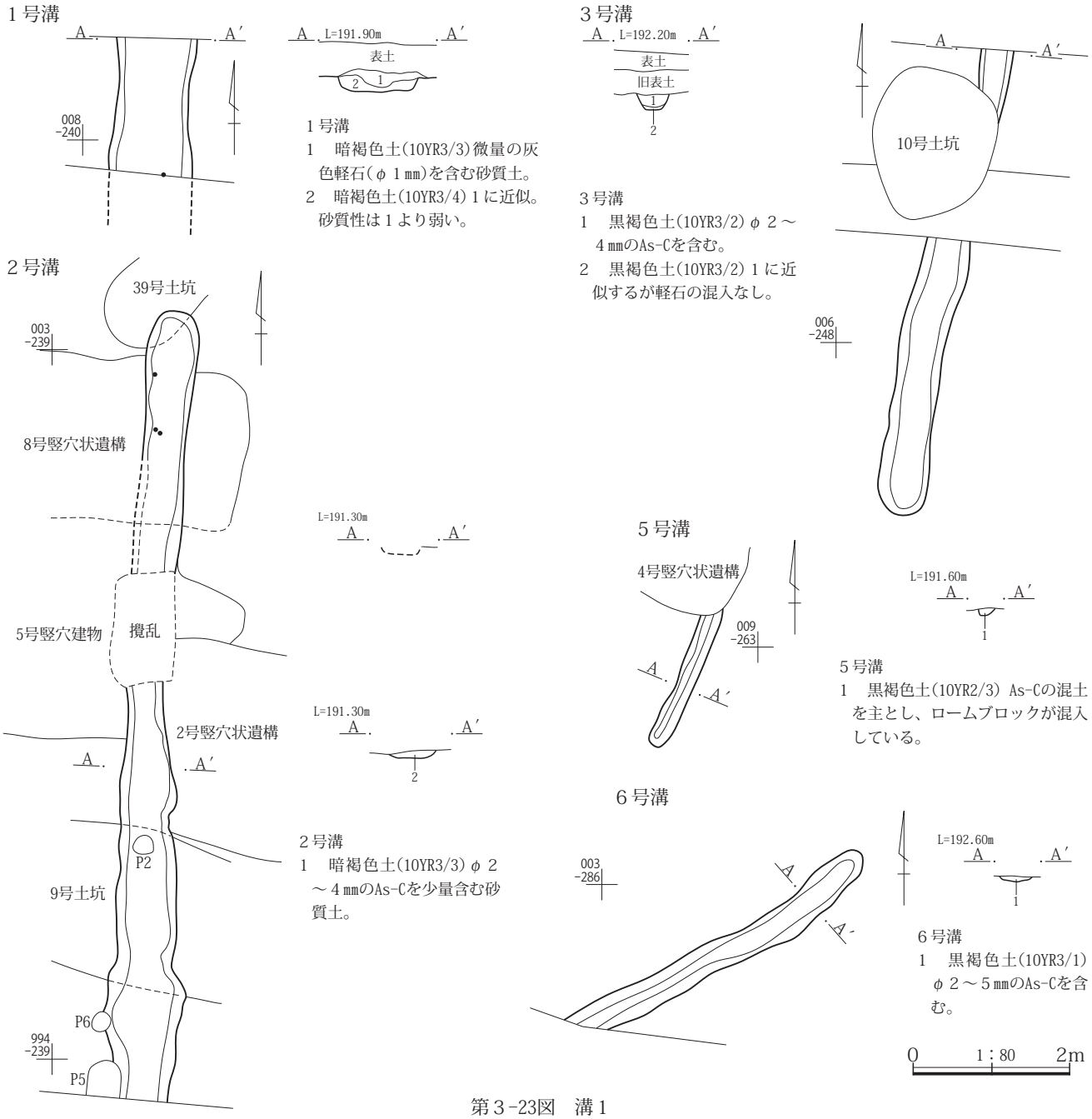
規模　(17.74)×0.77～1.56×0.83～1.24m。溝底面の北端標高190.69m、南端標高190.44m、溝両端での標高差0.25mを測る。

走行方位(度)　N-55-E

埋没土　北部は円礫を含む黒褐色土、南部は小礫を含む砂質の黒褐色土。なお上位の埋没土はAs-Cを含むが、下位はAs-Cを含んでいない。

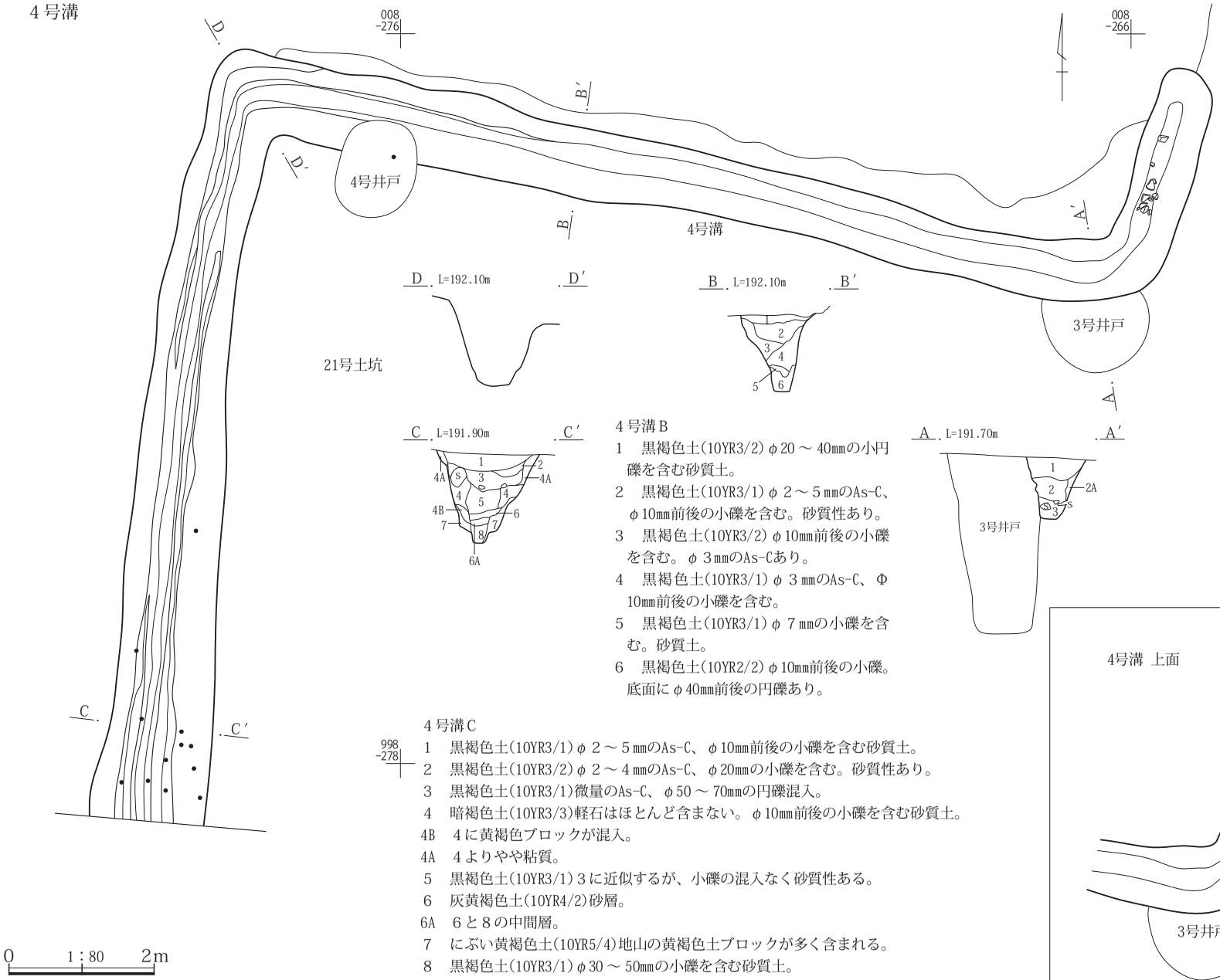
重複　上位に４号井戸、下位に３号井戸が位置する。

遺物　埋没土から、中世龍泉窯系青磁皿(64)、古瀬戸碗(65,66)、常滑陶器甕(67)、常滑陶器すり鉢(68)、中世在地系土器皿(69～75)、近世在地系土器置輪(76)、肥前



第３-23図　溝１

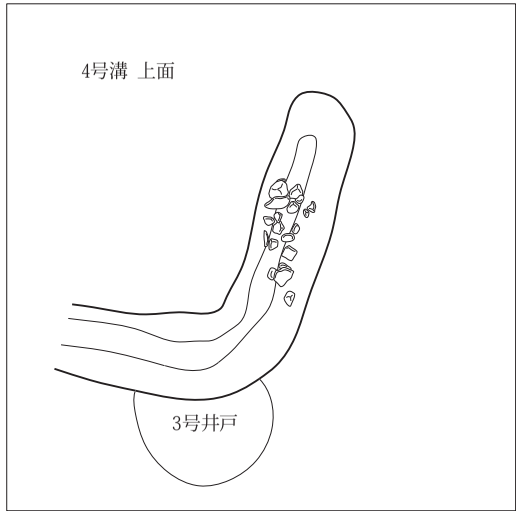
４号溝



４号溝Ａ
1　暗褐色土(10YR3/4)φ10mm前後の小礫を多く含む砂質土。
2　暗褐色土(10YR3/4)１に近似するが、小礫の混入少ない。
2A　２にφ20～30mmの小礫が混入。
3　φ40～80mmの円礫主体。人為的に埋没される。

４号溝Ｂ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ20～40mmの小円礫を含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む。砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)φ10mm前後の小礫を含む。φ３mmのAs-Cあり。
4　黒褐色土(10YR3/1)φ３mmのAs-C、Φ10mm前後の小礫を含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)φ７mmの小礫を含む。砂質土。
6　黒褐色土(10YR2/2)φ10mm前後の小礫。底面にφ40mm前後の円礫あり。

４号溝Ｃ
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ２～４mmのAs-C、φ20mmの小礫を含む。砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-C、φ50～70mmの円礫混入。
4　暗褐色土(10YR3/3)軽石はほとんど含まない。φ10mm前後の小礫を含む砂質土。
4B　４に黄褐色ブロックが混入。
4A　４よりやや粘質。
5　黒褐色土(10YR3/1)３に近似するが、小礫の混入なく砂質性ある。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)砂層。
6A　６と８の中間層。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)地山の黄褐色土ブロックが多く含まれる。
8　黒褐色土(10YR3/1)φ30～50mmの小礫を含む砂質土。



第３-24図　溝２

磁器染付皿(77)のほか鉄釘(78,79)、硯(80)、火打石(81)が出土している。また図化には至らなかったが、土師器(15片、56g)、須恵器(５片、103g)、羽釜(７片、102g)のほか、中世国産焼締陶器(２点、80g)、在地系土器(31点、798g)、近世国産施釉陶器(５点、150g)が出土している。なお中世在地系土器皿(67～73)は溝中層からの出土である。

所見　本遺構の年代は､出土遺物から中世に比定される。３号井戸より新しく、４号井戸に先行する。環濠の一端を構成する遺構と推察される。本遺構からは近世陶器も出土しており、近世に至っても窪地として存続していたと推察される。

(５)５号溝(第３-23図、PL.11)

位置　X=48007～48010、Y=-74263～-74265、調査区中央東寄りに位置する。

形状　４号溝北端近くから、北流する溝が検出されている。

規模　(1.94)×0.26×0.06～0.11m。溝底面の南端標高191.46m、北端標高191.33m、溝両端での標高差0.13mを測る。

走行方位(度)　N-24-E

埋没土　As-Cの混土を主とし、ロームブロックが混入する黒褐色土。

重複　上位に４号竪穴状遺構が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。４号竪穴状遺構に先行する。

(６)６号溝(第３-23図、PL.11)

位置　X=48001～48004、Y=-74282～-784287、調査区中央に位置する。

形状　７号溝に囲われた位置から、等高線に斜めに交差する溝が検出された。

規模　(4.27)×0.44×0.02～0.06m。溝底面の北端標高192.41m、南端標高192.32m、溝両端での標高差0.09mを測る。

走行方位(度)　N-58-E

埋没土　As-Cを含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(７)７号溝(第３-25,52図、PL.11,12)

位置　X=47997～48012、Y=-74281～-74291、調査区中央に位置する。

形状　断面は地点により薬研状から逆台形状を呈し、平面形は柄杓の形に屈曲する。その各部の走向と長さは北から順に、N-６-E5.12m、N-72-W(6.10)m、N-21-E(9.24)m、N-69-W7.97mと続く。

規模　(13.18)×0.80～1.41×0.64～0.73m。溝底面の北端標高191.84m、南端標高191.84m、溝両端での標高差0.00mを測る。

走行方位(度)　N-５-E

埋没土　As-Cをほぼ含まない黒褐色土。

重複　下位に８号溝、９号溝､28号土坑､上位に195号ピットが位置する。

遺物　埋没土から緑釉陶器椀(82)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器(６片、162g)、灰釉陶器(３片、36g)、羽釜(１片、12g)、中世国産焼締陶器(１点70g)、在地系土器(３点53g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。195号ピットに先行し、８号溝、９号溝、28号土坑より新しい。

(８)８号溝(第３-25図、PL.12)

位置　X=47997～48012、Y=-74284～-74288、調査区中央に位置する。

形状　調査区中央部を南北に横切り、南は調査区外に至り、北端は９号溝と交差し判明しない。

規模　(14.51)×0.54～0.96×0.50～0.52m。溝底面の北端標高192.34m、南端標高192.21m、溝両端での標高差0.13mを測る。

走行方位(度)　N-９-E

埋没土　C黒混土と黒色土の混土。

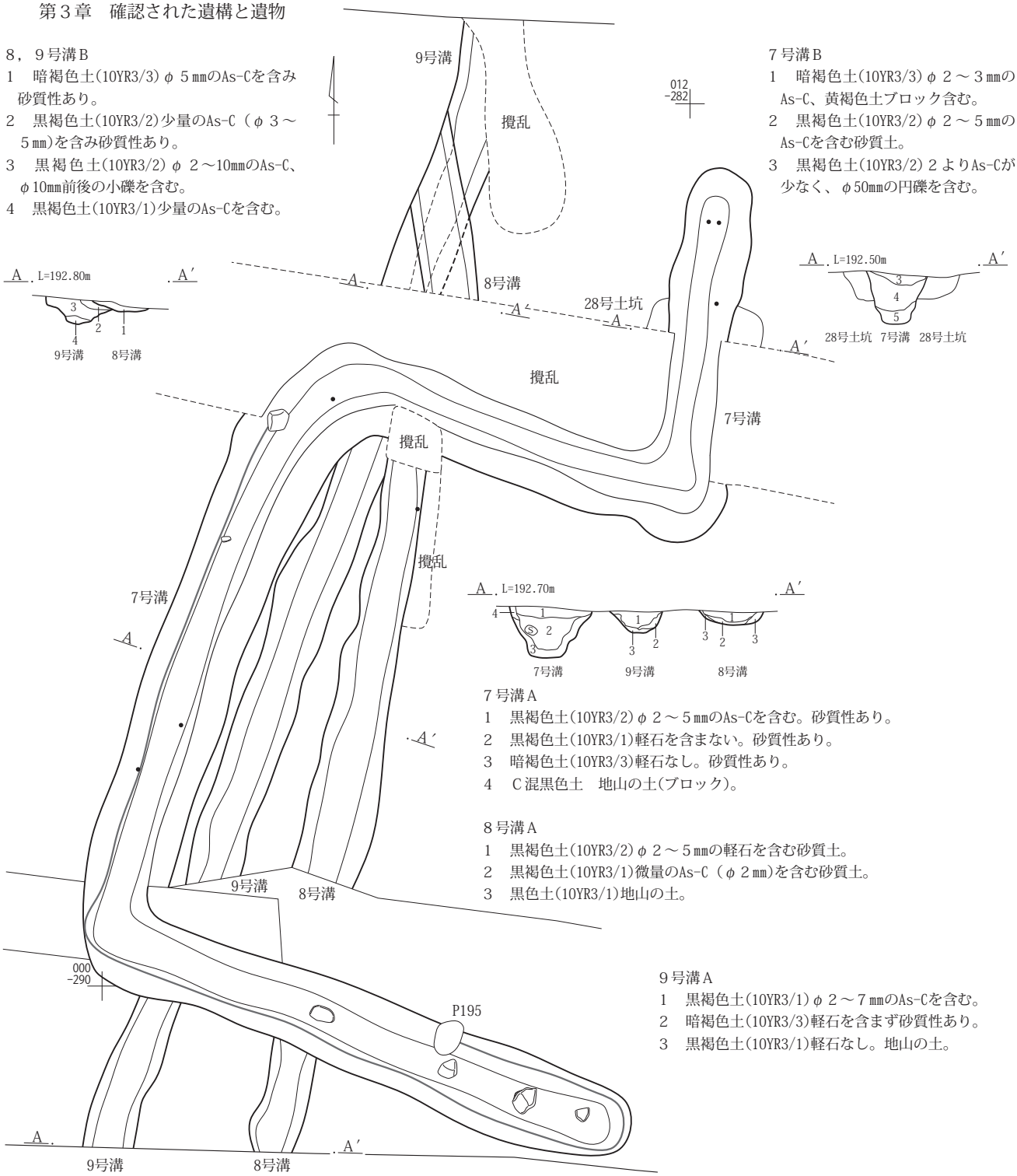
重複　上位に７号溝、下位に９号溝が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、不明鉄製品が出土している。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるた

８，９号溝Ｂ
1　暗褐色土(10YR3/3)φ５㎜のAs-Cを含み砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C（φ３～５㎜)を含み砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/2)φ２～10㎜のAs-C、φ10㎜前後の小礫を含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-Cを含む。

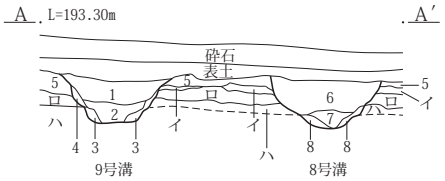
７号溝Ｂ
1　暗褐色土(10YR3/3)φ２～３㎜のAs-C、黄褐色土ブロック含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含む砂質土。
3　黒褐色土(10YR3/2)２よりAs-Cが少なく、φ50㎜の円礫を含む。



７号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含む。砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)軽石を含まない。砂質性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)軽石なし。砂質性あり。
4　Ｃ混黒色土　地山の土(ブロック)。

８号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の軽石を含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-C（φ２㎜)を含む砂質土。
3　黒色土(10YR3/1)地山の土。

９号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～７㎜のAs-Cを含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)軽石を含まず砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)軽石なし。地山の土。



８，９号溝Ｃ
1　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C（φ３～５㎜)を含む。砂質性あり。
2　８・９溝Ｂの３層と同じ。
3　黒褐色土(10YR3/1)地山の土。
4　３と５の混土層。
5　暗褐色土(10YR3/3)地山。
6　８・９溝Ｂの１層。
7　黒褐色土(10YR3/1)Ｃ黒混土と黒色土(地山)の混土。(地山)
8　黒褐色土(10YR3/1)Ｃ黒混土と黒色土の混土。
イ　Hr-FA
ロ　Ｃ黒混土
ハ　黒色土

0　1：80　2m

第３-25図　溝３

め不明である。

（９）９号溝（第３-25図、PL.12）

位置　X=47997～48014、Y=-74284～-74291、調査区中央に位置する。

形状　調査区を南北に横切る。南北両端とも調査区外に続く。

規模　(16.22)×0.61～0.82×0.31～0.47m。溝底面の北端標高192.34m、南端標高192.24m、溝両端での標高差0.10mを測る。

走行方位（度）　N-19-E

埋没土　南部はAs-Cを含まず、北部は少量のAs-Cを含む黒褐色土。

重複　上位に７号溝、８号溝が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、土師器（５片、８g）、須恵器（６片、94g）、羽釜（１片、16g）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。７号溝、８号溝に先行する。

(10)10号溝（第３-26図、PL.12,13）

位置　X=47998～48015、Y=-74296～-74302、調査区中央西寄りに位置する。

形状　調査区を南北に横切る。南北両端とも調査区外に続く。

規模　(16.67)×0.98～1.93×0.13～0.31m。溝底面の北端標高192.82m、南端標高192.63m、溝両端での標高差0.19mを測る。

走行方位（度）　N-12-E

埋没土　As-Cを含む黒褐色土。その直上、遺構範囲を超えてAs-Bの純層が堆積する。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、須恵器（３片、19g）が出土している。

所見　本遺構の年代は、埋没土と出土遺物から平安時代に比定される。

(11)11号溝（第３-26図、PL.12,13）

位置　X=48001～48007、Y=-74299～-74301、調査区中央西寄りに位置する。

形状　底面は平坦で、等高線に沿う走向で検出された。

規模　4.92×0.23～0.54×0.01～0.06m。溝底面の北端標高192.93m、南端標高192.87m、溝両端での標高差0.06mを測る。

走行方位（度）　N-７-W

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(12)12号溝（第３-26図、PL.12,13）

位置　X=48001～48008、Y=-74300～-74303、調査区中央西寄りに位置する。

形状　底面は平坦で、等高線に沿う走向で検出された。

規模　6.61×0.89～1.09×0.01～0.05m。溝底面の北端標高192.93m、南端標高192.88m、溝両端での標高差0.05mを測る。

走行方位（度）　N-８-W

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(13)13号溝（第３-26図、PL.12,13）

位置　X=48001～48010、Y=-74302～-74305、調査区中央西寄りに位置する。

形状　底面は平坦で、等高線に交差するように緩やかな弧状を描く。

規模　(8.59)×0.45～0.74×0.04～0.07m。溝底面の北端標高193.01m、南端標高192.96m、溝両端での標高差0.05mを測る。

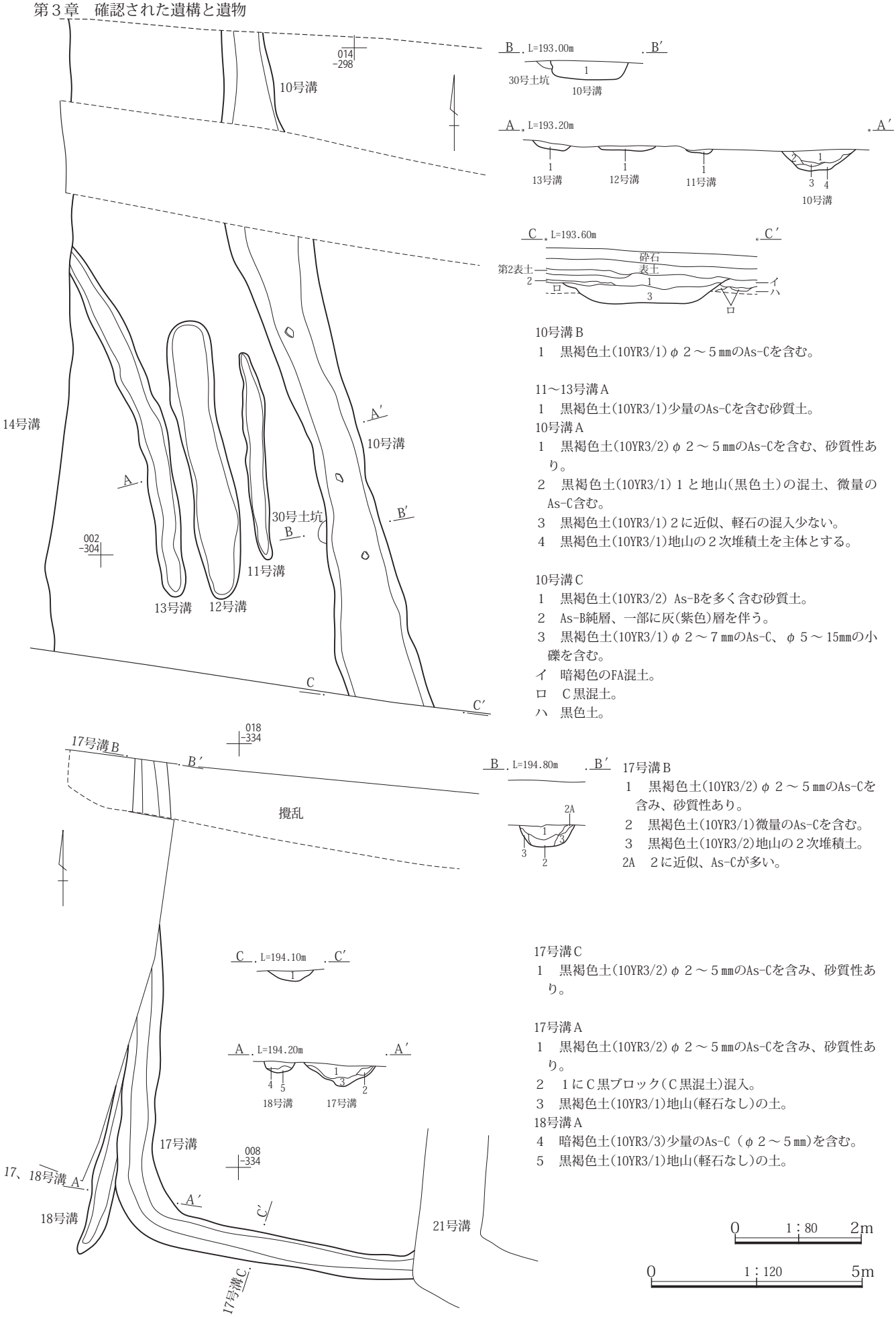
走行方位（度）　N-18-W

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

重複　14号溝の下位に位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、埋没土の類似する14号溝に先行するため、平安時代以降と推測される。



10号溝Ｂ
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５㎜のAs-Cを含む。

11～13号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-Cを含む砂質土。

10号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含む、砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)１と地山(黒色土)の混土、微量のAs-C含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)２に近似、軽石の混入少ない。
4　黒褐色土(10YR3/1)地山の２次堆積土を主体とする。

10号溝Ｃ
1　黒褐色土(10YR3/2) As-Bを多く含む砂質土。
2　As-B純層、一部に灰(紫色)層を伴う。
3　黒褐色土(10YR3/1)φ２～７㎜のAs-C、φ５～15㎜の小礫を含む。
イ　暗褐色のFA混土。
ロ　Ｃ黒混土。
ハ　黒色土。

17号溝Ｂ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含み、砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Cを含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)地山の２次堆積土。
2A　２に近似、As-Cが多い。

17号溝Ｃ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含み、砂質性あり。

17号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含み、砂質性あり。
2　１にＣ黒ブロック(Ｃ黒混土)混入。
3　黒褐色土(10YR3/1)地山(軽石なし)の土。

18号溝Ａ
4　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C（φ２～５㎜)を含む。
5　黒褐色土(10YR3/1)地山(軽石なし)の土。

第３-26図　溝４

(14)14号溝(第３-27,28図、PL.13,14)

位置　X=47999～48015、Y=-74304～-74307、調査区中央西寄りに位置する。

形状　断面は薬研状に近い逆台形状で、南北両端とも調査区外に続く。

規模　(15.12)×0.79～1.53×0.51～0.75m。溝底面の北端標高192.50m、南端標高192.50m、溝両端での標高差0.00mを測る。

走行方位(度)　N- 1-E

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質性の黒褐色土。

重複　13号溝、21号溝、200号ピットの上位に位置する。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(１片、６g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。13号溝、21号溝、200号ピットより新しい。

(15)15号溝(第３-27,28図、PL.13,14)

位置　X=47999～48010、Y=-74306～-74309、調査区中央西寄りに位置する。

形状　調査区北辺よりやや南に寄った位置から南流し、調査区外に至る。

規模　(9.99)×0.46～1.37×0.02～0.44m。溝底面の北端標高193.13m、南端標高192.25m、溝両端での標高差0.18mを測る。

走行方位(度)　N- 2-E

埋没土　南部の西側はAs-Bと思われる軽石を含む暗褐色土、東側はAs-Cを微量含む砂質の暗褐色土に覆われる。

重複　上位に16号溝、21号溝が位置する。

遺物　図化には至らないが、灰釉陶器と思われる破片が確認されている。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、遺構南部の埋没土から平安時代以降に比定される。16号溝、21号溝に先行する。

(16)16号溝(第３-27,28図、PL.13,14)

位置　X=48000～48012、Y=-74307～-74309、調査区中央西寄りに位置する。

形状　等高線に平行する走向で検出された。

規模　(11.12)×0.59×0.05～0.26m。溝底面の北端標高193.12m、南端標高193.11m、溝両端での標高差0.01mを測る。

走行方位(度)　N- 2-W

埋没土　灰白色の砂層。

重複　下位に15号溝が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、15号溝より新しいため、平安時代以降に比定される。

(17)17号溝(第３-26図、PL.14,15)

位置　X=48005～48018、Y=-74329～-74337、調査区西端に位置する。

形状　21号溝との交差地点から西進したのち屈曲し北辺の調査区外に至る。21号溝との交差部に残された痕跡から、交差地点で屈曲し北進したと推測される。

規模　(10.64)×0.53～1.04×0.07～0.47m。溝底面の東端標高193.65m、北端標高193.59m、溝両端での標高差0.06mを測る。

走行方位(度)　N-44-W

埋没土　As-Cを含み、砂質の黒褐色土。

重複　下位に18号溝、21号溝が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、21号溝より新しいため、平安時代以降に比定される。18号溝より新しい。

(18)18号溝(第３-26図、PL.14,15)

位置　X=48005～48011、Y=-74336～-74338、調査区西端に位置する。

形状　17号溝の屈曲部に沿う形で検出された。

規模　(4.94)×0.52×0.08～0.18m。溝底面の南端標高193.97m、北端標高193.94m、溝両端での標高差0.04mを測る。

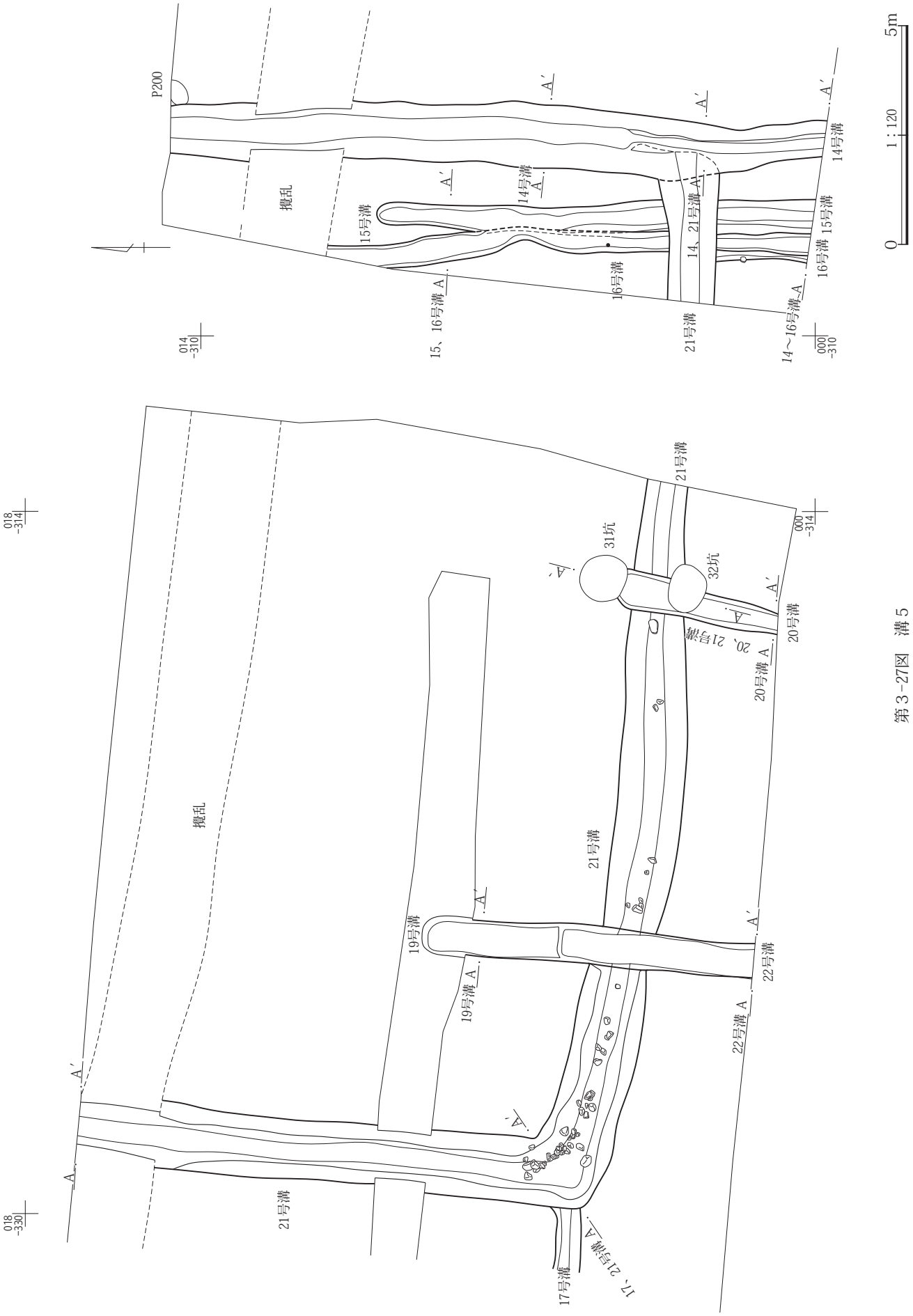
走行方位(度)　N-15-E

埋没土　軽石を含まない黒褐色の地山の土。

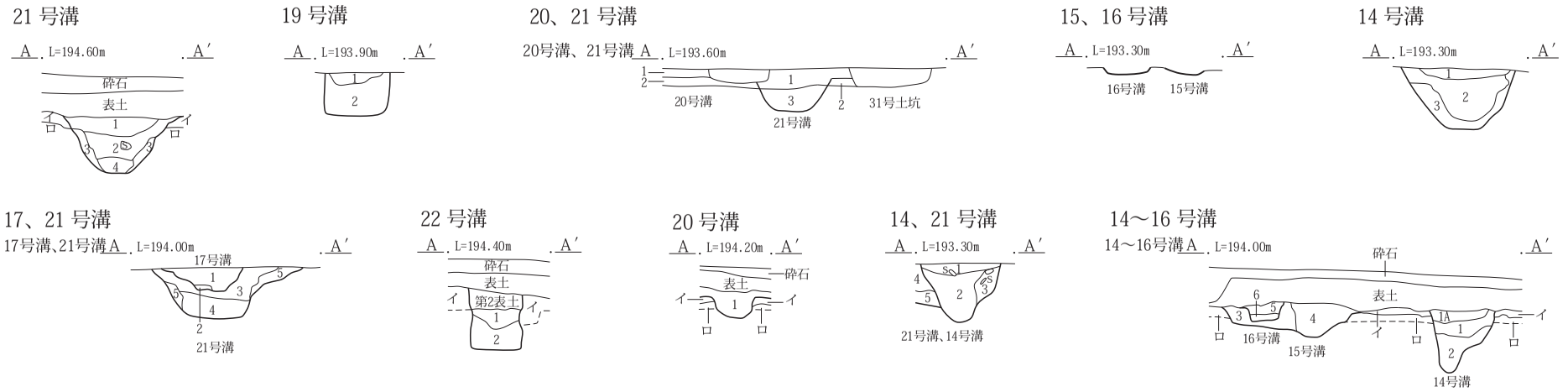
重複　上位に17号溝が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。17号溝に先行する。


P200
撹乱
15号溝
14号溝
14、21号溝
16号溝
15、16号溝
21号溝
14～16号溝
14号溝
15号溝
16号溝
A
A′
014
-310
000
-310
0
1：120
5m
撹乱
21号溝
31坑
32坑
20、21号溝
20号溝
19号溝
22号溝
17号溝
17、21号溝
018
-314
018
-330

第３-27図　溝５



17号溝，21号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜のAs-Cを含み、砂質性あり。
2　１にＣ黒ブロック(Ｃ黒混土)混入。
21号溝
3　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C（φ２～７㎜)を含む。砂質性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)軽石なし、砂質土。
5　暗褐色土(10YR3/3)３に褐色土ブロックが混入。

19号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)φ5㎜前後のAs-Cを含む。砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。砂質性あり。

21号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C(φ２～7mm)を含む。砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)軽石なし、砂質土。
3　黒褐色土(10YR3/1)地山の土。崩落土。
4　２に黄褐色土ブロック(φ10㎜)、小礫(φ10㎜)が混入する。
イ　C黒混土。
ロ　黒色土地山。

20号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。As-A，As-Bと思われる粒子を多く含む。新しい？
イ　Hr-FA

14 号溝、21 号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜のAs-Cを含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。砂質性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。砂質性あり。
4　黒褐色土(10YR3/2)２に近似。
5　暗褐色土(10YR3/3)３に褐色土ブロックが混入。

20号溝、21号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C(φ２～7㎜)を含む。砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-C(φ２～5㎜)を含む。
3　黒褐色土(10YR3/2) 軽石なし、砂質土。

14号溝Ａ
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜のAs-Cを含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。砂質性あり。
3　暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。砂質性あり。

22号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)φ５～10㎜のHr-FＡブロック混入。
2　黒褐色土(10YR3/1)小礫(φ10㎜)、As-C（微量)混入。
イ　Ｃ黒混土。

14～16 号溝
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜のAs-Cを含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。砂質性あり。
1A　１層に小礫(φ10㎜)が混入、砂質性つよい。
3　暗褐色土(10YR3/3)砂質土(φ10 ～ 15㎜)を含み、As-C（Φ２～５㎜)が微量認められる。
4　暗褐色土(10YR3/3) As-Bを多く含み、(φ30㎜)の小礫混入。
5　暗褐色土(10YR3/3) As-B ？を含む砂質土。
6　灰白色の砂層。
イ　Hr-FA
ロ　Ｃ黒混土。

0　1：80　2m

第３-28図　溝６

(19) 19・22号溝(第３-27,28図、PL.15)

位置　X=48001～48009、Y=-74323～-74325、調査区西部に位置する。

形状　断面箱状の溝が21号溝の東西部に交差する位置から検出された。埋没土の状況から個別の溝と判断されるが、両者の境界は確認されていない。

規 模　19号 溝(3.09) ×0.81～0.92×0.51～0.54m、22号 溝(4.50) ×0.63～0.85×0.50～0.58m。19号 溝 底 面の南端標高193.19m、北端標高193.17m、溝両端での標高差0.02m、22号溝底面の南端標高193.16m、北端標高193.12m、溝両端での標高差0.04mを測る。

走行方位(度)　19号溝N-６-E、22号溝N-７-E。

埋没土　微量のAs-Cが混入する黒褐色土。なお19号溝の土は砂質である。

重複　下位に21号溝が位置する。

遺物　図化には至らないが、19号溝から須恵器(２片、12g)が出土している。

所見　本遺構のうち19号溝の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。21号溝より新しい。なお22号溝からは表土の落ち込みが確認されており、調査時の所見によれば近現代の農耕に伴う遺構と推測されている。

(20) 20・21号溝

a　20号溝(第３-27,28図、PL.15)

位置　X=48000～48005、Y=-74315～-74317、に位置する。

形状　調査区南辺近くから、南辺の調査区外に続く溝が検出された。

規模　(3.76)×0.65×0.11 ～ 0.18m。溝底面の南端標高193.34m、北端標高193.32m、溝両端での標高差0.02mを測る。

走行方位(度)　N-14-E

埋没土　微量のAs-Cを含む黒褐色土に覆われる。

重複　上位に21号溝、31号土坑、32号土坑が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。31号土坑、32号土坑に先行する。21号溝との新旧は判然としないが、21号溝より新しい可能性がある。

b　21号溝(第３-27,28,52図、PL.15)

位置　X=48002～48017、Y=-74306～-74330、調査区西部に位置する。

形状　平面形は鉤の手状を呈する。走向と長さは、N-４-E(11.99)m、N-82-W24.19mと続き北辺調査区外に至る。

規模　(25.61)×0.91～1.53×0.44～0.69m。溝底面の北端標高193.15m、東端標高192.53m、溝両端での標高差0.62mを測る。

走行方位(度)　N-60-W

埋没土　軽石を含まない砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　上位に14号溝、17号溝、19号溝、20号溝、22号溝、32号土坑が位置する。

遺物　羽釜(83)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(17片、32g)、須恵器(３片、14g)、灰釉陶器(２片、８g)、羽釜(３片、43g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀)以降に比定される。14号溝、17号溝、19号溝、22号溝、32号土坑に先行する。14号溝との交差部からは、21号溝が屈曲し北上する痕跡が確認されており、北に開いたコの字状を呈すると推察される。20号溝との新旧は判然としないが、20号溝に先行する可能性がある。

６　井戸

本調査区からは４基の井戸が検出されている。いずれの井戸も、竪穴建物や掘立柱建物が集中する調査区東側の南北３m東西30m程度の帯状の範囲から検出されている。３基は中世の遺構であるが、１基は帰属する時期を特定しえなかった。

(１)１号井戸(第３-29,52図、PL.16,27)

位置　X=48002～48005、Y=-74251～-74254、調査区東端寄りに位置する。

形状　平面形は四隅突出した隅丸方形を呈し、側面形はいびつな筒状を呈する。

規模　1.88×1.72×2.91m

主軸方位(度)　N-89-W

埋没土　砂質性のある褐色土。

重複　なし。

遺物　埋没土下層の７層付近から常滑陶器甕(84)、軋

元重寶(85)、不明鉄製品(86,87)、埋没土中から龍泉窯系青磁碗(88)、羽口(89)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(５片、７g)、須恵器(２片、16g)、中世中国磁器(２点、10g)、在地系土器(３点、15g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。

(２)２号井戸(第３-30,52図、PL.16,28)

位置　X=48002～48006、Y=-74248～-74252、調査区東端寄りに位置する。

形状　平面形は偏円形を呈し、断面は逆台形状を呈する。

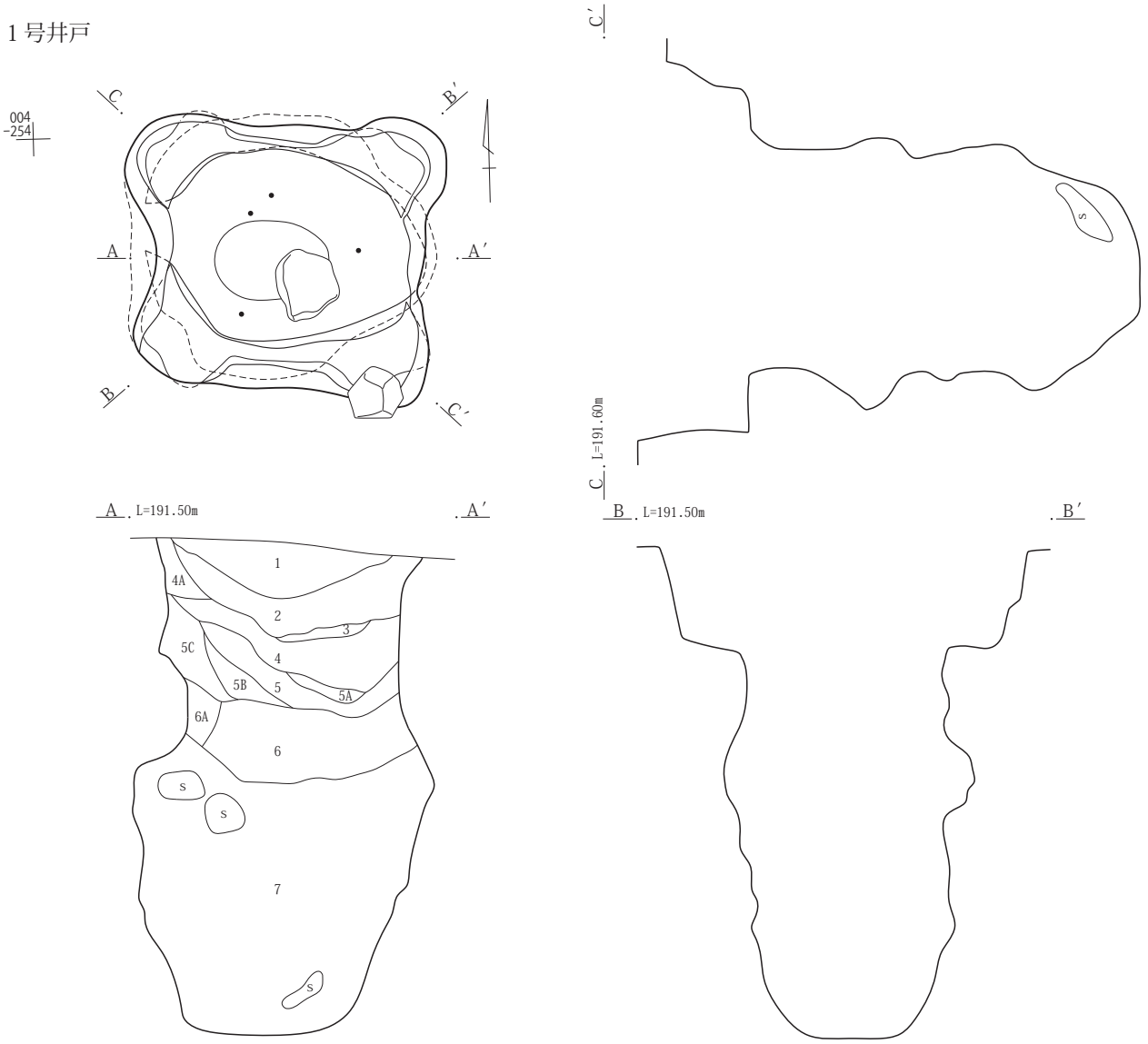
規模　3.24×3.24×3.78m

主軸方位(度)　N-16-W

埋没土　φ２㎜の褐色粒子を含む黒褐色土と、黄褐色土ブロックと黒褐色土の混土の混土。

重複　９号竪穴状遺構の上位に位置する。

遺物　埋没土から常滑陶器広口壺(90)、常滑陶器甕(91)、在地系土器内耳鍋(92)が出土しているほか、鉄滓や土



1号井戸
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５㎜のAs-Cを含む、砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/1)１より軽石少なく、砂質性あり。
3　褐灰色土(10YR5/1)２に灰褐色土がブロック状に混入。
4　暗褐色土(10YR3/3)φ５㎜程度の小礫を含む、砂質性あり。
4A　４より黄褐色粒子が多いため、４より黄味あり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)φ５～10㎜程度の小礫を少量含む。
5A　にぶい黄褐色土(10YR4/3)４と５の中間的色調。
5B　５と近似、やや小礫多い。
5C　5Bに黄褐色粒子が多く混入し、5Bより黄味つよい。
6　褐色土(10YR4/4)φ５～10㎜の小礫を含む、砂質性あり。
6A　６に黄褐色土ブロックが混入。
7　褐色土(10YR4/4)６に近似するが黒味がやや強い。

0　1：40　1m

第３-29図　井戸１

師器（７片、14g）、須恵器（５片、394g）、灰釉陶器（３片、13g）、羽釜（２片、26g）、中世国産焼締陶器（８点、965g）、在地系土器(11点、320g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。９号竪穴状遺構より新しい。

（３）３号井戸(第３-31図、PL.17)

位置　X=48003～48005、Y=-74265～-74268、調査区中央東寄りに位置する。

形状　平面形は略円形をなし、側面形は上部のやや広い筒状を呈する。

規模　1.50×1.34×2.49m

主軸方位(度)　N-69-W

埋没土　砂質性のある黒褐色土、下層に円礫混入。

重複　４号溝の下位に位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠け不明である。４号溝に先行する。

（４）４号井戸(第３-31,52図、PL.17,28)

位置　X=48005～48007、Y=-74275～-74277、調査区中央東寄りに位置する。

形状　平面形は長円形を呈し、側面形は中間に膨らみを持つ筒状を呈する。

規模　1.36×1.08×2.73m

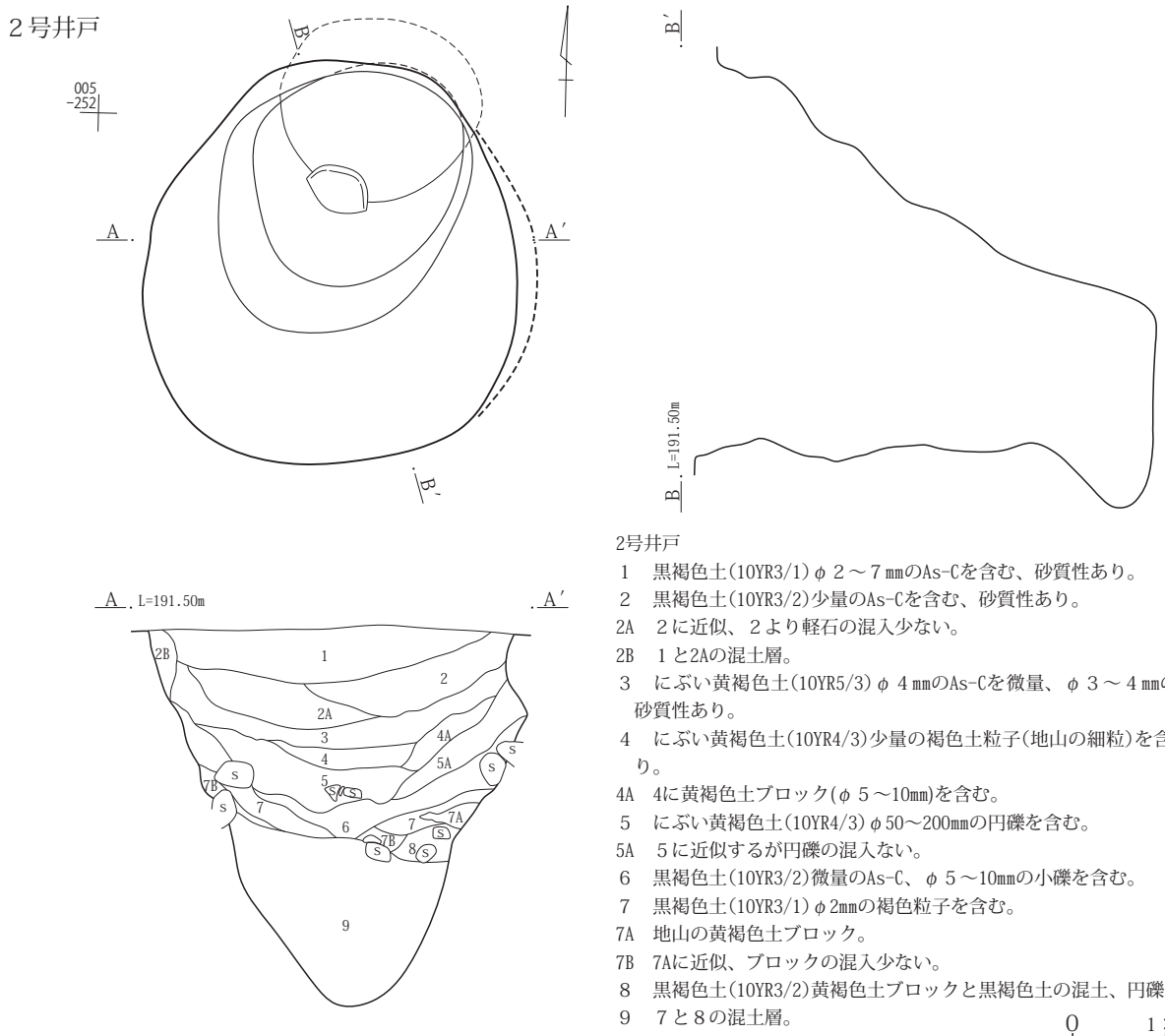
主軸方位(度)　N-20-E

埋没土　微量のAs-C、小礫を含み砂質性のある黒褐色土。

重複　下位に４号溝が位置する。

遺物　埋没土下層の６層から鉄釘(93)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器（２片、８g）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比



2号井戸
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～７㎜のAs-Cを含む、砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-Cを含む、砂質性あり。
2A　２に近似、２より軽石の混入少ない。
2B　１と2Aの混土層。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)φ４㎜のAs-Cを微量、φ３～４㎜の小礫を含む、砂質性あり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量の褐色土粒子(地山の細粒)を含む、砂質性あり。
4A　4に黄褐色土ブロック(φ５～10㎜)を含む。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)φ50～200㎜の円礫を含む。
5A　５に近似するが円礫の混入ない。
6　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ５～10㎜の小礫を含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)φ2㎜の褐色粒子を含む。
7A　地山の黄褐色土ブロック。
7B　7Aに近似、ブロックの混入少ない。
8　黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土ブロックと黒褐色土の混土、円礫混入。
9　７と８の混土層。

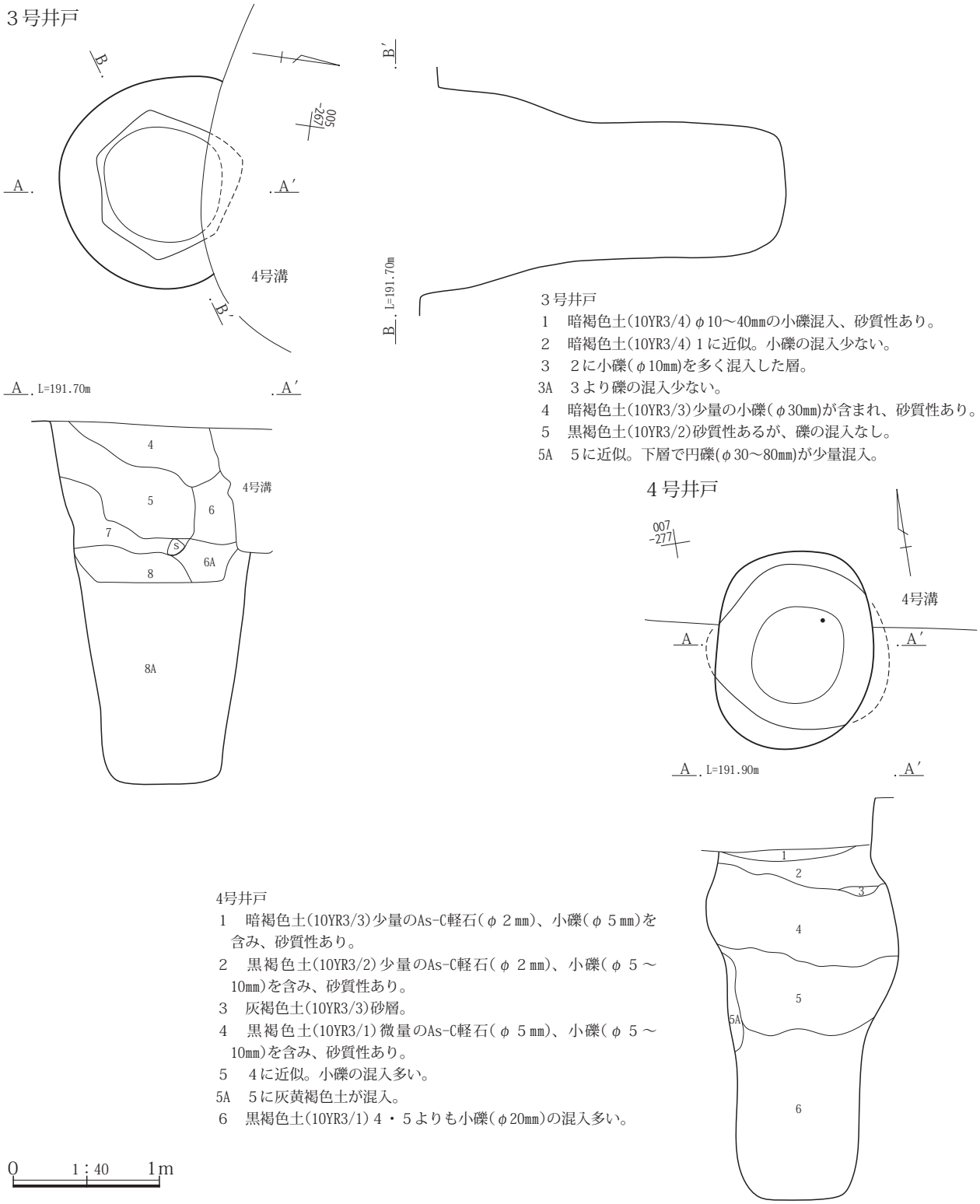
0　1：40　1m

第３-30図　井戸２

定されるが、４号溝より新しいため、中世以降に帰属する。

7　土坑

１面からは38基の土坑が検出されているが、調査区の東半に偏って分布し、調査区西半から検出された土坑は４基にとどまる。この４基の土坑も調査区中央寄りからの出土であり、山側である調査区西端からはまったく検出されていない。平安時代の土坑１基、近世の土坑１基が確認されているほか、５基が中世の土坑と推察されるが、残りの遺構については時期を特定するに至らなかった。



第３-31図　井戸３

（１）１号土坑(第３-32図、PL.17)

位置　X=48005～48006、Y=-74238～-74239、調査区東半北辺寄りに位置する。

形状等　南半のみの検出であるが、平面形は隅丸方形を呈すると推察される。湾曲した底部が検出された。

規模　1.64×(0.98)×0.19m

主軸方位(度)　N-10-W

埋没土　As-C、褐色軽石を含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(１点、６g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

（２）２号土坑(第３-32図、PL.17)

位置　X=48003～48005、Y=-74234～-74236、調査区東端近くに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.69×1.05×0.32m

主軸方位(度)　N-60-W

埋没土　褐色土ブロックが混入し、小礫(φ10㎜)を少量含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(５点、11g)、羽釜(５点、49g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

（３）３号土坑(第３-32図、PL.17,18)

位置　X=48007～48008、Y=-74234～-74235、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は細長い台形状を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.33×0.80×0.19m

主軸方位(度)　N-72-W

埋没土　少量のAs-Cを含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(２点、８g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

（４）４号土坑(第３-32図、PL.18)

位置　X=48008～48009、Y=-74240～-74241、調査区東端近くの北辺に位置する。

形状等　北辺が調査区外に位置するが、平面形は隅丸長方形を呈すると推察される。平坦な底部が検出された。

規模　(1.04)×0.98×0.19m

主軸方位(度)　N- 8-E

埋没土　微量のAs-Cを含む砂質の暗褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(１点、４g)、近世国産磁器(１点、10g)、施釉陶器(１点、１g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から近世以降に比定される。

（５）５号土坑(第３-32図、PL.18)

位置　X=48004～48005、Y=-74240～-74241、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は方形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　1.05×1.02×0.15m

主軸方位(度)　N-80-W

埋没土　小礫を含むにぶい黄褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、土師器(１点、１g)、須恵器(２点、17g)が出土しているほか、調査時点において獣骨も確認されている。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

（６）６号土坑(第３-32,52図、PL.18)

位置　X=47999～48001、Y=-74247～-74248、調査区東半に位置する。

形状等　平面形は長方形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　1.45×0.80×0.12m

主軸方位(度)　N- 0

埋没土　少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。
重複　なし。
遺物　埋没土から陶器甕(94)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(１点、１g)、中世在地系土器(１点、20g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。なお、調査所見によれば近世以降の可能性も指摘されている。

(７)７号土坑(第３-32図、PL.18)
位置　X=4800、Y=-74235～-74236、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。
形状等　攪乱により遺構南半が確認されず、平面形は不明である。湾曲した底部が検出された。
規模　(1.28)×(0.66)×0.35m
主軸方位(度)　N-70-W
埋没土　As-Cを含む黒褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

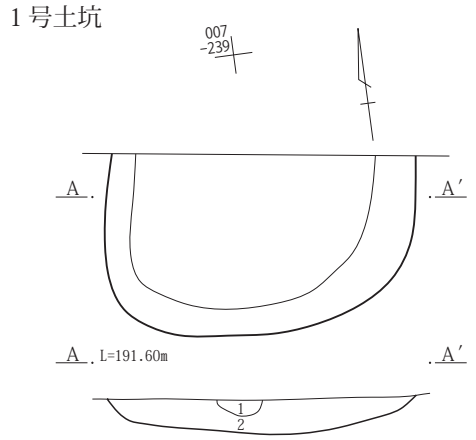
(８)８号土坑(第３-32図、PL.19)
位置　X=48006～48007、Y=-74239～-74240、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は方形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　1.25×1.17×0.25m
主軸方位(度)　N-８-E
埋没土　As-Cを含む砂質の暗褐色土。
重複　なし。
遺物　図化には至らなかったが、土師器(２点、４g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

(９)９号土坑(第３-33図、PL.19)
位置　X=47994～47997、Y=-74236～-74239、調査区東端近くの南辺寄りに位置する。
形状等　平面形は隅丸長方形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　3.25×2.00×0.09m
主軸方位(度)　N-74-W
埋没土　少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。
重複　上位に２号溝、２号ピット、３号ピットが位置する。
遺物　図化には至らなかったが、土師器(２点、４g)、灰釉陶器(１点、３g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。２号溝、２号ピット、３号ピットのいずれにも先行する。

(10) 10号土坑(第３-33,52図、PL.19)
位置　X=48007～48009、Y=-74245～-74247、調査区東半の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　1.96×1.58×0.13m
主軸方位(度)　N-14-E
埋没土　微量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。
重複　下位に３号溝が位置する。
遺物　埋没土から灰釉陶器椀(95)が出土したほか、灰釉陶器(１点、11g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀後半)以降に比定されるが、３号溝より新しいため、中世以降に帰属する。

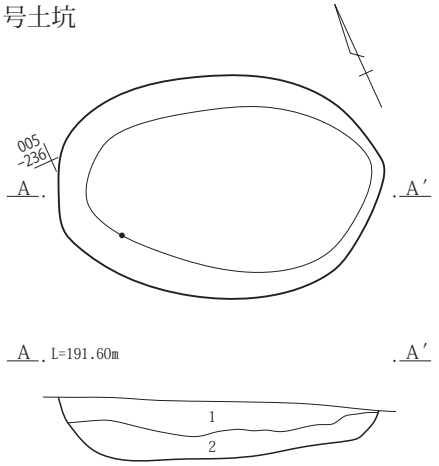
(11) 11号土坑(第３-33図、PL.19)
位置　X=48005～48006、Y=-74259～-74260、調査区東半の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　1.00×0.89×0.16m
主軸方位(度)　N-52-W
埋没土　白色軽石を含む砂質の黒褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

１号土坑



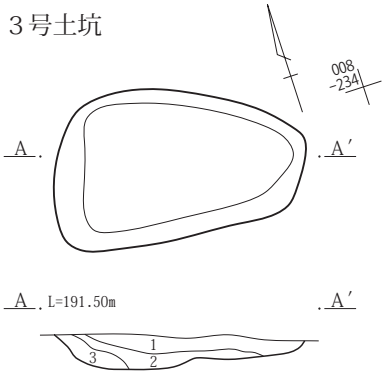
１号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２㎜のAs-Cを少量含む。砂質性あり。
2　暗褐色土(10YR3/3)φ２～５㎜のAs-C、褐色軽石を含む。

２号土坑



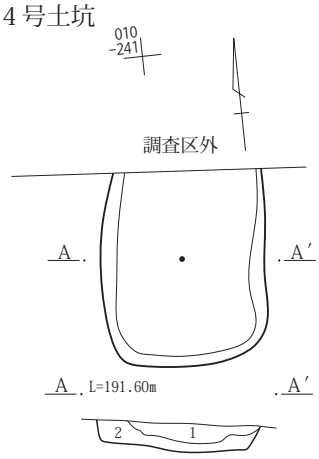
２号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ2～5㎜の軽石、φ10㎜の小礫含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)小礫(φ10㎜)を少量含む。褐色土ブロックの混入あり。

３号土坑



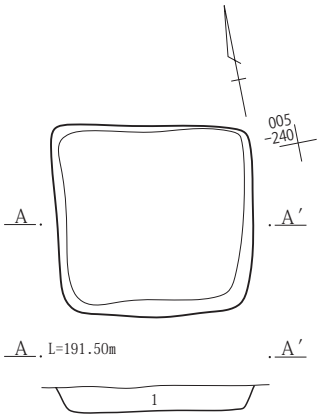
３号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)φ２～５㎜のAs-C、φ10㎜の褐色土ブロック含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)地山(黒色土)の土。

４号土坑



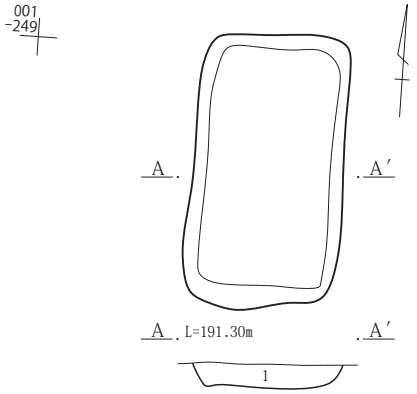
４号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-Cを含む砂質土。
2　暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-Cを含む砂質土。

５号土坑



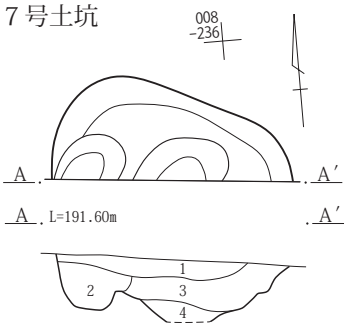
５号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)小礫φ７㎜を含む。獣骨混入。

６号土坑



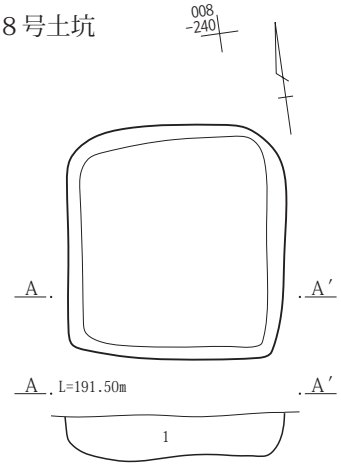
６号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C(φ2～5㎜)を含む砂質土。

７号土坑



７号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C(φ２～５㎜)を含む、砂質性あり。
2　暗褐色土(10YR3/4)少量のAs-C(φ３～５㎜)を含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)As-C(φ３～５㎜)、炭化物を含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)φ２～７㎜のAs-Cを含む。

８号土坑



８号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-Cを含む砂質土。

0　1：40　1m

第３-32図　土坑１

(12) 12・13・15～18号土坑

ａ　12号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=48008～48009、Y=-74256～-74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.20×1.12×0.30m

主軸方位(度)　N-３-W

埋没土　上層はAs-Cを少量含み、下層は砂質の灰黄褐色土。

重複　上位に１号ピット、下位に13号土坑、18号土坑が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、中世在地系土器(７点、12g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。13号土坑、18号土坑より新しく、１号ピットに先行する。

ｂ　13号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=48007～48008、Y=-74257～-74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.04×0.90×0.30m

主軸方位(度)　N-14-E

埋没土　砂質のにぶい黄橙色土。

重複　上位に12号土坑、18号土坑、下位に17号土坑が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。12号土坑､18号土坑に先行する。

ｃ　15号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=48007～48008、Y=-74259～-74260、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。筒状に掘り込まれている。

規模　0.92×0.87×1.02m

主軸方位(度)　N-36-W

埋没土　少量のAs-Cとφ５㎜の礫を多く含む砂質の暗褐色土。

重複　下位に17号土坑が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

ｄ　16号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=48009、Y=-74258～-74259、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.91×0.78×0.34m

主軸方位(度)　N-12-W

埋没土　少量のAs-C、炭化物、褐灰色の灰が斑点状に混入する黒褐色土。

重複　下位に17号土坑が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

ｅ　17号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=48008、Y=-74258～-74259、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は不整形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.10×0.73×0.26m

主軸方位(度)　N-３-W

埋没土　少量のAs-C、焼土粒、灰黄褐色土ブロックが混入する鈍い黄褐色土。

重複　上位に15号土坑、16号土坑、18号土坑が位置する。

遺物　図化には至らなかったが、須恵器(２点、35g)、羽釜(１点、11g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。15号土坑、16号土坑、18号土坑のいずれにも先行する。

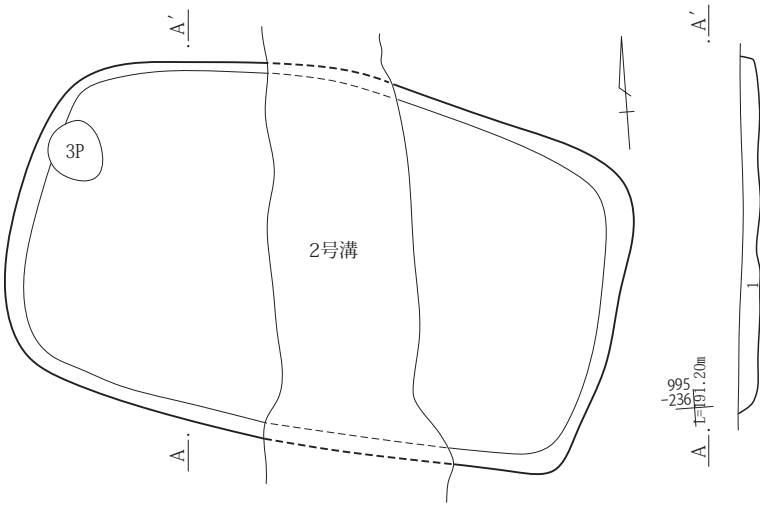
ｆ　18号土坑(第３-33図、PL.20)

位置　X=4800～、Y=-74257～-74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

形状等　南半が確認されず平面形は不明。湾曲した底部が検出された。

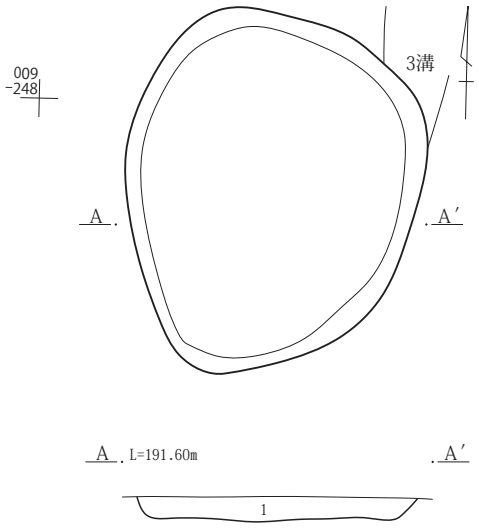
規模　(0.72)×(0.61)×(0.14)m

９号土坑



９号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２㎜の少量のAs-Cを含む。砂質性あり。

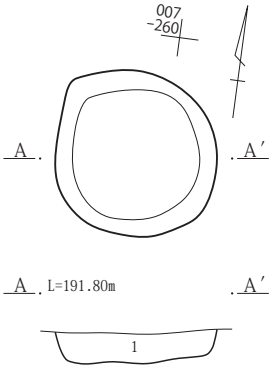
10 号土坑



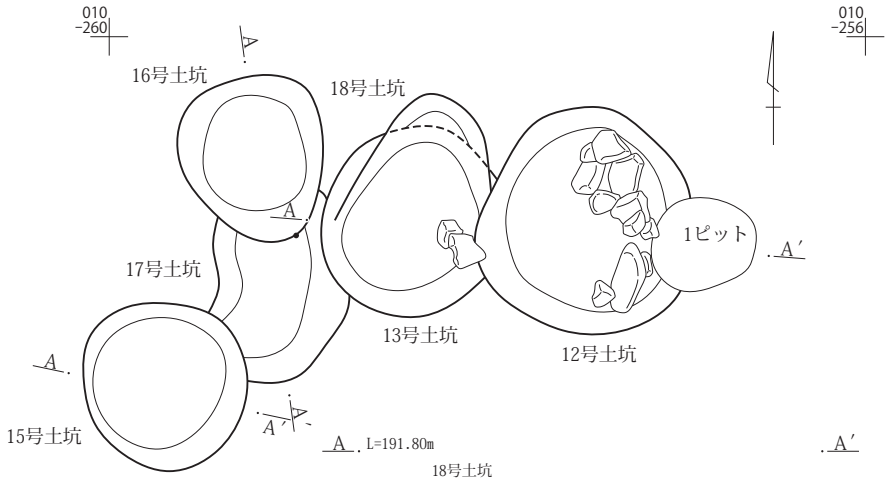
10号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。砂質性あり。

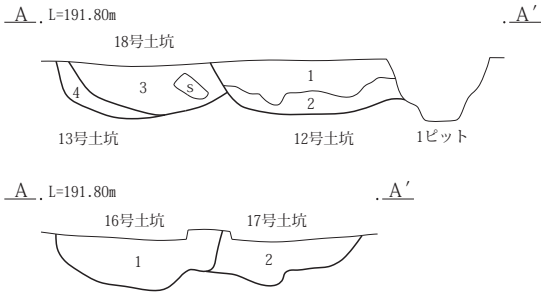
12,13,15 ～ 18 号土坑

11 号土坑

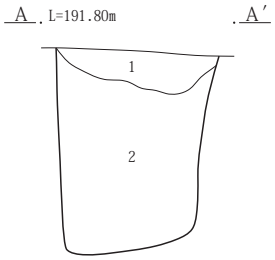


11号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)φ１㎜の白色軽石を含む。砂質性あり。





15 号土坑



12号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Cを少量含む。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)As-Cを少量含むにぶい黄褐色土から砂質の鈍い黄橙色土への漸移帯。
13号土坑
4　鈍い黄橙色土(10YR7/2)かたくしまる砂質土。

15号土坑
1　褐色土(10YR4/4)少量のAs-C、φ５㎜の礫含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)少量のAs-C、φ５㎜の礫を多く含む。砂質性あり。
16号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C、炭化物、褐灰色の灰がブロック状(斑点状)に混入。
17号土坑
2　鈍い黄褐色土(10YR4/3)少量のAs-C、焼土粒子、灰黄褐色土ブロックが混入。

18号土坑
3　暗褐色土(10YR3/3)灰黄褐色土が斑点状に混入、一括埋てん土か？。

0　1：40　1m

第３-33図　土坑２

主軸方位(度)　N-12-E
埋没土　灰黄褐色土が斑点状に混入する暗褐色土。
重複　下位に13号土坑が位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、13号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

(13)14号土坑(第３-34図、PL.20)
位置　X=48010～48011、Y=-74259～-74260、調査区東半の北辺に位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。
規模　1.06×0.94×0.30m
主軸方位(度)　N- 6-E
埋没土　As-C、炭化物を含む暗褐色土。
重複　なし。
遺物　図化には至らなかったが、中世在地系土器(２点、６g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(14)19号土坑(第３-34図、PL.20)
位置　X=48006～48007、Y=-74269～-74270、調査区中央辺に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　0.90×0.88×0.30m
主軸方位(度)　N-9-E
埋没土　As-C、φ10㎜の小礫の混入した砂質の黒褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

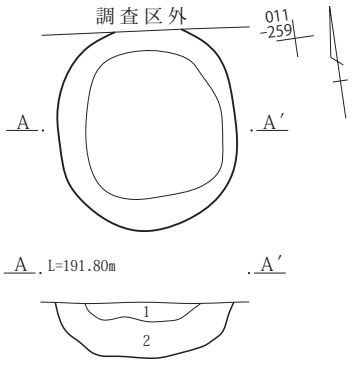
(15) 21号土坑(第３-34図、PL.21)
位置　X=48002～48003、Y=-74276～-74277、調査区中央辺に位置する。
形状等　平面形は隅丸方形を呈する。湾曲した底部が検出された。
規模　1.04×1.03×0.40m
主軸方位(度)　N-12-E
埋没土　C黒の混入するオリーブ褐色土。
重複　下位に10号竪穴状遺構が位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、10号竪穴状遺構より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(16) 22号土坑(第３-34図、PL.21)
位置　X=48001～48002、Y=-74251～-74252、調査区東半に位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。
規模　1.13×1.01×1.06m
主軸方位(度)　N-41-E
埋没土　褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(17)24号土坑(第３-34図)
位置　X=47994～47995、Y=-74253、調査区東半の南辺に位置する。
形状等　南半が調査区外に及び平面形は不明ではあるが、隅丸長方形を呈すると推察される。底部は平坦で、側壁は外に開く。
規模　1.00×0.48×0.35m
主軸方位(度)　N-14-E
埋没土　褐色土が筋状に混入し、As-DとAs-Cを少量含む黒褐色土。
重複　上位に７号ピット列P1が位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。７号ピット列P1に先行する。

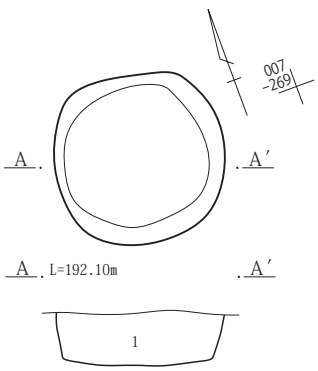
(18)25号土坑(第３-34,52図、PL.21,28)
位置　X=48005、Y=-74256～-74257、調査区東半に位置する。

14号土坑



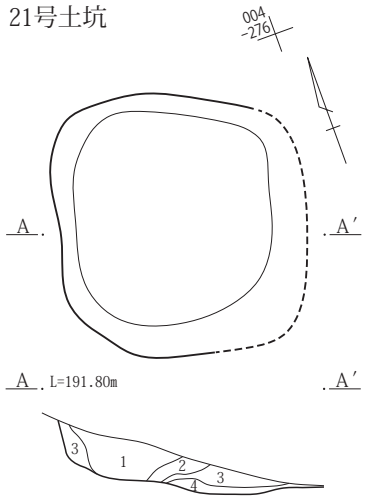
14号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3) As-C、少量の炭化物を含む。
2　1に近似、やや黒味強い。

19号土坑



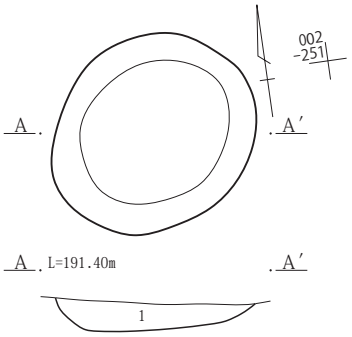
19号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)少量のAs-C、φ10mmの小礫混入。砂質性あり。

21号土坑



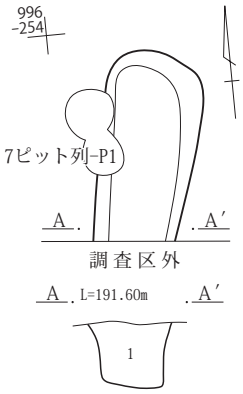
21号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む、明黄褐色土のブロックが混入。
2　明黄褐色土(2.5Y6/6)C黒を少量含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)1と2の土が半々。
4　オリーブ褐色土(2.5Y4/4) C黒混入。

22号土坑



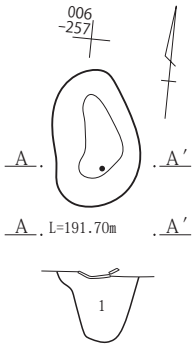
22号土坑
1　褐色土(10YR4/4)底部に10cm程の礫が３個混入。

24号土坑



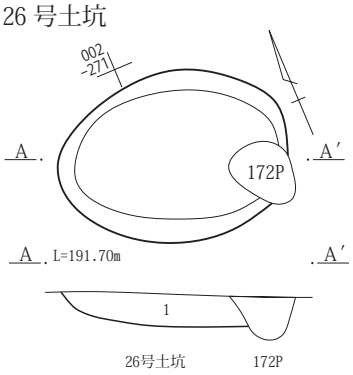
24号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3) As-DとAs-Cを少量含む。褐色土が筋状に混入。

25号土坑



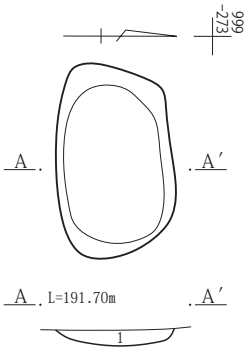
25号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックとAs-Cが少量混入。

26号土坑



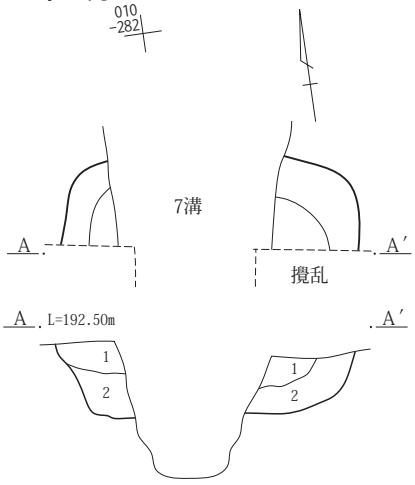
26号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む、底部で礫が混入。

27号土坑



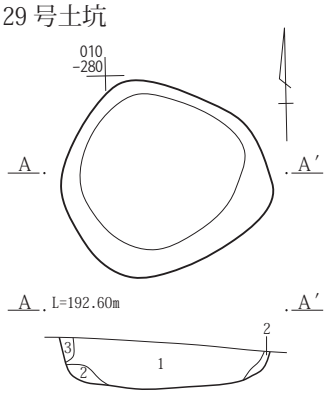
27号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)中央部の底部に礫がある、褐色土との混合土。

28号土坑



28号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3) As-C(φ２～５mm)を含む。砂質性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C(φ２～５mm)を含む。

29号土坑



29号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～10mmのAs-Cを多く含み砂質性あり。
2　暗褐色土　地山の土。
3　C黒混土　地山の土。

0　1：40　1m

第３-34図　土坑３

形状等　平面形は長円形を呈する。底部は湾曲し、側壁は外に開く。
規模　0.72×0.45×0.39m
主軸方位(度)　N-15-W
埋没土　褐色土ブロックとAs-Cが少量混入する暗褐色土。
重複　なし。
遺物　埋没土から在地系土器内耳鍋(96)が出土しているほか、図化にはいたらなかったが、時期不詳土器(１点、15g)が出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(19)26号土坑(第３-34図)
位置　X=48000～48001、Y=-74270～-74271、調査区中央東寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。
規模　1.23×0.93×1.75m
主軸方位(度)　N-65-W
埋没土　As-Cを含む暗褐色土。
重複　上位に172号ピットが位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。172号ピットに先行する。

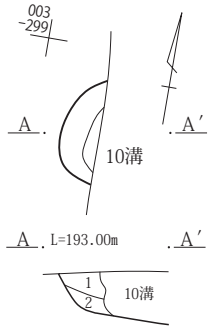
(20)27号土坑(第３-34図)
位置　X=47998、Y=-74271～-74272、調査区中央東寄りに位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。
規模　1.04×0.63×0.95m
主軸方位(度)　N-85-E
埋没土　褐色土の混ざった暗褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(21) 28号土坑(第３-34図、PL.21)
位置　X=48008～48009、Y=-74281～-74282、調査区中央北寄りに位置する。
形状等　南半は撹乱され平面形は不明であるが、方形を呈すると推測される。底部は平坦で、側壁は外に開く。
規模　1.60×1.24×(0.30)m
主軸方位(度)　N-79-E
埋没土　少量のAs-Cを含む黒褐色土。
重複　上位に７号溝が位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(22)29号土坑(第３-34図、PL.22)
位置　X=48008～48009、Y=-74279～-74280、調査区中央北寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。
規模　1.14×1.06×0.27m
主軸方位(度)　N-88-W
埋没土　As-Cを多く含み砂質の黒褐色土。
重複　なし。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

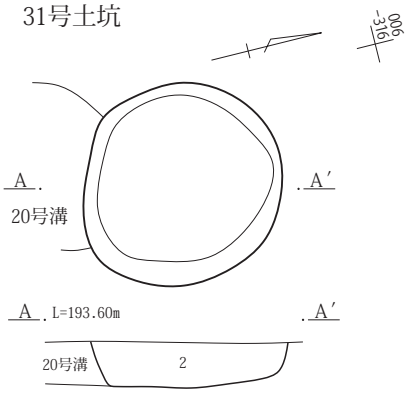
(23)30号土坑(第３-35図、PL.22)
位置　X=48002、Y=-74298、調査区中央西寄りに位置する。
形状等　東半を10号溝に崩され平面形は不明。湾曲した底部が検出された。
規模　(0.86)×(0.43)×(0.28)m
主軸方位(度)　N-17-E
埋没土　少量のAs-Cを含む黒褐色土。
重複　上位に10号溝が位置する。
遺物　なし。
所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。10号溝に先行する。

30号土坑



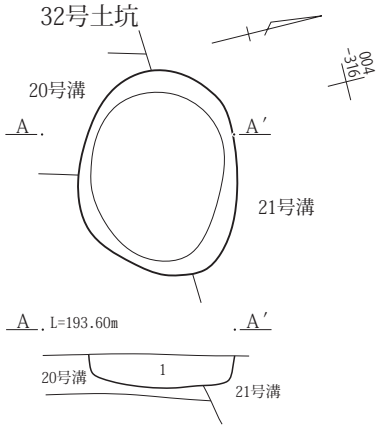
30号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５㎜のAs-Cを含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C（φ２～３㎜)を含む。

31号土坑



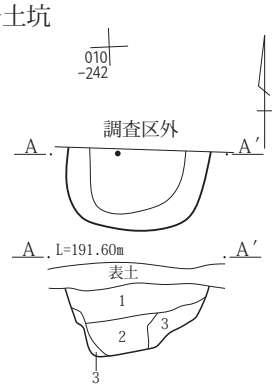
31号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含み、砂質性あり。

32号土坑



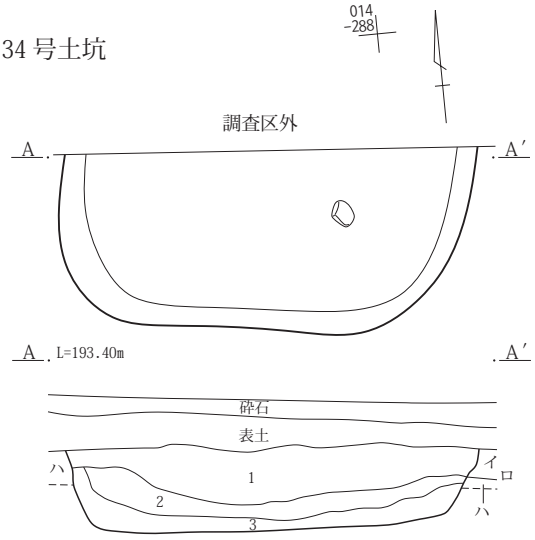
32号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。砂質性あり。

33 号土坑



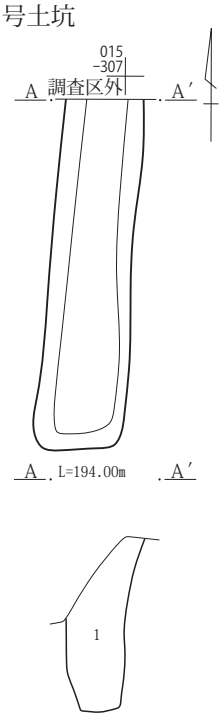
33号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。1よりも粘性あり。
3　褐色土(10YR4/6)砂質土。

34 号土坑

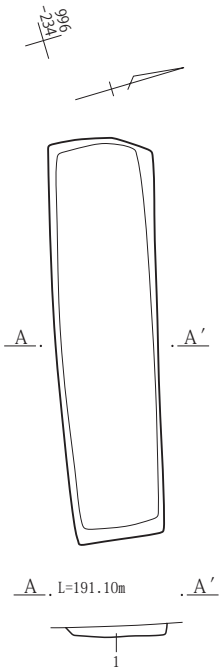


34号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2) As-C(φ２～５㎜)を含む。
2　黒褐色土(10YR3/1) As-C(φ２～５㎜)を含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Cを含む。(ハの土)
イ　暗褐色土の地山。
ロ　Hr-FA
ハ　C黒混土。

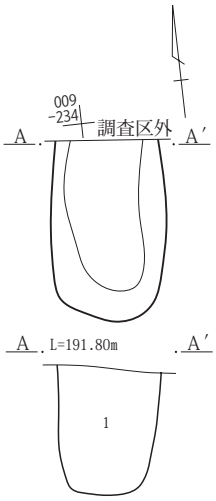
35 号土坑



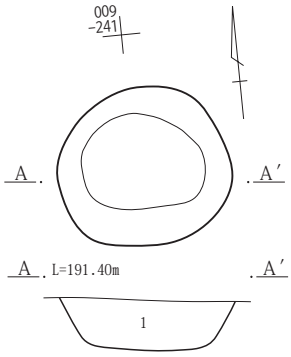
36 号土坑



37 号土坑



38 号土坑



35号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)As-B(?)を含む、砂質性あり。
37号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。
36,38号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)赤褐色の軽石を含む。

0　1：40　1m

第３-35図　土坑４

(24)31号土坑(第３-35図、PL.22)

位置　X=48004～48005、Y=-74315～-74316、調査区西半に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　1.06×1.04×0.23m

主軸方位(度)　N-50-E

埋没土　微量のAs-Cを含み、砂質の黒褐色土。

重複　下位に20号溝が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、20号溝より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(25)32号土坑(第３-35図、PL.22)

位置　X=48002～48003、Y=-74315～-74316、調査区西半に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　1.06×0.84×0.18m

主軸方位(度)　N-74-W

埋没土　微量のAs-Cを含み、砂質の黒褐色土。

重複　下位に20号溝と21号溝が位置する。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、21号溝より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(26)33号土坑(第３-35,52図、PL.28)

位置　X=48009、Y=-74241～-74242、調査区東半の北辺に位置する。

形状等　北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、方形を呈すると推察される。底部はやや傾くが平坦で、側壁は外に開く。

規模　(0.45)×0.75×0.36m

主軸方位(度)　N- 6-E

埋没土　As-Cを含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　埋没土より墨書された須恵器杯(97)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。

(27)34号土坑(第３-35図、PL.22)

位置　X=48012～48013、Y=-74287～-74289、調査区中央の北辺に位置する。

形状等　北半が調査区外に及び不明であるが、平面形は隅丸方形を呈すると推察される。平坦な底部が検出された。

規模　2.20×(1.00)×0.46m

主軸方位(度)　N-80-W

埋没土　微量のAs-Cを含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(28)35号土坑(第３-35図)

位置　X=48013～48014、Y=-74307、調査区中央の北辺に位置する。

形状等　北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、長方形を呈すると推察される。底部平坦で深く掘り込まれている。

規模　(1.85)×0.45×0.92m

主軸方位(度)　N- 4-E

埋没土　軽石を含む、砂質の黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土に混入する軽石はAs-Bの可能性があるとのことであり、平安時代(12世紀)以降に帰属する可能性がある。

(29)36号土坑(第３-35図、PL.23)

位置　X=47995～47996、Y=-74231～-74233、調査区東端に位置する。

形状等　平面形は長方形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　2.16×0.54×0.06m

主軸方位(度)　N-77-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(30)37号土坑(第３-35図、PL.23)

位置　X=48007～48008、Y=-74233～-74234、調査区東端の北辺に位置する。

形状等　北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、長方形を呈すると推察される。底部平坦で深く掘り込まれている。

規模　(0.96)×0.60×0.70m

主軸方位(度)　N- 9-E

埋没土　As-Cを含む暗褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(31)38号土坑(第３-35図、PL.23)

位置　X=48007～48008、Y=-74240～-74241、調査区北辺東端寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.92×0.85×0.34m

主軸方位(度)　N-82-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む暗褐色土。

重複　上層に４号土坑が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(32) 39号土坑(第３-36図、PL.23)

位置　X=48003～48004、Y=-74236～-74238、調査区東端寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.84×0.98×0.47m

主軸方位(度)　N-47-E

埋没土　酸化鉄と玉石が少量混入した暗褐色土。

重複　上層に２号溝が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(33)40号土坑(第３-36,53図、PL.23,28)

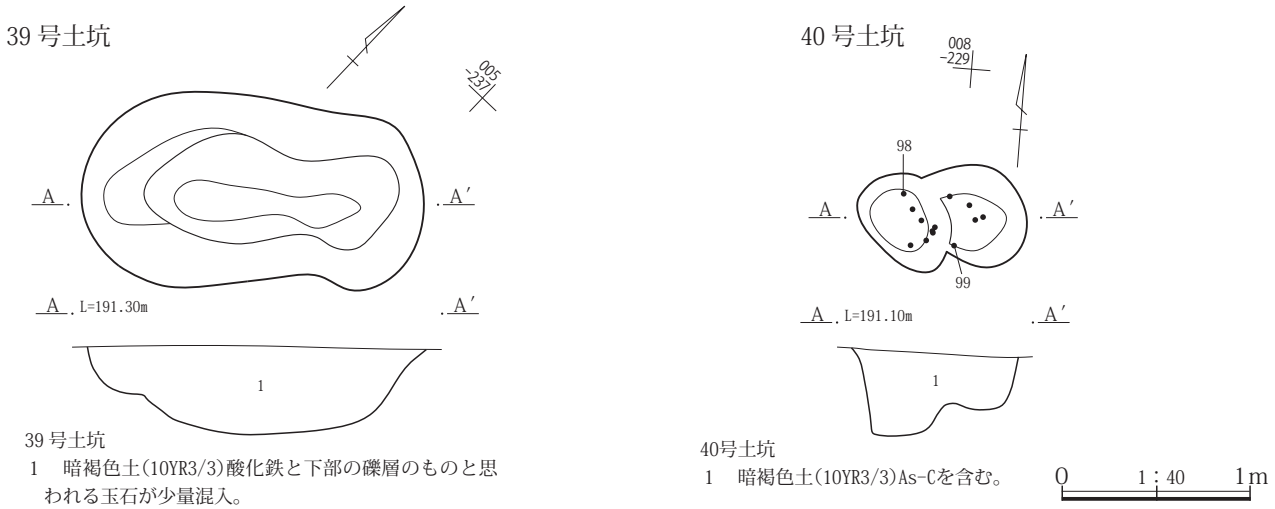
位置　X=48006～48007、Y=-74228～-74229、調査区東端北寄りに位置する。

形状等　平面形は双円形を呈する。西側の円の方が深く掘り込まれている。

規模　0.90×0.56×0.46m

主軸方位(度)　N-85-E

埋没土　As-Cを含む暗褐色土。



39 号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)酸化鉄と下部の礫層のものと思われる玉石が少量混入。

40号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。

第３-36図　土坑５

重複　上層に６号竪穴建物が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

遺物　底部から羽釜(98)、埋没土から灰釉陶器椀(99)、磨石(100)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(５点、16g)、須恵器(13点、227g)、羽釜(３点、150g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。切り合い関係は確認されていないが、６号竪穴建物出土の破片と接合関係にある破片も出土しており、６号竪穴建物の床下土坑となる可能性も否定しえない。

8　ピット

１面からは144基のピットが検出されているが、調査区西半から検出されたピットは６基にとどまる。多くのピットは、掘立柱建物やピット列が集中する調査区中央東寄りの南辺沿いに集中している。

遺物を伴うピットは８基確認されているが、うち１基(119号ピット)は鉄釘(101)の出土のため、遺構の年代を推測しえるピットは７基となる。このうち平安時代の遺物を出土したピットは39号ピット、120号ピット、137号ピットの３基である。また中世の遺物が出土したピットは53号ピット、94号ピット、115号ピット、187号ピットの４基である。

地盤が緩い地域で採用されるという、柱穴底面に礎石を設置する工法と同様に、ピット底部から石が検出された遺構が12基確認されている。これらのピットから構成される遺構は確認されていない。

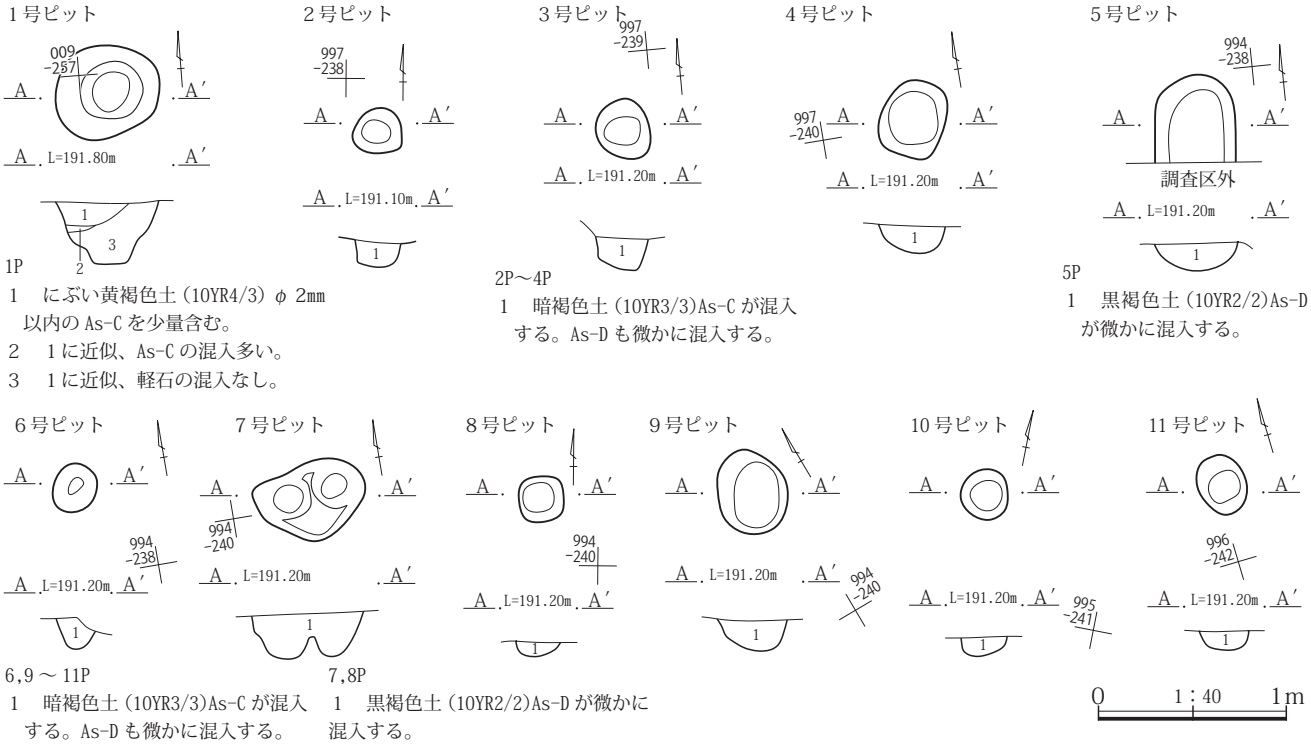
(第３-37～43,53図、PL.24,28)

第３-14表　ピット計測表

区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位（度）	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	１号ピット	X=48008　Y=-74256	長円形	0.56	0.49	0.36	N-79-E	12号土坑	
1	1	２号ピット	X=47996　Y=-74237	長円形	0.26	0.24	0.13	N-14-E	９号土坑、２号溝	
1	1	３号ピット	X=47996　Y=-74239	長円形	0.30	0.28	0.20	N-36-W	９号土坑	
1	1	４号ピット	X=47996　Y=-74239	長円形	0.40	0.34	0.16	N-28-W		
1	1	５号ピット	X=47993　Y=-74238	長円形	(0.47)	0.43	0.15	N-４-E	２号溝	
1	1	６号ピット	X=47994　Y=-74238	長円形	0.28	0.24	0.17	N-26-E	２号溝	
1	1	７号ピット	X=47993　Y=-74239	不定形	0.50	0.40	0.22	N-66-E		
1	1	８号ピット	X=47994　Y=-74240	隅丸方形	0.24	0.24	0.08	N-O		
1	1	９号ピット	X=47994　Y=-74239	長円形	0.45	0.37	0.14	N-７-E		
1	1	10号ピット	X=47995　Y=-74241	長円形	0.28	0.25	0.10	N-33-W		
1	1	11号ピット	X=47996　Y=-74241	長円形	0.32	0.27	0.10	N-15-W		
1	1	12号ピット	X=47997　Y=-74241	長円形	0.33	0.39	0.21	N-35-W		
1	1	13号ピット	X=47996　Y=-74242	長円形	0.45	0.34	0.22	N-77-W		
1	1	14号ピット	X=47994　Y=-74245	長円形	0.27	0.25	0.15	N-27-W		
1	1	15号ピット	X=47994　Y=-74245	長円形	0.35	0.32	0.16	N-37-W		
1	1	16号ピット	X=47994　Y=-74245	隅丸方形	0.24	0.25	0.15	N-16-E		
1	1	17号ピット	X=47994　Y=-74245	長円形	0.25	0.24	0.15	N-２-E		
1	1	20号ピット	X=47995　Y=-74248	長円形	0.26	0.25	0.09	N-６-W		
1	1	21号ピット	X=47995　Y=-74249	長円形	0.26	0.24	0.12	N-36-E		
1	1	23号ピット	X=47995　Y=-74250	長円形	0.22	0.17	0.20	N-43-E		
1	1	26号ピット	X=47995　Y=-74254	長円形	0.24	0.18	0.18	N-29-W		
1	1	28号ピット	X=47996　Y=-74256	長円形	0.29	0.22	0.16	N-15-W		
1	1	29号ピット	X=47995　Y=-74234	長円形	0.40	0.36	0.24	N-73-W		
1	1	30号ピット	X=47993　Y=-74233	長円形	0.43	0.36	0.13	N-84-W		
1	1	31号ピット	X=47994　Y=-74235	長円形	(0.60)	0.53	0.18	N-80-E	32号土坑	
1	1	32号ピット	X=47994　Y=-74235	長円形	0.60	0.50	0.20	N-32-E	31号土坑	
1	1	33号ピット	X=47996　Y=-74235	長円形	0.24	0.22	0.13	N-２-E	176号ピット	
1	1	34号ピット	X=47996　Y=-74235	長円形	0.44	0.38	0.22	N-26-W	176号ピット	
1	1	35号ピット	X=47995　Y=-74242	長円形	0.32	0.25	0.12	N-７-W		
1	1	36号ピット	X=47994　Y=-74244	長円形	0.26	0.21	0.06	N-36-W		
1	1	39号ピット	X=48004　Y=-74256	長円形	0.45	0.43	0.26	N-38-W		灰釉陶器(1点3g)
1	1	40号ピット	X=48005　Y=-74255	不定形	0.45	0.38	0.15	N-61-W		礎石様の石
1	1	41号ピット	X=48005　Y=-74257	長円形	0.42	0.29	0.16	N-30-E		
1	1	42号ピット	X=47998　Y=-74246	長円形	0.29	0.23	0.33	N-42-E	１号竪穴状遺構	
1	1	43号ピット	X=48004　Y=-74242	長円形	0.34	0.26	0.23	N-33-W		
1	1	44号ピット	X=48005　Y=-74242	長円形	0.42	0.30	0.27	N-71-E		
1	1	45号ピット	X=48006　Y=-74242	長円形	0.28	0.25	0.24	N-75-W		
1	1	46号ピット	X=48005　Y=-74244	長円形	0.54	0.46	0.25	N-68-W	174号ピット	
1	1	47号ピット	X=48008　Y=-74243	長円形	0.52	0.50	0.62	N-50-W		
1	1	48号ピット	X=48008　Y=-74244	長円形	0.42	0.34	0.23	N-79-W		
1	1	49号ピット	X=48006　Y=-74244	円形	0.26	0.26	0.23	N-O	174号ピット	
1	1	50号ピット	X=48005　Y=-74244	長円形	0.36	0.32	0.14	N-76-W		
1	1	52号ピット	X=48001　Y=-74254	長円形	0.34	0.32	0.25	N-40-W		礎石様の石

区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位（度）	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	53号ピット	X=48004　Y=-74257	長円形	0.52	0.46	0.40	N-25-W	77号ピット	中世遺物
1	1	54号ピット	X=48004　Y=-74259	長円形	0.36	0.32	0.32	N-20-W	79号ピット	
1	1	55号ピット	X=48005　Y=-74262	長円形	0.77	0.58	0.53	N- 3-W	180号ピット	
1	1	56号ピット	X=48004　Y=-74254	長円形	0.42	0.36	0.13	N-53-E		礎石様の石
1	1	58号ピット	X=48000　Y=-74258	長円形	0.36	0.28	0.37	N-80-W	59号ピット	
1	1	59号ピット	X=48000　Y=-74258	長円形	(0.40)	0.30	0.12	N-12-E	58号ピット	礎石様の石
1	1	60号ピット	X=48000　Y=-74260	長円形	0.43	0.38	0.17	N-19-E		
1	1	61号ピット	X=47998　Y=-74257	長円形	0.36	0.32	0.11	N-30-E		礎石様の石
1	1	62号ピット	X=47998　Y=-74258	長円形	(0.38)	0.30	0.12	N-43-E	38号ピット	
1	1	63号ピット	X=47996　Y=-74257	長円形	0.22	0.25	0.19	N-42-E	64号ピット	
1	1	64号ピット	X=47996　Y=-74257	長円形	0.23	0.24	0.14	N-42-E	63号ピット	
1	1	66号ピット	X=47996　Y=-74261	長円形	0.32	0.28	0.30	N-13-W		
1	1	67号ピット	X=47998　Y=-74259	長円形	0.40	0.38	0.13	N-61-W		礎石様の石
1	1	68号ピット	X=47997　Y=-74261	長円形	0.35	0.28	0.14	N-18-E		
1	1	70号ピット	X=47996　Y=-74265	長円形	0.33	0.30	0.44	N- 6-W		
1	1	71号ピット	X=47997　Y=-74239	長円形	0.29	0.26	0.17	N-26-E		礎石様の石
1	1	72号ピット	X=48008　Y=-74269	隅丸方形	0.30	0.30	0.30	N-17-E		
1	1	73号ピット	X=48007　Y=-74270	長円形	0.40	0.38	0.18	N-46-W		
1	1	74号ピット	X=48008　Y=-74264	長円形	0.43	0.30	0.13	N-26-W	23号土坑	
1	1	75号ピット	X=48001　Y=-74254	長円形	0.38	0.36	0.11	N-46-W		礎石様の石
1	1	76号ピット	X=48001　Y=-74256	長円形	0.36	0.30	0.14	N-24-E		
1	1	77号ピット	X=48004　Y=-74257	長円形	0.33	(0.24)	0.33	N-80-W	53号ピット	
1	1	78号ピット	X=48005　Y=-74259	長円形	0.34	0.28	0.26	N-72-E		
1	1	79号ピット	X=48004　Y=-74259	長円形	0.41	(0.22)	0.38	N-15-W	54号ピット	
1	1	87号ピット	X=48005　Y=-74257	長円形	0.38	0.34	0.04	N-27-E		礎石様の石
1	1	89号ピット	X=47999　Y=-74262	長円形	(0.19)	0.18	0.20	N-13-E	90号ピット	
1	1	91号ピット	X=47998　Y=-74262	長円形	0.26	0.22	0.13	N-10-E		
1	1	92号ピット	X=47997　Y=-74262	長円形	0.50	0.47	0.30	N-20-E	93号ピット	
1	1	94号ピット	X=47998　Y=-74263	長円形	0.36	0.26	0.22	N-19-E		中世遺物
1	1	95号ピット	X=47997　Y=-74264	長円形	0.35	0.26	0.30	N-16-E	96号ピット	
1	1	96号ピット	X=47997　Y=-74264	長円形	0.41	0.37	0.22	N-37-W	95号ピット	
1	1	97号ピット	X=47998　Y=-74265	長円形	0.38	0.32	0.29	N-27-E		
1	1	101号ピット	X=47997　Y=-74267	長円形	0.37	0.26	0.22	N- 3-E	173号ピット	
1	1	103号ピット	X=47996　Y=-74270	長円形	0.33	0.23	0.29	N- 0	157号ピット	
1	1	105号ピット	X=47999　Y=-74268	長円形	0.55	0.37	0.16	N-25-E		礎石様の石
1	1	106号ピット	X=47998　Y=-74268	長円形	0.21	0.20	0.13	N- 5-E		
1	1	107号ピット	X=47998　Y=-74268	長円形	0.30	0.29	0.17	N- 5-E		
1	1	108号ピット	X=47998　Y=-74269	長円形	0.34	0.32	0.15	N- 5-W		
1	1	111号ピット	X=48000　Y=-74269	長円形	0.33	0.30	0.47	N-16-W		
1	1	112号ピット	X=48001　Y=-74269	長円形	0.24	0.22	0.30	N-40-W		
1	1	114号ピット	X=48002　Y=-74267	長円形	0.45	0.34	0.33	N-56-W		
1	1	115号ピット	X=48003　Y=-74268	長円形	0.36	0.25	0.25	N-23-W	188号ピット	中世遺物
1	1	116号ピット	X=48003　Y=-74269	長円形	0.34	0.28	0.13	N-12-E		
1	1	117号ピット	X=48001　Y=-74270	長円形	0.29	0.25	0.29	N-13-W		
1	1	119号ピット	X=47998　Y=-74267	長円形	0.30	0.20	0.11	N-24-E		底面より鉄釘
1	1	120号ピット	X=48001　Y=-74263	長円形	0.42	0.40	0.44	N-52-E		土師器(1点4g)
1	1	121号ピット	X=47999　Y=-74263	長円形	0.37	0.34	0.23	N-69-E	122号ピット	
1	1	122号ピット	X=47999　Y=-74263	長円形	0.32	(0.27)	0.46	N-69-E	121号ピット	
1	1	123号ピット	X=47999　Y=-74264	長円形	0.35	0.31	0.25	N-37-W		
1	1	125号ピット	X=47999　Y=-74266	長円形	0.28	0.26	0.23	N-17-W		
1	1	127号ピット	X=48001　Y=-74266	長円形	0.33	0.27	0.21	N-35-W		礎石様の石
1	1	128号ピット	X=47999　Y=-74267	長円形	0.24	0.18	0.18	N-55-W		
1	1	130号ピット	X=47998　Y=-74268	長円形	0.33	0.30	0.20	N- 5-E		
1	1	131号ピット	X=47998　Y=-74269	長円形	0.35	0.29	0.18	N-31-E		
1	1	132号ピット	X=47999　Y=-74269	長円形	0.21	0.21	0.17	N- 0		
1	1	134号ピット	X=48000　Y=-74268	長円形	0.33	0.28	0.27	N-14-W		
1	1	136号ピット	X=48002　Y=-74268	長円形	0.55	0.46	0.27	N- 9-E		
1	1	137号ピット	X=48003　Y=-74269	長円形	0.32	0.25	0.27	N-77-E		須恵器(1点28g)
1	1	138号ピット	X=48003　Y=-74270	長円形	0.25	0.20	0.35	N-18-W		
1	1	141号ピット	X=48003　Y=-74272	長円形	0.26	0.24	0.26	N-20-E		
1	1	142号ピット	X=48003　Y=-74272	長円形	0.32	0.26	0.18	N-32-E		
1	1	146号ピット	X=48004　Y=-74273	長円形	0.34	0.25	0.22	N-56-E		
1	1	152号ピット	X=48000　Y=-74272	長円形	0.23	0.20	0.24	N- 9-E		
1	1	154号ピット	X=47999　Y=-74271	長円形	0.26	0.24	0.11	N-20-E	155号ピット	
1	1	155号ピット	X=47999　Y=-74271	長円形	0.50	0.39	0.19	N-71-E	154号ピット	
1	1	157号ピット	X=47996　Y=-74270	長円形	(0.50)	0.32	0.24	N-17-E	103号ピット	
1	1	158号ピット	X=47996　Y=-74271	長円形	0.25	0.22	0.14	N-42-W	159号ピット	
1	1	159号ピット	X=47996　Y=-74271	長円形	0.26	0.24	0.18	N-12-W	158号ピット	

区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位（度）	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	162号ピット	X=47996　Y=-74273	長円形	0.30	0.25	0.42	N-13-E		
1	1	164号ピット	X=47997　Y=-74274	長円形	0.38	0.35	0.13	N-73-W		
1	1	166号ピット	X=47997　Y=-74276	長円形	0.37	0.27	0.18	N-20-W		
1	1	167号ピット	X=47998　Y=-74276	長円形	(0.32)	0.31	0.20	N-71-W	168号ピット	
1	1	169号ピット	X=47998　Y=-74277	長円形	0.27	0.19	0.27	N-61-W		
1	1	170号ピット	X=47998　Y=-74278	長円形	0.28	0.26	0.32	N-12-W		
1	1	172号ピット	X=48000　Y=-74270	長円形	0.36	0.28	0.23	N-８-W	26号土坑	
1	1	173号ピット	X=47997　Y=-74267	長円形	0.23	(0.20)	0.33	N-１-W	101号ピット	礎石様の石
1	1	174号ピット	X=48006　Y=-74244	長円形	0.35	0.32	0.24	N-45-E	46,49号ピット	
1	1	175号ピット	X=48005　Y=-74245	長円形	0.33	0.30	0.14	N-６-E		
1	1	176号ピット	X=47995　Y=-74235	長円形	0.40	—	0.34	N-63-W	33,34号ピット	
1	1	180号ピット	X=48006　Y=-74262	不定形	0.40	0.35	0.23	N-68-W	55号ピット	
1	1	181号ピット	X=48006　Y=-74256	長円形	0.40	0.30	0.16	N-16-E		
1	1	182号ピット	X=48006　Y=-74255	長円形	0.28	0.26	0.22	N-59-W		
1	1	183号ピット	X=48005　Y=-74252	長円形	0.35	0.30	0.13	N-74-W		
1	1	184号ピット	X=48007　Y=-74252	長円形	0.24	0.22	0.14	N-８-E		
1	1	185号ピット	X=47997　Y=-74263	長円形	0.26	0.24	0.19	N-45-E		
1	1	186号ピット	X=47995　Y=-74254	長円形	0.22	0.20	0.14	N-５-W		
1	1	187号ピット	X=48001　Y=-74265	長円形	0.54	0.50	0.42	N-47-W		中世遺物
1	1	188号ピット	X=48003　Y=-74267	長円形	(0.38)	0.27	0.23	N-23-W	115号ピット	
1	1	189号ピット	X=48001　Y=-74261	長円形	0.57	0.48	0.17	N-13-W	179号ピット	
1	1	190号ピット	X=48004　Y=-74262	長円形	0.39	0.29	0.11	N-７-W		
1	1	192号ピット	X=48001　Y=-74257	長円形	0.40	0.28	0.31	N-20-W		
1	1	193号ピット	X=48001　Y=-74257	長円形	0.42	0.34	0.30	N-67-W		
1	1	194号ピット	X=47995　Y=-74259	長円形	(0.38)	0.26	0.15	N-３-W		
1	1	195号ピット	X=47999　Y=-74285	長円形	0.52	0.36	0.58	N-17-E		
1	1	196号ピット	X=48010　Y=-74331	長円形	0.54	0.43	0.43	N-19-E		
1	1	197号ピット	X=48008　Y=-74331	長円形	0.56	0.50	0.34	N-18-W		
1	1	198号ピット	X=48003　Y=-74304	長円形	0.28	0.26	0.14	N-８-E		
1	1	199号ピット	X=48013　Y=-74299	長円形	0.57	0.40	0.22	N-23-W		
1	1	200号ピット	X=48014　Y=-74304	長円形	(0.56)	0.43	0.34	N-52-E		
1	1	201号ピット	X=48000　Y=-74303	長円形	0.41	0.38	0.20	N-20-W		
1	1	202号ピット	X=48002　Y=-74235	長円形	0.58	0.42	0.31	N-12-E		
1	2	203号ピット	X=48004　Y=-74294	長円形	0.66	0.64	0.14	N-23-W		縄文土器(1点32g)
1	2	204号ピット	X=48000　Y=-74294	長円形	0.56	0.46	0.17	N-16-E		
1	2	205号ピット	X=48008　Y=-74292	長円形	0.46	0.38	0.14	N-70-W		
1	2	206号ピット	X=48012　Y=-74285	長円形	0.34	0.28	0.12	N-７-W		
1	2	207号ピット	X=48005　Y=-74317	長円形	0.65	0.50	0.34	N-29-E		
1	2	208号ピット	X=48006　Y=-74320	長円形	0.38	0.37	0.28	N-８-W		



第３-37図　ピット１

12号ピット　13号ピット　14号ピット　15号ピット　16号ピット　17号ピット

12,13P
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C が混入する。
As-D も微かに混入する。

14～17P
1　黒褐色土（10YR2/2）As-D と褐色土の
ブロックが混入する。

20号ピット　21号ピット　23号ピット　26号ピット　28号ピット　29号ピット

20～23,28P
1　黒褐色土（10YR2/2）As-D と
褐色土のブロックが混入する。

26P
1　黒褐色土（10YR2/2）As-D
が微かに混入する。

29P
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C が混入する。
As-D も微かに混入する。

30号ピット　31,32号ピット　33,34,176号ピット　35号ピット

31号ピット　32号ピット

33号ピット　176号ピット　34号ピット

30,33,34P
1　黒褐色土（10YR2/2）
As-D を微かに含む。

31,32P
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C が混入
する。As-D も微かに混入する。

176P
1　黒褐色土（10YR2/2）As-C
と炭化物が混入。

35P
1　暗褐色土（10YR3/3）
褐色土のブロックと
As-C が混入する。

36号ピット　39号ピット　40号ピット　41号ピット　42号ピット　43号ピット

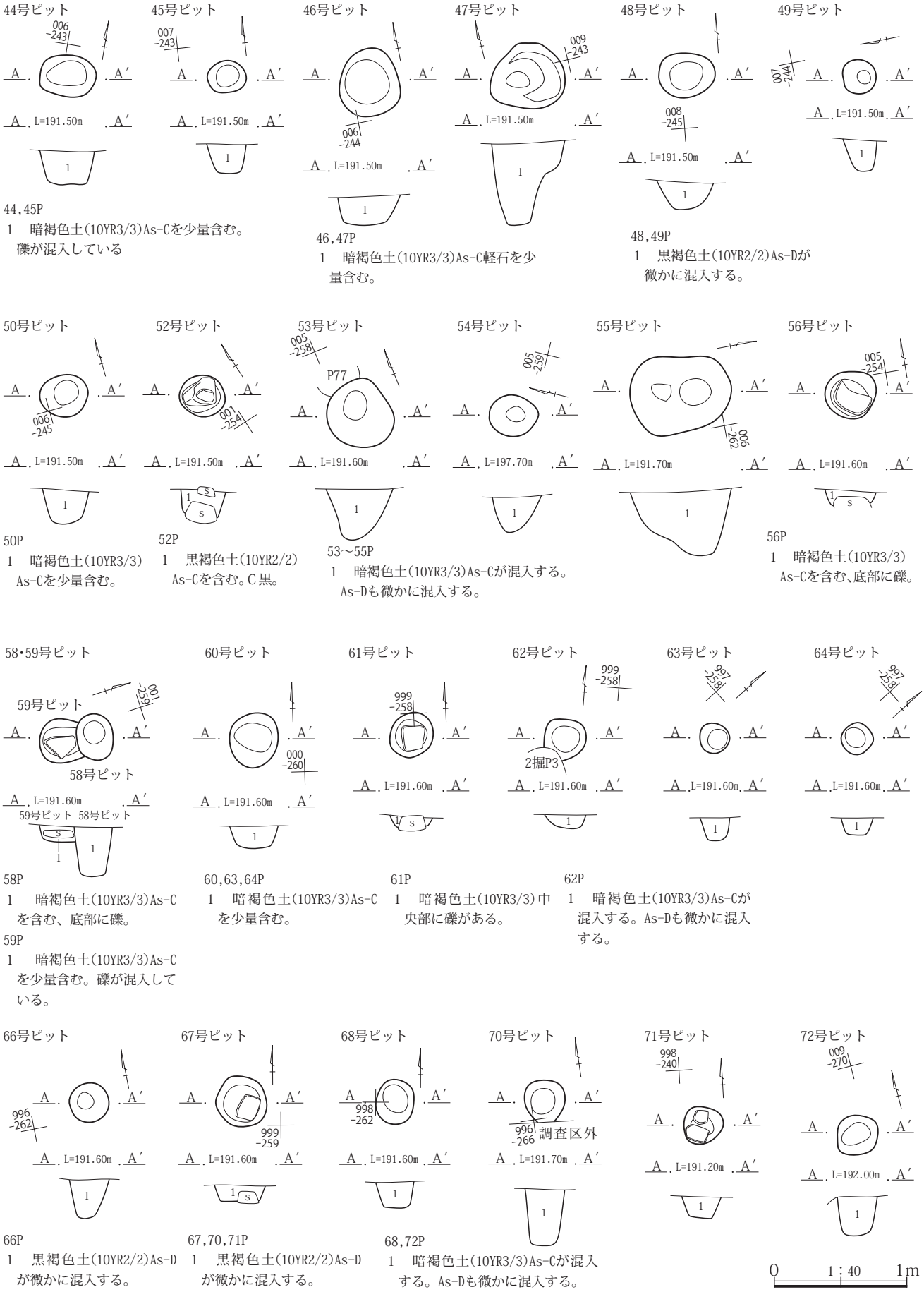
36～38P
1　黒褐色土（10YR2/2）As-D と褐
色土のブロックが混入する。

39～42P
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C が混入
する。As-D も微かに混入する。

43P
1　暗褐色土（10YR3/3）As-C
を少量含む。

0　1：40　1m

第３-38図　ピット２



44,45P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。
礫が混入している

46,47P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-C軽石を少量含む。

48,49P
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Dが微かに混入する。

50P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。

52P
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む。C黒。

53～55P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

56P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む、底部に礫。

58P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む、底部に礫。

59P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。礫が混入している。

60,63,64P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。

61P
1　暗褐色土(10YR3/3)中央部に礫がある。

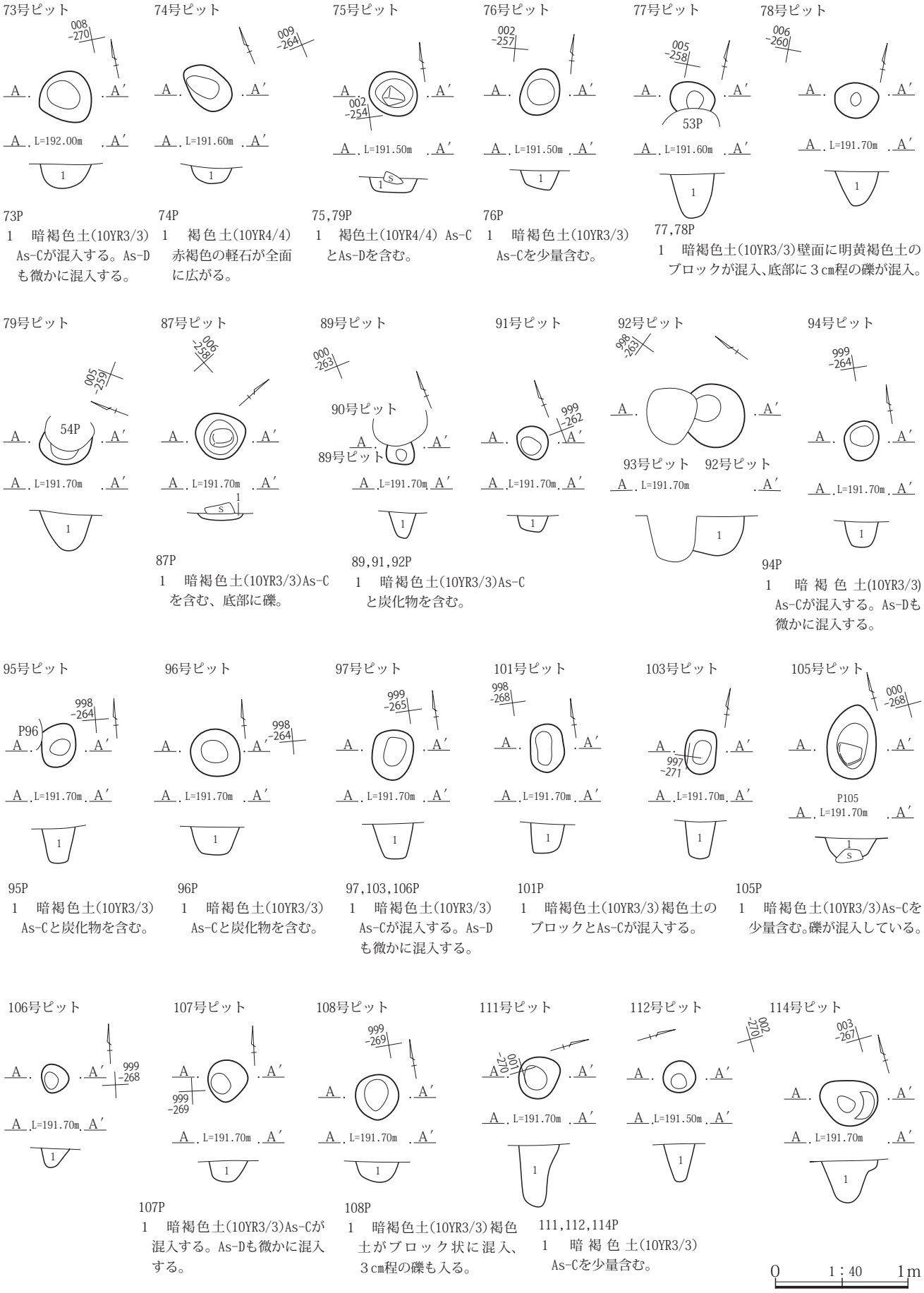
62P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

66P
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Dが微かに混入する。

67,70,71P
1　黒褐色土(10YR2/2)As-Dが微かに混入する。

68,72P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

第３-39図　ピット３



73P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

74P
1　褐色土(10YR4/4) 赤褐色の軽石が全面に広がる。

75,79P
1　褐色土(10YR4/4) As-CとAs-Dを含む。

76P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cを少量含む。

77,78P
1　暗褐色土(10YR3/3)壁面に明黄褐色土のブロックが混入、底部に３cm程の礫が混入。

87P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む、底部に礫。

89,91,92P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと炭化物を含む。

94P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

95P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cと炭化物を含む。

96P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cと炭化物を含む。

97,103,106P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

101P
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックとAs-Cが混入する。

105P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。礫が混入している。

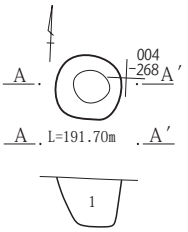
107P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

108P
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土がブロック状に混入、３cm程の礫も入る。

111,112,114P
1　暗褐色土(10YR3/3) As-Cを少量含む。

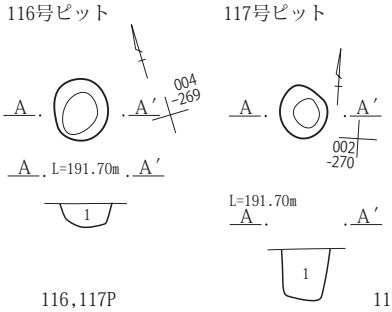
第３-40図　ピット4

115号ピット



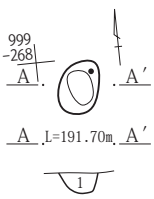
115P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

116号ピット　117号ピット



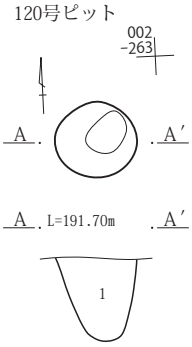
116,117P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。礫が混入している。

119号ピット



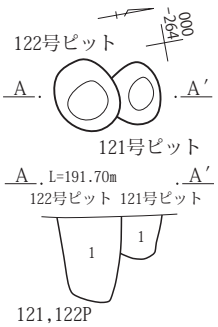
119P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

120号ピット



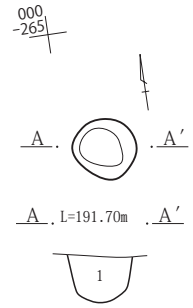
120P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。

121・122号ピット



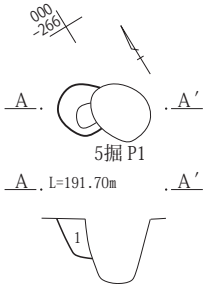
121,122P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

123号ピット



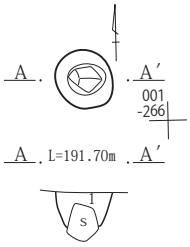
123P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。炭化物が入る。

125号ピット



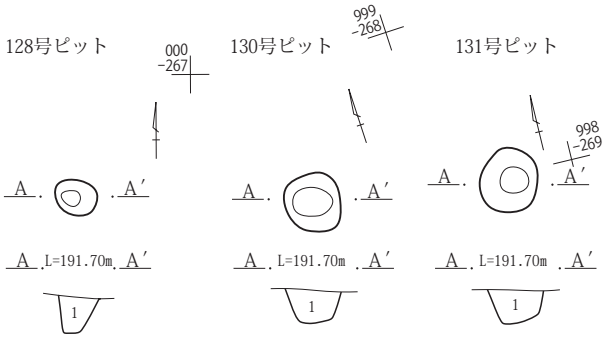
125,128P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

127号ピット



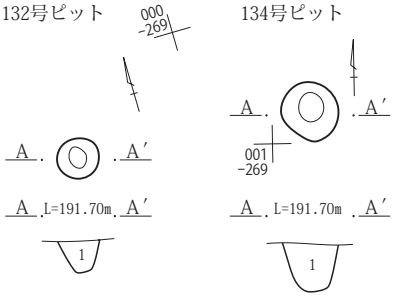
127P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。底部中央に15cm程の礫。

128号ピット　130号ピット　131号ピット



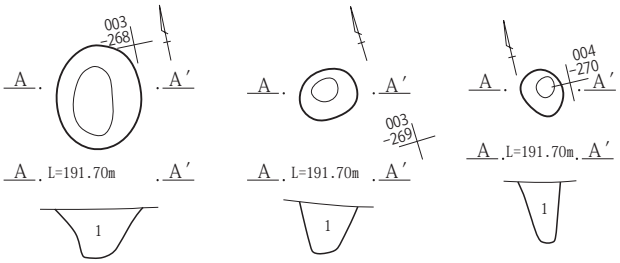
130,131P
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土とAs-Cが混入。

132号ピット　134号ピット



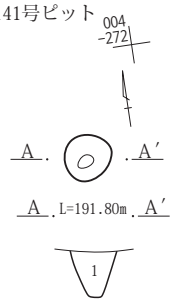
132,134P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。

136号ピット　137号ピット　138号ピット



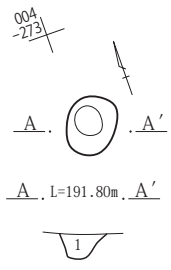
136～138P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。下部で礫層の礫が混入。

141号ピット



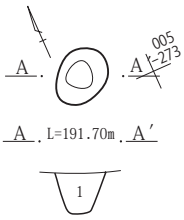
141P
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土とAs-Cが混入。

142号ピット



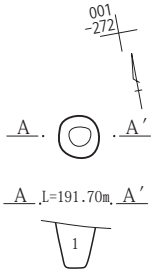
142,152P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

146号ピット

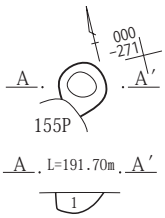


146P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。小礫が多い。

152号ピット



154号ピット



154P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

0　1：40　1m

第３-41図　ピット5

155号ピット　157号ピット　158・159号ピット　162号ピット　164号ピット　166号ピット

155,157P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

158,159,163,164P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

166P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。

167号ピット　169号ピット　170号ピット　172号ピット　173号ピット　174号ピット

167P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

169P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

170P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。

172P
1　暗褐色土(10YR3/2)As-Dを含み、褐色土のブロックが混入する。

173P
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックが混入する。

174,175P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

175号ピット　180号ピット　181号ピット　182号ピット　183号ピット　184号ピット

180P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。

181～185P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

185号ピット　186号ピット　187号ピット　188号ピット　189号ピット　190号ピット

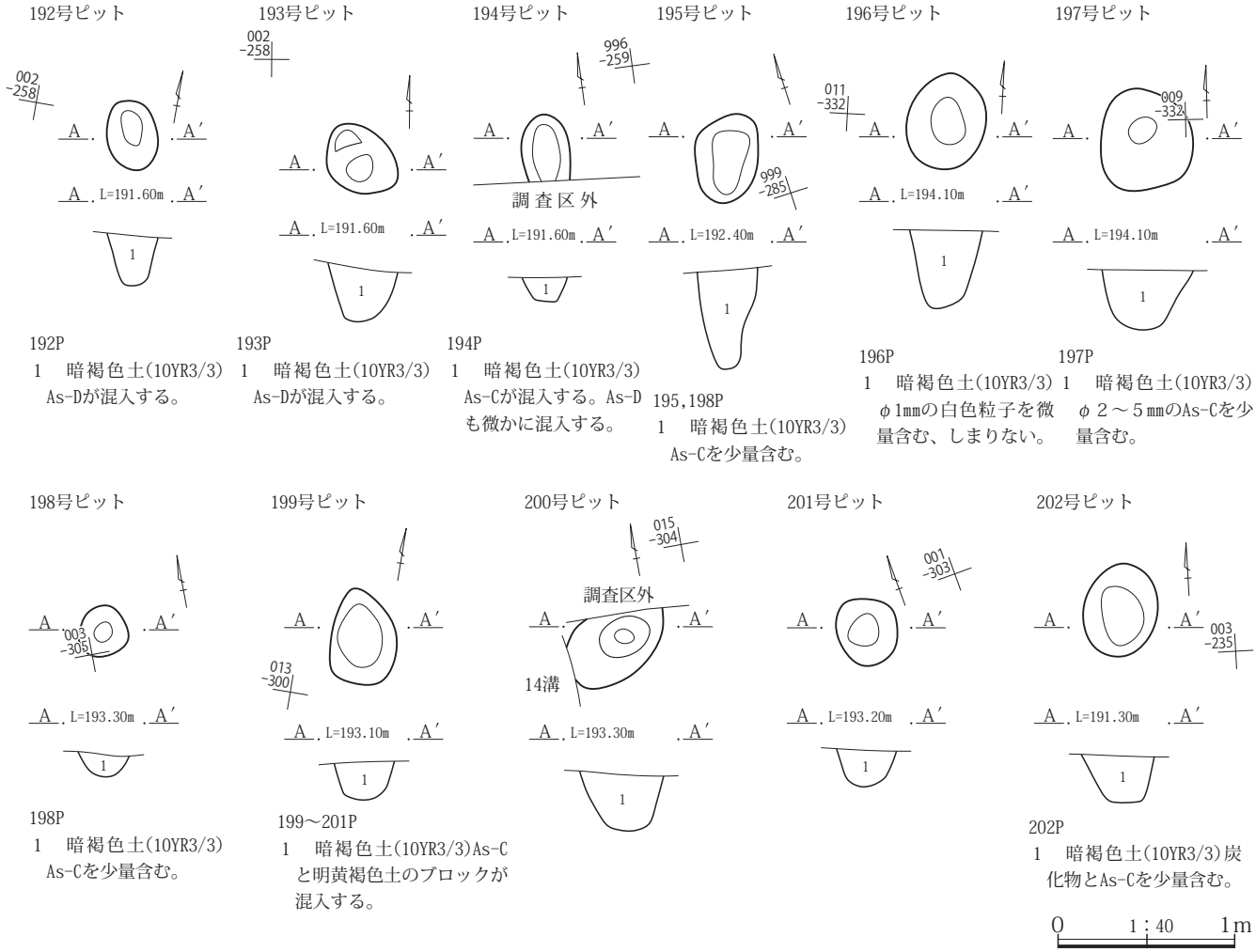
186,188P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄褐色のブロック混入。

187,189P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。120Pと同じだが礫が多い。

190P
1　暗褐色土(10YR3/3)As-Dが混入する。下部で礫層の礫が混入。

0　1：40　1m

第３-42図　ピット６



第３-43図　ピット７

第２節　２面及び３面の遺構と遺物

第１項　２面及び３面の概要

縄文時代の土器片が採取された２面の調査区中央西寄りの地点から、土坑１基とピット６基が検出されている。なお、２面グリッドからは羽釜片や土師器片も検出されているが、砂礫層下層からは遺構、遺物ともに検出されていない。

第２項　２面の遺構

１　土坑

２面からは土坑１基が検出されている。

（１）41号土坑（第３-44図、PL.24）

位置　X=48008、Y=-74293～-74294、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面形はひしゃげた長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　1.16×0.56×0.25m

主軸方位（度）　N-71-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

２　ピット

２面からはピット６基が検出されている。

（１）203号ピット（第３-45図、PL.24）

位置　X=48004、Y=-74294～-74295、調査区中央西寄

りに位置する。

形状等　平面観は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　0.66×0.64×0.14m

主軸方位(度)　N-23-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　図化には至らなかったが、縄文土器(1点、32g)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(２)204号ピット(第３-45図、PL.24)

位置　X=48000～48001、Y=-74294～-74295、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面観は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.56×0.46×0.17m

主軸方位(度)　N-16-E

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(３)205号ピット(第３-44図、PL.24)

位置　X=48008、Y=-74292～-74293、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.46×0.38×0.14m

主軸方位(度)　N-70-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(４)206号ピット(第３-44図、PL.24)

位置　X=48012、Y=-74285、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。平坦な底部が検出された。

規模　0.34×0.28×0.12m

主軸方位(度)　N- 7-W

埋没土　As-Cが混入する暗褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(５)207号ピット(第３-44図、PL.24)

位置　X=48005～48006、Y=-74317、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.65×0.50×0.34m

主軸方位(度)　N-29-E

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(６)208号ピット(第３-44図、PL.24)

位置　X=48006、Y=-74320、調査区中央西寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

規模　0.38×0.37×0.28m

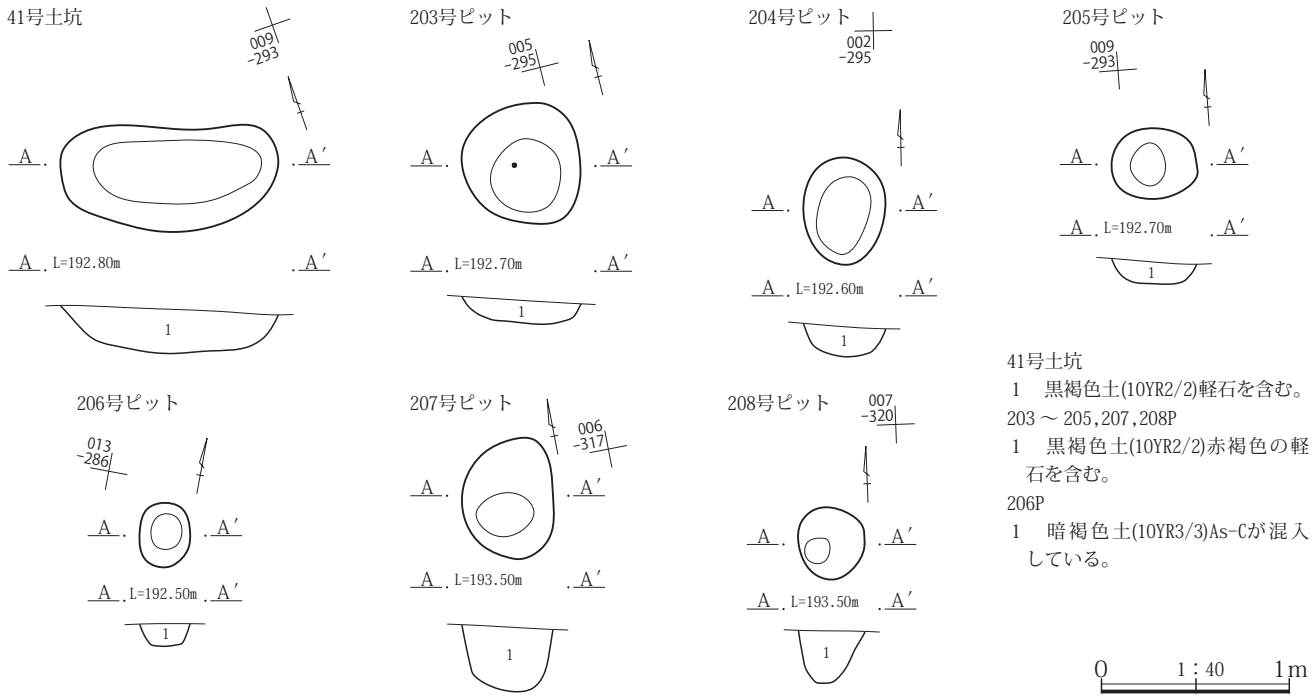
主軸方位(度)　N- 8-W

埋没土　赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

重複　なし。

遺物　なし。

所見　本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。



第３-44図　２面土坑、ピット

第３節　出土遺物

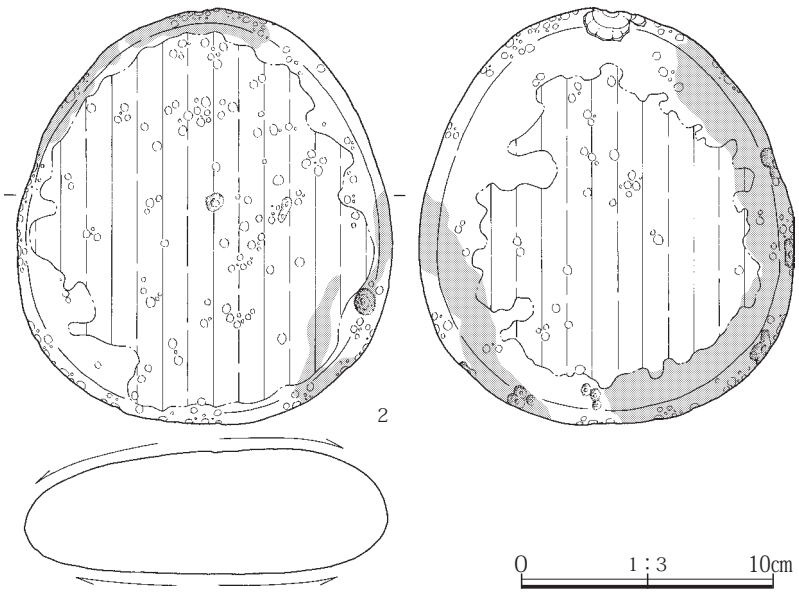
調査区１面からは平安時代以降の遺構とこれに伴う遺物が出土しているほか、縄文土器（107）や中世在地系土器（104～106）が出土している。また図化には至らなかったが近世陶器磁器（36片、408g）、近世在地系土器（２片、122g）などが出土している。

中世の遺物が集中して出土した遺構は、５号竪穴状遺構、４号溝、１号井戸、２号井戸などであり、常滑陶器など国産陶器や在地系土器が出土しているほか、龍泉窯系磁器も出土している。４号溝では、調査区南辺寄りの地点から中世在地系土器皿が集中して検出されている。

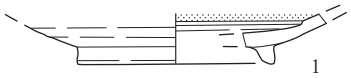
平安時代の遺物は竪穴状遺構からの出土も多いが、主として竪穴建物から出土している。中でも８号竪穴建物は羽釜を中心とする多量の遺物が残存していた。８号竪穴建物の床面から椀形鍛冶滓、埋没土から羽口が出土し、また１号井戸からも羽口や鉄滓が出土しており、鍛冶遺構の存在が予見されたが、調査区内から該当する遺構は検出されていない。

調査区２面から遺構外ではあるが縄文時代中期前半の土器片（108）、石鏃（109）、打製石斧（110）が出土しているほか、図化には至らなかったが、縄文時代前期後半諸磯ｂ式などの土器片（19片）、土師器（５片、11g）、須恵器（１片、1g）、羽釜（11片、127g）が出土している。またこの下位から残存部半球形の戸沢石の石製品（111）が出土している。

（第３-45～53図、PL.25～28）

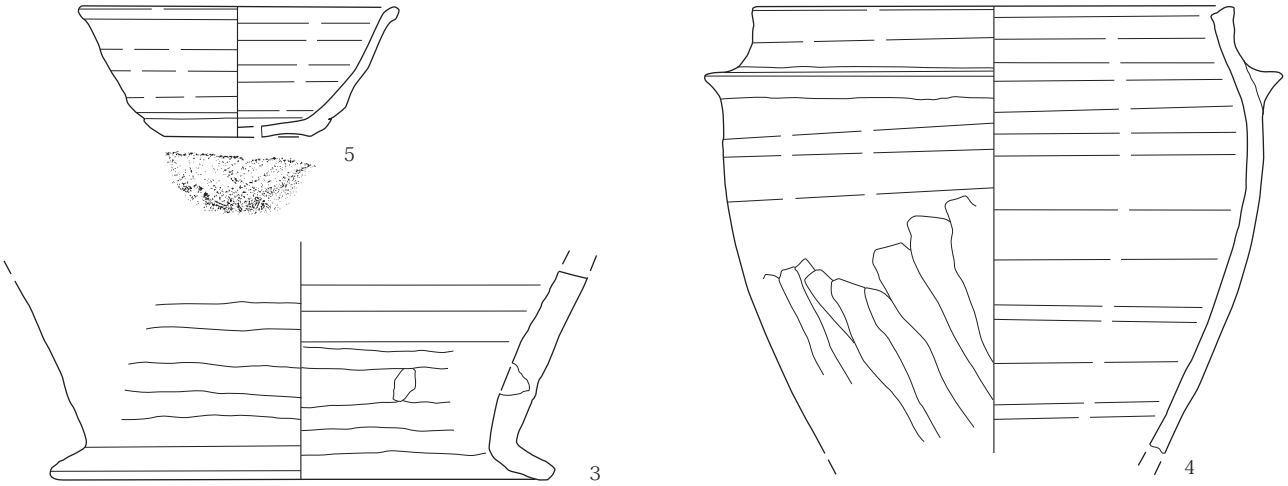


１号竪穴建物

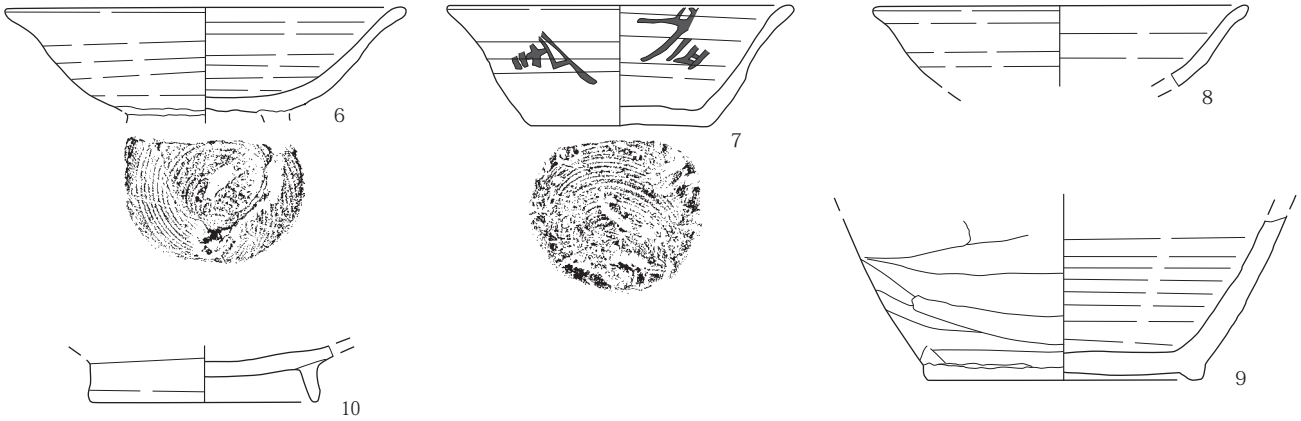


第３-45図　出土遺物１

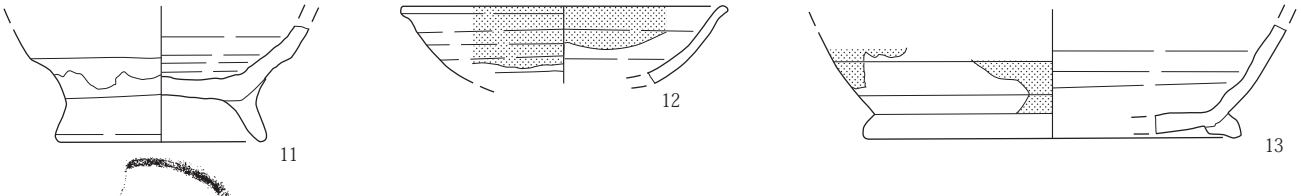
２号竪穴建物



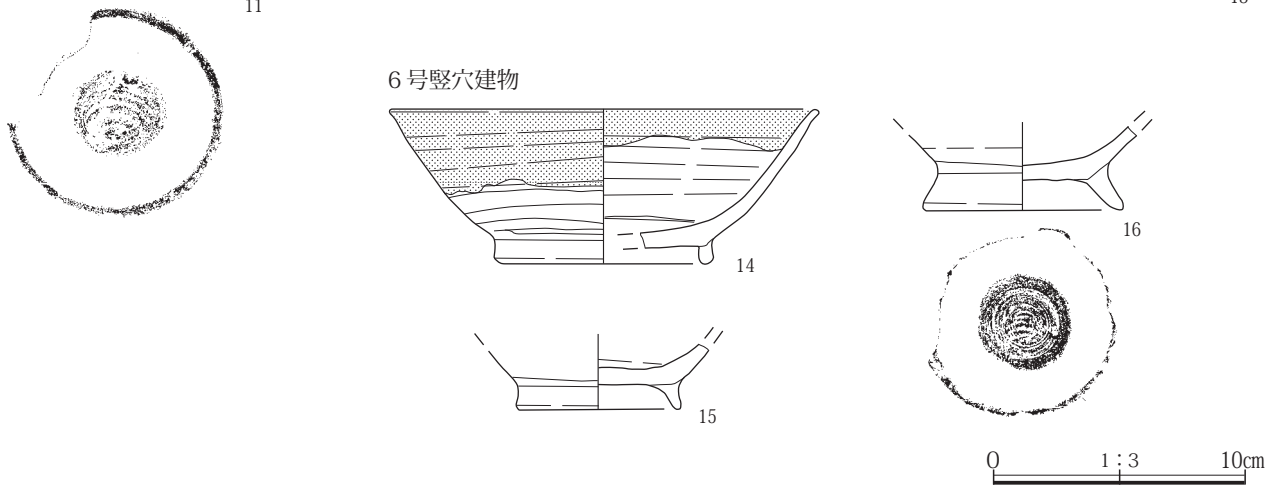
３号竪穴建物



５号竪穴建物

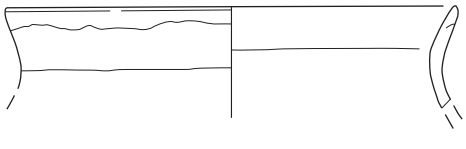


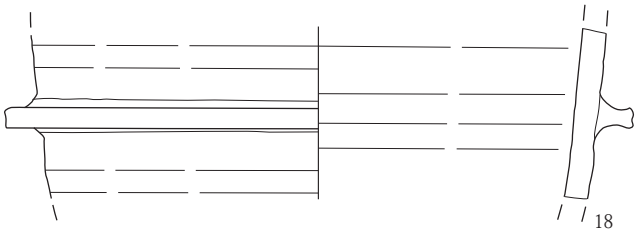
６号竪穴建物

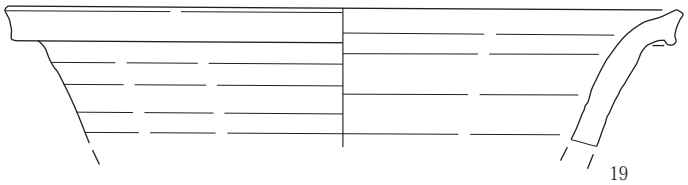


第３-46図　出土遺物２

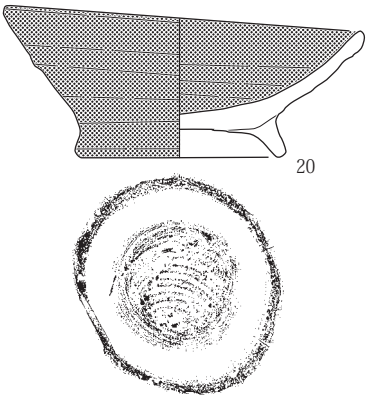
７号竪穴建物

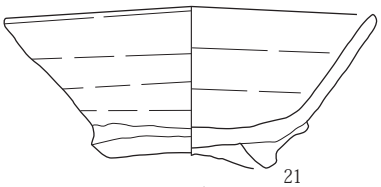


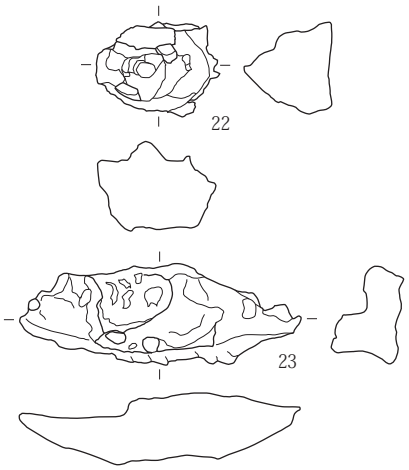


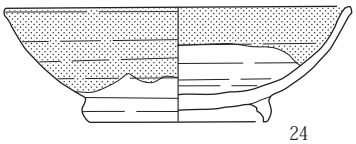


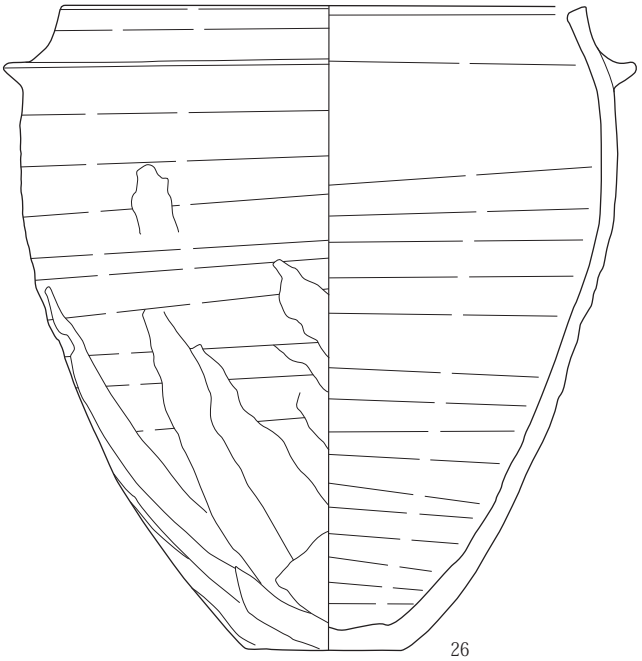
８号竪穴建物

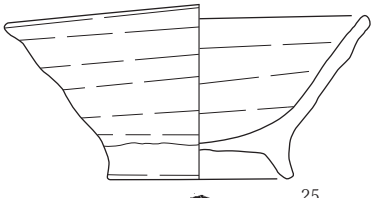








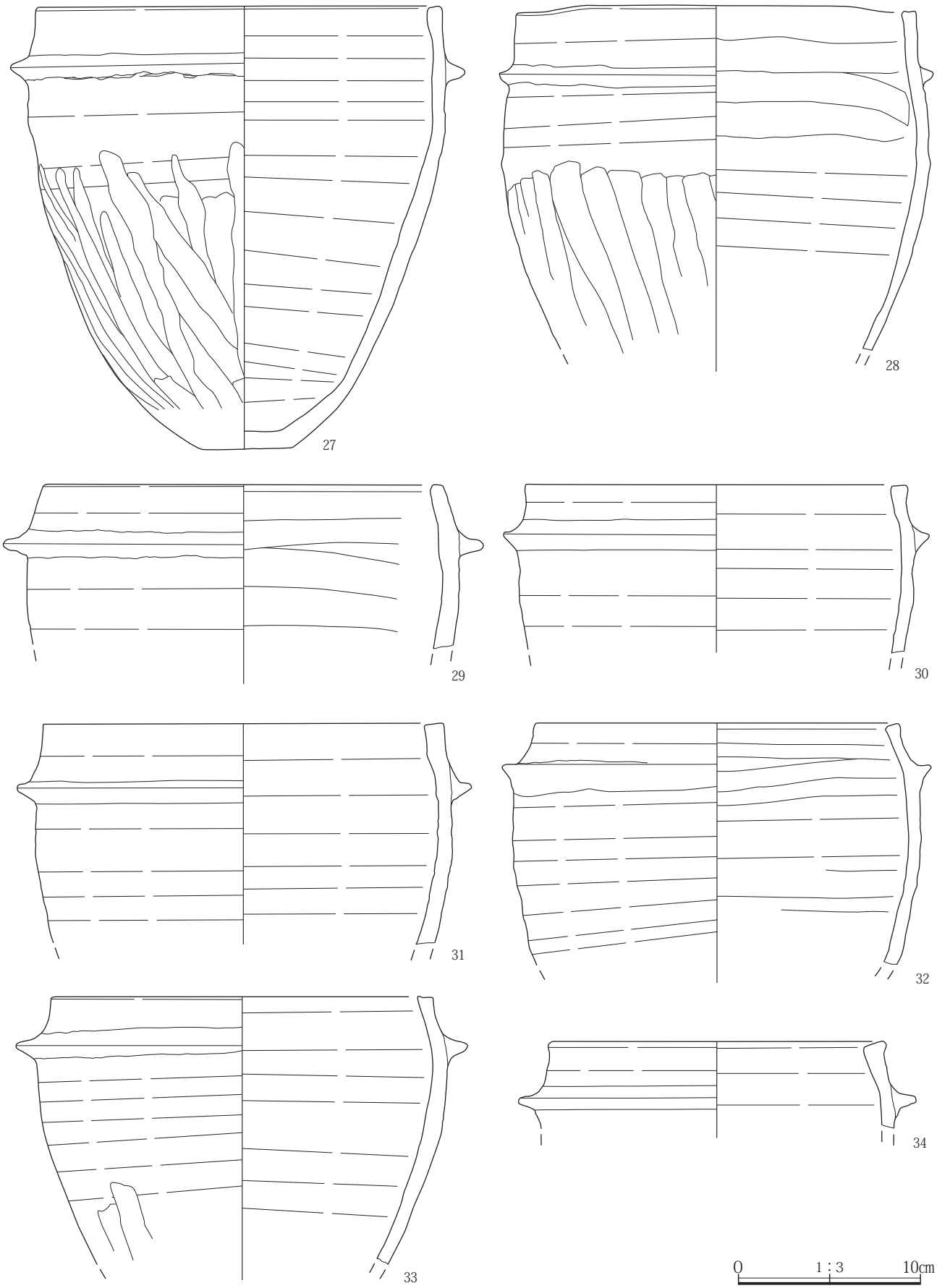




0　1：3　10cm

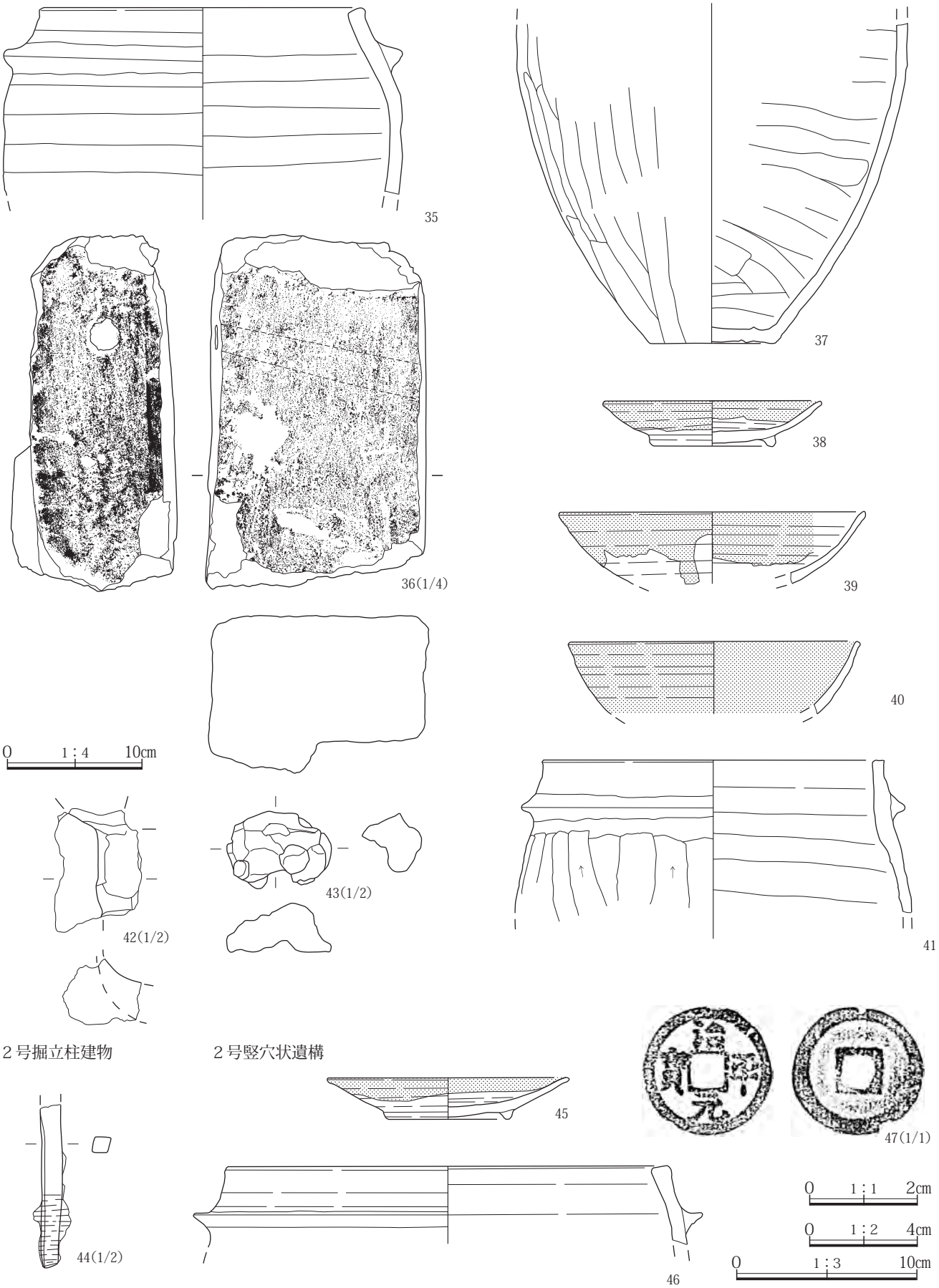
第３-47図　出土遺物３

８号竪穴建物



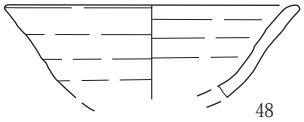
第３-48図　出土遺物４

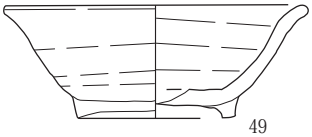
８号竪穴建物

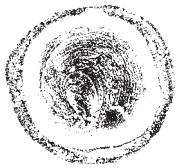


第３-49図　出土遺物５

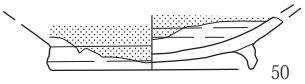
３号竪穴状遺構


48

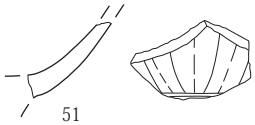

49



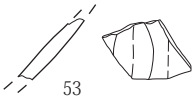
４号竪穴状遺構


50

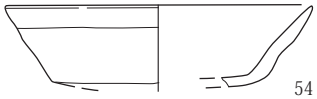
５号竪穴状遺構

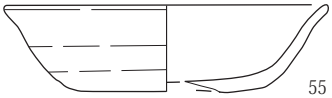

51

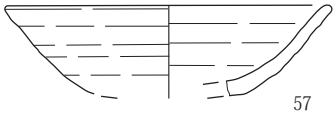
52

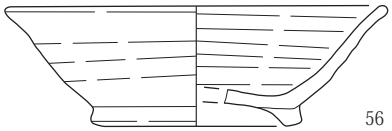

53

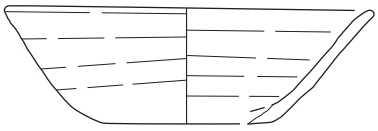
７号竪穴状遺構


54

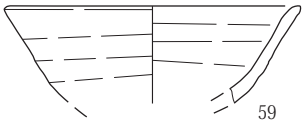

55


57

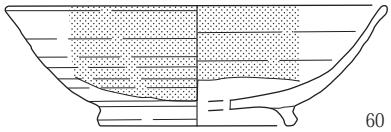

56

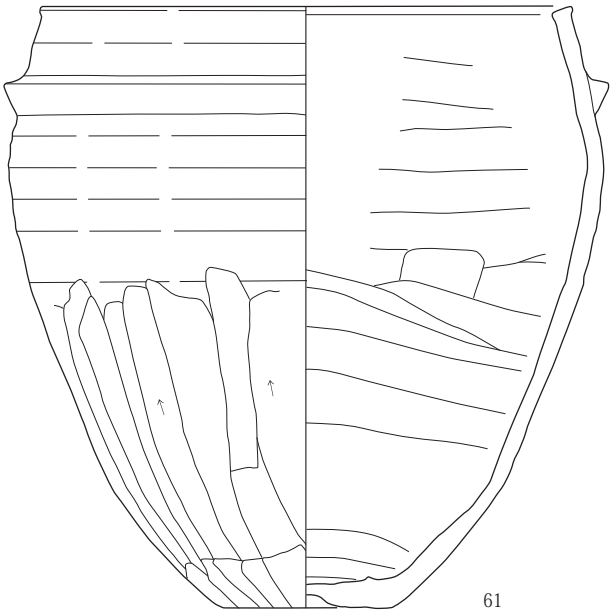

58

８号竪穴状遺構

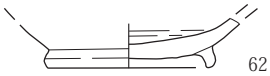

59

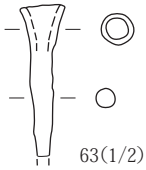
９号竪穴状遺構


60


61

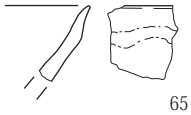
10号竪穴状遺構

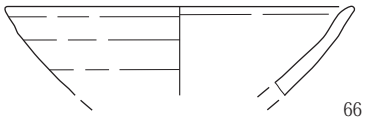

62

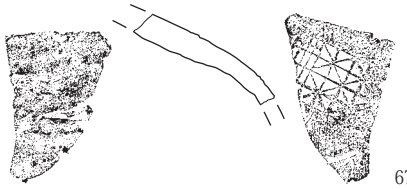

63(1/2)

４号溝

64


65


66

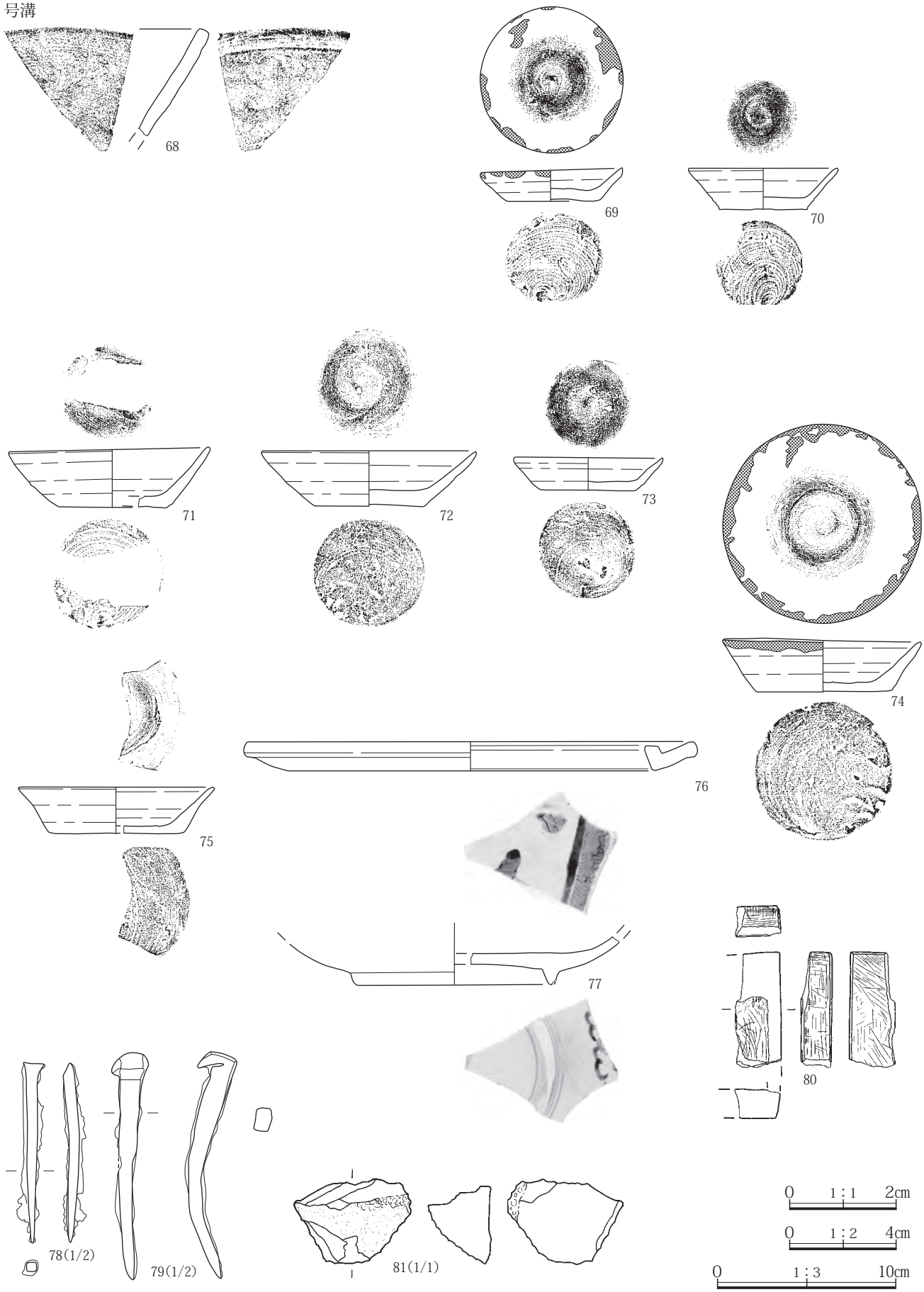

67

0　1：2　4cm

0　1：3　10cm

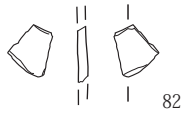
第３-50図　出土遺物６

４号溝

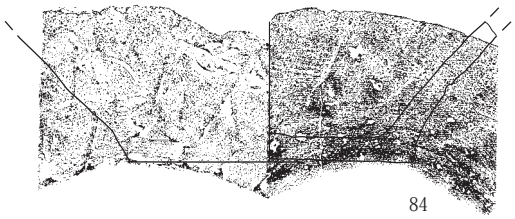


第３-51図　出土遺物７

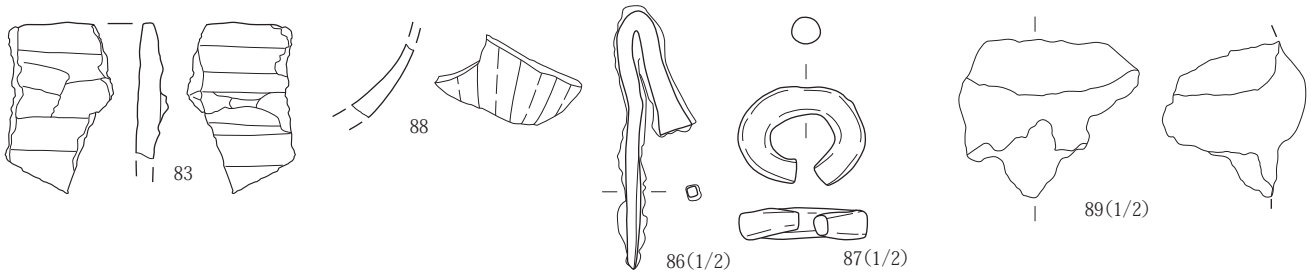
７号溝



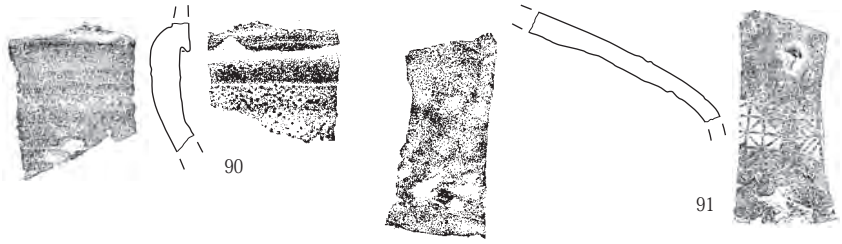
１号井戸



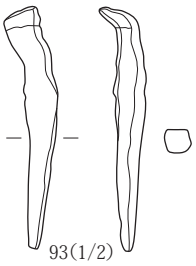
21号溝



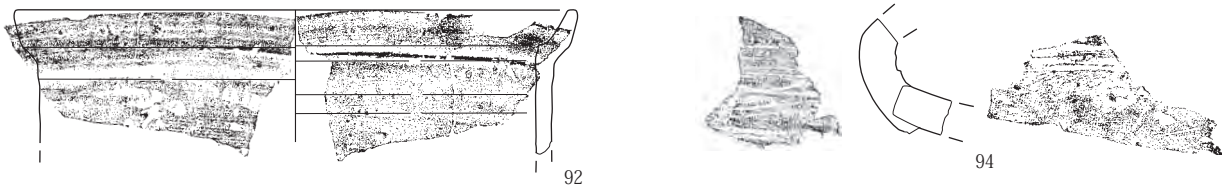
２号井戸



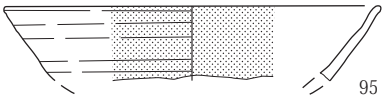
４号井戸



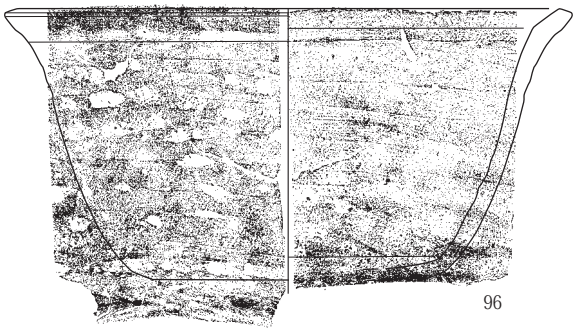
６号井戸



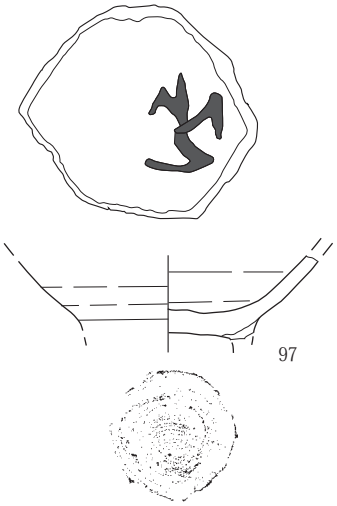
10号井戸

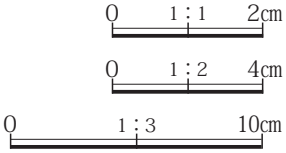


25号土坑



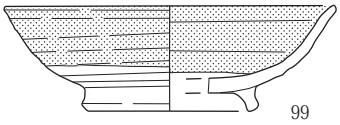
33号土坑

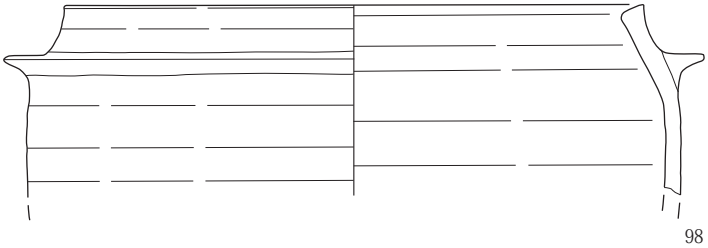


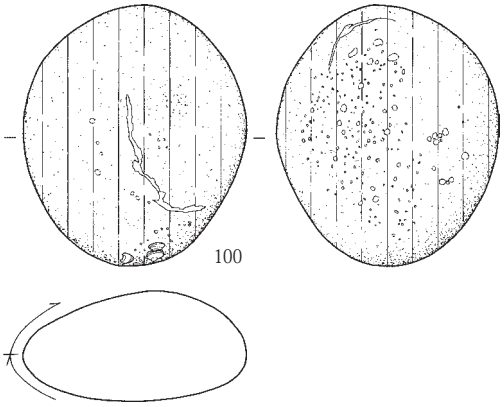


第３-52図　出土遺物８

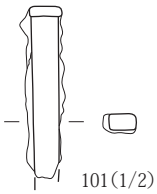
40号土坑



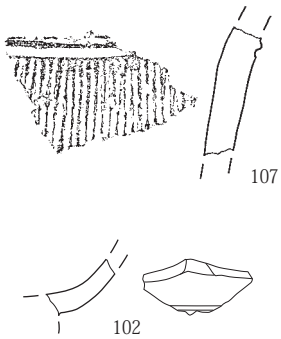


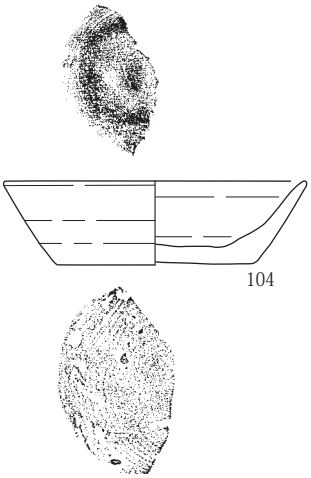


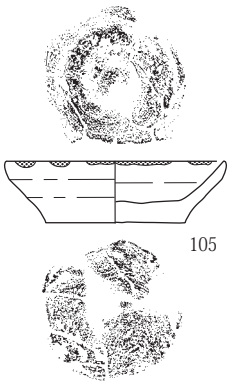
119号ピット

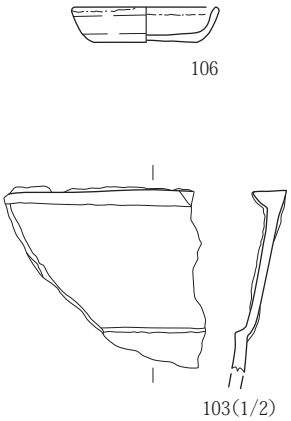


１面遺構外

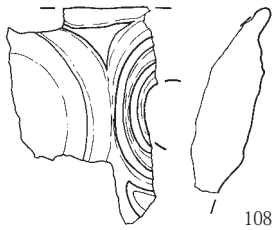


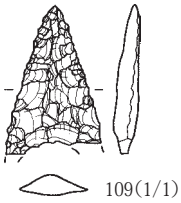


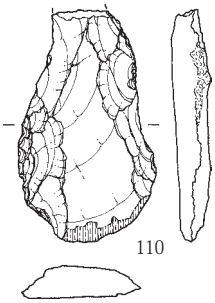


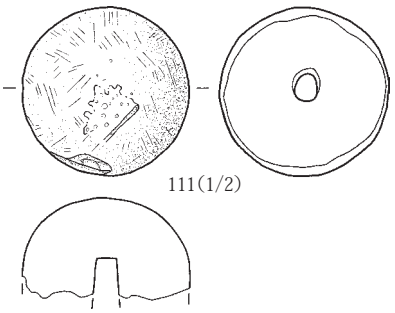


２面遺構外









0　1：1　2cm

0　1：2　4cm

0　1：3　10cm

第３-53図　出土遺物９

3-15 表　遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3-45図	1	灰釉陶器 段皿	１号竪穴建物 床+９cm 底部～体部片	底 台	8.0 7.8			微砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原２号窯式期
第3-45図 PL.25	2	磨石	１号竪穴建物 床面 完形	長 幅	16.5 14.9	厚 重	5.1 1889.6	粗粒輝石安山岩/	扁平円礫利用。表裏両面とも磨面、部分的に敲打痕が残る。周縁部は敲打により剥離が生じた部分もある。炭素が付着し黒変部分あり。	黒変あり
第3-46図	3	須恵器 甑	２号竪穴建物 床+５cm 胴部～底部	底	20.0			粗砂粒/酸化焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下半横位ヘラナデ。内面下端ヘラ削り。背面下半に刺突による１孔。	10C前
第3-46図	4	須恵器 羽釜	２号竪穴建物 床+０～３cm 口縁部～胴部	口 鍔	19.0 22.9			粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半斜位ヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。	10C前
第3-46図	5	須恵器 椀	２号竪穴建物 埋没土 口縁部～底部片	底	12.8 6.0	高	5.2	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	10C前
第3-46図 PL.25	6	須恵器 椀	３号竪穴建物 床+２cm 口縁部～底部	口	16.0			細砂粒/還元焔きみ/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付で剥離。	10C前
第3-46図 PL.25	7	須恵器 椀	３号竪穴建物 床+３cm 口縁部～底部	口 底	13.8 7.0	高	4.8	細砂粒/還元焔きみ/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。体部内外面に墨書。	10C前
第3-46図	8	須恵器 椀	３号竪穴建物 床-6～-5cm 口縁部片	口	15.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。	10C前
第3-46図 PL.25	9	須恵器 瓶	３号竪穴建物 床-5cm 胴部～底部	台	11.0			粗砂粒/酸化焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下半横位ヘラナデ。内面ヘラナデ。高台は底部ヘラ削り後貼付。	10C前
第3-46図	10	灰釉陶器 椀	３号竪穴建物 埋没土 底部	底 台	9.0 8.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	虎渓山１号窯式期
第3-46図 PL.25	11	須恵器 椀	５号竪穴建物 カマド 底部～体部片	底 台	7.6 8.4			細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	10CⅢ
第3-46図	12	灰釉陶器 椀	５号竪穴建物 カマド 口縁部片	口	13.0			微砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第3-46図 PL.25	13	灰釉陶器 壺	５号竪穴建物 カマド 底部～胴部下位片	底 台	14.0 14.3			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、胴部残存部は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法不明。	10CⅢ
第3-46図	14	灰釉陶器 椀	６号竪穴建物 床-１cm 1/4	口 底	17.0 8.6	台 高	8.0 6.1	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、体部下半は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-46図	15	須恵器 椀	６号竪穴建物 床+６cm 底部～体部片	底 台	6.4 6.4			細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	10C前
第3-46図 PL.25	16	須恵器 椀	６号竪穴建物 床-１cm 底部～体部片	底 台	7.0 8.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付。	10C前
第3-47図	17	土師器 甕	７号竪穴建物 床-１～+１cm 口縁部片	口	18.0			細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。	8C後
第3-47図	18	須恵器 甑	７号竪穴建物 床+１cm 口縁部～胴部上位片	鍔	25.0			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は貼付。	10C前
第3-47図	19	須恵器 甕	７号竪穴建物 床-３cm 口縁部片	口	27.0			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第3-47図 PL.25	20	須恵器 椀	８号竪穴建物 床+３cm 3/4	口 底	14.3 7.8	台 高	7.8 6.1	細砂粒/還元焔・燻/黒褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	10CⅠ
第3-47図 PL.25	21	須恵器 椀	８号竪穴建物 床+２～３cm 口縁部~底部	口 台	14.8 7.3	高	6.2	粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	内面細かなハゼ 10CⅠ
第3-47図 PL.25	22	鉄滓	８号竪穴建物 床+３cm 破片	長 短	4.8 3.5	厚 重	3.5 71.6		滓質は密。直径1mmほどの小石が含まれている。炭痕跡は見当たらない。	
第3-47図 PL.25	23	鉄滓	８号竪穴建物 床+１cm 破片	長 短	11.1 4.1	厚 重	2.9 117.6		底面は丸く、滓質は密。直径1mmほどの小石が混じる。一部炭痕跡が残存している。	
第3-47図 PL.25	24	灰釉陶器 椀	８号竪穴建物 カマド 1/2	口 底	13.8 7.4	台 高	7.2 4.6	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3-47図 PL.25	25	須恵器 椀	８号竪穴建物 カマド ほぼ完形	口 台	14.5 7.4	高	6.5	粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し不明、高台は貼付。	10C Ⅰ
第3-47図 PL.25	26	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～底部	口 底	21.0 6.4	鍔 高	25.2 25.7	粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	鍔下胴部上半に部分的に煤付着 10C Ⅰ
第3-48図 PL.26	27	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～底部	口 底	22.3 5.0	鍔 高	24.9 23.0	粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形､回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半ヘラナデ、底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-48図	28	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 鍔	22.0 23.8			小礫・粗砂粒/還元焔きみ/にぶい黄～灰	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半縦位ヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-48図	29	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 鍔	22.0 26.4			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。内面はヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-48図	30	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 鍔	21.0 23.4			細砂粒/還元焔きみ/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は貼付。	10C Ⅰ
第3-48図	31	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 鍔	22.0 25.0			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は貼付。	10C Ⅰ
第3-48図	32	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 鍔	20.0 23.5			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。内面は底部から胴部にヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-48図	33	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 鍔	21.0 24.7			粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半縦位ヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-48図	34	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 床+10cm 口縁部～鍔片	口 鍔	18.2 21.8			細砂粒/還元焔きみ/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は貼付。	10C Ⅰ
第3-49図 PL.26	35	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口	18.0	鍔	22.1	粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形､回転は右回り。鍔は貼付。胴部内面ヘラナデ。	10C Ⅰ
第3-49図 PL.26	36	土製品 塼	８号竪穴建物 カマド 一部欠損	残 長 幅	26.0 16.0	厚	12.0	細砂粒・粗砂粒/不良/にぶい黄橙	残存する面はやや凹凸の残る整形。両側面間をやや斜めに貫通する径２cmほどの穿孔。焼成は不完全な状態。	10C Ⅰ
第3-49図 PL.26	37	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 床+８～20cm 胴部～底部	底	7.0			片岩大粒・粗砂粒/還元焔きみ/にぶい黄～灰	ロクロ整形。胴部下半ヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。底部と同部の接合部強いナデ。	底部剥離 10C Ⅰ
第3-49図 PL.26	38	灰釉陶器 皿	８号竪穴建物 攪乱 1/3	口 底	12.2 7.0	台 高	6.5 2.5	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-49図	39	灰釉陶器 椀	８号竪穴建物 埋没土 口縁部～体部片	口	17.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第3-49図	40	灰釉陶器 椀	８号竪穴建物 埋没土 口縁部片	口	16.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	大原２号窯式期～虎渓山１号窯式期
第3-49図	41	須恵器 羽釜	８号竪穴建物 床+２～30cm 口縁部～胴部	口	19.0	鍔	21.3	小礫・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部外面鍔下まで縦位ヘラ削り。胴部内面にヘラナデ。	月夜野型 10C Ⅰ
第3-49図 PL.26	42	鉄滓 羽口	８号竪穴建物 埋没土 破片	長 短	4.6 3.2	厚 重	2.4 28.3		先端部分の一部が残存。融解した鉄滓が付着している。ややすさが含まれる。胎土は密。	
第3-49図 PL.26	43	鉄滓	８号竪穴建物 埋没土 破片	長 短	4.0 3.0	厚 重	1.8 15.0		小型の滓片が３点同一ヶ所から出ている。滓質は密。２点はやや底部が丸くなる。	
第3-49図 PL.26	44	鉄製品 釘	２号掘立柱建物 P7 埋没土 ほぼ完形	長 幅	6.0 1.4	厚 重	0.6 7.1		木質が付着し、木繊維は横方向。頭部は欠損している。	
第3-49図 PL.26	45	灰釉陶器 皿	２号竪穴状遺構 床+12cm 1/4	口 底	13.4 7.2	台 高	6.5 2.3	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-49図	46	須恵器 羽釜	２号竪穴状遺構 床+12cm 口縁部～鍔片	口 鍔	24.8 28.4			細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回りか。鍔は貼付。	10C前
第3-49図 PL.26	47	銭貨 治平元寳	２号竪穴状遺構 埋没土 完形	外 内	2.368 1.950	厚 重	0.169 3.3		真書体。やや全体は劣化がみられるが､面､背ともに文字､輪、郭は明瞭。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3-50図	48	須恵器 椀	３号竪穴状遺構 床+３～９cm 口縁部～体部片	口	11.8			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。	10C前
第3-50図 PL.26	49	須恵器 椀	３号竪穴状遺構 床+10～11cm 口縁部～底部片	口 底	12.2 6.7	台 高	5.6 4.5	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	10C前
第3-50図	50	須恵器 椀	４号竪穴状遺構 埋没土 底部片	底 台	8.0 8.0			微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉不明。内面に重焼き痕が残る。	大原２号窯式期
第3-50図 PL.26	51	龍泉窯系青磁 碗	５号竪穴状遺構 埋没土 体部下位破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる鎬連弁文。内外面に青磁釉。	13-14世紀
第3-50図 PL.26	52	龍泉窯系青磁 碗	５号竪穴状遺構 埋没土 口縁部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる鎬連弁文。内外面に青磁釉。	13-14世紀
第3-50図 PL.26	53	龍泉窯系青磁 碗	５号竪穴状遺構 埋没土 体部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる鎬連弁文。内外面に青磁釉。貫入が入る。	13-14世紀
第3-50図 PL.26	54	土師器 杯	７号竪穴状遺構 床-２～+10cm 口縁部～底部片	口 底	12.2 8.5			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	９C後
第3-50図	55	須恵器 杯	７号竪穴状遺構 床-１～+５cm 口縁部～底部片	口 底	13.0 7.8	高	3.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラナデか。	９C後
第3-50図 PL.26	56	須恵器 椀	７号竪穴状遺構 床-２～+５cm 口縁部～底部	口 底	15.2 8.2	台	7.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	９C後
第3-50図 PL.26	57	須恵器 杯	７号竪穴状遺構 床-３～+１cm 口縁部～底部	口 底	13.0 6.2			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は器面摩滅のため整形不明。	９C後
第3-50図 PL.26	58	須恵器 椀	７号竪穴状遺構 床-５～-１cm 口縁部～底部片	口 底	14.7 6.8	高	4.7	細砂粒/還元焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	９C後
第3-50図	59	須恵器 杯	８号竪穴状遺構 床+２cm 口縁部～体部片	口	11.8			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。	10C後
第3-50図	60	灰釉陶器 椀	９号竪穴状遺構 床面 1/4	口 底	15.2 7.7	台	7.2	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-50図 PL.27	61	須恵器 羽釜	９号竪穴状遺構 床+０～14cm 1/4	口 鍔	21.2 24.1	底 高	7.0 23.9	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/明黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。胴部下半と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	10C前
第3-50図	62	灰釉陶器 椀	10号竪穴状遺構 床+１cm 底部～体部	底 台	6.6 6.0			微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。高台は退化した三日月状を呈する。	大原２号窯式期
第3-50図 PL.27	63	鉄製品 不明	10号竪穴状遺構 埋没土 破片	長 幅	4.0 1.2	厚 重	0.1 3.0		内部に空洞がある詳細不明の鉄製品。一方に口が広がり、穴が空いているが、貫通はしていない。	
第3-50図 PL.27	64	龍泉窯系青磁 皿	４号溝 埋没土 口縁部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	口縁端部は上に尖り、口縁部は屈曲する。内外面に青磁釉、貫入が入る。	13-14世紀
第3-50図	65	古瀬戸 碗	４号溝 埋没土 口縁部破片	口 底		器 高		夾雑物微量/灰白	口縁端部は外側に尖る。内外面に灰釉。	14世紀～15世紀
第3-50図 PL.27	66	古瀬戸 碗	４号溝 埋没土 口縁部破片	口 底	(13.9)	器 高		夾雑物微量/灰白	口縁端部は外側に尖る。内外面に灰釉、細かな貫入が入る。	14世紀～15世紀
第3-50図 PL.27	67	常滑陶器 甕	４号溝 埋没土 体部破片	口 底		器 高		白色片を含む/暗灰黄	甕の胴部上半の破片で、体部外面に斜線格子文の押文印。	14世紀～15世紀
第3-51図 PL.27	68	常滑陶器 すり鉢	４号溝 埋没土 口縁部片	口 底		器 高		夾雑物少量/にぶい橙	口縁部内面はナデで、硬く焼き締まる。	15世紀
第3-51図 PL.27	69	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 完形	口 底	1.9 5.0	器 高	1.9	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。口縁端部に炭化物が付着、灯明皿として使用か。	15世紀中頃
第3-51図 PL.27	70	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 口縁部～底部片	口 底	(8.4) 4.9	器 高	2.3	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-51図 PL.27	71	在地系土器 皿	４号溝 底-13cm 3/4	口 底	11.2 6.2	器 高	3.4	夾雑物少量/にぶい黄橙	25の小片からなる。ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-51図 PL.27	72	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 2/3	口 底	(12.0) 6.1	器 高	3.1	夾雑物少量/にぶい黄橙	13の小片からなる。ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3-51図 PL.27	73	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 2/3	口 底	(8.3) 5.4	器 高	1.8	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-51図 PL.27	74	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 完形	口 底	11.1 7.6	器 高	2.9	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後にナデ。口縁端部に炭化物が付着、灯明皿として使用か。	15世紀末
第3-51図 PL.27	75	在地系土器 皿	４号溝 埋没土 1/6	口 底	(10.9) (7.6)	器 高	2.6	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後、筋状にナデ。	15世紀末～ 16世紀
第3-51図 PL.27	76	在地系土器 置輪	４号溝 埋没土 1/6	口 底	(33.5) (27.5)	器 高	2.2	夾雑物少量/にぶい褐	硬質で焼締まる。表裏はナデ。	江戸時代か
第3-51図 PL.27	77	肥前磁器 染付皿	４号溝 埋没土 高台部破片	口 底	(11.0)	器 高		夾雑物微量/灰白	底部内面の見込みに松などを描く、体部内面に植物の文様。体部外面に唐草様の文様が入り、体部下位に二重圏線、高台境と高台、高台内に圏線。	18世紀前半
第3-51図 PL.27	78	鉄製品 釘	４号溝 埋没土 ほぼ完形	長 幅	6.7 1.05	厚 重	0.6 5.8		頭部は折られているが、やや欠損している。全体が劣化により剥離する。	
第3-51図 PL.27	79	鉄製品 釘	４号溝 底+１cm 完形	長 幅	8.5 1.4	厚 重	0.7 12.9		脚部から折れ曲がっている。頭部は折られ、断面は四角形。	
第3-51図 PL.27	80	硯？	４号溝 埋没土 破片	長 幅	(6.4) (12.6)	厚 重	(1.7) 43.6	頁岩	頁岩だが、粘板岩に近いもので板状の節理が発達している石材。長方形。欠損品だが、打撃によって打ち割られたものでは無く、剥がれたものと考えられる。通常の砥石よりも角が明確に作ってあり、表面の左下の研ぎ面には曲線状の線状痕が多く認められるので墨を擦った硯の可能性が高い。	
第3-51図 PL.27	81	火打石	４号溝 埋没土 完形	長 幅	1.6 2.2	厚 重	1.2 3.8	石英	円礫を打ち割った剥片素材利用。最小分割剥片。表面頂部に打撃痕が残る。表面に1/2以上円礫の自然面残す。裏面は節理面。	
第3-52図	82	緑釉陶器 椀	７号溝 埋没土 体部片					微砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形。釉調は透明感のある緑色に濃緑色が斑点状に混じる。	10C?
第3-52図	83	須恵器杯 羽釜	21号溝 埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形。鍔は貼付。内面はヘラナデ。破損後鍔を打ち欠いている。	10C
第3-52図 PL.27	84	常滑陶器 甕	１号井戸 埋没土 体部～底部	口 底	14.9	器 高		白色片を含む/にぶい赤褐	体部外面は粗くヘラで削る。体部内面は摩耗している。底部は砂底を呈し、１mm大の黒～白色粗粒砂が目立つ。	14世紀前半
第3-52図 PL.27	85	銭貨 乾重元寶	１号井戸 埋没土 3/4	外 内	2.386 2.035	厚 重	0.122 1.2		当十銭。758年初鋳となっているが、他の遺物との関係から私鋳銭と考えられる。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。	
第3-52図 PL.27	86	鉄製品 釘	１号井戸 埋没土 ほぼ完形	長 幅	7.0 2.15	厚 重	0.45 8.9		体部の途中から二つ折りに折れ曲がっている。頭部は錆に覆われ観察できない。脚部が一部欠損。脚部近くの断面は四角形。	
第3-52図 PL.27	87	鉄製品 不明	１号井戸 埋没土 完形	長 短	3.4 2.6	厚 重	0.8 10.6		耳環にも見えるが、断面が丸く切れ目部分が左右でずれている。形状は楕円形。	
第3-52図	88	龍泉窯系青磁 碗	１号井戸 埋没土 体部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる鎬連弁文。内外面に青磁釉。貫入が入る。	13-14世紀
第3-52図 PL.27	89	鉄滓 羽口	１号井戸 埋没土 破片	長 短	4.8 4.2	厚 重	3.75 40.0		先端部の破片に融解した鉄滓が付着している。付着する鉄滓の滓質はやや粗。	
第3-52図	90	常滑陶器 広口壺	２号井戸 埋没土 口縁部破片	口 底		器 高		赤色片を含む/にぶい赤褐	口縁端部は外側に屈曲し、上下に肥厚する。口縁部外面に自然釉が付着。	14世紀後半
第3-52図 PL.28	91	常滑陶器 甕	２号井戸 埋没土 体部破片	口 底		器 高		白色片を含む/にぶい赤褐	甕の胴部上半の破片で、体部外面に斜線格子文の押文印。	14世紀～15世紀
第3-52図 PL.28	92	在地系土器 内耳鍋	２号井戸 埋没土 口縁部～体部片	口 底	(29.8)	器 高		夾雑物少量/にぶい黄橙	口縁端部は平坦をなし、口縁部は外側に開く。口縁部と体部内面の境界は段をなす。内外面はヨコナデで炭素が吸着。	14世紀末
第3-52図 PL.28	93	鉄製品 釘	４号井戸 埋没土 完形	長 幅	6.4 0.8	厚 重	0.7 8.0		頭部が折れ、体部断面は四角形。脚部はやや錆に覆われている。	
第3-52図	94	中世陶器 甕	６号土坑 埋没土 頸部片					細砂粒/還元焔/灰黄褐	頸部にて胴部と口縁部を接合。口縁部は内外面ともヘラナデ。	
第3-52図	95	灰釉陶器 椀	10号土坑 埋没土 口縁部片	口	14.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-52図 PL.28	96	在地系土器 鍋	25号土坑 埋没土 口縁部から底部片	口 底	(28.7) (14.4)	器 高	14.4	夾雑物少量/黄褐	口縁端部は平坦をなし、口縁部は外側に弱く開く。内外面はヨコナデで外面は炭素が吸着し、体部外面下位に炭化物が付着。	14世紀末

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備　考
第3-52図 PL.28	97	須恵器 椀	33号土坑 埋没土 底部片	底	7.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。内面底部に墨書。	10C前
第3-53図	98	須恵器 羽釜	40号土坑 底+２cm 口縁部～胴部上位片	口 鍔	23.2 27.8			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。手羽は貼付。	10C前
第3-53図	99	灰釉陶器 椀	40号土坑 底+16cm 1/3	口 底	13.2 6.7	台 高	6.4 4.2	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉は漬け掛け。	大原２号窯式期
第3-53図 PL.28	100	磨石	40号土坑 埋没土 完形	長 幅	10.2 8.8	厚 重	4.3 533.7	黒色頁岩	やや扁平円礫利用。表裏両面とも磨面、裏面ほぼ全体と表面の一部に敲打痕が残る。かなり使い込まれ、やや光沢を持つ。周縁部に敲打痕明瞭。	
第3-53図 PL.28	101	鉄製品 釘	119号ピット 底+２cm 破片	長 幅	4.5 1.2	厚 重	0.55 8.0		全体に錆に覆われる。頭の出は少なく、半ばほどから欠損。体部断面は長方形。	
第3-53図 PL.28	102	龍泉窯系青磁 碗	２号竪穴建物 埋没土 体部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	内外面に青磁釉、貫入が入る。	13-14世紀
第3-53図 PL.28	103	鉄製品 鍋口縁	２号竪穴建物 埋没土 破片	縦 横	4.9 4.8	厚 重	0.3 38.3		口縁部と体部の一部が残存する。口縁は内側に口縁から4cmほど下に段をを持つ。	
第3-53図 PL.28	104	古瀬戸か 皿	表土 1/3	口 底	5.7 4.0	器 高	1.4	夾雑物微量/淡黄	ロクロ成形、口縁部から体部内面に自然釉が付着。	13世紀～ 14世紀か
第3-53図 PL.28	105	在地系土器 皿	表土 1/3	口 底	(11.9) 7.8	器 高	3.3	夾雑物少量/にぶい黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-53図 PL.28	106	在地系土器 皿	表土 2/3	口 底	(8.6) 5.5	器 高	2.4	夾雑物少量/にぶい黄橙	14の小片からなる。ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。口縁端部に炭化物が付着、灯明皿として使用か。	15世紀後半
第3-53図 PL.28	107	縄文土器 深鉢	１面 小片					細砂/良好/黄褐色	横位二重沈線の下位に縦位の条線。内面平滑な横撫で調整。	中期型式不明
第3-53図 PL.28	108	縄文土器 深鉢	２面 口縁部小片					粗砂/良好/赤褐色	隆帯の内側を二重沈線により施文し、穿孔部の周囲を二重沈線で囲い隆帯で縁取った部位に、隆帯を縁取りとする椀状部位が張り付く。穿孔部の部位の内面は剥離。焼町類型か。	中期前半型式不明
第3-53図 PL.28	109	石鏃	２面一括 ほぼ完形	長 幅	(1.9) (1.3)	厚 重	0.3 0.5	黒曜石	凹基無茎鏃。横長剥片素材。透明感のある良質の石材。裏面に主要剥離面を残す。側面形に反りは無い。横断面形は表面側がやや高い薄い凸レンズ状。両脚欠損。	
第3-53図 PL.28	110	打製石斧	２面包含層 ほぼ完形	長 幅	(9.2) 5.5	厚 重	1.6 78.7	黒色頁岩	撥形。横長剥片素材。打瘤部分は除去されている。裏面にも大きく第一次剥離面を残すが、自然面は無い。打瘤は除去されている。刃部使用痕は明瞭でかなり磨滅し、光沢を持つ。右側縁上部に着柄のための敲打痕あり。上端一部欠損。	
第3-53図 PL.28	111	石製品 石製品	２面下灰黄褐色土表面 1/2？	長 幅	4.5 4.4	厚 重	(2.7) 63.2	砥沢石	現存部分は半球形。欠損しているので全体の形は不明。欠損面以外は研磨によって整えられている。欠損面中央に径８mmの貫通しない孔が開く。	

第３-16 表　未掲載灰釉陶器集計

遺構	遺構時期	点数	器種不明	黒笹14号	黒笹90号	光ヶ丘1号	大原２号	虎渓山１号	丸石２号	10C.代	不明
１号竪穴建物	10C.前半	2	椀				2				
２号竪穴建物	10C.前半	1	椀皿								1
３号竪穴建物	10C.前半	3	椀							3	
6号竪穴建物	10C.前半	1	椀皿				1				
7号竪穴建物	10C.前半	2	椀				1			1	
8号竪穴建物	10C.前半	1	椀				1				
1号竪穴状遺構		1	皿							1	
2号竪穴状遺構	10C.前半	3	椀				1			2	
3号竪穴状遺構	10C.前半	2	椀				2				
5号竪穴状遺構		2	皿							1	
			小瓶							1	
7号竪穴状遺構	9C.後半	3	椀				1				
			瓶							2	
8号竪穴状遺構	10C.後半	4	椀							4	
9号竪穴状遺構	10C.前半	2	椀							2	
2号井戸		3	皿							1	
			椀							2	
7号溝		3	椀							2	
			平瓶			1					
15号溝		1	椀				1				
21号溝	10C.代	1	椀							1	
９号土坑		1	瓶								1
39号ピット		1	椀				1				
遺構外		14	椀			1	4			7	
			瓶							2	
	小計					2	15			32	2

第３-17 表　剥片集計表

区	遺構名	石材	出土点数	総重量(ｇ)	備考
1	2号竪穴状遺構	珪質頁岩	1	8.4	
1	10号竪穴状遺構	黒色頁岩	1	2.3	
1	1号溝	ホルンフェルス	1	17.8	
1	4号溝	細粒輝石安山岩	1	27.6	
1	10号溝	黒色頁岩	1	22.4	
1	表土	細粒輝石安山岩	1	2.4	
1	２面	黒色頁岩	1	22.9	

第３-18　未掲載遺物（中近世）

区	層位・面	遺構番号	遺構種	中世																		近現代						不詳	
				中国磁器		国産焼締陶器		在地系鉢・鍋		在地系皿		在地系器種不詳		国産磁器		国産施釉陶器		在地系その他		瓦		陶磁器		ガラス		その他		土器類	
				点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
1		4	土坑											1	10	1	1											1	12
1		6	土坑																										
1		12	土坑							1	20																		
1		12	土坑							7	12																		
1		14	土坑							2	6																		
1		25	土坑																									1	15
1		53	ピット							1	3																		
1		94	ピット							2	2																		
1		115	ピット							1	8																		
1		162	ピット							1	6																		
1		171	ピット					1	12																				
1		187	ピット							3	20																		
1		1	溝							1	31																		
1		3	溝									1	2																
1		4	溝			2	80	7	505	19	155	5	138			5	150					16	310	2	10			4	180
1		7	溝			1	70	1	35			2	18																
1	灰黄褐色土									2	8																		
	調査区東									2	10																		
1			一括							1	3																		
1			一括			2	81																						
1			一括			1	51	2	31	9	30					3	23												
2			一括			1	23																						
1	表土							2	30	48	220																		
1	表土					3	145	3	305			1	95	7	22	14	72	1	60	1	62					2	15		
1		1	井戸	2	10							3	15																
1		2	井戸			8	965	5	160			6	160																
1		3	住居			2	210																					2	99
1		4	住居													1	1												
1		8	住居													2	2												
1		5	竪穴			2	130							2	5														
1		6	竪穴			1	175																						
1		7	竪穴			1	249			1	11	1	5																
計				2	10	24	2179	21	1078	101	545	19	433	10	37	26	249	1	60	1	62	16	310	2	10	2	15	8	306

第３-19　未掲載遺物（古代）

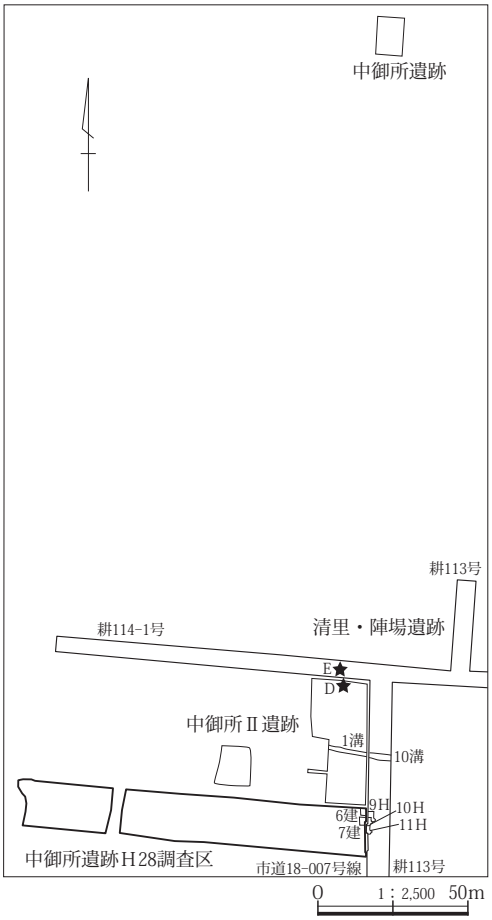
	土師器			須恵器			施釉陶器	羽釜	黒色土器
遺構名	小	中	大	小	中	大			
1号竪穴建物	7 片　10 g		3 片　11 g	4 片　21 g			3 片　6 g	1 片　13 g	
2号竪穴建物	2 片　6 g		136 片　523 g	46 片　306 g		5 片　309 g	1 片　3 g	1 片　39 g	
3号竪穴建物	2 片　19 g		53 片　485 g	19 片　236 g			3 片　22 g	3 片　86 g	
4号竪穴建物	5 片　10 g			11 片　51 g					
5号竪穴建物				6 片　94 g		4 片　209 g	1 片　17 g	1 片　32 g	
6号竪穴建物				6 片　34 g		1 片　35 g	2 片　14 g		
7号竪穴建物	31 片　181 g			16 片　92 g			2 片　6 g	2 片　55 g	
8号竪穴建物			2 片　32 g	21 片　136 g	1 片　35 g		3 片　45 g	119 片　2818 g	
1号竪穴状遺構	2 片　3 g			1 片　10 g			1 片　4 g		
2号竪穴状遺構			34 片　106 g	13 片　73 g		3 片　160 g	1 片　11 g	1 片　64 g	1 片　7 g
3号竪穴状遺構			5 片　9 g	13 片　72 g			2 片　13 g	20 片　457 g	
4号竪穴状遺構	1 片　2 g		2 片　5 g	1 片　4 g		1 片　21 g		2 片　35 g	
5号竪穴状遺構	1 片　2 g		9 片　63 g	3 片　15 g			3 片　22 g		
6号竪穴状遺構				10 片　60 g			1 片　13 g	2 片　27 g	
7号竪穴状遺構	9 片　20 g		40 片　302 g	12 片　40 g		3 片　97 g	3 片　18 g	13 片　205 g	
8号竪穴状遺構	2 片　6 g		5 片　55 g	6 片　30 g			4 片　16 g	4 片　71 g	
9号竪穴状遺構	2 片　4 g		5 片　67 g				2 片　9 g	5 片　67 g	
10号竪穴状遺構			1 片　10 g	2 片　12 g					
1号井戸	5 片　7 g			2 片　16 g					
2号井戸	7 片　14 g			2 片　16 g		3 片　378 g	3 片　13 g	2 片　26 g	
4号井戸			2 片　8 g						
1号溝				1 片　6 g					
2号溝	5 片　11 g			6 片　41 g		1 片　31 g	3 片　4 g		2 片　5 g
3号溝				1 片　3 g					
4号溝	6 片　14 g		9 片　41 g	2 片　21 g		3 片　82 g		7 片　102 g	
7号溝				5 片　13 g		1 片　149 g	3 片　36 g	1 片　12 g	
9号溝	5 片　8 g			4 片　43 g		2 片　51 g		1 片　16 g	
10号溝				3 片　19 g					
14号溝			1 片　6 g						
19号溝				2 片　12 g					
21号溝	17 片　32 g			3 片　14 g			2 片　8 g	3 片　43 g	
1号土坑	1 片　6 g			3 片　26 g					
2号土坑	5 片　11 g							5 片　49 g	
3号土坑	2 片　8 g								
4号土坑	1 片　4 g								
5号土坑	1 片　1 g			1 片　4 g		1 片　13 g			
6号土坑	1 片　1 g								
8号土坑	2 片　4 g								
9号土坑	2 片　4 g						1 片　3 g	2 片　35 g	
10号土坑							1 片　11 g		
17号土坑				2 片　35 g				1 片　11 g	
40号土坑	5 片　16 g			10 片　103 g		3 片　14 g		3 片　150 g	
39号ピット							1 片　3 g		
120号ピット	1 片　4 g								
137号ピット						1 片　28 g			
203号ピット								1 片　32 g	
2面A-4グリッド								2 片　24 g	
2面C-5グリッド								1 片　3 g	
2面C-6グリッド			1 片　2 g						
2面			1 片　3 g					5 片　74 g	
確認面	3 片　6 g			1 片　1 g				4 片　102 g	
1面								1 片　23 g	
調査区東試掘	1 片　3 g		12 片　22 g	7 片　37 g		3 片　45 g	1 片　2 g	1 片　28 g	
表土	9 片　29 g		124 片　52 g	38 片　181 g		12 片　46 g	10 片　58 g	39 片　676 g	

大中小は想定器形の大中小に基づく。小は杯・椀・皿など、中は高坏・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。
左　破片点数、右　破片重量

第４章　まとめ

群馬県北群馬郡吉岡町大字陣場に所在する本遺跡は、昭和54年以来今回を合わせ都合４地点で発掘調査が行われている。このうち平成６年度の発掘調査（吉岡町教育委員会2001『中御所遺跡』）は遺跡北辺での調査であったが、平成６年度を除く３回の調査は遺跡東南部の近接した範囲を対象としている。また昭和54年度の発掘調査（当事業団1982『清里・陣場遺跡』）は調査対象地内の道路および水路予定地を発掘調査対象としており、当時の耕113号線は平成16年度発掘調査（吉岡町教育委員会2005『中御所Ⅱ遺跡』）と平成28年度発掘調査（本書）の調査範囲の東限を画する市道18-007号線に合致しており、隣り合う調査範囲を跨ぎ連なる遺構の存在が期待された。

昭和54年度の発掘調査は、調査対象地内の任意の地点を基点とする相対座標により調査成果が記録されている。また平成６年度と平成16年度の発掘調査は、調査に際しての測量基点が報告されていない。そのため調査地点相互の位置関係については、それぞれの発掘調査報告書に掲載された遺跡位置図を吉岡町特定用途制限地域都市計画図に当てはめることでその所在を求めた。また『中御所Ⅱ遺跡』には中御所Ⅱ遺跡と清里・陣場遺跡の位置関係を明示する図面が掲載されており、両者の相対的な位置関係はこれに基づいている。こうして得られた各年度ごとの調査位置をまとめたものが第４－１図である。なお得られた図は相対座標に基づく個々の図面を組合せて配置したものであることから、殊に平成28年度調査区との位置関係については数m程度の誤差が想定される。



第４－１図　相対位置図

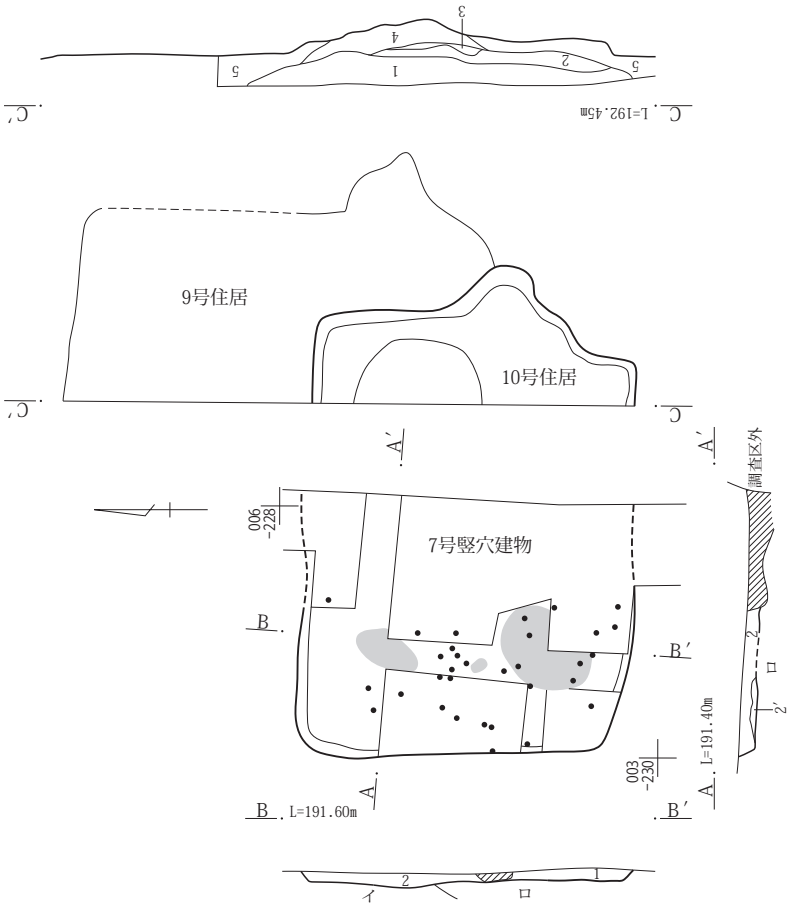
『中御所Ⅱ遺跡』に報告されている中御所Ⅱ遺跡１号溝と清里・陣場遺跡10号溝との関連は当然ながら確認されるものの、中御所Ⅱ遺跡と平成28年度調査区の両者に跨る遺構は確認されなかった。また、平成28年度調査区と清里・陣場遺跡とでは平成28年度調査区７号竪穴建物と清里・陣場遺跡10号住居との間に同一遺構の可能性が認められるのであるが、７号竪穴建物の床面直上埋没土はAs-C、炭化物、焼土粒子を含む黒褐色土であるのに対し、10号住居からは炭化物、焼土粒子は確認されておらず、またそれぞれの床面の標高も７号竪穴建物191.08mに対し10号住居191.92mと0.8m程度の差異が存在する。

中御所Ⅱ遺跡１号溝の底面標高は190.60m、同一遺構とされる清里・陣場遺跡10号溝の底面標高は191.56m、標高差0.96mを測る。また市道18-007号線（耕113号線）沿いの竪穴建物の床面標高を各報告書から測りだすと、中御所Ⅱ遺跡191.16～191.49m（Ａ）、清里・陣場遺跡191.82～192.13m（Ｂ）であり、平成28年度調査区では190.85～191.08m（Ｃ）である。全体に清里・陣場遺跡の標高値は他よりも高めの値となっている。Aの値が得られた範囲はＢやＣの値が得られた範囲よりもやや標高の高まる山側の地点であり、Ａの値がＣの値より高めとなることに矛盾はない。しかしながら中御所Ⅱ遺跡と清里・陣場遺跡の近接した地点（第４－１図Ｄ、Ｅ）の遺構確認面の標高を比較すると中御所Ⅱ遺跡191.85m、清里・陣場遺跡192.80m、標高差0.95mとなっており、清里・陣場遺跡の標高値が高めの傾向にあることが確認される。

７号竪穴建物に隣接する６号竪穴建物の埋没土は、遺構の南北で床面直上埋没土が相違する。７号竪穴建物の埋没土に遺構の東西で相違があったとすれば、７号竪穴建物と10号住居の埋没土の違いに矛盾はなくなる。清里・陣場遺跡の標高値が0.9m程度高めに提示されており、前述の７号竪穴建物と10号住居の床面がほぼ大差ない標高であると仮定し、７号竪穴建物と10号住居を同一の遺構とみなした場合の両者の位置関係を第４－２図に示す。この図を基に想定される建物規模を推定すると、3.83×2.59m、主軸方位Ｎ-93-Ｅと試算される。この縦横比はおよそ1.5である。中御所Ⅱ遺跡１号住居の縦横比は1.4であるが、平成28年度調査区の竪穴建物の縦横比が1.1から1.3程度であるのに対しやや縦長となる。前述したように、第４－１図は相対位置に基づいた図面配置であり、１m前後の誤差は含まれる。耕113号線予定地に対する清里・陣場遺跡の調査範囲の設定幅は、市道18-007号線の幅員よりもやや広めに設定されていたと推測されるため、清里・陣場遺跡と平成28年度調査区の実際の間隔は、第４－１図で想定した間隔よりも狭かったと推察される。

第４－１図　市道18-007号線沿いの竪穴建物

清里・陣場遺跡	標高(m)	縦横比	中御所Ⅱ遺跡	標高(m)	縦横比	H28調査区	標高(m)	縦横比
８号住居	192.13	—	１号住居	191.16	1.4	１号竪穴建物	190.85	—
９号住居	192.04	—	４号住居	191.49	0.8	２号竪穴建物	191.01	1.3
10号住居	191.92	—	５号住居	191.38	—	３号竪穴建物	190.98	1.2
11号住居	192.13	—				４号竪穴建物	190.93	—
15号住居	191.82	—				５号竪穴建物	191.06	1.1
						６号竪穴建物	191.05	—
						７号竪穴建物	191.08	—
平均	192.01	—	平均	191.34	1.1	平均	190.99	1.2



註　10号住居のレベルは報告書記載のままである。

10号住居
1　黒褐色土　小軽石を含む固い層。
2　黒褐色土　灰を少量含む。
3　灰と焼土の混入土層。
4　黒褐色土　灰とロームブロックを含む。
5　黒色土　As-Cを含む、固い。

７号竪穴建物
1　黒褐色土(10YR3/1)φ2～10mmのAs-C、炭化物、焼土粒子を含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)１に近似。
2′　２に近似、わずかに１より黒味が強い。
イ　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
ロ　黒褐色土(10YR3/2)軽石なし。

第４－２図　７号竪穴建物と10号住居

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	なかごしょいせき
書名	中御所遺跡
副書名	(一) 南新井前橋線バイパス（２期工区）社会資本総合整備（活力・重点）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	686
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	令和３年３月23日
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地２
遺跡名ふりがな	なかごしょいせき
遺跡名	中御所遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきたぐんまぐんよしおかまちじんば
遺跡所在地	群馬県北群馬郡吉岡町陣場109B,171-2B,171-1B番地
市町村コード	10345
遺跡番号	0138
北緯（世界測地系）	362547.14
東経（世界測地系）	1390018.42
調査期間	20170101-20170331
調査面積	1,978
調査原因	県道整備
種別	集落
主な時代	平安/中近世
遺跡概要	集落－平安－竪穴建物８＋竪穴状遺構８＋溝10＋土坑１＋ピット３/中近世－掘立柱建物４＋竪穴状遺構２＋溝４＋井戸３＋土坑６＋ピット４/その他－縄文－ピット１/不明－ -ピット列４＋溝８＋井戸１＋土坑31＋ピット142
特記事項	矩形の溝や薬研堀が検出されており、中世の環濠集落や居館の可能性が指摘されている。
要約	榛名山東南麓に位置する平安時代から中近世に至る集落遺跡。周辺には城館が多く存在する、中世桃井氏の拠点地域に営まれた遺跡。

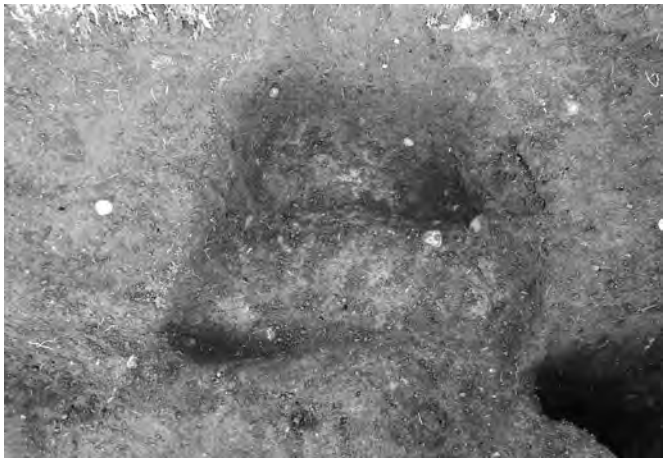
写 真 図 版

1　中御所遺跡平成28年度調査区（上空より）

2　調査区１面東半（上空より）

1　１号竪穴建物（西から）

2　１号竪穴建物掘り方（西から）



3　１号竪穴建物カマド（西から）

4　１号竪穴建物貯蔵穴（西から）

5　１号竪穴建物貯蔵穴土層断面（西から）

6　１号竪穴建物Ｐ１（西から）

7　２号竪穴建物（西から）

8　２号竪穴建物カマド（南から）

1　３号竪穴建物（北から）

2　３号竪穴建物遺物出土状況（北から）

3　３号竪穴建物カマド土層断面（北から）

4　３号竪穴建物カマド掘り方（北から）

5　５号竪穴建物（西から）

6　５号竪穴建物カマド（西から）

7　６号竪穴建物（東から）

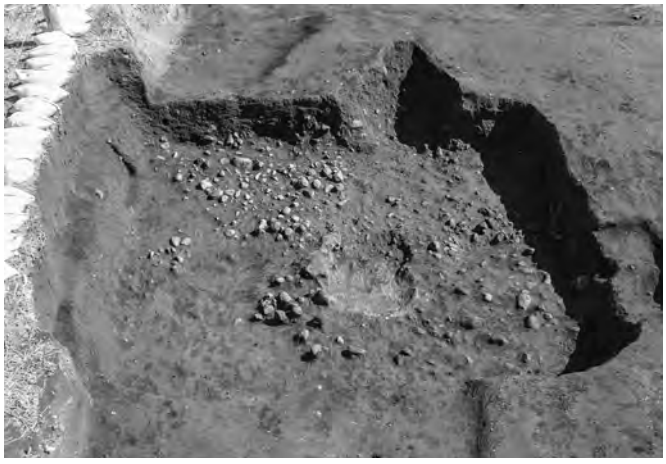
8　６号竪穴建物遺物出土状況（東から）

1　７号竪穴建物（東から）

2　７号竪穴建物遺物出土状況（東から）

3　８号竪穴建物（西から）

4　８号竪穴建物遺物出土状況（西から）



5　８号竪穴建物掘り方（西から）

6　８号竪穴建物カマド（西から）

7　８号竪穴建物カマド石組み下部（西から）

8　８号竪穴建物カマド構築状況（南西から）

1　８号竪穴建物カマド構築状況（北西から）

2　８号竪穴建物カマドの塼（南西から）

3　１号竪穴状遺構（南から）

4　２号竪穴状遺構（北から）

5　３号竪穴状遺構（東から）

6　３号竪穴状遺構遺物出土状況（東から）

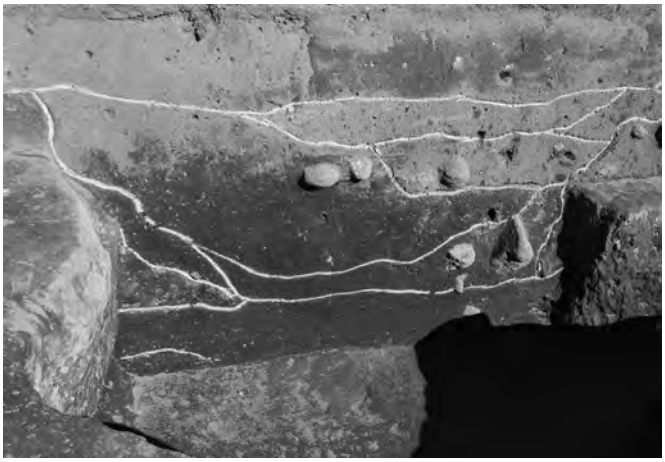
7　３号竪穴状遺構掘り方（東から）

8　３号竪穴状遺構焼土（西から）

1　３号竪穴状遺構Ｐ３土層断面（南から）

2　３号竪穴状遺構床下土坑土層断面（南から）

3　４号竪穴状遺構（北から）

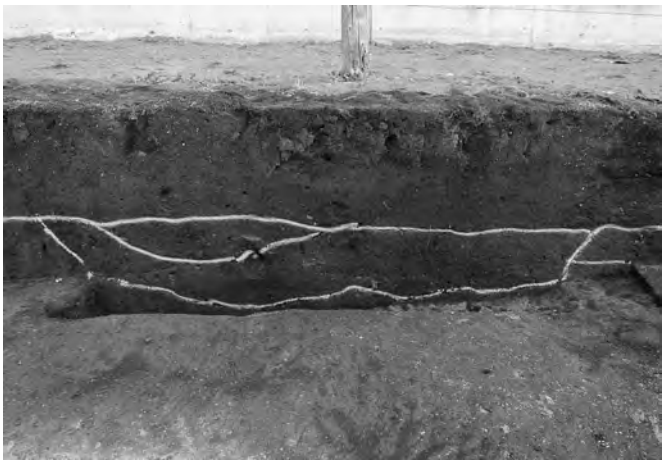


4　４号竪穴状遺構土層断面（南から）

5　５号竪穴状遺構（南から）

6　５号竪穴状遺構掘り方（北から）

7　６号竪穴状遺構（東から）



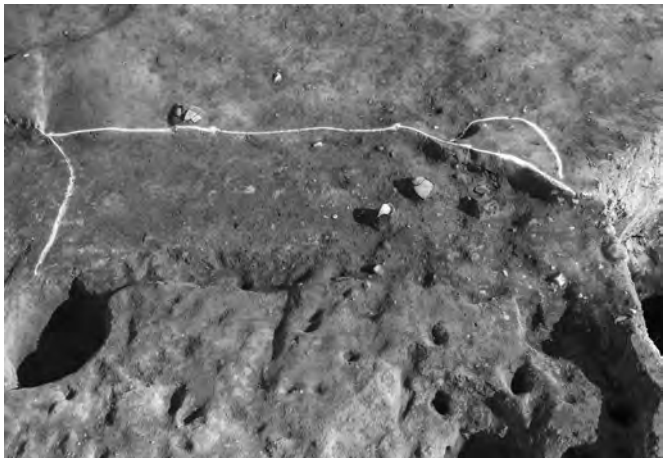
8　６号竪穴状遺構土層断面（南から）

1　７号竪穴状遺構（東から）

2　７号竪穴状遺構遺物取上状況（南から）

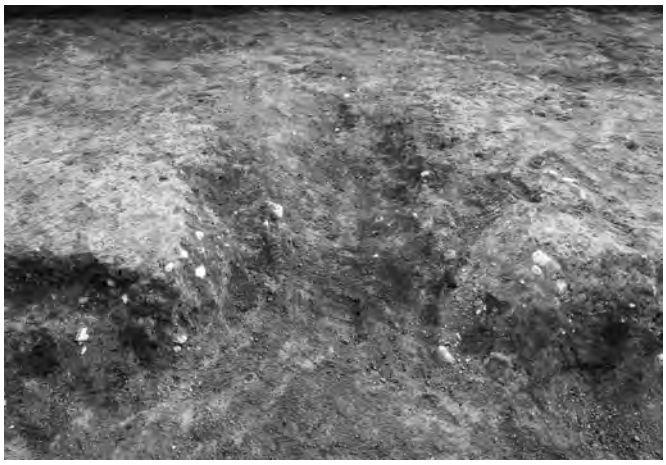
3　８号竪穴状遺構（北から）

4　８号竪穴状遺構遺物取上状況（南から）



5　９号竪穴状遺構（西から）

6　10号竪穴状遺構（北から）



7　10号竪穴状遺構出入口部（北から）

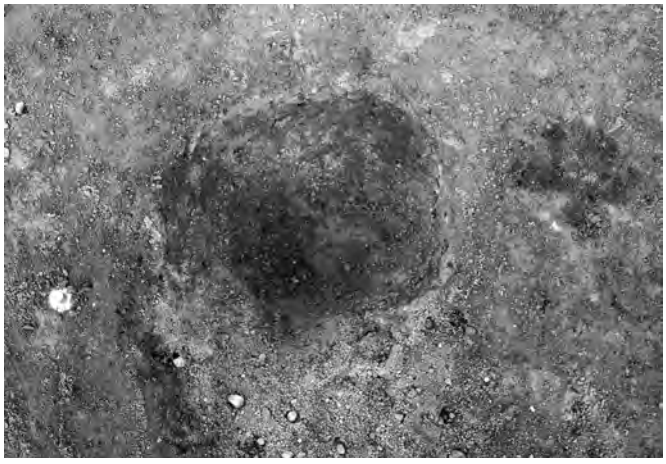
8　10号竪穴状遺構Ｐ１（北から）

1　10号竪穴状遺構Ｐ２（北から）

2　10号竪穴状遺構Ｐ３（北から）

3　10号竪穴状遺構Ｐ４（北から）

4　10号竪穴状遺構Ｐ５（北から）



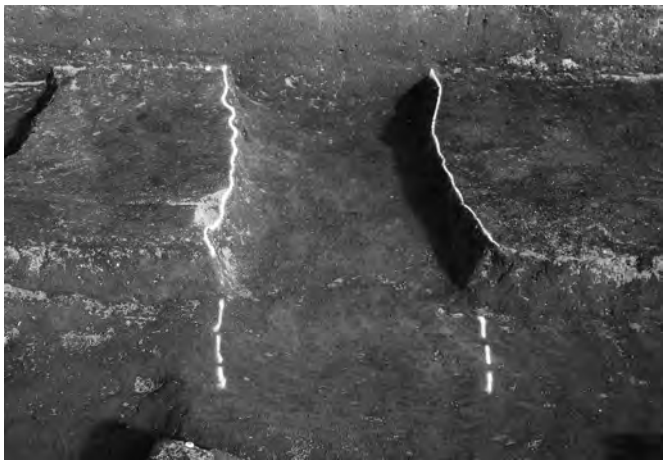
5　10号竪穴状遺構Ｐ６（北から）

6　10号竪穴状遺構Ｐ７（北から）

7　10号竪穴状遺構Ｐ８（北から）

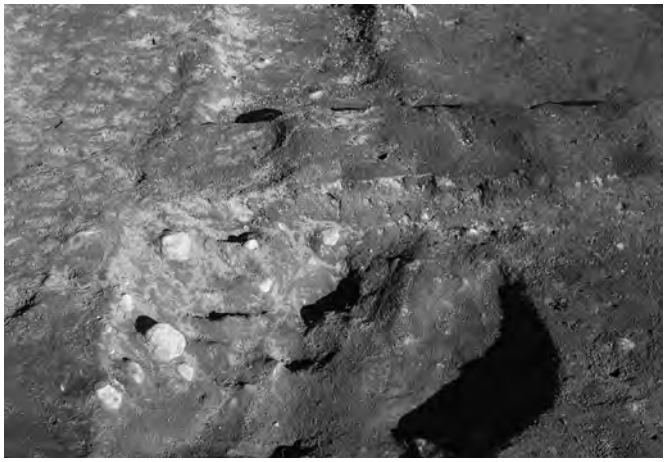
1　調査区１面中央（上空より）

2　調査区１面西端（上空より）



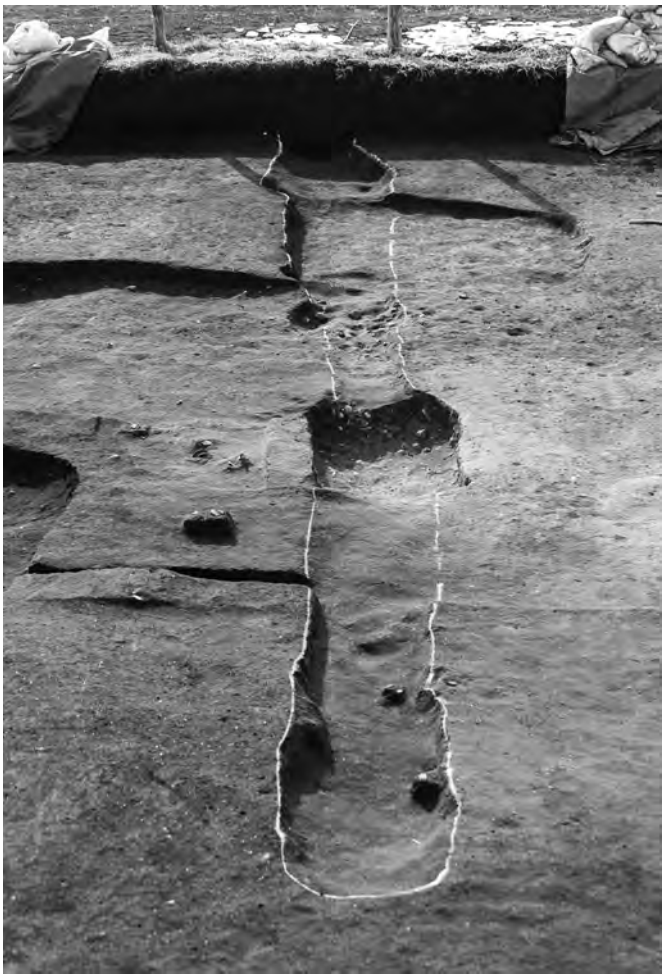
1　1号溝(南から)

2　1号溝土層断面(南から)

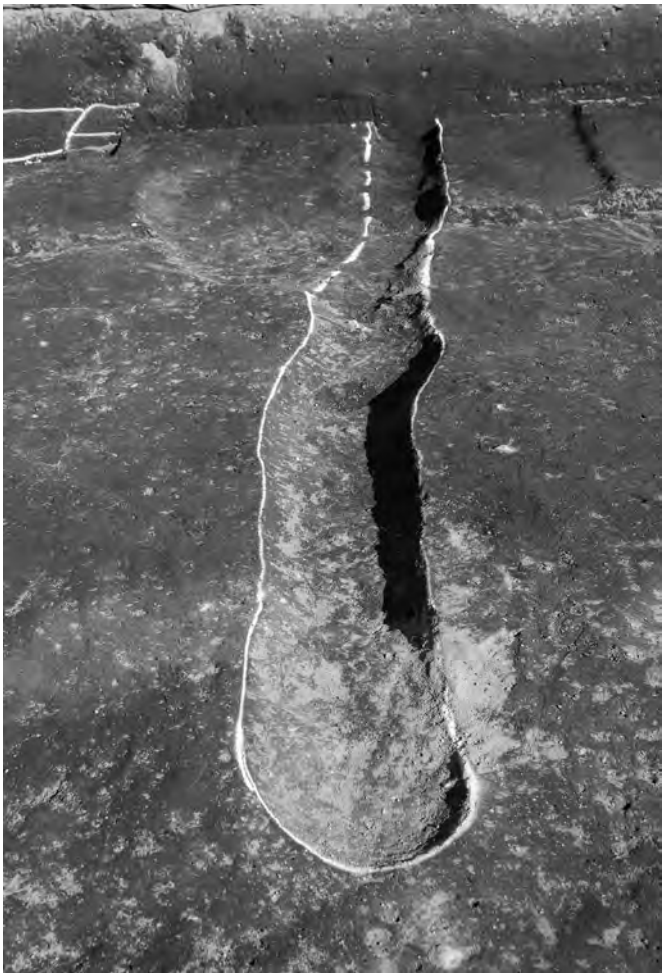


4　2号溝土層断面(南から)

5　4号溝(北西から)



3　2号溝(北から)



6　3号溝(南から)

1　４号溝北側土層断面（東から）

2　４号溝南側土層断面（北から）

3　４号溝南側（北から）

4　４号溝北端（北から）

5　５号溝（南から）

6　６号溝（北から）

7　７号溝（東から）

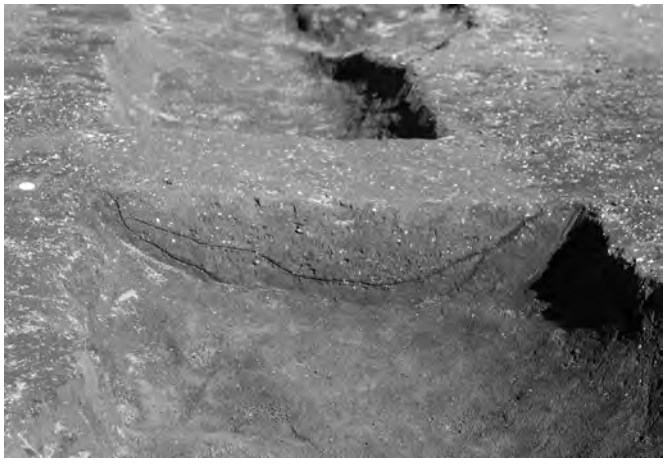
8　７号溝土層断面（南から）

1　７～９号溝南側（東から）

2　７～９号溝南側（西から）

3　７～９号溝土層断面（南から）

4　７～９号溝北側（北から）

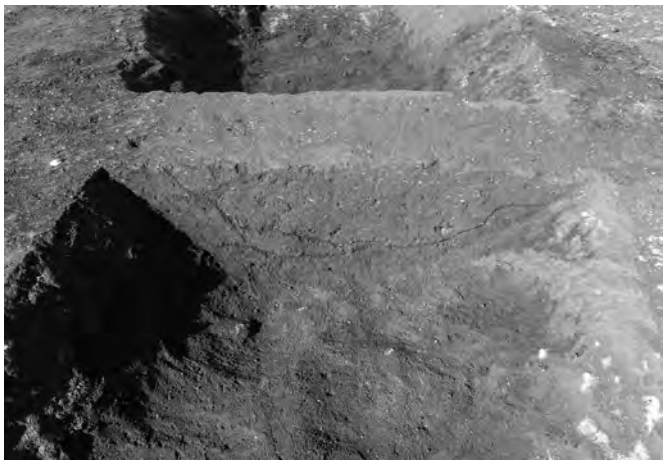


5　８号溝土層断面（南から）

6　８・９号溝土層断面（南から）

7　９号溝土層断面（北から）

8　10～13号溝（北から）



1　10号溝土層断面（南から）

2　11～13号溝（北から）

3　11号溝土層断面（南から）

4　12号溝土層断面（南から）

5　13号溝土層断面（南から）

6　10～16号溝（北から）

7　14号溝（北から）

8　14号溝南端土層断面（北から）

1　14・21号溝土層断面(北から)

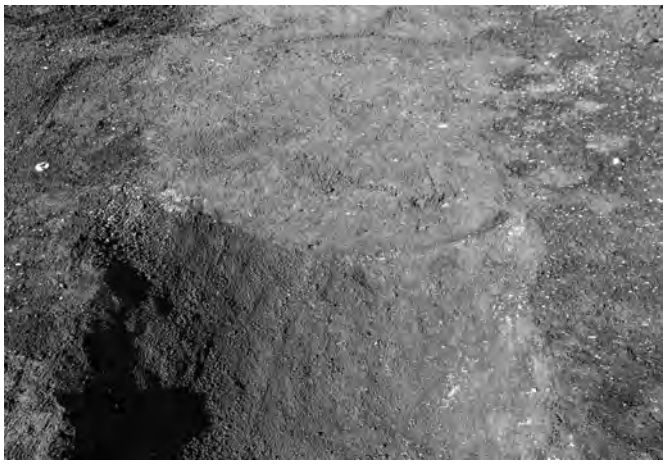
2　14号溝土層断面(南から)

3　15・16号溝(北から)

4　15・16号溝土層断面(北から)

5　17・18号溝(西から)

6　17・18号溝(南から)

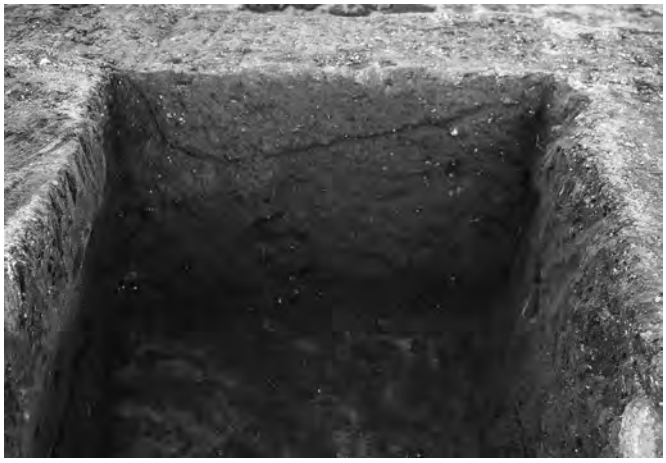


7　17号溝南側土層断面(東から)

8　17号溝北端土層断面(南から)

1　17・18号溝土層断面（南から）

2　19・22号溝（北から）



3　19号溝土層断面（南から）

4　22号溝土層断面（北から）

5　20号溝（北から）

6　20号溝土層断面（北から）

7　17・21号溝（北東から）

8　21号溝（西から）

1　21号溝土層断面（南から）

2　1号井戸（南から）

3　1号井戸（西から）

4　1号井戸下部（西から）

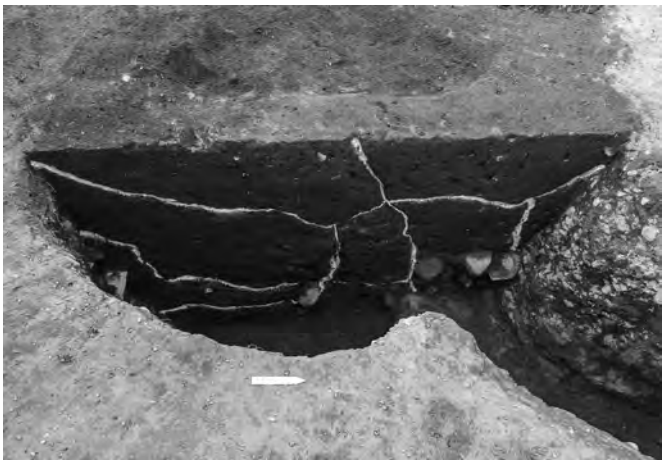
5　1号井戸土層断面（南から）

6　2号井戸（南から）

7　2号井戸（東から）

8　2号井戸土層断面（北から）

1　３号井戸（西から）

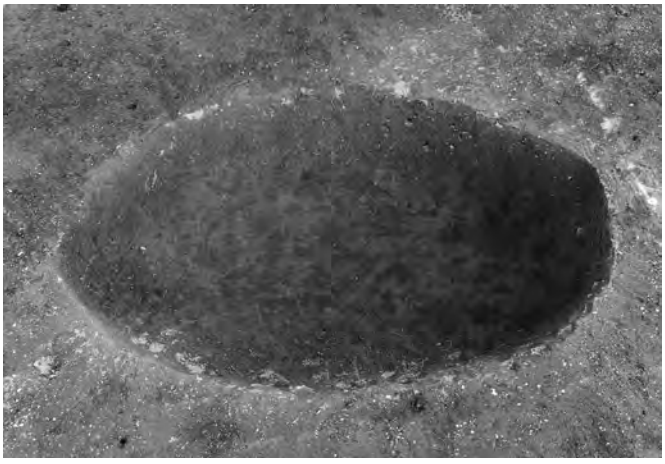


2　３号井戸土層断面（東から）

3　４号井戸（北から）

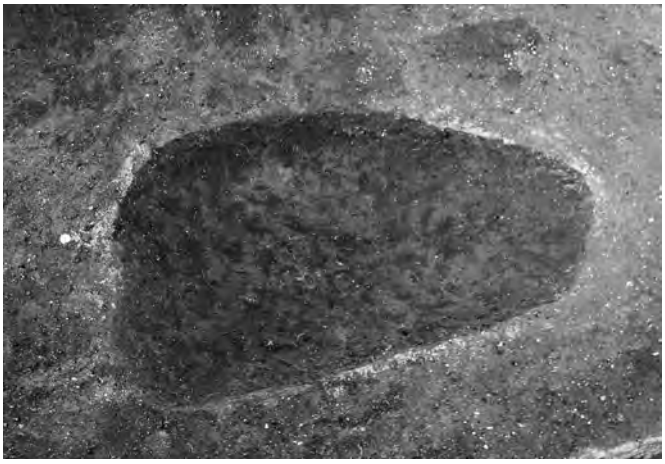
4　４号井戸土層断面（南から）

5　１号土坑（南から）



6　２号土坑（北から）

7　２号土坑土層断面（南から）

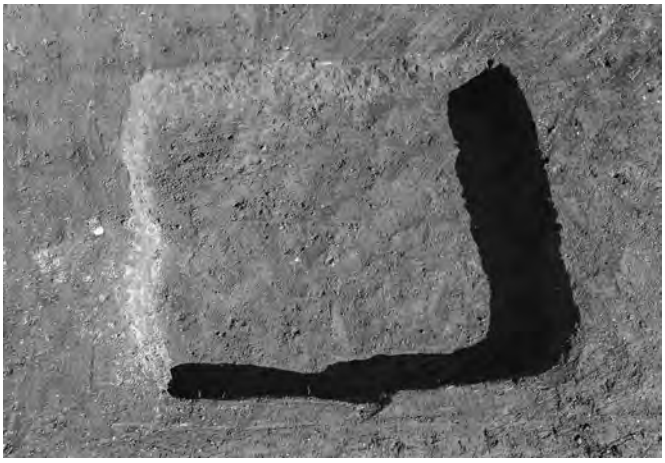


8　３号土坑（南から）

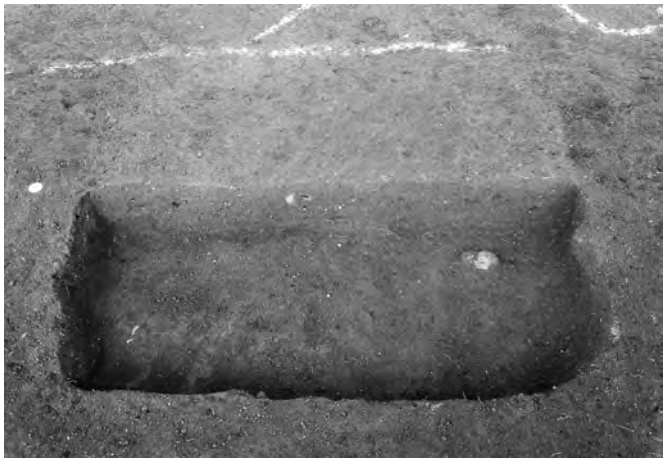
1　３号土坑土層断面（南から）

2　４号土坑（南から）

3　４号土坑土層断面（南から）



4　５号土坑（南から）



5　５号土坑土層断面（南から）

6　６号土坑（西から）

7　６号土坑土層断面（南から）

8　７号土坑土層断面（南から）

1　８号土坑(南から)

2　８号土坑土層断面(北から)

3　９号土坑(東から)

4　９号土坑土層断面(西から)

5　10号土坑(南から)

6　10号土坑土層断面(南から)

7　11号土坑(南から)

8　11号土坑土層断面(南から)

1　12～18号土坑（東から）

2　12・13・18号土坑（北から）

3　12・13・18号土坑土層断面（南から）

4　15～17号土坑（西から）

5　16・17号土坑土層断面（西から）

6　14号土坑（南から）

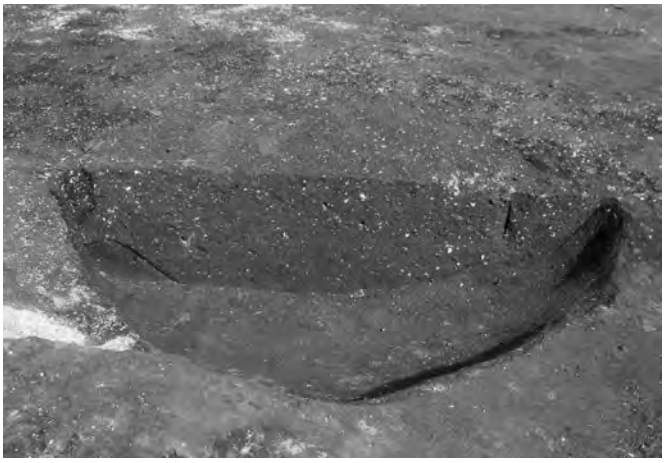
7　19号土坑（南から）

8　19号土坑土層断面（南から）

1　21号土坑(南から)

2　21号土坑土層断面(南から)

3　22号土坑(南から)



4　22号土坑土層断面(南から)

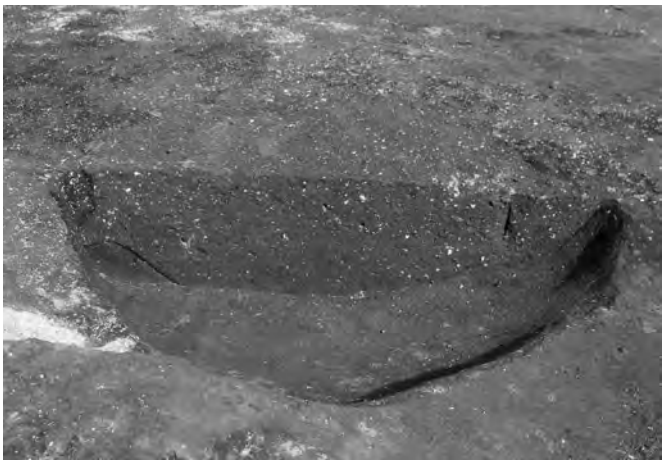
5　25号土坑(北から)

6　25号土坑土層断面(北から)

7　28号土坑(北から)

8　28号土坑土層断面(南から)

1　29号土坑(南から)



2　29号土坑土層断面(南から)

3　30号土坑(南から)

4　31号土坑(東から)

5　31号土坑土層断面(東から)

6　32号土坑(東から)

7　32号土坑土層断面(東から)

8　34号土坑土層断面(南から)

1　36号土坑（東から）

2　37号土坑（南から）

3　38号土坑（南から）

4　39号土坑（東から）

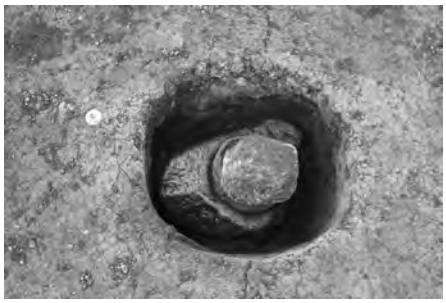
5　40号土坑（南から）

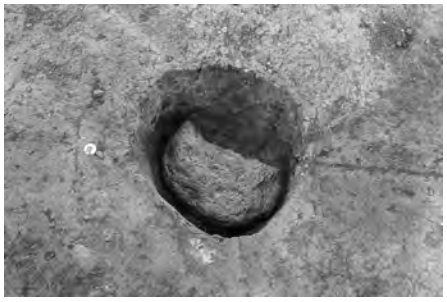
6　40号土坑遺物出土状況（南から）

7　41号土坑（南から）

1　1号ピット（北から）

2　40号ピット（南から）

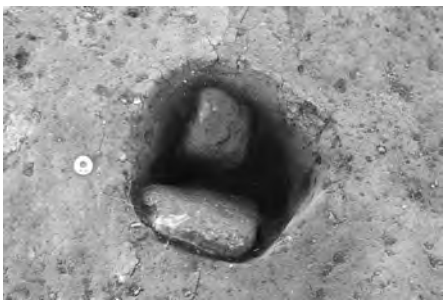

3　52号ピット（南から）

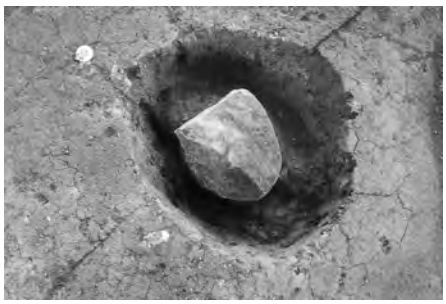

4　56号ピット（南から）

5　58号ピット（南から）

6　61号ピット（南から）

7　67号ピット（南から）

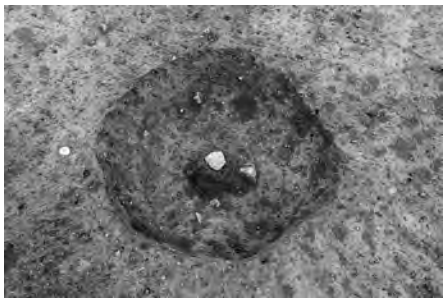

8　71号ピット（南から）

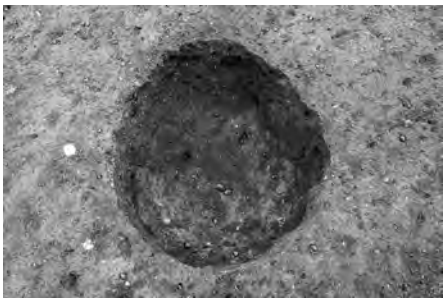

9　75号ピット（南から）

10　87号ピット（南から）

11　105号ピット（南から）

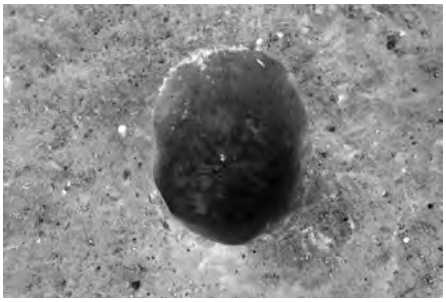
12　127号ピット（南から）

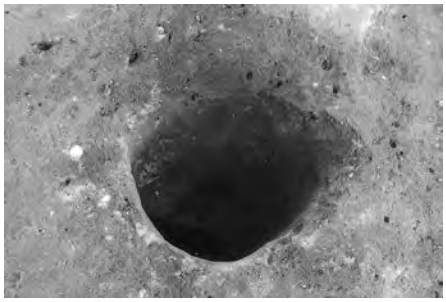

13　203号ピット（南から）


14　204号ピット（南から）

15　205号ピット（南から）

16　206号ピット（南から）


17　207号ピット（南から）


18　208号ピット（南から）

1 号竪穴建物

2

3 号竪穴建物

6

7

9

5 号竪穴建物

11

13

6 号竪穴建物

14

8 号竪穴建物

20

21

22

23

26

24

25

出土遺物 1

８号竪穴建物

27

35

36

37

38

42

43

２号掘立柱建物

44

２号竪穴状遺構

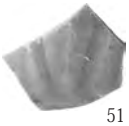
45

47

３号竪穴状遺構

49

５号竪穴状遺構


51

53

52

７号竪穴状遺構

54

56

57

58

出土遺物２

9号竪穴状遺構

10号竪穴状遺構

4号溝

4号溝

1号井戸

出土遺物３

PL.28

２号井戸

91

92

４号井戸

93

25号土坑

96

33号土坑

97

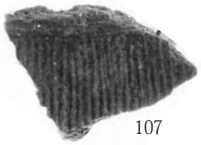
40号土坑

100

119号ピット

101

１面遺構外


107

102

104

105

106

103

２面遺構外

108

109

110

111

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第686集

中御所遺跡

(一)南新井前橋線バイパス(２期工区)社会資本総合整備
(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和３(2021)年３月18日　印刷
令和３(2021)年３月23日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／株式会社開文社印刷所